

リリスナ

総大会の説教

新しい七十人と
中央日曜学校会長会が
召される





「一人の羊飼」 ハワード・ライオン画

イエス・キリストはアメリカ大陸のニーファイ人に^{みすがた}御姿を現された。これは、主がエルサレムの人々に語った次の預言の成就である。
「わたしにはまた、この囲い^{いり}にいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。
そして、ついに一つの群れ、ひとりの^{ひつじかい}羊飼となるであろう。」(ヨハネ 10:16。3ニーファイ 15:21も参照)

リアホナ 2014年5月号 目次

第16巻・5号

土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ
トーマス・S・モンソン大管長
- 6 弟子として歩むことに伴う
犠牲と祝福
ジェフリー・R・ホランド長老
- 9 弟子として担う喜びに満ちた責務
ロナルド・A・ラズバンド長老
- 12 贖い主キリスト
カーロス・H・アマード長老
- 15 ポルノグラフィーからの保護——
キリストを中心とする家庭
リンダ・S・リープズ
- 18 霊を滅ぼす嵐
ニール・L・アンダーセン長老
- 22 希望をもたらす貴い受け継ぎ
ヘンリー・B・アイリング管長

土曜午後の部会

- 26 教会役員への支持
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 28 2013年度教会監査部報告
ケビン・R・ジャーゲンセン
- 28 2013年度統計報告
ブルック・P・ヘイルズ
- 29 信仰を表す
ラッセル・M・ネルソン長老
- 32 「わたしは手本を示したのだ」
リチャード・G・スコット長老
- 35 「もしあなたがたがわたしを
愛するならば、わたしのいましめを
守るべきである」
ロバート・D・ヘイルズ長老
- 39 誤った道に進むのはやめましょう
クラウディオ・D・シビック長老
- 41 何を思っているのですか
W・クレグ・ズウィック長老
- 44 根と枝
クエンティン・L・クック長老

神権部会

- 49 神権の鍵と権能
ダリン・H・オークス長老
- 53 どのような人物であるべきか
ドナルド・L・ホールストロム長老
- 56 選びの世代
ランドール・L・リッド

- 58 回復の業が進む間
ずっと眠っていますか
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 62 神権を持つ者
ヘンリー・B・アイリング管長
- 66 強く、また雄々しくあれ
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午前の部会

- 70 どんな状況にあっても感謝する
ディーター・F・ウークトドルフ管長
- 78 フォローアップ
M・ラッセル・バラード長老
- 81 「恐れてはならない、
わたしはあなたと共にいる」
ジーン・A・ステイブンス
- 84 あなたの4分間
ゲリー・E・ステイブンスンビショップ
- 87 容易に重荷に耐えられるように
デビッド・A・ベドナー長老
- 91 愛——福音の真髄
トーマス・S・モンソン大管長

日曜午後の部会

- 94 証人
ボイド・K・パッカー会長
- 97 信仰に忠実に生きる
ウィリアム・R・ワーカー長老
- 100 忠実さから生まれる従順
L・トム・ベリー長老
- 103 預言者ジョセフ・スミス
ローレンス・E・コーブリッジ長老
- 106 あなたの宝のある所には
マイケル・ジョン・U・テー長老
- 108 知恵に不足しているならば
マルコス・A・アイトカイトイス長老
- 111 イエス・キリストの復活
D・トッド・クリストファーソン長老
- 115 また逢う日まで
トーマス・S・モンソン大管長

中央女性集会

- 116 聖約を守ることは、
わたしたちを守り、備え、強めます
ローズマリー・M・ウィクソム
- 119 姉妹のきずな——わたしたちは何と
互いを必要としていることでしょう
ボニー・L・オスカソン
- 122 求む——御業を速める手と心
リンダ・K・バートン
- 125 聖約の娘たち
ヘンリー・B・アイリング管長
- 72 末日聖徒イエス・キリスト教会
中央幹部
- 129 大会で話された実話や物語の索引
- 130 指導者の言葉
——大会を生活に取り入れる
- 132 教会のニュース



第184回 年次総大会の概要

2014年4月5日 土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——カール・B・クック長老。閉会の祈り——W・クリストファー・ワデル長老。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——クレイ・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「主のみ言葉は」『賛美歌』46番；“Press Forward Saints” Hymns, 81番、ウィルバーク編曲、未刊；「取り巻く闇の中を」『賛美歌』52番、ウィルバーク編曲、未刊；「選べ、正義を」『賛美歌』152番；“A New Commandment I Give unto You,” ゲーツ、ジャックマン刊；「来ませ、王の王」『賛美歌』29番、マーフィー編曲、未刊。

2014年4月5日 土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——イアン・S・アルデン長老。閉会の祈り——リンダ・K・バートン。音楽——ユタ州オレム・インスティテュート合同聖歌隊：指揮——ライアン・エゲット；オルガニスト——ボニー・グッドリフ、リンダ・マーゲッツ。「神に栄え」『賛美歌』33番、マヌーキン編曲、ジャックマン刊；「ほくはむかし」『リアホナ』1999年4月号、ビーブ編曲、ランスミュージック刊；「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番、ダフィン編曲、ダフィン刊。

2014年4月5日 土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——リグランド・R・カーティス・ジュニア長老。閉会の祈り——ラッセル・T・オスガソープ。音楽——ブリガム・ヤング大学アイダホ校神権者聖歌隊：指揮——ランドール・ケンプトン、ケビン・プロワー；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース。“Saints, Behold How Great Jehova,” Hymns 28番、ケンプトン編曲、未刊；「ひそかな祈り」『賛美歌』79番、ケイセン編曲、ジャックマン刊；「喜べ、主を」『賛美歌』32番；「日は暮れ」『賛美歌』92番、ケンプトン編曲、未刊。

2014年4月6日 日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——L・ホイットニー・クレイトン長老。閉

会の祈り——ニール・F・マリオット。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット、アンドリュー・アンズワース。「来たれ、友よ」『賛美歌』68番；“On This Day of Joy and Gladness,” Hymns 64番；「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番、エリオット編曲、未刊；「光の中進もう」『賛美歌』194番；「子供のいのり」『子供の歌集』6番、ベリー編曲、ジャックマン刊；「導きたまえよ」『賛美歌』41番、ウィルバーク編曲、未刊。

2014年4月6日 日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ディーン・M・デイビーズビショップ。閉会の祈り——ベンハミン・デ・オヨス長老。音楽——タバナクル合唱団：指揮——マック・ウィルバーク、ライアン・マーフィー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ、ボニー・グッドリフ。「わが神、わが王」『賛美歌』87番、マーフィー編曲、未刊；「主イエスの愛に」『賛美歌』109番、マーフィー編曲、未刊；「天よりの声聞け」『賛美歌』166番；「来たれ、旅を共に続けん」『賛美歌』135番、ウィルバーク編曲、未刊。

2014年3月29日 土曜夜、中央女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ボニー・L・オスカーソン。開会の祈り——エミリー・エリザベス・スミス。閉会の祈り——オファ・カウフシ。音楽——ワサッチフロント地区の各ステークの初等協会、若い女性、扶助協会の合同聖歌隊：指揮——エミリー・ワドレー；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「天よりの声聞け」『賛美歌』166番；「王国の娘」、クリーマー作曲、未刊、オルガン、フルート、バイオリン、チェロによる伴奏；「神の子です」『賛美歌』189番、ディフォード編曲、未刊；メドレー、モールマン編曲、未刊；「われ主を愛して」『賛美歌』134番、「共に愛し合え」『賛美歌』192番；「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番、ハフ編曲、未刊。

総大会の説教の入手

多くの言語でインターネットにて総大会の説教を視聴するには、conference.lds.org にアクセスし、言語を選択してください。説教は、福音ライブラリーのモバイルアプリでも利用可能です。通常、総大会後6週間以内に、大会の音声録音したものが配送センターにて入手可能となります。

ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ
ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

表紙

表紙——写真／クリスティーナ・スミス
裏表紙——写真／レスリー・ニルソン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——ウェルデン・C・アンダーセン、コーディ・ベル、ランディ・コリアー、ウェストン・コルトン、スコット・デービス、クレグ・ダイヤモンド、ナサニエル・レイ・エドワーズ、ロイド・エルドレッジ、アシュリー・ラーセン、ジョン・ルーク、レスリー・ニルソン、クリスティーナ・スミス、バイロン・ワナー。アメリカ合衆国、アリゾナ州ギルバート——ジェミー・デール・ジョンソン。コロラド州ハイランドランチ——レベッカ・モーゲネック。メキシコ、メキシコ・シティー——イスラエル・フティエレス。アメリカ合衆国、ジョージア州ノークロス——デビッド・ウィンターズ。ニューヨーク州パルマイラ——ブレント・ウォルトン。ユタ州プレザントグループ——ジェレミー・ホール。カナダ、アルバータ州レイモンド——ロンダ・ステイード。ロシア、サンクトペテルブルク——ウラジミール・エゴロフ。ブラジル、サンパウロ——ローレニ・フォチュット。オーストラリア、シドニー——コリン・リガーウッド。モンゴル、ウランバートル——カイリー・スネドン。オーストラリア、ウィーン——フランク・ヘルムリッヒ。アメリカ合衆国、ユタ州ワシントン——ジェームズ・イリフ・ジェフリー。



末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーンソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: クレグ・A・カードン

顧問: ホセ・L・アロンソン, マービン・B・アーノルド, シェーン・M・ボーエン, スタンリー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン

実務運営ディレクター: デビッド・T・ワーナー

業務ディレクター: ピンセント・A・ボーン

教会機関誌ディレクター: アラン・R・ロイボーク

ビジネスマネージャー: ガーフ・キャン

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ライアン・カー

執筆・編集: フリットニー・ピーティーン, デビッド・ディクソン, デビッド・A・エドワーズ, ジェニファー・グレース・ファロン, マシュー・D・フリットトン, ミンディ・ライ・フリードマン, ローリー・フラー, キャレット・H・ガーフ, ラリー・ポーター・ガント, マイケル・R・モリス, サリー・ジョンソン, オドカーク・ジョシュア・J・パーキー, ジョン・ビンボロー, リチャード・M・ロムニー, ボール・バンデンバーク, マリッサ・ウィティソン

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: タッド・R・ピーターソン

デザイン: ジャネット・アンドリュース, フェイ・P・アンドラス, マンディー・M・ベントレー, C・キンボール・ボット, トーマス・チャイルド, ネット・ギネス, コリン・ヒンクレー, エリック・P・ジョンソン, スーザン・ロフグレン, スコット・M・ムーイ, マーク・W・ロビンソン, ブラッド・テアー, K・ニコール・ウォーゲンホースト

版權および許諾コーディネーター: コレット・ネベカー・オーヌ

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

制作: ケビン・C・バンクス, コニー・パウソープ・ブリッジ, ジュリー・バーデット, プライアン・W・ギューギ, デニス・カービー, ギニー・J・ニルソン, ゲイル・テイ・ラファティ

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: スティーブン・R・クリスチャンセン

日本語版翻訳課長: 森田康貴

●定期購読は、「[リアホナ] 注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名: 末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒1133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 830円(送料共)

普通号/大会号 80円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ liahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は liahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。

Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

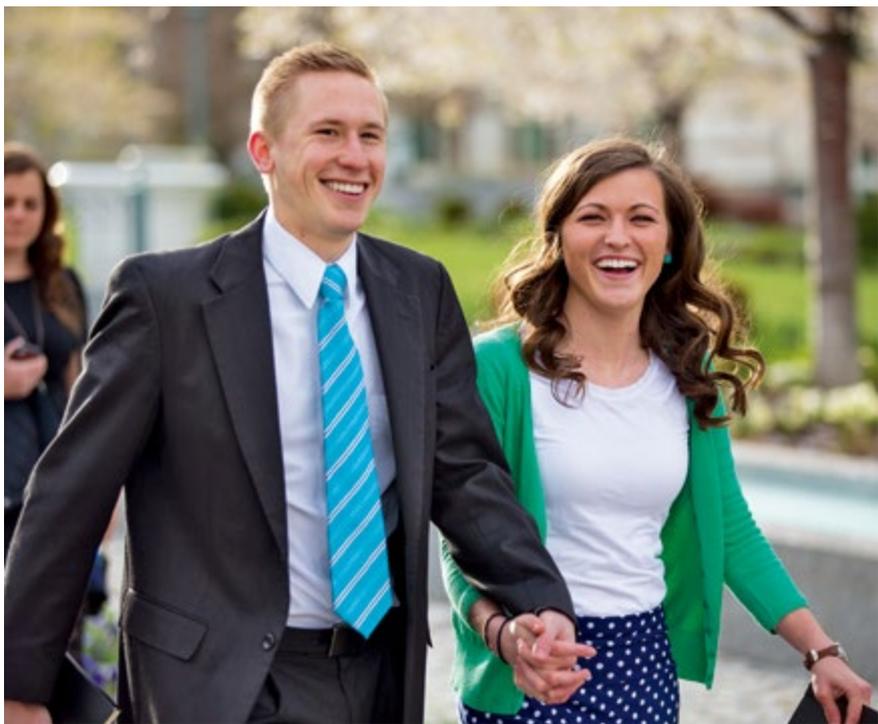
「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。アルバニア語, アルメニア語, ビスマラ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィンランド語, フランス語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ハンガリー語, アイヌ語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2014 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada: May 2014 Vol. 38 No. 5. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5). NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.



話者リスト (50音順)

アイドカイトニス, マルコス・A 108
アイリング, ヘンリー・B
..... 22, 62, 125
アマードー, カーロス・H..... 12
アンダーセン, ニール・L..... 18
ウィクソム, ローズマリー・M...116
ウークトドルフ, ディーター・F
..... 26, 58, 70
オークス, ダリン・H 49
オスカーソン, ボニー・L ...119
クック, クエンティン・L..... 44
クリストファーンソン, D・トッド...111
コーブリッジ, ローレンス・E...103
シビック, クラウディオ・D... 39
ズウィック, W・クレグ ... 41
スコット, リチャード・G..... 32
スティーブズ, ジーン・A ... 81
スティーブソン, ゲーリー・E 84
テー, マイケル・ジョン・U ...106
ネルソン, ラッセル・M 29
バックナー, ボイド・K 94
バラード, M・ラッセル 78
ヘイルズ, ロバート・D 35
ベドナー, デビッド・A 87
ペリー, L・トム100
ホランド, ジェフリー・R.....6
ホルストロム, ドナルド・L... 53
モンソン, トーマス・S
..... 4, 66, 91, 115
ラズバンド, ロナルド・A9
リーブズ, リンダ・S 15
リッド, ランドール・L 56
リンダ, バートン・K122
ワーカー, ウィリアム・R ... 97

テーマ別索引

あ愛する..... 6, 32, 41, 58,
91, 115, 119
証 94
悪 29
イエス・キリスト ...6, 9, 12,
18, 22, 29, 32, 35, 39, 58,
70, 87, 94, 103, 111
依存性 15, 58
祈り..... 15, 56, 62, 81
永遠の命 22
思いやり..... 91
親の務め 94
か会員宣教師 78
開拓者 70, 75, 97
回復 58
家族44, 49
家族歴史 44
感謝 70
義 6
儀式 94
犠牲 97
希望 22
逆境 9, 18, 70, 81, 87, 106
教会の名称 78
悔い改め 39, 84
啓示 103, 108
結婚 18, 41, 49
謙遜 106
権能 49
高潔さ 29, 66
コミュニケーション 41
さ死 12, 111
慈愛 91
自制 84

姉妹たちのきずな... 119, 125
従順6, 18, 35, 84, 100
正直 62
贖罪12, 15, 18, 87, 111
女性 49, 119
ジョセフ・スミス
..... 22, 39, 66, 103
神権 49, 53, 62
信仰 29, 78, 81, 97, 100, 108
親切 91
神殿 4, 44, 97, 116
真理 29, 94, 103, 108
正義 111
聖典 29, 56
聖約 22, 84, 87, 116, 122, 125
聖霊 22, 94, 100
選択の自由..... 35, 56, 100
総大会 4, 115
た知恵 103, 108
父なる神..... 81, 94
テクノロジー ... 44, 56, 108
弟子の務め ... 6, 9, 18, 122
伝道活動 32, 78
は迫害 6
ふさわしさ 53
復活 12, 111
奉仕 9, 32, 53, 58, 62, 119, 122
ボルノグラフィー...15, 53, 60
ま模範 32, 62
モルモン書..... 18
や勇気 6, 18, 66
優先順位 58, 106
赦し 91
預言者 97, 103, 108
ら利己主義 58



トーマス・S・モンソン大管長

大会へようこそ

わたしたちは……信仰によって結ばれ、これから語られるメッセージとともに耳を傾け、学びたいと願っています。

愛する兄弟姉妹の皆さん、末日聖徒イエス・キリスト教会の世界的な大会に皆さんをお迎えでき、光栄です。わたしたちは大きな家族として集っています。1,500万人以上の会員が信仰によって結ばれ、これから語られるメッセージとともに耳を傾け、学びたいと願っています。

この半年は時のたつのが早く、教会の業は円滑に前進しています。つい1か月ほど前、アリゾナ州ギルバート神殿の荘厳な建物を奉献する特権にあずかりました。奉献式前日の晩、近くのディスカバリー公園で文化的な催しが開かれました。1万2,000人の若者が1時間半のプログラムを演じました。見事なダンスや歌、音楽の演奏が披露されました。

この地域は乾期が特に長引いていたので、それまでの数週間、雨を切望する多くの祈りがきつと天にささげられていたことでしょう。あいにく雨はその催しの直前に降り始め、しかも開催中ずっと降り続けました。青少年はずぶぬれになり、寒さに震えましたが、わたしたちは皆、主の御霊を感じました。「信仰に忠実に生きる」というプログラムのテーマの下で、活気に満ちた若い男性と女性が笑顔で見事に演じま

した。皆さんもこの「信仰に忠実に生きる」というテーマについて考えてみてください。寒さと雨にもかかわらず、この催しは、信仰に満ちた、霊を鼓舞する経験となりました。あの若者たちにとって大切な思い出となり、将来、子供や孫に語られていくことでしょう。

翌日、アリゾナ州ギルバート神殿の奉献式が行われ、儀式が執行されている142番目の神殿が誕生しました。前の晩とは違ってその日は晴天に恵まれ、セッションは真に御霊にあふれていました。ヘンリー・B・アイリング管長、タッド・R・カリストラー長老夫妻、ウィリアム・R・ワーカー長老夫妻、ケント・F・リチャーズ長老夫妻が同席しました。

5月にはフロリダ州フォートローダーデール神殿が奉献される予定です。他にも、今年後半に竣工し、奉献される予定の神殿が幾つかあります。2015年には世界各地で新しい神殿が完成し、奉献される予定です。このプロセスは続きます。これまでに発表された神殿が全て完成すると、儀式が執行されている神殿が世界中に170あることとなります。

現在、わたしたちは既に発表された神殿の完成に集中しており、当面は新たな神殿



の建設に関する発表はありませんが、これから建てる神殿の必要性を見極め、候補地を探すプロセスを継続していきます。その後、将来開催される総大会で発表を行



います。わたしたちは神殿を建て、神殿に参入する民です。

では、兄弟姉妹の皆さん、今日と明日わたしたちに語られるメッセージに熱心に耳

を傾けましょう。話をする人たちは、天の助けと導きを求めながらメッセージを準備してきました。

どこにいるかにかかわらず、わたしたち

皆が耳を傾けて学ぶときに、主の御霊に満たされ、励ましと靈感を受けられますように。わたしたちの救い主イエス・キリストの御名により、アーメン。■



十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

弟子として歩むことに 伴う犠牲と祝福

強くあってください。周りの人がまったくそうでなくとも、福音に忠実に従ってください。

モ ンソン大管長、わたしたちは大管長を愛しています。大管長は、これまで主から与えられたどんな召しにも、心身をささげてきました。現在与えられている神聖な召しに対しては、特にそうです。教会員は皆、大管長の確固とした努力と、献身的に義務を果たす揺るがぬ模範に感謝しています。

この末日に確固とした態度を執る必要に迫られる全ての人をたたえ、励ましたいという気持ちを胸に、わたしは全ての人、特に教会の青少年に申し上げます。皆さんは、まだ経験していないとしても、いつの日か、自分の信仰を擁護する必要に迫られることがあるでしょう。恐らく、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるというだけのことで面と向かって罵られ、それを堪え忍ばなければならないこともあるでしょう。そのときあなたには勇気と礼儀正しい態度がなければなりません。

例を挙げましょう。最近ある姉妹宣教師がこんな手紙を送ってくれました。「同僚とわたしは、街中の広場で男性がベンチに座って昼御飯を食べているのを見かけました。わたしたちが近づくとこの男性は顔を上げました。そして宣教師の名札を見るとものすごい形相で飛び上がり、手を振り上げてわたしを殴ろうとしたのです。

わたしはとっさに身をかがめたので、男性の口から出た食べ物を中心に浴びただけで済みました。男性はとんでもない言葉でわたしたちを罵り始めました。わたしたちは何も言わずに立ち去りましたが、顔に付いた食べ物を拭き取ろうとすると、後頭部にマッシュポテトの固まりを投げつけられました。宣教師であるということは、時にはつらいことです。なぜなら、そのときわたしは、戻ってこの狭量な男性の首根っこをつかみ、『失礼じゃないですか』と言ってやろうかと思ったのです。そうはしませんでした。」

この献身的な宣教師に申し上げます。愛する姉妹、あなたはそうにして謙遜になり、モルモン書の預言者ヤコブの言う、「キリストの死について考え、キリストの十字架を負い、世の辱めを忍耐〔した〕」¹ 卓越した男女の一人に数えられるようになったのです。

実に、イエス・キリスト御自身もそうでした。ヤコブの兄ニーフアイは、こう書いています。「世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方に

つばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。」²

救い主御自身が経験されたと同じように、どの時代の預言者も、使徒、宣教師、会員も皆、「最もすぐれた道」³ に人々を引き上げるといふ神の召しを尊んだために拒まれ、非常に高い代価を払ってきました。このような拒否と高い代価には、長い歴史があるのであるのです。

「このほか、〔彼らについて〕何を言おうか」と、ヘブル人への手紙の著者は問いかけています。

「〔彼らは〕ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、……戦いの勇者となり、……軍を退かせた。

女たちはその死者をよみがえらせてもらった。ほかの者は、……拷問の苦しみに甘んじ〔た。〕

なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。

あるいは、石で打たれ、……のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、

（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。」⁴

天の使いたちは、神の戒めを目の敵にすることの多い世で弟子として歩むために払われたこのような代価を記録しながら、涙を流したことでしょう。救い主御自身も、数百年の間に主の業のために拒まれ殺された人たちのために、涙を流されました。そして、御自身も人々から拒まれ、殺されました。

イエスはこう叫ばれました。「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことである



う。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。

見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。」⁵

そしてこの言葉の中に、この教会の若い男女へのメッセージがあります。自分が最も大切にしている信条を単にあざけられるだけのことだとしても、高校で勇気ある態度を執って道徳的な標準を守ったり、伝道に出たりすることに価値があるのか、宗教に献身する生き方を時にあざける社会に対抗して努力することに価値があるのかと、皆さんは疑問に思うかもしれません。でも、価値があるのです。なぜなら、そうしなければ、わたしたちの「家は見捨てられてしまう」からです。個々人も、家族も、隣人も、国も、見捨てられてしまいます。

だからこそ、救い主のメッセージを携えて行くために召された人たちの重荷を、わたしたちは背負うのです。人々を教え、励まし、元気づけることに加え（これは、弟子として歩むうえで喜ばしい事柄です）、時には同じ使者が戸惑ったり、警告したりしなければならぬこともありますし、ただ泣くだけの時もあります（これは、弟子として歩むうえでつらい部分です）。彼らは「乳と蜜の流れる」⁶ 約束の地に至る道が

必然的に、「してはならない」また「せよ」⁷ という戒めの言葉が流れる「シナイ山」を通ることを十分に知っているのです。

残念なことに、神から戒めを託された使者が人々から歓迎されないのは今も昔も変わりません。少なくとも、口から出た物を浴びせられ、マッシュポテトを投げつけられた二人の宣教師が主張するとおりです。「憎む」とは悪い言葉ですが、こんにち今日でも、腐敗したアハブ人のように「彼はわたしについて良い事を預言したことがなく、常に悪いことだけを預言するので、わたしは〔預言者ミカヤを〕憎〔む〕」⁸ と言う人たちがいます。アビナダイは預言者として正直に語ったために、同じような理由で憎まれ、殺されました。ノア王にこう言ったからです。「わたしが真実を告げたので、あなたがたはわたしに対して怒っている。また、神の御言葉みことばを告げたので、あなたがたはわたしを気が狂っていると行って裁いた。」⁹ または、偏狭で支配的で凝り固まっていて思いやりがなく、心が狭く、時代遅れで年寄り臭いと言って裁いた、と付け加えてもよいかもしれません。

これは、主御自身が預言者イザヤに向けて嘆かれた事柄です。

「彼らは……主の教おしえを聞こうとしない子

らだ。

彼らは先見者に向かって『見るな』と言い、預言者に向かっては、『正しい事をわれわれに預言するな。耳に聞きよいことを語れ、迷わしごとを預言せよ。』

大路を去り、小路をはなれ、イスラエルの聖者について語り聞かすな』と言う。」¹⁰

若い友人の皆さん、大変悲しいことですが、人々が神を求めるとしたら、多くを要求しない寛大で愛想のよい神を求めるのが現代の特徴です。そのような神は呼び求めてもポートを揺らさないだけでなく、ポートをこいでもくれません。わたしたちの頭を軽くたたいて笑わせたかと思うと、一緒に走ってマリーゴールドを摘みに行こうと言います。¹¹

自分にかたどって神を作る人とはこのような人たちのことです。時にこれは最大の皮肉となります。このような人たちは、このような「寛大な神」と捉えてイエスの御名みなを呼びます。これは正しい捉え方でしょうか。イエスは、戒めを破ってはならないだけでなく、戒めを破ることについて考えてもいけないと言われた御方です。戒めを破ることを考えたとしたら、わたしたちは既に心の中でその戒めを破っているのです。これが「寛大な」教義に聞こ

えますか。耳が痛くなることのない、何でも好意的に受け止める、ちまたでもはやされるような教義でしょうか。

それに、罪を見ていただいただけの人や、遠くから罪に手を出す人についてはどうなのでしょう。イエスは即座に、あなたの目が罪を犯させるならそれを抜き出して捨て、手が罪を犯させるならそれを切って捨てなさい、と言われました。¹²「地上に平和をもたらすために、わたしが来たと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むために来たのである。」¹³ イエスは、神が中身の無い慰めごだけを語られると思っていた人々を戒められたのです。次々と説教をしたのに地元の住民が「この地方から出て行っていただきたいと頼〔んだ〕」のも、¹⁴次々と奇跡を行ったのに、それを神の力ではなく悪魔の力のせいにされてしまったのも無理のないことです。¹⁵車のステッカーに書かれた「イエスならどうなさるだろう

か」という質問への答えは、必ずしも民衆に受け入れられるとは限りません。

この世での教導の業の最盛期にイエスはこう言われました。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」¹⁶そしてどんな愛について言っているのかはっきりと分かるように、こう言われました。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」¹⁷「これらの最も小さいいましめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。」¹⁸キリストのような愛は、この地上に住むわたしたちに最も必要なものです。なぜなら、そのような愛には必ず義が伴うはずだからです。ですから、愛がわたしたちのモットーでなければなりません。そして愛がモットーとしたら、身をもって愛を示された御方の言葉に従って、背くのをやめ、背くよう人を

そそのかすような言動もやめなければなりません。イエスは、現代の文化の中でわたしたちの多くが忘れてしまいがちな事柄が何かを理解しておられました。それは、罪を赦しなさい（主は無限に赦す力をお持ちです）という戒めと、罪を大目に見てはならない（主は一度もなさいませんでした）という警告は明らかに異なるということです。

友の皆さん、特に若い友の皆さん、元気を出してください。本当の義から流れ出る、キリストのように純粋な愛には、世界を変える力があります。イエス・キリストの生ける福音が地上にあり、皆さんはその御方の真の生ける教会の会員であって、福音を分かち合おうとしていることを証します。この福音と教会について証します。救いの儀式の権能を与え、救いの儀式を有効にする福音の鍵が回復されたことを、特に証します。これらの鍵が回復され、これ



らの儀式が末日聖徒イエス・キリスト教会で再び執行されるようになったことを確信しています。それは、わたしがこの大会で説教台に立ち、皆さんがこの大会でわたしの前に座っておられることよりも明らかなことです。

強くあってください。周りの人がまったくそうでなくとも、福音に忠実に従ってください。自分の信仰を擁護してください。良識と思いやりをもって、信仰を擁護してください。皆さんがこの大会で聞くことになる言葉、そして先ほどトーマス・S・モンソン大管長から聞いた言葉を含め、長い歴史のある靈感された言葉は、キリストの弟子として歩む道を皆さんに指し示しています。細くて狭い道であり、ある意味では選択の余地がありませんが、「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して」¹⁹ 進むならば喜びをもって歩むことができます。この道を雄々しく進むならば、揺るがぬ信仰を築き、吹き付ける悪の風や旋風の中の矢から守られる安全な場所を見だし、わたしたちの^{あがな}贖い主の岩のような力を感じることでしょう。弟子としての揺るぎない生き方をその岩の上に築くならば、倒れることなどあり得ないのです。²⁰ イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。■

注

1. モルモン書ヤコブ 1: 8
2. 1 ニューファイ 19: 9
3. 1 コリント 12: 31; エテル 12: 11
4. ヘブル 11: 32-38
5. マタイ 23: 37-38
6. 出エジプト 3: 8
7. 出エジプト 20: 3-17 参照
8. 歴代下 18: 7
9. モーサヤ 13: 4
10. イザヤ 30: 9-11
11. ヘンリー・フェアリー, The Seven Deadly Sins Today (1978年), 15-16
12. マタイ 5: 29-30 参照
13. マタイ 10: 34
14. マルコ 5: 17
15. マタイ 9: 34 参照
16. ヨハネ 15: 12
17. ヨハネ 14: 15
18. マタイ 5: 19; 強調付加
19. 2 ニューファイ 31: 20
20. ヒラマン 5: 12 参照



七十人会長会
ロナルド・A・ラズバンド長老

弟子として担う 喜びに満ちた責務

指導者を支持することは特権ではありますが、その特権には、指導者が担う責任を分かち合い、主の弟子になるという各人の責任が伴います。

昨年5月20日、巨大な竜巻がアメリカ大陸中心部のオクラホマシティー郊外を襲い、幅1.6キロ、長さ27キロを超える爪跡を残しました。壊滅的なこの竜巻の猛威により、被災地の景観と住民の生活は一変してしまいました。

この巨大な竜巻が襲ってからちょうど1週間後、わたしは、家屋も家財も吹き飛ばされ、壊滅的な被害を受けた被災地を訪問する割り当てを受けました。

出発前に、愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長と言葉を交わしました。大管長は主の代理としてこうした用向きを果たしています。大管長の職だけでなく、優しい人柄に対する尊敬の念を込めて、わたしは尋ねました。「わたしに何をしよう、また、何と言うようお望みですか。」

大管長は優しくわたしの手を取りました。被災者、そして被災地で働く支援者がその場にいたら、一人一人にそのようにしたことでしょう。大管長はこう言いました。

「まず、わたしが彼らを愛していると伝えてください。」

「次に、わたしが彼らのために祈っていると伝えてください。」

「3番目に、助けてくれている全ての人に感謝を伝えてください。」

七十人会長会の一員としてわたしは、主がモーセに語られた言葉の重みを自分の肩に感じることができました。

「民の長老となり、つかさとなるべきことを、あなたがたが知っている者七十人をわたしのもとに集め〔なさい。〕……」

わたしは下って、その所で、あなたと語り、またわたしは〔モーセ〕の上にある霊を、彼らにも分け与えるであろう。彼らはあなたと共に、民の重荷を負い、あなたが、ただひとり、それを負うことのないようにするであろう。¹

これは古代に言われた言葉ですが、主の方法は今も変わっていません。

現在教会では、317人の七十人が主から召されており、8つの定員会で奉仕し、大管長会のうえに置かれた責務に携わる十二使徒を補佐しています。わたしは他の中央幹部と同様、喜びながらも、その責務の重さを心に深く感じています。しかし、わたしたち幹部だけがこの輝かしい業を支えているわけではありません。世界中の教会員は皆、ほかの人の生活を祝福するすばらしい機会に恵まれているのです。



竜巻の被害に遭った人々が必要としていたものは、愛と祈り、そして助け手への感謝だったということ、わたしは愛する預言者から学びました。

今日の午後、わたしたち一人一人は右手を直角に上げて、大管長会と十二使徒定員会を末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者、聖見者、啓示者として支持します。これは単なる形式でもなく、また中央幹部として召される者だけにすることもありません。指導者を支持することは特権ではありますが、その特権には、指導者が担う責任を分かち合い、主イエス・キリストの弟子になるという各人の責任が伴います。

モンソン大管長はこのように述べています。

「わたしたちの周りには、家族、友人、知人、他人を問わず、わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います。わたしたちは地上で主の御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らが高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。……

『……わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』[マタイ 25 : 40]」²

だれか他の人の必要を満たすために、

訪問や電話をしたり、手紙を書いたり、一日を過ごしたりする機会が与えられるとき、わたしたちは愛をもって応じるでしょうか。それとも、自分は神の戒めを全て守っていると証言した、あの青年のように振舞うでしょうか。

「『それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか。』

イエスは彼に言われた。『もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。』³

青年は、地上で神の王国の業を行うために主のそばで一層大きな奉仕をするよう召されました。しかし、立ち去りました。「たくさんの資産を持っていたから」です。⁴

現世の所有物はどうなるでしょうか。竜巻に襲われれば、ほんの数分で失われることが分かります。わたしたち一人一人にとって非常に大切なことは、神に仕えるために自分の時間と才能、選択の自由を用いて、霊の宝を天に蓄えるために努力することです。

イエス・キリストは「わたしに従ってきなさい」と絶えず呼びかけておられます。⁵主は御自分を捨てて従う者たちとともに故国の地を巡り歩かれました。今日もわたした

ちとともに歩き、わたしたちを支え、導いておられます。主の完全な模範に従うことは、救い主を認め、尊ぶことです。究極の奉仕の行いである主の、神聖で人に救いをもたらす贖いを通して、主はわたしたちの重荷を全て背負ってくださいました。主がわたしたち一人一人に求めておられることは、弟子として担う喜びに満ちた「責務」を背負えるようになることであり、また進んでそうすることです。

オクラホマでわたしは、巨大な竜巻で甚大な被害を受けた何家族かに会う機会がありました。ソレルス一家に会い、娘さんのトーリの経験に特に胸を打たれました。彼女はプラザタワーズ小学校の5年生でした。トーリとお母さんは今日ここに集っています。

竜巻が激しい音を立てて学校を襲ったとき、トーリと彼女の友達数人はトイレに逃げ込んでうずくまっていた。その日の出来事について、トーリ自身の言葉を読むので聞いてください。

「何かが屋根を打つ音が聞こえました。あられの音だろうと思いましたが、だんだん大きくなってきました。わたしは天のお父様に、みんなを無事に守ってくださるよう祈りました。突然、ゴーという大きな音がして、頭上の屋根がなくなりました。す

ごい風の中をがれきが飛び回り、わたしの体中につつかりました。外は暗くなり、空が黒く見えました。でも、そうではなくて、それは竜巻の中だったのです。わたしは目を閉じて、すぐに終わってほしいと祈りました。

突然、静かになりました。

目を開けると、一時停止の標識が目前にありました。もう少しでわたしの鼻につつかるころでした。』⁶

トーリと母親、きょうだいの3人、一緒に学校にいた大勢の友達は奇跡的に助かりました。でも、7人の学友が亡くなりました。

その週末、竜巻の被害に遭った教会員に神権者の兄弟たちが多くの祝福を与えました。わたしもトーリに祝福をさせてもらいました。彼女の頭に手を置いていると、よく引用される聖句が浮かんできました。「わたしはあなたが先に立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。』⁷

わたしはトーリに勧めました。主の僕が彼女の頭に手を置いて、竜巻の中で天使たちが守ってくれたと宣言した日を忘れないようにと。

どのような状況においても、互いを助けるために手を差し伸べるかどうかは、愛の深さを測る不変の基準です。わたしがその週にオクラホマで見たのは、まさにそのような愛による奉仕です。

しばしばわたしたちは困っている人を助ける機会が与えられます。教会員としてわたしたちには、「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合 [い]」⁸、「悲しむ者とともに悲しみ」⁹、「垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め [る]」神聖な責任があります。¹⁰

兄弟姉妹の皆さん、主は皆さん一人一人にどれほど感謝しておられることでしょう。皆さんは日々、大小を問わず、無数の

時間と奉仕の行いを惜しみなく慈悲深い気持ちでささげています。

モルモン書の中でベニヤミン王はこう教えています。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」¹¹

兄弟姉妹への奉仕に力を入れることにより、わたしたちは日々の生活の中で主に従う決断をするように導かれ、主が愛しておられることを愛し、大切にしよう備えられます。そのように行うときに、わたしたちは自分が主の弟子であることを自分自身の生活によって証するのです。主の業に携わるとき、主の御霊がともにあると感じます。証と信仰、信頼と愛が深まります。

わたしの贖い主イエス・キリストが生きておられ、今日、主の預言者、愛するトーマス・S・モンソン大管長に、また大管長を

通して語られることを知っています。

たとえ小さなものであれ、互いの重荷を負い合うという神聖な奉仕から生じる喜びを、全ての人が味わえますように、イエス・キリストの御名によりお祈りいたします、アーメン。■

注

1. 民数 11:16 - 17
2. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 85, 87
3. マタイ 19:20 - 21
4. マタイ 19:22
5. マタイ 19:21
6. ビクトリア(トーリ)ソレルスの体験談, 2014年1月16日
7. 教義と聖約 84:88
8. モーサヤ 18:8
9. モーサヤ 18:9
10. 教義と聖約 81:5
11. モーサヤ 2:17





七十人
カーロス・H・アマードー長老

あがな 贖い主キリスト

〔贖い主の〕犠牲は最初の人であるアダムから全人類の最後の人に
至るまで、あらゆる人に祝福をもたらしました。

神の御子イエス・キリストは独特の環境に誕生し、死を迎えられました。物質的にはつましい境遇に暮らし、成長されました。イエスは御自身についてこう語られました。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらす所がない。」(ルカ9:58)

イエスは当時の世の指導者や宗教指導者から栄誉に浴することも、特別扱いされたり正当な評価を受けたりすることも、重んじられることもありませんでした。会堂の上席に迎えられることもありませんでした。

イエスの説教は素朴でしたが、大勢の人が主に従いました。主の働きはいつも一人一人にとって祝福となるものでした。主を神から遣わされた御方として受け入れた人々の間で、数え切れないほどの奇跡を行われました。

イエスは使徒たちに対して、奇跡を行い、御自身が行われた業よりも「もっと大きいわざ」を行う権能と力を与えましたが(ヨハネ14:12)、罪を赦す特権をお与えになることはありませんでした。敵対する者たちはイエスの次のような言葉に腹を立てました。「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。」(ヨハネ8:11)「あなたの罪はゆるされた。」(ルカ7:48) 罪を赦す権利はイエスだけのもので

した。イエスは神の御子であり、御自身の贖罪によって罪の代価をお支払いになるからでした。

死に打ち勝つ力

死に打ち勝つ力もイエスが神から受け継がれた属性でした。会堂づかさのヤイロは「自分の家においでくださるようにと」懇願しました。「彼に……ひとり娘があったが、死にかけていた」ためでした(ルカ8:41-42)。主がヤイロの願いを聞き入れて彼の家に向かっておられたとき、一人の僕がヤイロのもとへ来て言いました。「お嬢さんはなくなりました。この上、先生を煩わすには及びません。」(ルカ8:49) イエスは家に入ると、皆に出て行くように言い、直ちに娘の手を取って、「起きなさい」と呼びかけられました(ルカ8:54)。

別の折に、イエスはナインという町に向かって旅をしていたとき、葬列に出会い、一人息子を亡くして泣いているやもめに目を留められました。イエスは隣れんで、ひつぎに手を掛けて言われました。「若者よ、さあ、起きなさい。」(ルカ7:14) 奇跡を目にした人々はこう叫びました。「大預言者がわたしたちの間に現れた。……神はその民を顧みてくださった。」(ルカ7:16) この奇跡は特に注目に値します。なぜなら、若者は既に死が確かに宣告さ

れ、葬られるところだったからです。二人の若者の蘇生は、イエスが死を従わせる権能と力を持っておられることの証拠となりました。このことは信者を驚かせ、イエスを嫌う者に恐怖を与えました。

記録に残る第3の出来事はさらに衝撃を与えました。イエスはマルタ、マリヤ、ラザロのきょうだいをしばしば訪ねておられました。ラザロが病気であることを知らされたイエスは、それから2日間、そのおられた所に滞在されてから、家族のもとへ赴かれました。マルタを慰める言葉の中でイエスははっきりとこう証しておられます。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」(ヨハネ11:25)

救い主が悲しんでいる人たちに墓から石を取りのけるようお求めになると、マルタはおずおずとイエスに低い声で言いました。「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから。」(ヨハネ11:39)

イエスは彼女に「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったではないか」と言うと(ヨハネ11:40)、大声でこう呼ばわれました。

「ラザロよ、出てきなさい。」

「すると、死人は……出てきた」のです(ヨハネ11:43-44)。

それはラザロが4日間墓に置かれた後のことであり、神の御子に敵対する者は、反論する余地のない証拠を突きつけられました。それは無視することも、受け流すことも、歪曲することもできないものでした。しかし、彼らは無分別にも、悪意をもって「この日からイエスを殺そうと相談した」のです(ヨハネ11:53)。

新しい戒め

その後、生けるキリストはエルサレムで使徒たちとともに最後の過越の祭りを祝い、聖餐の儀式を定め、真心から仕えることによって互いに愛し合うようにとの戒めをお与えになりました。



ゲツセマネでの苦悩

それからイエスは全人類に対する至高の愛を表し、まったく自らの意志に基づいて、最も困難な試練への道を、勇敢に、また決然と歩まれたのでした。ゲツセマネの園では、独りきりでこの上ない苦悩を受け、あらゆる毛穴から血を流されました。イエスは全て御父の御心のままに、わたしたちの罪を贖われ、わたしたちをどのように救うかを知るためにわたしたちの病と苦痛を引き受けられたのでした（アルマ 7:11 - 13 参照）。

わたしたちは救い主と天の御父に恩義を受けています。なぜなら、主の犠牲は最初の人であるアダムから全人類の最後

の人に至るまで、あらゆる人に祝福をもたらしたからです。

救い主が受けられた罪の宣告と十字架の刑

ゲツセマネでの苦悶が終わると、イエスは進んで御自身を敵の手に渡されました。御自身の弟子の一人に裏切られたイエスは、ゆがめられた不完全な裁判において不義で不法な方法により、性急な有罪判決を受けられました。その夜イエスは神を汚した罪で告発され、死刑を宣告されました。御自分は神の御子であると証されたことによって憎しみと恨みを募らせていた敵は、ピラトにイエスの有罪判決を下さ

せる策略を巡らせました。そして、十字架の刑による死を科すために、告訴を神に対する不敬罪から反乱罪に切り替えました。

イエスに対するローマ人の糾弾は一層残酷でした。イエスの霊的な王国に対する嘲笑と軽蔑、屈辱のないばらの冠の戴冠、むち打ちの刑、公開処刑での長時間に及ぶ苦痛。全てはイエスの弟子であることを公言してはばからないあらゆる者への警告であることは明らかでした。

世の贖い主は苦痛を受ける度にこの上ない自制を示されました。人々に祝福を与えることを常に考えておられました。愛と思いやりの気持ちから、御自分の母マリ

ヤの世話をヨハネに頼み、また御自分をはりつけにした人々を赦してくださいよう天の御父に願い求められたのでした。地上での業が果たされたとき、主は御自分の霊を神に委ね、息を引き取られました。キリストの遺体は墓に納められて、3日間腐敗することなくそこに置かれました。

死者の間における贖い主の業

弟子たちが悲しみ、落胆し、不安に駆られていた間、救い主は御父のすばらしい計画のもう一つの側面において、教導の業を新たに展開しておられました。3日という短い間に、死者の間における壮大な救いの業を組織するためにたゆまず働かれました。それは神の家族全員にとって最も希望にあふれた日々となりました。霊界

を訪れている間に主は忠実な僕たちを組織して、栄光あふれる計画をこの世で知る機会がなかった者や拒んだ者たちのもとに贖いの喜ばしいおとずれを携えて行けるようにされました。そのような人々は束縛から解放され、生者と死者の神によって贖われる機会を得ることとなりました（教義と聖約 138 : 19, 30 - 31 参照）。

復活の初穂

救い主は霊界における働きを終えると、御自分の霊と体を永遠に結び合わせるために地上に戻って来られました。主は死を支配する力を持っていることを既にはっきりと示しておりましたが、主の復活以前に蘇生させられた人々についての聖典の記述は、彼らが生き返って奇跡的に命

が延ばされたということを示すにすぎず、彼らはいずれ死を迎えることになります。

キリストは決して再び死ぬことがなく、完全で永遠の体をとこしえに得る復活の初穂となられました。復活した主はマリヤに御姿を現されました。彼女は間もなくそれが主であることに気づき、主を拝し始めました。贖い主は御自分の新しく栄光に満ちた状態について、「わたしにさわってはいけない。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから」と優しく警告して（ヨハネ 20 : 17）、霊界での主の働きが実際に行われ、また完了したことを告げる証を付け加えられました。そして、「わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く」と述べて（ヨハネ 20 : 17）、御自分がまさに復活したことを立証されました。主は御父のみもとへ行かれた後、再び戻って使徒たちに現れ、「手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。」（ヨハネ 20 : 20）

贖い主は戻って来られる

キリストは最初においでになったときとは大いに異なる方法で戻って来られることを証します。あらゆる義人と忠実な聖徒たちとともに力と栄光とをもっておいでになります。主は王の王、主の主、平和の君、約束されたメシヤ、救い主、贖い主として来て、生者と死者を裁かれます。わたしは心を尽くして主を愛し、主に仕えます。わたしたちが、喜んで献身的に仕え、最後まで主に忠実でいられますよう、心から願っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■





中央扶助協会会長第二顧問
リンダ・S・リーブズ

ポルノグラフィーからの 保護——キリストを 中心とする家庭

この世で最も優れたフィルターは……深遠で不変の証^{あかし}がもたらす
個人の心のフィルターです。

愛^{きょう}する兄弟姉妹の皆さん、今日、わたしは恵まれて年長の13人の孫たちをこの会場に迎えています。そのため、「わたしは自分の孫たちに何を知ってもらいたいだろうか」と自問しました。今朝、わたしは自分の家族と教会の家族に向かって率直にお話ししたいと思います。

わたしたち指導者は、教会員とその家族がポルノグラフィーにより生活を破壊されつつあることにますます心を痛めています。サタンの攻撃は一層激しさを増しています。

わたしたちが地上にいる目的の一つは、死すべき体の持つ激情と感情をコントロールすることです。神から与えられたこれらの感情は、わたしたちが結婚して子供をもうけたいという気持ちにさせます。結婚した男女の間のむつまじい関係は、子供たちをこの世にもたらすとともに、愛する二人の心を結びつけ、霊と体の両方を結び合わせ、お互いを第一に考えるときに満ち満ちる喜びと幸福を得るといふ、愛にあふれるすばらしい経験を与えてくれます。スペンサー・W・キンボール大管長は結婚生

活についてこう教えました。「伴侶が夫または妻の生活の中で最も大切な存在となり、……その他のどのような関心事も、人も、ものも、決して伴侶より優先することがあってはならないのです。

……結婚は完全な忠誠と完全な貞節を前提としています。』¹

何年も昔のことですが、我が家の娘の一人が見るからに意気消沈していました。娘の部屋に入ると、彼女は心を開いて話してくれました。それは娘が友達の家遊びに行ったときのことでした。突然、一糸まともな男女の映像がテレビの画面に映し出されたのでした。そこまで話すと、娘は泣き出して、自分の目にしたものがどれほど恐ろしいことだったかを打ち明けると、その記憶を消したいと言いました。娘が信頼を寄せてくれたことにより、わたしは無垢で傷つきやすい心を癒やし、救い主の贖いによって慰めを得る方法を教える機会が与えられたことを心から感謝しました。母と娘として一緒にひざまずき、天の御父の助けを願い求めたときに感じた神聖な気持ちを忘れることができません。

多くの子供たちや青少年、それに大人

も、自分の意思とは無関係にポルノグラフィーを目の前に突きつけられることがあります。けれども自分からポルノグラフィーを見て、それを繰り返し、やがて依存症になっていく男女の数が増えています。彼らはこのわなから抜け出したいと心から望んでいるのですが、自分で克服できない場合がしばしばあります。これらの愛する人たちがわたしたち親や教会の指導者に打ち明ける決意をするとき、わたしたちは心から感謝します。ショック、怒り、拒否などの反応は禁物です。彼らを再び沈黙させてしまうからです。

わたしたちは親や指導者として、子供や青少年に愛と理解をもって耳を傾け、継続的に助言を与える必要があります。ポルノグラフィーは危険なものであり、生活を支配する力を持ち、御霊を失わせ、感情をゆがめ、人を欺き、人間関係を破綻させ、自制心を奪い、さらに時間と思いと活力のほとんどを失わせることを彼らは知る必要があります。

ポルノグラフィーはこれまでより下品で、邪悪で、あからさまになっています。子供たちとの話し合いを基に家族の基準と限界を設けます。電子機器にフィルターをかけることによって家庭を守る予防策を講じることができます。両親の皆さんは、コンピューターでなく、インターネットに接続できる携帯機器が最大の問題であることを御存じでしょうか。²

青年と成人の皆さん、もしあなたがサタンの仕掛けたポルノグラフィーのわなにすでに捉えられているとすれば、愛にあふれる救い主がどれほど憐れみ深い御方であるかを思い出してください。主が今でもあなたをどれほど愛し、慈しんでおられるかを皆さんは理解しているでしょうか。救い主は清め、癒す力を持っておられます。主は贖いの力によって、あなたの苦痛と悲しみを取り除いて、再び清くすることがおできになります。

わたしたち指導者はまた、ポルノグラフィー依存症に陥った人の伴侶や家族の



カナダ、アルバータ州レイモンド

ことを心配しています。リチャード・G・スコット長老は次のように述べています。「皆さん自身が深刻な罪に捕らわれていないのでしたら、伴侶や家族の罪の結果に不必要に苦しむことはありません。……皆さんは罪を犯した人に哀れみを抱くことはできます。しかし、その人が罪を犯したことに皆さんが責任を感じる必要はないのです。」³ あなたは一人ではないことを知ってください。助けを受けることができます。伴侶のための「依存症立ち直りプログラム」の集会が設けられています。ここでは電話で参加する話し合いの場が設けられていて、伴侶や家族は電話で自宅から参加することができます。

兄弟姉妹、子供や青少年をどのようにして守りますか。フィルターは有効な手段です。けれども、この世で最も優れたフィルターであって、必ず機能する唯一の方法は、わたしたち一人一人に対する天の御父の愛と救い主の贖いの犠牲についての深遠で不変の証がもたらす個人の心のフィルターです。

子供たちを深い改心へと導き、救い主の贖罪しよくざいに心を向けさせるには、どうすればよいでしょうか。わたしは預言者ニーファイが宣言した言葉が好きです。彼は、ニーファイの民が当時の若者を守るために行ったことについて述べています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストの

ことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」⁴

どうすればこれを家庭で実行できるでしょうか。幼い4人の子供を抱えた夫のメルとわたしが途方に暮れたことについての話を聞いた方がおられるかもしれません。親としての務めを果たし、また生活上の要求に応えるという問題に直面したとき、わたしたちにはどうしても助けが必要でした。わたしたちは何をすべきかを知るために祈り、願い求めました。そして、はっきりとした答えを受けました。「家の中が

散らかっていても、子供たちがパジャマ姿のままでも、務めを幾つか果たしていなくても大丈夫です。家庭でしなければならないのは毎日聖文を研究し、祈り、毎週家庭の夕べを開くことです。」

わたしたちはこれらを実行するよう努めました。しかし、必ずしも第一優先にできたわけではありませんでした。家中が大混乱に陥っているときに、最も大切なことを後回しにしたこともありました。わたしたちは何に焦点を絞るかを見直して、大切でないことについて思い煩うのをやめました。わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを証することを第一にしました。そのために、毎日祈り、聖文を研究し、毎週家庭の夕べを開きました。

最近ある友人からこのような警告を受けました。「もっと聖文を読み、祈るようになると、姉妹たちのストレスがたまってしまわよ。姉妹たちには既にすべきことがたくさんありすぎてできないと思っているもの。」

兄弟姉妹、わたしは毎日の聖文研究と祈り、それに毎週の家庭の夕べから受ける祝福を自分と夫の経験から知っているの、証しなければなりません。これらを実行することによってストレスから解放され、家庭に導きを受け、家庭に一層の守りをもたらすことができます。そうすれば、わた



したちの家族がポルノグラフィーやその他の問題に直面しても、わたしたちは御父が求めておられることを行っているので、主に助けを求め、御霊の大いなる導きを期待することができるのです。

兄弟姉妹、もし自分の家庭でこれらのことを行っていないならば、今から始めることができます。年長の子供たちが参加を拒むのであれば、わたしたちだけで始めることができます。そうするとき、家庭と生活全体が御霊の影響力で満たされていきます。やがて子供たちはそれに反応を示すことでしょう。

生ける使徒たちは、わたしたちが自分の先祖を探究し、自分の家族の名前を神殿に提出するために準備するなら、神殿の推薦状を受けるにふさわしい状態を保ち続け、今もそして生涯にわたって守られると約束しています。そのことを忘れないでください。⁵ 何とすばらしい約束でしょうか。

青少年の皆さん、自分の霊的な健康を保つ責任を果たしましょう。必要であれば、携帯電話の電源を切り、初等協会の歌を歌い、助けを求めて祈り、聖文について考え、友達の模範となり、不適切な映画を見るのをやめ、救い主に思いをはせ、ふさわしく聖餐にあずかり、『若人の強さのために』を研究し、友達の模範になり、親を信頼し、ビショップに話して助けを求めましょう。そして必要ならば、専門家のカウンセリングを受けてください。

わたしは自分の孫たちに何を知ってもらいたいのでしょう。それは、救い主が生きておられ、わたしたちを愛しておられると、わたしが知っているということです。救い主はわたしたちの罪の代価を支払っていただきました。けれども、わたしたちは天の御父の前にひざまずき、心から謙遜になって自分の罪を告白し、御父に赦しを求めて祈らなければなりません。心と望みを交えることを求め、わたしたちが傷つけたり、見捨てたりしたかもしれない人からの赦しと助けを求めるほどまで謙遜にならなければなりません。

わたしはジョセフ・スミスが天の御父である神と救い主イエス・キリストとまみえたことを知っています。わたしは、地上に、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長がおられることを証します。わたしたちが神の預言者の勧告に聞き従っていれば、決して迷うことはないことを証します。わたしは聖約の力と神殿の祝福について証します。

わたしは、モルモン書が真実の書物であることを知っています。この大いなる書物の持つ力を説明する十分な言葉が見つかりません。モルモン書が家族を守り、きずなを強め、主の前に個人としての確信を与える力を備えていることを知り得たのは、それらについて祈ったからです。これ

らのことをイエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。■

注

1. 『歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール』199-200
2. クレイ・オルセン, “What Teens Wish Parents Knew” (ユタ州ポルノグラフィー反対連立集会における講和, 2014年3月22日), utahcoalition.org, 参照
3. リチャード・G・スコット「重荷から解放される」『リアホナ』2002年11月号, 88
4. 2ニーフай 25:26
5. デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」2011年11月号, 24-27; リチャード・G・スコット「死者の贖う喜び」『リアホナ』2012年11月号, 93-95; ニール・L・アンダーセン, “Find Our Cousins” (Roots Tech Conference, 2014における講話, 2014年2月), lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/find-our-cousins 参照





十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

嵐を滅ぼす霊

この世の嵐に引きずり落とされないようにしてください。現代は皆さんの時代です。主イエス・キリストの弟子として強く立つ時です。



今 朝は特に、このカンファレンスセンターと世界各地の会場に集っている若い人々に向けてお話しします。皆さんは特別な使命を持った選ばれた世代です。ですから、特に皆さんに話したいのです。

何年も前にフロリダ州にいる親類を訪ねたとき、滞り場所からそう遠くない所で竜巻が起きました。トレーラーハウスに住んでいたある女性はトイレに避難しました。トレーラーハウスは揺れ始めました。少しすると隣人の声が聞こえました。「わたしはここよ。前の方よ。」非常に驚いたことに、トイレから出て来てみると、自分のトレーラーハウスが竜巻で空中に飛ばされ、隣人のトレーラーハウスの屋根の上に乗っすぐ載っているではありませんか。

若い友人の皆さん、世界は救い主の再臨を穏やかに迎えるわけではありません。聖文は「すべての物事が混乱する」と宣言

しています。¹ ブリガム・ヤングはこう述べました。「この教会が設立されたとき、教会は拡大し発展するが、地上の国々の間で福音が広がるにつれてサタンの方も強まる、という啓示を受けました。」²

これまでに預言されてきた地震や戦争³よりももっと気がかりなのは、霊を滅ぼす嵐です。それらは、皆さんを霊的な土台から根こそぎ引き抜き、思いも寄らなかった場所へと連れ去ります。時には、自分がそちらの方に進んでいることに気づかないこともあるのです。

最悪の嵐はサタンの誘惑です。罪は常に世界に存在してきましたが、これほど近寄りやすく、避けがたく、受け入れやすい存在であったことはありません。もちろん、罪という嵐を鎮める強い力があります。それは悔い改めと呼ばれるものです。

人生で遭遇する嵐は全て自分の行いが原因とは限りません。他の人による間違った選択ゆえに起きるものもあり、俗世にありがちなものもあります。

ボイド・K・バッカー会長は少年の頃に小児まひを患いました。ダリン・H・オークス長老は7歳のときに父親が突然亡くなりました。中央若い女性会長会のキャロル・F・マッコスキー姉妹は10代のときに両親が離婚しました。皆さんにも試練

は訪れます。しかし、神を信頼するときに、試練を通して皆さんの信仰が強められるのです。

自然界では、風の強い環境で育つ樹木は、より強くなります。若木が風に当たると、木の内にある力が二つのことを行います。第1に、根を刺激して、より早く、より遠くに伸びるようにします。第2に、幹や枝をさらに太くして、風の力に負けないしなやかさを増すような細胞構造を作り始めます。こうして一層強くなった根と枝が、必ず度々吹いてくる風から木を守るのです。⁴

皆さんは神にとって樹木よりはるかに貴重な存在です。神の息子娘なのです。神は皆さんの霊を、人生の嵐にめげない強い霊として創造されたのです。若木が風に当たるように、若いときに嵐に遭うことにより、皆さんの霊的な強さが増し、将来に備えることができるのです。

嵐に備えるにはどうしたらよいでしょうか。「覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが……あなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは……その岩の上に建てら



嵐の強い環境で成長する木は、堅固になる。



れて「いる」からである。』⁵ このようにすれば、皆さんは嵐に遭っても安全です。

トーマス・S・モンソン大管長はこう述べています。「かつては教会の標準と世の標準にはほとんど差がありませんでしたが、今や大きな溝ができていて、ますます深まるばかりです。』⁶ この溝は、ある人たちにとっては、霊的な意味での大きな混乱を引き起こす原因となっています。一例を挙げましょう。

先月、大管長会と十二使徒定員会は世界中の教会の指導者に手紙を出しました。その中でこう述べています。「民法の変更により、神が定められた道徳に関する律法が変わることはありませんし、まったく変えることはできません。神は、たとえ社会の意見や潮流と異なるとしても、神の戒めを守り続けるよう、わたしたちに期待しておられます。神の純潔の律法は明白です。すなわち、性的な関係を持つことは、夫と妻として正式に法律にのっとって結婚した男女間でのみ適切だということです。わたしたちは『家族—世界への宣言』に記された教義を読み直すよう切にお願いします。』⁷

世の人々は主の純潔の律法から離れていきますが、わたしたちはそのようなことはありません。モンソン大管長はこう述べ

ています。「人類の救い主は御自身のことを、世にあって世のものではないと言われました。わたしたちも偽りの概念や偽りの教えを拒み、神の命じられたことに忠実であれば、世にあって世のものとならないでいられます。』⁸

多くの政府や悪意のない個人が結婚の定義を変えていますが、主は変えてはおられません。天地が創造されたとき、神は男と女、すなわちアダムとエバの間に結婚をお定めになりました。結婚の目的は、大人が自分の望みを満たしたり、達成したりすることにとどまらず、さらに重要なことは、子供を生み、養育する理想的な環境を作ることです。家族は天の宝です。⁹

なぜわたしたちは絶えずこのことについて話すのでしょうか。パウロが言ったように、「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ」のです。¹⁰ 主イエス・キリストの使徒としてわたしたちが担う責任は、神の子供たちのために作られた創造主の計画を教え、神の戒めをなおざりにすることの結果について警告することです。

先日わたしは、アメリカ合衆国出身の、あるローレルの若い女性と話しました。彼女の電子メールから引用します。

「この1年間、フェイスブックで友達に

なった人たちが結婚についての意見を投稿し始めました。多くの人が同性結婚に賛成し、末日聖徒の青少年の数人がそうした意見に対して「いいね」（訳注——フェイスブックで他の人の投稿に対する好意的な気持ちや同意を示すための機能）を押ししていました。わたしは何も書きませんでした。

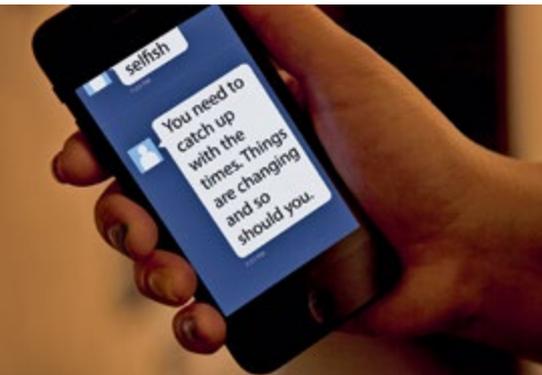
わたしは従来の結婚観を信じているということに注意深く述べることにしました。

自分のプロフィール写真のキャプションとして、『わたしは男女間の結婚が正しいと信じています』と書きました。ほぼ即座にメッセージが返ってきました。『あなたは利己的よ。』『独善的ね。』奴隷所有者に例えた人もいました。活発な教会員の親友からは、こう書かれました。『時代遅れにならないようにね。世の中が変わっているのだから、あなたも変わらなくては。』

わたしは反論しませんでした。自分の意見を削除しませんでした。』

最後に彼女はこう言いました。「モンソン大管長がおっしゃったように、『時には、一人でも気高く立たなくてはなりません。』わたしたち教会の青少年が一致して、神と神の生ける預言者の教えに忠実に従うよう願っています。』¹¹

同性に引かれる性質に苦しむ人々のこと



あるローレルの若い女性は、伝統的な結婚に対する信条を宣言した後、友人たちから否定的なメッセージを幾つも受け取った。

をわたしたちは特に気にかけなければなりません。そのような苦しみは、とても大きな試練です。わたしは、勇敢にこの信仰の試しに立ち向かい、神の戒めに忠実に生活している人々に愛と称賛をお伝えしたいと思います。¹² しかし誰もが、その選択と信条にかかわらず、わたしたちの親切と思いやりを受ける価値があるのです。¹³

救い主はわたしたちに、友人だけではなく、異なる考えを持つ人々、そしてわたしたちを拒む人々をも愛するように教えられました。主はこう言われました。「あなたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるのか。……兄弟だけにあいさつをしたからとて、なんのすぐれた事をしているだろうか。」¹⁴

預言者ジョセフ・スミスは独善的になることについて警告し、全ての人々に対して、「彼らを自分の肩に背負いたいと思う」¹⁵ ほどに、心を開くように勧めています。イエス・キリストの福音においては、嘲笑や虐待、偏見を許容する余地はないのです。

もし皆さんが教会の指導者から受ける勧告について疑問があるなら、気になっている問題について両親や指導者と率直に話し合ってください。皆さんには、主の預言者を信頼することから得られる強さが必要です。ハロルド・B・リー大管長はこ

う述べています。「教会の会員としてわたしたちが持っている唯一の安全策は……主が預言者を通じて下された言葉や戒めに聞き従うことです。……忍耐と信仰を必要とするものもあるでしょう。中央幹部からのメッセージを快く思えないこともあるかもしれません。あなたの政治的見解や……社会観と相いれないものもあるでしょう。また、あなたの社会生活を……犠牲にしなければならないようなメッセージかもしれません。しかし、忍耐と信仰を持って、主御自身の口から出ているように、これらの教えに耳を傾ける人々に対しては、……『地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない……。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払〔う〕のです（教義と聖約 21:6）。』¹⁶

人生の嵐を避けるもう一つの力強い守りはモルモン書にあります。

ヘンリー・B・アイリング管長は10代の頃、家族で新しい町へ引っ越しました。初めのうち、引っ越したことが不愉快で、友達もできませんでした。高校の生徒たちにも溶け込めないと感じていました。人生に嵐が吹いていました。そこでどうしたかという、モルモン書の研究に全力を傾け、何度も読んだのです。¹⁷ 歳月が流れ、アイ

リング管長はこう証^{あかし}しています。「わたしはモルモン書を開き、その言葉を深く、何度も味わうのが〔大好きです〕。』¹⁸ 「〔それは〕イエスがキリストであられるという最も力強い証^{あかし}が書かれた書物です。」¹⁹

堅固に立つために、主はもう一つの方法、すなわち悪魔の起こす嵐よりも力強い霊的な賜物^{たまもの}をお与えになっています。主はこう言われました。「あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。」²⁰

わたしが10代の頃には教会の神殿は13しかありませんでしたが、今は142あります。教会員の85パーセントが神殿から200マイル（約320キロ）以内に住んでいます。主は皆さんの世代に、世界の歴史上、他のどの世代よりも容易に主の聖なる神殿に入れるようにしてくださったのです。

皆さんはバプテスマを行うために神殿で白い衣を着けて立ったことがありますか。どのような気持ちがしましたか。神殿では神聖な気持ちが強く感じます。救い主の平安が世の中を吹き荒れる嵐を全て鎮めてくれます。

皆さんが神殿で感じる気持ちは、生活の中でも感じるべき規範です。²¹

先にこの世を去った祖父母や遠いいと





こを探してください。彼らの名前を携えて神殿に参入してください。²² 皆さんが先祖について知るとき、生活、結婚、子供について見習うべき行動様式、義の規範、時には、避けたいと望む悪い行動様式が分かるようになるでしょう。²³

皆さんは将来神殿で、世界の創造について、アダムとエバの生活における規範、そして最も大切なこと、すなわち救い主イエス・キリストについて学ぶでしょう。

若い兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは皆さんを心から愛し、称賛するとともに皆さんのために祈っています。この世の嵐に引きずり落とされないようにしてください。現代は皆さんの時代です。主イエス・キリストの弟子として強く立つ時です。²⁴

贖い主の岩の上に自分の礎をもっと堅固に築いてください。

主の類いな生涯と教えをより一層大切にしてください。

主の模範と戒めにもっと熱心に従ってください。

主の愛と憐れみと恵み、贖いの力強い賜物をもっと心に深く抱いてください。

そうするときに、皆さんにお約束します。世の嵐は試練、誘惑、混乱であり、皆さんの成長を助けるための苦難であると分かるでしょう。年々義にかなった生活をするにつれて、イエスがキリストであられるとい

うことを、自分の経験を通して必ず何度も確認するでしょう。皆さんの足元の霊的な岩は安定し、堅固になるでしょう。キリストの輝かしい再臨に向けて最後の準備に加わるために、神が皆さんをこの時代に置かれたことを喜ぶでしょう。

救い主は言われました。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところへ帰って来る。」²⁵ イエスがキリストであられると証します。これは皆さんへの主の約束です。この約束が真実だと知っています。主は生きておられることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

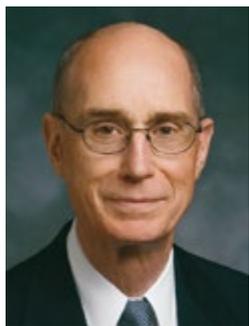
1. 教義と聖約 88 : 91
2. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選 (1954年), 72
3. ダリン・H・オークス「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号, 7-10 参照
4. A・ストークス, A・H・フィッター, M・P・ゴーツ, “Responses of Young Trees to Wind and Shading: Effects on Root Architecture,” *Journal of Experimental Botany*, 第46巻, 290項 (1995年9月), 1139-1146
5. ヒラマン 5 : 12
6. トーマス・S・モンソン「神権の力」『リアホナ』2011年5月号, 66
7. 大管長会からの手紙, 2014年3月6日付。デビッド・A・ベドナー「わたしたちは純潔を信じる」『リアホナ』2013年5月号, 41-44; ダリン・H・オークス「ほかに何のものをも神としてはならない」『リアホナ』2013年

11月号, 72-75; 『若人の強さのために』(冊子, 2011年), 35-37も参照

8. トーマス・S・モンソン「リアホナ」2011年5月号, 67
9. ラッセル・M・ネルソン長老はこう述べている。「結婚……は、社会秩序を作り出す鑄造所……です。結婚のきずなは、夫婦だけのものではありません。神もそのきずなの中におられます。」(「結婚のきずなはくむ」『リアホナ』2006年5月号, 36) マタイ 19 : 5-6も参照
10. 2コリント 4 : 18
11. 個人の通信文と会話, 2014年3月17日付; トーマス・S・モンソン「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号, 60-67も参照
12. ジェフリー・R・ホランド, 「同性に引かれる問題に苦しむ人々を助ける」『リアホナ』2007年10月号, 40-43 参照
13. 反キリストのコリホルが人々の信仰を破壊しようとしたときでさえ、神の律法により守られて懲罰を受けなかった。「人の信条を禁止する

法律はなかった。人々を不平等な立場に置く法律があることは、まったく神の戒めに反していたからである。……もし人が神に仕えたいと思うならば、神に仕える特権があった。……しかし、たとえ人が神を信じなくても、その人を罰する法律はなかった。」(アルマ 30 : 7, 9) 信仰箇条第11条にはこう書かれている。「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権を認める。彼らがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれを妨げない。」

14. マタイ 5 : 46-47
15. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』428-429 参照
16. 『歴代大管長の教え—ハロルド・B・リー』88-89 参照; ロバート・D・ヘイルズ「総大会—信仰と証を強める」『リアホナ』2013年11月号, 7も参照
17. ロバート・I・イートン, ヘンリー・J・アイリング, *I Will Lead You Along: The Life of Henry B. Eyring* (2013年), 40 参照
18. ヘンリー・B・アイリング, *Choose Higher Ground* (2013年), 38
19. ヘンリー・B・アイリング, *To Draw Closer to God* (1997年), 118
20. 教義と聖約 87 : 8。教義と聖約 45 : 32も参照
21. 教義と聖約 52 : 14 参照
22. ニール・L・アンダーセン, “Find Our Cousins!” (address given at RootsTech 2014 Family History Conference, 2014年2月8日); lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/find-our-cousins 参照
23. デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号, 24-27 参照
24. ヒラマン 7 : 9 参照
25. ヨハネ 14 : 18



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

希望をもたらす 貴い受け継ぎ

神と聖約を交わす選択、あるいはそれを守る選択をするとき、皆さんは自分の模範に従う人々に希望をもたらす受け継ぎを残すかどうかの選択をしているのです。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、皆さんの中には、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師から、この集會に招待された人もいます。また、それらの宣教師から既に、バプテスマを受けて神との聖約を交わすという選択をするように勧められている人もいます。

神と交わした聖約を中心とする生活を送ることをもう一度選んでほしいと願う親や妻あるいは子供の勧めを受け入れたので、参加しているという人もいます。また、救い主に再び従うという選択をし、今日、自分が戻ったことを主は喜んでおられると感じている参加者もいることでしょう。

皆さんがどのような人で、どこにいるかは問題ではありません。皆さんには、現時点では想像できないほど多くの人々に幸福をもたらす影響力があります。毎日、また毎時間、神と聖約を交わす、あるいはそれを守る選択ができます。

永遠の命の賜物を受け継ぐ道のどの辺りにいようと、皆さんはより豊かな幸福へと通じる道を多くの人々に示す機会が与えられています。神と聖約を交わす選択、あるいはそれを守る選択をするとき、皆さん

は自分の模範に従う人々に希望をもたらす受け継ぎを残すかどうかの選択をしているのです。

皆さんもわたしも、恵まれてそのような受け継ぎの約束を受けています。わたしの幸福な人生は、この地上では一度も会う機会がなかったある人物のおかげです。その人は孤児でしたが、後にわたしの曾祖父となりました。わたしに希望をもたらす貴い受け継ぎを残してくれた人です。わたしのためにその受け継ぎを生み出すうえで、彼がどのような役割を果たしたのか、少しお話ししましょう。

彼の名前はハインリッヒ・アイリングといます。とても裕福な家庭に生まれました。父親のエドワードは現在のドイツ、コーブルクに広大な土地を所有していました。母親はシャルロッテ・フォン・ブロンベルク子爵夫人と言い、その父親はプロシア王の数々の領地を管理していました。

ハインリッヒはシャルロッテとエドワードの長男でした。シャルロッテは3人目の子供を産んだ後、31歳で亡くなりました。それから間もなくしてエドワードも、まだ40歳の若さで、亡くなりました。しかも、投資に失敗したために全財産を失ってい

ました。こうして、3人の孤児が残されました。

わたしの曾祖父、ハインリッヒは両親と莫大な遺産を失い、無一文になってしまいました。彼は、自分の一番の望みはアメリカに行くことだと、日記に記録しています。アメリカには家族も友人もいませんでしたが、アメリカに行くことに希望を抱いていました。ハインリッヒは、まずニューヨーク市に行きました。その後、ミズーリ州セントルイスに移り住みました。

彼はセントルイスで働きましたが、そのときの同僚の一人が末日聖徒でした。その同僚から、パーリー・P・プラットの書いた1冊のパンフレットを手に入れました。それを読んで以来、末日聖徒について書かれたありとあらゆる資料を研究しました。本当に天使が人に現れたのか、生ける預言者がいるのか、自分は真実の啓示された宗教を見いだしたのかを知るために祈りました。

2か月間、入念に研究し祈ったハインリッヒは、一つの夢を見ました。その夢の中で、バプテスマを受けるように言われました。そして、ウィリアム・ブラウン長老が儀式を執行しました。わたしはその名前と彼の神権の権能を尊んでいます。1855年3月11日の午前7時30分に、ハインリッヒは雨水をためた小さな池でバプテスマを受けたのです。

ハインリッヒはそのとき、わたしが今日皆さんにお伝えしていることは真実であると、きっと知っていたことでしょう。永遠の命という幸福が、永遠に続く家族のきずなを通してもたらされることを知っていました。主の幸福の計画を見いだしたばかりのときですら、永遠の喜びにあずかりたいという自分の希望は、自分の模範に従う人々の選択の自由に懸かっていることを知っていました。永遠の幸福に対する曾祖父の希望がかなうかどうかは、まだ生まれていない人々に懸かっていたのです。

わたしたちの家族が希望を受け継ぐための一環として、曾祖父は子孫に記録を残しました。



その記録を読むと、自分の後に続くわたしたち子孫に対する彼の愛を感じることができます。彼の次の言葉から、自分の子孫が自分に従って天へと戻る道を歩む選択をすることへの彼の希望を感じます。それが実現するのは、一つの大きな選択ではなく、多くの小さな選択によることを彼は知っていました。彼の記録から引用します。

「最初にアンドラス長老の話聞いたときから……わたしはいつも末日聖徒の集会に出席した。実際、集会に出席しなかったことはほとんどない。そうすることがわたしの義務だからだ。

わたしはこの記録を書くが、それはわたしの子供たちがわたしの模範に従い、末日聖徒とともに集会に出席するという大切な義務を決して怠ることがないようにするために。」¹

ハインリッヒは、わたしたちが聖餐会せいさんかいで「いつも救い主を覚え、救い主の御霊を受けるために」約束を更新できるということを知っていました。

バプテスマの聖約を受け入れて数か月しかたないときに伝道に召された彼を支えたのがその御霊でした。彼は、6年の間、当時、インディアン特別保護区と呼ばれた地域で宣教師として忠実に働き続けるという模範を、自分から子孫への受け継ぎとして残しました。伝道からの解任を受けるために、彼はオクラホマからソルトレーク・シティまで、およそ1,100マイル(約1,770キロ)の道のりを、幌馬車隊に加わって歩きました。

それから間もなくして、曾祖父は神の預言者から召されて、ユタ州南部に移動しました。そこから、また別の召しに応じて、母国ドイツで伝道しました。その後、メキシコ北部で末日聖徒の植民地建設を助けるようにという主イエス・キリストの使徒からの招きに応じました。そこにいるときに、メキシコシティで専任宣教師として再び働く召しを受けました。曾祖父はそれらの召しを果しました。現在、彼はメキシコのチワワ州コロニアアフレスにある小さな墓地に葬られています。

わたしがこれらの事実について語るのは、曾祖父やその業績あるいはその子孫が偉大であることを自慢するためではありません。彼が心に抱いていた信仰と希望の模範のゆえに、彼を尊ぶためです。

曾祖父はそれらの召しに応えました。それはニューヨーク州の森の中で、復活されたキリストみすがたと天の御父がジョセフ・スミスにその御姿を現されたという信仰があったからです。曾祖父がそれらの召しに応えたのは、主の教会の神権の鍵が回復されたということ、またその鍵には、聖約を守るに十分な信仰さえあれば、家族を永遠に結び固める力があるということを感じていたからです。

わたしの先祖、ハインリッヒ・アイリングのように、皆さんも熱心に信仰をもって神聖な聖約を交わし、それを守り、その聖約の道に沿って永遠の命へと人々を導く、自分の家族で最初の人となるかもしれません。ハインリッヒにとってそうであったように、わたしたち全員にとっても、そうした務めは単純なこともあります。困難なことも度々あります。しかし、忘れないください。その務めが困難なのは、その務めの目的が、天の御父とその愛する御子イエス・キリスト、そして家族との、永遠の生活へ通じる道に沿ってわたしたちを進ませることだからです。

アブラハムの書に次のような言葉があるのを覚えているでしょう。

「そして、彼らの中に神のような者が一人立ち、ともにいた者たちに言った。『あそこに空間があるので、わたしたちは降くだって行こう。そして、これらの材料を取って、これらの者が住む地を造ろう。

そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。

第一の位を守る者は付け加えられるであろう。また、第一の位を守らない者は、第一の位を守る者と同じ王国で栄光を受けることはない。さらに、第二の位を守る

者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられるであろう。』²

第二の位を守るかどうかは、神と聖約を交わし、わたしたちに求められている務めを忠実に果たすかどうかにかかっています。神聖な聖約を生涯にわたって守り続けるには、救い主イエス・キリストを信じる信仰が必要です。

アダムとエバが、実際に墮落したので、わたしたちは万人の受け継ぎとして、誘惑、試練、そして死を経験します。しかし、愛にあふれる天の御父はわたしたちに救い主として、愛する御子イエス・キリストという賜物^{たまもの}を与えてくださいました。イエス・キリストの贖罪^{しよくざい}というこの偉大な賜物と祝福は万人に受け継ぎをもたらし、それはこの世に生を受ける全ての人に与えられる復活の約束と永遠の命の可能性です。

神のあらゆる祝福のうち最大の祝福、すなわち永遠の命は、主から権能を授かった僕^{しもべ}を介してイエス・キリストの真の教会でのみ得られる聖約を交わすときにもたらされます。墮落のゆえに、わたしたちは皆、洗い清める効果のあるバプテスマと聖霊の賜物を受けるための^{あんしゅ}按手を必要としています。こうした儀式は正当な神権の権能を有する人によって執行されなければなりません。そして、これらの儀式を受けると、キリストの光と聖霊の助けを受けることができ、神と交わす全ての聖約、特

に、主の神殿で交わす聖約を守ることができるようになります。そのような方法によってのみ、またそのような助けによって、誰もが神の子供として、家族におけるその正当な受け継ぎを永遠に求めることができるのです。

わたしの話を聞いている一部の人々にとっては、それはほとんど不可能な夢のように思われるかもしれませんが。

忠実でありながらも、神との聖約を拒否したり自らの選択でそれを破ったりした子供のことで悲しんでいる両親がいます。しかし、そのような両親も、ほかの両親の経験に慰めと希望を見いだすことができます。

アルマの息子とモーサヤ王の息子たちは、神の聖約と神の戒めに対する激しい反抗を悔い改めました。息子アルマは、息子のコリアントンがその忌まわしい罪を離れ、神に仕える姿を^ま目の当たりにしました。また、モルモン書には、義を憎むという言い伝えを捨て、平和を維持するためなら死をもいとわないと聖約したレーマン人の奇跡が記されています。

一人の天使が、息子アルマとモーサヤの息子たちに送られました。その天使は、彼らの父親と神の民の信仰と祈りがあったので現れたのです。贖罪の力が人の心に働きかけるそのような実例から、勇気と慰めを受けることができます。

自分たちの愛する人々がその永遠の受

け継ぎを受け入れるよう一生懸命努力するときに、主はわたしたちに希望の源を全てお与えになりました。わたしたちが主のみもとに人々を集めようと努力し続けるときに、たとえ彼らがそのような主に近づくことを拒否したとしても、主はわたしたちに約束をお与えになりました。主は、彼らが拒否すると悲しまれますが、決してあきらめることはなさいません。わたしたちもあきらめるべきではありません。主はわたしたちに、尽きることのない愛をもって完全な模範を示しておられます。「さらにまた、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。まことに、おお、罪を犯してきたイスラエルの家の民よ。まことに、おお、同じように罪を犯してきたエルサレムに住むイスラエルの家の民よ。まことに、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。」³

わたしたちは、救い主が天の御父の霊の子供たちを神のみもとに連れ戻そうと常に変わらず望んでおられることに信頼を置くことができます。忠実な両親、祖父母、そして曾祖父母も同じような望みを抱いています。天の御父と救い主は、わたしたちにできること、またわたしたちがしなければならないことについて、完全な模範を示しておられます。義にかなった行いは個人の選びによるものなので、御二方はそれを決して強制されません。その代わりに、何が義にかなっているかを識別できるようにしていただきます。また、義にかなった選択がもたらす喜びを理解させてください。

この世に生を受ける人は皆、キリストの光を受けます。この光を通して、わたしたちは物事の善悪を理解し、感じるができます。神は死すべき体を持つ僕を送ってくださいました。この僕は、聖霊によって、主がわたしたちにどのような行いを望み、禁じておられるのか理解できるよう助けてくれます。選択の結果を感じるこ





とで、わたしたちが義にかなった選択に興味を抱くように、神は働きかけてくださいます。義にかなったことを選べば、やがては、幸福を見いだします。罪悪を選べば、やがては、悲しみと後悔がもたらされます。どちらも明白な結果です。しかし、ある目的があって、そのような結果が遅れて出て来ることがよくあります。すぐに祝福を受けるのであれば、義にかなった選択を行っても、信仰を育むことはできません。また、悲しみも非常に遅れて感じられることがあるので、悲しみと苦痛に満ちた結果を感じてからではなく、早い時期に、罪に対する赦しを求めなければならないと感じるには、信仰が必要となるのです。

父リーハイは一部の息子や家族が行った選択のことで悲しみました。彼は偉大で善良な人でした。神の預言者だったのです。リーハイは、度々救い主イエス・キリストについて家族に証しました。家族を崩壊から救うために、この世的な持ち物を全て捨てるようにと命じられたときに、従順と奉仕の模範を示しました。生涯をまさに終えようとしていたときにも、子供たちに証をしました。救い主と同様、また子供たちの心を見抜き、悲しい未来とすばらしい未来の両方を見通す力があつたにもかかわらず、リーハイは家族を救いへと導くために手を差し伸べ続けました。

父リーハイの望みが正しかったことは、今日、彼の何百万人もの子孫が証明しています。

どうすれば、わたしたちはリーハイの模範から学ぶことができるのでしょうか。聖文を祈りの気持ちで注意深く研究することによって、そしてその教えに従うことによって、リーハイの模範から学ぶことができます。

わたしは皆さんに提案します。皆さんの家族に希望をもたらす受け継ぎを与えようとするとき、物事を短期的かつ長期的に考えてください。短期的には、問題が起こりますし、サタンは猛り狂うでしょう。また、主が御自身の時間と方法で行動されるということを理解し、信仰をもって忍耐強く

待つべきことも数々あります。

早い時期、つまり皆さんの愛する人が幼いときにできることがあります。毎日の家族の祈り、家族の聖文学習、聖餐会で分かち合う証、こういったものは子供たちが幼いときにより伝わりやすく効果的だということを忘れないでください。幼い子供は、多くの場合、大人が理解している以上に、御霊を感じやすいのです。

子供は大きくなっても、皆さんと一緒に歌った賛美歌のことを忘れません。メロディーを覚えているだけでなく、そこで歌われている聖文の言葉や証をよりはっきりと覚えているものです。聖霊は、彼らに全てのことを思い起こさせる力を持っておられますが、聖文や賛美歌の言葉は何よりも長く記憶にとどまります。そういった記憶には、彼らを引き戻す影響力があります。しばらくの間、ひょっとしたら何年もの間、永遠の命へと通じる道からさまよい出ていたとしてもです。

愛する人々がこの世の影響力を感じているとき、疑念で彼らの信仰が押しつぶされそうとき、長期的な物の見方が必要となります。わたしたちには信仰、希望、慈愛があります。それがわたしたちを導き、彼らを強めてくれます。

わたしは生ける神の二人の預言者の顧問を務める中で、そのことを目の当たりにしてきました。彼らは他に類のない人格を有する人たちですが、いつでも楽観的な物の見方を分かち合ってくれるように思います。誰かが教会の何かについて懸念の声を上げるとき、彼らの口から最も頻繁に出て来るのは次のような言葉です。「全てうまくいきますよ。」彼らは、通常、警鐘を鳴らす人たちよりも問題についてよく知っているのです。

また、大管長たちは主の道を知っています。ですから、主の王国の未来についても希望を抱いています。主がこの教会の頭であられることを知っているのです。主は全知全能であり、全ての人に関心を持っておられます。主を皆さんの家庭の指導者にするなら、全てうまくいきます。

ハインリッヒ・アイリングの子孫の中には、義の道から外れた人もいます。しかし、ハインリッヒの玄孫の多くが、世界の至る所で、午前6時、神の神殿に参入し、一度も会ったことのない先祖のために身代わりの儀式を受けているのです。彼が残した希望をもたらす受け継ぎがあるからです。曾祖父は受け継ぎを残しました。彼の子孫の多くが、今、その受け継ぎを享受しています。

わたしたちが信仰をもって自分の行えることをすべて行った後、わたしたちの家族のために想像できないほどの大きな祝福を望むわたしたちを、主は正当と見なしてください。主は御自分の子供である彼らとわたしたちに最善のものを与えたいと望んでおられるのです。

わたしたちは皆、生ける神の子供です。ナザレのイエスは、神の愛する御子であり、復活された救い主です。これは主の教会です。この教会にこそ、神権の鍵があり、家族は永遠に続くことができます。これはわたしたちに希望をもたらす貴い受け継ぎです。このことが真実であると、主イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。■

注

1. Henry Eyring, *reminiscences*, 1896年、タイプ打ち原稿、教会歴史図書館、16 - 21 参照
2. アブラハム 3:24 - 26
3. 3 ニーファイ 10:5



大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長による提示

教会役員の支持

わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ワークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを、また同定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会顧問と十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちは、タッド・R・カリストー長老を中央幹部および七十人会長会会員から、心からの感謝をもって解任します。

わたしたちとともに感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

また、リン・G・ロビンズ長老を七十人会長会会員として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

わたしたちは次の方々を、2014年5月1日をもって地域七十人から解任するよう提議します。ペドロ・E・アブララク、フリオ・A・アングロ、ビクター・A・アスコナビエタ、裴 徳洙、フアン・C・バロス、コリン・H・ブリックネル、デニス・C・ブリンホルム、トーマス・M・チェリントン、キム・B・クラーク、ウィン・R・デュースナップ、ロドルフォ・C・フランコ、G・ジュレルモ・ガルシア、フリオ・C・ゴンザレス、マルノ・ジュノット・デ・マリア、ラリー・S・ケーチャー、デビッド・E・ルシュエ、パウロ・C・ロウレイロ、ステイブン・J・ランド、アブラハム・マルティネス、ヒューゴ・E・マルティネス、ゼルゲー・N・ミクリン、クリストファー・B・マンデー、中塚祐文、大石知香男、アレハンドロ・S・パタニア、レナト・M・ペトラ、アナトリー・K・レシェニコフ、ジョナサン・C・ロバーツ、J・クレーグ・ロウ、ロバート・B・スミス、ウォーレン・G・テート、ヘスボン・O・ウシ、タニエラ・B・ワコロ、ランディー・W・ウィルキンソン、黄 (サム) 志康。

彼らのすばらしい奉仕に、ともに感謝を示してくださる方は手を挙げてその意を表してください。

わたしたちは、中央日曜学校会長の



アメリカ合衆国、ユタ州ワシントン



ラッセル・T・オスガソープ兄弟, デビッド・M・マッコンキー兄弟, マシュー・O・リチャードソン兄弟を感謝をもって解任するよう提議します。

それに伴って日曜学校中央管理会の会員を解任します。

これらの兄弟姉妹たちの特筆すべき奉仕と献身に感謝して下さる方は、その意を表してください。

わたしたちは、新たに七十人第一定員会の会員として、^{ウイソン}黄(サム)^{チホン}志康とヨーク・クレビンガットを、また新たに七十人第二定員会の会員としてラリー・S・ケーチャーとヒューゴ・E・マルチネスを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方は、同様にその意を表してください。

わたしたちは次の方々を新しい地域七十人として支持するよう提議します。フリオ・セザール・アコスタ, ブレーク・R・オールドー, アライン・C・アラード,^{あおぼ}青葉太一, カルロス・F・アレドンド, ラジミア・N・アスタシヨフ, ホーグ・T・バセラ, マイケル・H・ボーン, ロムロ・V・カブレラ, ホセ・クラウドイオ・F・カンボス, ニコラス・カスタニエダ, ウォルター・チャトラ,^{フクチン}周(ゼノ)福全, J・ケビン・エンス, K・マーク・フロスト, マウリシオ・G・ゴンザ

ガ, レオナルド・D・グリーア, ホセ・イサギャレー, マイケル・R・ジェンセン, アドルフ・ヨハン・ヨハンセン, ^{チヨン テグ}鄭泰杰, ウィシット・カナックハム, ゼーキー・A・コバロフ, ゼーヨ・クラスノセルスキー, ミラン・F・クス, ブライアン・R・ラーセン, ジェラルド・リマ, W・ジャンピエール・ロノ, タサラ・カマシ, クムプラニ・ムドレトシ, デール・H・ムンク, エドゥアルド・A・ノランプエナ,^{おんだ ゆたか}恩田豊, ハイムンド・パシェコ・デ・ピンヨ, マルコ・アントニオ・ハイス, スティーブン・K・ランドール, R・

スコット・ルニア, アレクセイ・V・サマヤキン, エドウィン・A・セクストン, ラウル・H・スピタレ, カルロス・ワルタレ・トレビノ, ファン・A・ウラ

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、中央日曜学校会長として、タッド・R・カリスターを、第一顧問としてジョン・S・タナーを、第二顧問としてデビン・G・デュラントを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

タナー兄弟とデュラント兄弟は、現在伝道部会長として奉仕しているため、カンファレンスセンターには臨席していません。

中央日曜学校会長会としての正式な働きは、2014年7月に伝道部会長から解任された後に始まります。

その他の中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と変わらぬ信仰と献身、そしてわたしたちのための祈りに感謝します。

新しい中央幹部の皆さんは、壇上のそれぞれの席に着いてください。■



2013年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ケビン・R・ジャーゲンセン提出

2013年度 統計報告

大管長会秘書
ブルック・P・ヘイルズ提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

愛 する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会、および管理ビショップリックで構成されています。教会の各部門は承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、資格のある専門家によって構成され、教会の他のあらゆる部門から独立しており、基金の収支と教会資産の保全に関する合理的保証を提供するという目的のために監査を行う責任があります。

監査の結果、教会監査部では、2013年度において、教会の全ての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。教会は、予算内で賄い、負債を避け、必要時に備えて貯蓄するという、教会員に対して教えられている慣行に従っています。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部
ケビン・R・ジャーゲンセン
実務運営ディレクター■

教 会員に情報を提供するために、大管長会は2013年12月31日における、教会の発展に関する統計報告を次のように発表しました。

教会のユニット数

ステーク	3,050
伝道部	405
地方部	571
ワードおよび支部	29,253

教会員数

会員総数	15,082,028
新たな記録上の子供	115,486
バプテスマを受けた改宗者	282,945

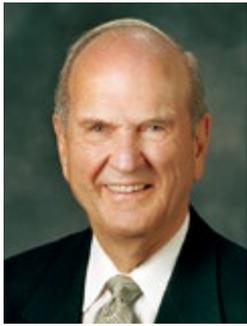
宣教師数

専任宣教師	83,035
教会奉仕宣教師	24,032

神殿数

2013年に奉献された神殿 (ホンジュラス・テグシガルバ神殿)	1
儀式が執行されている神殿	141





十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

信仰を表す

来る日も来る日も、永遠の行く末に向かう道を歩む中、信仰を増してください。信仰を宣言してください。信仰を表してください。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは皆さんに心からの愛と感謝の思いを伝えたいと思います。皆さんと同じ業に働くことができ感謝しています。

最近、飛行機に乗ったときのことです。パイロットが、これから降下する間、乱気流に突入するので、乗客は全員、シートベルトをしっかりと締めるようにアナウンスしました。予告どおり、飛行機は乱気流に見舞われました。実に激しい揺れでした。通路を挟んで、何列か後ろの女性が、恐怖のあまりパニック状態に陥りました。恐ろしい落下と突然の揺れのたびに、この女性は大きな悲鳴を上げました。安心させようとした夫の努力も無駄に終わりました。そのヒステリックな叫びは、飛行機が乱気流を抜け、無事に着陸するまで続きました。彼女が不安にさいなまれているとき、わたしは気の毒に思いました。信仰は恐怖に対する解毒剤なので、わたしは彼女の信仰を強めることができたらいいのにと心の中で祈りました。

後で、乗客が旅客機を離れるとき、この女性のご主人がわたしに話しかけてきました。彼はこう言いました。「妻がお騒がせしたことをおわびします。彼女を安心させる方法の一つしかありませんでした。それは、『ネルソン長老が同乗しておられるから、心配する必要はないよ』と教えてやることでした。」



わたしが一緒に乗っていたからといって、それが果たして彼女の慰めになったかどうかは分かりませんが、このことは言えます。人生における現実の一つは、わたしたちの信仰は試され、挑戦を受けるということです。こうした試練は、生死に関わるような出来事を経験しているときに訪れることがあります。恐怖におののくこの女性に関して言えば、激しく揺れる飛行機が、信仰の度合いをまざまざと見せつけられる場の一つとなったのです。

わたしたちが、信仰、すなわち山をも動かす信仰について語る時、その信仰は一般的な意味での信仰ではなく、主イエス・キリストを信じる信仰を指します。主

イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちが主について学び、わたしたちの宗教を実践するときに強まります。イエス・キリストの教義は、わたしたちが信仰を増すことができるよう、主が用意してくださったものです。しかし、今日において、宗教という言葉の意味は人によってまちまちです。

宗教という言葉は、神と「再び縛られる」あるいは「元のように結ばれる」という意味です。¹ わたしたちは次のように自問するべきです。わたしたちは、神としっかり結ばれ、信仰が表れているだろうか。そうではなく、実は他のものと結ばれているだろうか。例えば、月曜日の朝に、前日の日曜日に行われたプロスポーツの試合についての会話を耳にしたことがあります。こうした一部の熱狂的なファンに出会ったとき、彼らの「宗教」が「彼らを結びつけている」その先にあるのは、バウンドするボールのようなものだけではないだろうかと思念しました。

わたしたちは自らにこう問うべきです。自分の信仰はどこにあるだろうか。スポーツチームだろうか。ブランドだろうか。有名人だろうか。最強のチームですら負けます。有名人もいなくなります。信じる対象として常に安全な御方は御一方しかおられません。それは主イエス・キリストです。だからこそ信仰を表す必要があるのです。

神は十戒の**第一の戒め**でこう宣言されました。「あなたはわたしのほかに、なにもものをも神としてはならない。」² またこう言われました。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」³ しかしあまりにも多くの人々が、平安を求めて銀行残高を、従うべき模範を求めて同胞を仰ぎ見えています。

医者、学者、政治家は、信仰の試しに合うことがよくあります。目標を追求するとき、彼らの宗教は表れているでしょうか、それとも隠れているでしょうか。彼らは神、あるいは人のどちらかに結ばれているでしょうか。

何十年も前のこと、わたしはそのような



試しに遭ったことがあります。医学の知識と宗教上の信念を区別しなかったという理由で、医学部の同僚から激しく非難されたのです。彼はこの二つを混同しないようにと要求しました。そんなことがわたしにできるでしょうか。真実は真実です。真理は分離できませんし、どの部分も無視することはできないのです。

全ての真理は、化学実験室からであれ、啓示を通してであれ、神に端を発します。全ての真理は、イエス・キリストの福音の一部なのです。⁴ それなのに、わたしは信仰を隠すようにと言われたのです。わたしは同僚の要求に応えませんでした。信仰が表れるようにしたのです。

どの職業上の取り組みにおいても、精度についての厳しい基準が求められます。学者は表現の自由を大切にします。しかし自分が持っている知識の一部が、人の命令で、「受け入れ不能」とされるようなことがあれば、完全な自由は経験できません。

霊的な真理、特に、神の戒めを無視することはできません。神の戒めを守ることによって祝福がもたらされます。⁵ いつもそうです。神の戒めを破ることによって祝福は失われます。いつもです。

この世界は問題にあふれています。そこに住んでいる人々が不完全だからです。人々の目的と望みは、自分たちの信仰ある

いはその欠如から大きな影響を受けています。神よりも他のことを優先する人が大勢います。現代の生活における宗教の関連性に疑念を抱く人もいます。あらゆる時代と同じように今日も、宗教を自由に実践することをあざけり批判する人たちがいます。世界中にある多くの問題を宗教のせいにする人すらいます。確かに、宗教の名の下に、様々な残虐行為が行われた時代がありました。しかし主の汚れない宗教を実践すること、すなわちイエス・キリストの真の弟子になろうと努力することは、一つの生き方であり、日々の献身は神の導きをもたらしてくれます。自らの宗教を実践するときに、皆さんは信仰を行使していることになります。自らの信仰が表れるようにしているのです。

主は、その子供たちが主を見いだす方法を学ばねばならないことを御存じでした。こう言っておられます。「昇栄……に至る門は狭……い。そして、それを見いだす者が少ない。」⁶

聖文には、人が進むべき道を見だし、その道にとどまるための最良の方法が記されています。また、聖文の知識はわたしたちを災いから守ってくれます。例えば、歴史を通じて、産褥熱さんじよくのような感染症は多くの母親や赤ちゃんの命を奪いました。しかし、3,000年以上前に、旧約聖書には、

感染した患者の手当の仕方に関する正しい原則が記されていました。⁷ 人間が知識を追求する中で主の言葉に耳を傾けなかったために、多くの人が亡くなったのです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、「常に学んではいるが、いつになっても真理の知識に達することができない」⁸ としたら、わたしたちの生活には何が欠けているのでしょうか。わたしたちは聖文を通して偉大な知識を身につけ、信仰の祈りを通して靈感を受けることができます。

そうすることで、わたしたちは日々決断を下すことができます。特に、人の律法が作られ、強要されるとき、神の律法が常にわたしたちの標準とならなければなりません。論争的となっている問題に対処するとき、わたしたちはまず神の導きを求めるべきなのです。

わたしたちは「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにする」べきです。⁹ 「わたしの私生活」あるいは「わたしの最良の振る舞い」といった表現で自らを区別しようとする態度には危険が潜んでいます。自らの生活をそのような仕切りで分けようとする人は、その人の人格の極みにまで到達すること、その人の中の真の自分になり得る全てになることは決してできないでしょう。

人々の喝采^{かつさい}を得たいという誘惑により、神の言葉よりも世論を優先することがあります。政治運動や市場戦略は、多くの場合、世論調査を基に計画を立てます。そのような調査結果は多くの情報を提供してくれるからです。しかし、そのような情報は、神の戒めに対する不従順を正当化するための根拠として用いることはできません。たとえ「皆がそれを行っている」としても間違いは決して正しくないのです。たとえそれが一般的であっても、罪悪、過ち、そして暗闇は、決して真理とはなりません。聖文には次のようにはっきりと警告されています。「わがわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しと……する。」¹⁰

第一次世界大戦後、かなり挑発的な歌がはやりました。不道徳を奨励する、その歌は、5,000万人が気に入っていたら間違いではないと豪語しました。しかし、5,000万人が間違っている、つまりまったく間違っているということがあるのです。不道徳は、神の目には、依然として、不道徳なのです。

そして、この神が、わたしたちの行いと望みの全てを裁かれる時が来るのです。¹¹

今日の世界に蔓延^{まんえん}している恐れと不信仰を、今は幕の向こうに住んでいるわたしの愛する娘エミリーの信仰、そして勇気と対比してください。この世を去るとき、彼女の体は瘡^{かさ}にむしばまれ、ほとんど話すことができませんでした。しかし、顔にはほほえみを浮かべ、わたしにこう言ったのです。「お父さん、わたしのことは心配しないで。大丈夫だって分かっているから。」エミリーは、思いが込み上げてくる瞬間、わたしたちが信仰を最も必要としていたあの瞬間に、鮮やかに信仰を表したのです。

この若くて美しい、5人の子供の母親は、天の御父とその計画に、そして彼女の家族の永遠の幸福に完全な信仰を抱いていました。彼女は神としっかり結ばれていたのです。彼女は、主と交わした聖約と、夫と交わした聖約に、非の打ちどころなく忠実でした。子供たちを愛していました。その子供たちとの別れが目前に迫っていたにもかかわらず、心は平安でした。自

分の未来に、また家族の未来に信仰を抱いていました。天の御父とその御子に信仰を抱いていたからです。

1986年に、トーマス・S・モンソン大管長はこう語っています。「もちろん、恐れを感じ、嘲弄^{ちやうろう}され、反発に遭うこともあるでしょう。しかし、多数意見に対抗する勇氣、原則を守る勇氣を持つようではありませんか。勇氣は神の承認の笑みをもたらしますが、妥協にはそれがありません。……恐れを抱いていない人は誰もいません。しかし、〔信仰をもって〕その恐れに立ち向かう人こそが勇氣ある人と言えるのです。このことを忘れてはなりません。」¹²

モンソン大管長の助言は、不朽のものであります。ですから、兄弟姉妹の皆さんにお願いします。来る日も来る日も、永遠の行く末に向かう道を歩む中、信仰を増してください。信仰を宣言してください。信仰を表してください。¹³

皆さんが神にしっかりと結ばれるように、また神の永遠の真理が皆さんの心にいつまでも刻まれるように祈ります。皆さ



んの生涯を通じて、皆さんが自らの信仰を表すことができるように祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 赤ちゃんが生まれるとき、臍帯(へその緒)は二重結紮され、それら二つの結紮糸の間で分離切断される。結紮糸はひも、頑丈なひもである。宗教〔訳注—英語で religion〕という言葉の語源はラテン語であり、re は「再び」あるいは「元のように」を意味し、ligare は、恐らく、「結ぶ」あるいは「縛る」を意味する。したがって、宗教とは、「信じる者を再び神に結ぶ」ものということになる。
2. 出エジプト 20:3。さらに主はこう言われた。「あなたがたは悔いて、あなたがたの偶像を捨てよ。あなたがたの顔を、そのすべての憎むべきものからそむけよ。」(エゼキエル 14:6)
3. 教義と聖約 6:36
4. スペンサー・W・キンボール, *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 391 参照
5. モーサヤ 2:41; 教義と聖約 58:30-33; 82:10 参照。この原則は全ての人に当てはまる。というのは「神は人をかたよりみないかた」だからである(使徒 10:34)。モロナイ 8:12 も参照
6. 教義と聖約 132:22
7. レビ 15:13 参照
8. 2 テモテ 3:7
9. 1 ニーファイ 19:23
10. イザヤ 5:20
11. 聖文でこう教えられている。「聖者なる主のみにとて来なさい。主の道が義にかなっていることを覚えておきなさい。見よ、その道は人にとって狭いが、人の前にまっすぐであり、門を守る者はイスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使われない。またその門を通る以外に、ほかの道はない。そしてその御方を欺くことはできない。その御方の御名は、主なる神だからである。」(2 ニーファイ 9:41)
12. トーマス・S・モンソン「勇気が必要である」『聖徒の道』1987年1月号, 47。別の機会に、モンソン大管長は、次のような靈感あふれる勧告を与えている。「立派に生きるために、わたしたちは困難に勇気をもって、落胆にほほえみをもって、勝利に謙遜をもって当たる能力を伸ばさなくてはなりません。……わたしたちは生ける神の息子、娘です。神の形に創造された者です。……わたしたちがこの確信を得たならば、強さと力を、神の戒めに従う強さとサタン誘惑に抗する力を、新たに深く感じないではいられないはずだ。」「(灰色の羽のカナリヤ)『聖徒の道』1973年11月号, 520 参照)
13. 「神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。」(モロナイ 10:32) 神よりも人を恐れるようなことがあってはならない(教義と聖約 3:7:59:5 参照)。



十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

「わたしは手本を示したのだ」

これまで地上に存在した最も偉大な模範は、わたしたちの救い主イエス・キリストです。……主の完全な模範に従うよう、主はわたしたちを招いておられます。

福音を分かち合う義務について考えると、わたしに思いやりある影響を与えてくれた、愛する人々のことが思い浮かびます。彼らのおかげで、霊的成長を促す、神から示された道を見出すことができたのです。人生の重要な節目に、天の御父の祝福により、わたしを深く愛し、わたしが適切な道を選択できるよう導いてくれた人々に出会いました。そのような人々は救い主の次の言葉に従ったのです。「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」¹

わたしが子供の頃、父は教会員ではなく、母はあまり活発な会員ではありませんでした。わたしたちはワシントンD.C.に、母の両親は約4,000キロ離れたワシントン州に住んでいました。わたしが8歳の誕生日を迎えた数か月後、祖母のホイットルが大陸を横断してわたしたちを訪ねて来ました。わたしも兄もバプテスマを受けていないことを気にかけていたのです。そのことについて両親に何と言ったのかは分かりませんが、はっきりと覚えていることがあります。祖母はある朝、兄とわたしを公園に連れて行き、バプテスマを受ける

ことと教会の集会に定期的に出席することの大切さについて、祖母の思いを語ったのです。細かい内容は覚えていませんが、祖母の言葉はわたしの心を揺り動かしました。それから間もなく兄とわたしはバプテスマを受けました。

祖母はいつもわたしたちを支えてくれました。兄とわたしは教会で話す責任を与えられるといつも、祖母に電話して助言を求めました。2、3日もすると、手書きの原稿が郵便で届きました。初めは、そのまま読むだけでよかった原稿が、次第に要点だけを書いたものへと変わっていき、自分たちの努力がもっと必要になりました。

祖母は適度な勇気と敬意を示しながら父に働きかけ、わたしたちが教会の集会に出られるように車に乗せて行くことが重要だと、父が気づくように助けしてくれました。わたしたちが生活の中で福音が必要だと感じるように、いつもふさわしい方法で助けてくれたのです。

何より重要なことは、祖母がわたしたちを愛していることと福音を大切にしていることをわたしたちが知っていたということです。祖母はすばらしい模範でした。わたしがまだ幼い頃に祖母が伝えてくれた

あかし
証に心から感謝しています。祖母の影響により、わたしの人生の方向が永遠に変わったのです。

後に、大学を卒業する頃、わたしはジニー・ワトキズという美しい若い女性に恋をしました。彼女もわたしに幾らか愛情を持ち始めていたと思います。ある晩、将来について話し合っていると、彼女が慎重な言い方で、その後のわたしの人生を永久に変える言葉を述べたのです。「結婚するなら、忠実な帰還宣教師と神殿で結婚したいわ。」

それまでは伝道についてあまり考えたことはありませんでした。あの晩、伝道について考えてみようという意欲が大きく変わったのです。家へ帰ると、他のことは何も考えられず、一晩中眠れませんでした。翌日の勉強にもさっぱり身が入りませんでした。何度も祈った後、ビショップに会って伝道の申請を始める決心をしました。

ジニーは**自分のために**伝道へ出るよう頼むことは決してありませんでした。わたしを深く愛していたので、信念を分かち合い、わたしが自分の人生の道を選ぶ機会を与えてくれたのです。わたしたちは二人とも伝道へ出て、後に神殿で結び固められました。ジニーの勇氣と、信念に従って生活しようとする強い姿勢により、二人の生活は大きく変わりました。第一に主に仕えるという原則を信じる妻の強い信仰がなかったら、わたしたちは今味わっているような幸福を見いだすことはなかったと確信しています。妻は義にかなったすばらしい模範です。

祖母のホイットルもジニーもわたしを深く愛していたので、福音の儀式や天の御父に仕えることがわたしの生活に祝福を与えるという信念を伝えてくれたのです。二人とも、わたしを強制したり、わたしの自尊心を傷つけたりすることはありませんでした。ただわたしを愛し、天の御父を愛していたのです。人生の中でわたしが自分でできる以上のことを天の御父はおできになることを二人とも知っていました。



大いなる幸福へと通じる道を見いだすよう、恐れずに、愛にあふれる方法で助けてくれたのです。

そのような大きな影響を与えるにはどうしたらよいでしょうか。義にかなった方法で助けたいと願う相手を、何よりも心から愛さなくてはなりません。そうすると、その人は神の愛に対する信頼感を育むことができるようになるのです。世の中の多くの人にとって、福音を受け入れる際の最初の問題は、自分を完全に愛しておられる天の御父を信じる信仰を育むことです。御父と同じように愛してくれる家族や友人がいると、そうした信仰を育むことが容易になるのです。

皆さんの愛に信頼感を与えることは、人々が神の愛に信頼感を持つうで助け

となります。そして愛と思いやりのあるコミュニケーションを通して、皆さんが学んだ教訓や経験、苦難への解決策を見つけるうでに従った原則を分かち合うことで、彼らの人生は豊かになるでしょう。彼らの幸せに心から関心を示してください。その後、イエス・キリストの福音についての証を分かち合ってください。

福音の原則と教義に基づいた方法で助けるとよいでしょう。主が自分に何をしよう望んでおられるかを知るように、愛する人々を励ましてください。そうするための一つの方法は、考えさせるような質問を投げかけることです。そして、深く考えて、自分で答えを見つけるために、何時間、何日、何か月もかかろうと、十分な時間を与えます。祈りの方法や、祈りの答えに気づ



く方法が分かるように助ける必要があるかもしれません。祈りの答えを受け、答えに気づくには、聖文を読むことが重要だと分かるように助けてください。このようにして、これから訪れる機会や困難に備える助けとなることができるのです。

神の目的は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です。²それはわたしたちが行う全ての事柄の礎です。時折わたしたちは、魅力的に思える事柄に夢中になったり、日常の務めに精力を使い果たしたりして、神の目的を見失うことがあります。最も基本的な原則を常に生活の中心とするなら、やるべきことを理解し、主の目的を達成するために一層多くの成果をあげ、幸福を得られることでしょう。

救いの計画の基本原則を中心とした生活を送るとき、自分が知っていることを分かち合うことに一層力を入れるようになるでしょう。福音の儀式が永遠にわたって重要であることが分かるからです。霊的に強められたいという願いを友人が持てるような形で、知っていることを分かち合うようになるでしょう。主の戒めを全て守り、イエス・キリストの御名を受ける決意をするよう、愛する人たちを助けるでしょう。

個人の改心は御業のごく一部であることを忘れないでください。家族を強めるように常に努力してください。家族が神殿で結び固められることが重要だという永遠の視野をもって教えてください。わたしの両親

がそうだったように、何年もかかる家族もいるでしょう。わたしがバプテスマを受けて何年もしてから、父がバプテスマを受け、その後わたしの家族は神殿で結び固められました。父は、神殿の結び固め執行者として、母と一緒に神殿で奉仕しました。永遠の視野を持つときに、皆さんは地上に神の王国を築く助け手になるでしょう。

助けたいと願っている人に影響を与えるうえで、愛するという事は力強い土台となります。祖母のホイットルと妻のジニーがわたしを愛しており、人生で最高の祝福を味わってもらいたいと望んでいることをわたしが知らなかったとしたら、祖母や妻の影響力はわずかなものだったことで

オーストラリア、シドニー



しょう。

そのような愛に加えて大切なのは信頼です。信頼することが難しいと思えるような場合もあるでしょう。でも、信頼する方法を何か見つけてください。天の御父の子供たちは、自分が信頼されていると感じると、すばらしいことを行えるのです。現世にいる神の子は皆、救い主の計画を選んだのです。同じ機会が与えられるなら、再び同じ選択をすると信頼してください。

皆さんの愛する人が永遠の命に至る道を進むために、助けとなる原則を伝えてください。わたしたちは皆、教えに教えを加えられて成長することを忘れないでください。皆さんもその規範に従って福音を理解してきたのです。いつも簡単な方法で福音を伝えてください。

イエス・キリストの贖罪についての皆さんの個人的な証は力強い道具です。その他に、祈り、モルモン書をはじめとする聖文、神権の儀式に献身することも助けになります。これらはみな、御霊の導きを促します。皆さんにとって御霊に頼ることは非常に大切です。

効果的に、キリストがなさったようにするには、³ 次の福音の基本原則に焦点を当ててください。すなわち、イエス・キリストの贖いにより、わたしたちは天の御父に似た者となり、その結果、家族として永遠にともに生活できるようになります。

わたしたちの業にとって最も重要な教義



十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

はイエス・キリストの贖罪です。あらゆる適切な機会において、救い主について、また主の贖いの犠牲の力について、証を述べてください。主について、またあらゆる人にとって主は完全な模範である理由を教えている聖文を使ってください。⁴ 勤勉に研究する必要があるでしょう。つまらないことに没頭しすぎて教義や主の教えを学ぶ機会を失うことのないようにしてください。教義を自身の堅固な土台にするなら、皆さんは、重要な真理をまさに必要としている人々に対して真理を分かち合う力強い存在となれるでしょう。

わたしたちが天の御父に仕える最善の方法は、他の人に義にかなった影響を与え、奉仕することです。⁵ これまで地上に存在した最も偉大な模範は、わたしたちの救い主イエス・キリストです。主がこの世で果たされた務めは、人々を教え、愛し、仕えることでした。主と交わる資格がないと判断された人々と、主はともに過ごされました。彼ら一人一人を愛し、彼らの必要を見分け、主の福音を教えられたのです。主の完全な模範に従うよう、主はわたしたちを招いておられます。

主の福音は、この世で平安と幸福に至る道であるとわたしは知っています。福音の明るい光をまだ受けていない人々に、わたしたちの愛と信頼、真理に関する知識を分かち合い、主がなされたようにすることを忘れないように祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. ヨハネ 13:15
2. モーセ 1:39
3. ヨハネ 13:15 参照
4. 例として以下の聖句を参照。ルカ 22:39 - 46; ヨハネ 8:3 - 11; ペリピ 4:13; ヤコブの手紙 5:15 - 16; 1ヨハネ 1:7; 2ニコライ 1:15; 2章:25; 17 - 30; 31章; モルモン書ヤコブ 4章; アルマ 7章; 42章:3; ニコライ 11 - 30章; モロナイ 10:32 - 33; 教義と聖約 18:10 - 16; 19:13 - 19; 29:3; 88:1 - 13; 138:2 - 4; モーセ 5:6 - 12
5. マタイ 22:35 - 40; モーサヤ 2:17 参照

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」

選択の自由を使い従うとは、正しいことを行う選びをして、それに伴う結果を受け入れるということです。

兄 弟姉妹の皆さん、わたしたちが救い主の生涯から学ぶ全ての教訓の中で、従順の教訓以上に明確で力強いものはありません。

救い主の模範

前世における天上の大会議で、ルシフェルは天の御父の計画に反発しました。ルシフェルに従った者たちは自らの永遠の進歩を終わらせたのです。誰に従うかは十分に気をつけなくてはなりません。

そのとき、イエスは従う決意を表してこう言われました。「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものがありますように。」¹ 主はその務めの間中、「数々の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められませんでした。² そして実に、「さまざまの苦しみによって従順を学ばれ」たのです。³

救い主は従順であったため、わたしたちの罪を贖い、わたしたちの復活を可能に

し、わたしたちが天の御父のみもとに帰る道を備えられました。御父は、わたしたちが死すべき世で従順を学ぶとき、間違いを犯すということを御存じでした。わたしたちは従うときに、救い主の犠牲を受け入れます。なぜなら、わたしたちは、イエス・キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式、また与えられた戒めに従うことによって救われ得ると信じるからです。⁴

イエスは、理解しやすい簡潔な言葉で、従うようわたしたちに教えておられます。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」⁵ そして「わたしに従ってきなさい。」⁶

わたしたちはバプテスマを受けるとき、「キリストの御名を受けて、」生涯の最後まで従うと「神と聖約を交わし」⁷ます。毎週日曜日に聖餐を受け、進んで戒めを守ることを証明することにより、そのバプテスマの聖約を新たにします。天の御父の御心に添わない思いや気持ち、あるいは行

いについて^{ゆる}赦しを求めます。不従順を避け、再び従い始めることを通して悔い改めるときに、わたしたちは御父に対する愛を示すのです。

従順の種類

福音に従って生活するとき、従順について理解が深まります。時折、わたしたちは

「生まれながらの人の従順」とわたしが名付けたような従い方をしよう誘惑されることがあるかもしれません。この従順では、人は自分の知恵や望み、さらには大衆性を優先して、不従順にも神の律法を拒みます。非常に多くの人の間で広く行われているため、このゆるんだ従順が、わたしたちの文化や法律における神の標準を損

なっています。

時折教会員は「えり好みの従順」を行っていることがあるかもしれません。つまり、神を愛し敬っていると主張しながら、わたしたちが完全に従うべき、神の戒めと教え、また神の預言者の教えと勧告の一部を抜き出して選んでいるのです。

えり好みで従う人々がいるのは、戒めがある理由を全部は理解できないからです。まるで、親が勧告を与え、規則を設ける理由を子供が必ずしも理解しないのと同様です。しかしわたしたちは預言者に従う理由を常に知っています。この教会がイエス・キリストの教会であり、主が全ての神権時代において預言者を導いておられるからです。

従順について理解が深まると、選択の自由の重要な役割を認識します。イエスはゲツセマネの園で3度天の御父に祈って言われました。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。」⁸ 神は、救い主から選択の自由を奪い去ることはしませんでした。それでも、愛する御子を力づけるために深い憐れみをもって一人の天使を遣わされました。

救い主はゴルゴタでも試しに遭われました。ここで主は、御自身を十字架から下ろすために天使の軍団を呼ぶこともおできになりました。しかし、救い主は、最後まで従順に堪え忍び、たとえひどい苦難と死を受けようとも自ら贖いの犠牲を全うするという選びをされたのです。

霊的に成熟した従順は、「救い主が示された従順」です。それは天の御父と御子に対する真の愛に動機づけられています。救い主がされたように、わたしたちは進んで従うとき、天の御父の御言葉を尊んでいます。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」⁹ そして、天の御父のみもとへ行くときに「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ」という御言葉を聞けることを心待ち





にしています。¹⁰

選択の自由を使い従うとは、正しいことを行う選びをして、それに伴う結果を受け入れるということです。¹¹ これには自制を要します。そして自分に、また模範によって周りの人たちに、自信と、永遠の幸福と、達成感をもたらします。またそれには必ず、神権指導者を支持し、彼らの教えと勧告に従うという本人の強い決意が伴います。

結果

従うかどうか選ぶとき、自分の選択の結果を念頭に置くことは常に助けになります。ルシフェルと彼に従った者たちは、天の御父の計画を拒むことを選んだらどのような結果になるか理解していたでしょうか。もしそうであれば、なぜ彼らはそのような悲惨な選択をしたのでしょうか。自分自身にも同様の質問をしてみるとよいでしょう。「罪の永遠の結果を知っているが、不従順であることを選ぶ人がいるのはなぜだろうか」と。聖文にその答えがあります。カインと、アダムとエバの子供の一部が不従順を選んだ理由はこうです。

「彼らは……神よりもサタンを愛した。」¹²

救い主への愛は、救い主のような従順さを身につける鍵です。今日の世界で従順であろうと努めるとき、わたしたちは天の御父の全ての子供たちを愛し、敬っていることを表明します。しかし、人々に対する愛が、神の戒めを変えることはあり得ません。戒めはわたしたちの善のために与えられているのです。例えば、「あなたは……殺してはならない。これに類することをしてはならない」¹³ という戒めは、胎児を含む、神の全ての子供たちを守る霊的な律法に基づいています。多くの経験から分かることですが、この律法を無視すると、計り知れない悲しみが生じます。ところが多くの人は、好みや都合を理由に胎児の命を絶つことは容認できると信じています。

不従順を正当化しても、霊的な律法や結果が変わることはなく、混乱と不安定を生じ、見知らぬ道に迷い込み、方向性を失い、苦悩を招くだけです。わたしたちはキリストの弟子として、神の律法と戒め、また受けた聖約を守る神聖な義務があります。

1831年12月、何人かの兄弟が、教会に対して生じていた悪感情を鎮める助けを

するように召されました。預言者ジョセフ・スミスを通じて、主は彼らに、普通ではない、実に驚くべき方法で指示を与えられました。

「あなたがたの敵を言い伏せなさい。公にも、ひそかにも、あなたがたと会うように彼らに呼びかけなさい。……

それゆえ彼らに、主に反対するしっかりした論拠を示させなさい。

……あなたがたを攻めるために造られる武器は、まったく役に立たない。

また、もしだれかがあなたがたに反対して声を上げるならば、その者はわたしがふさわしいと思うときに打ち破られるであろう。

それゆえ、わたしの戒めを守りなさい。これらは真実であり、確かである。」¹⁴

聖文の中の教訓

聖文には、自らの経験から従順の教訓を学んだ預言者の例がたくさんあります。

ジョセフ・スミスは、支援者であり友であり、筆記者であったマーティン・ハリスの圧力に屈したことによって招いた結果を学びました。マーティンの懇願に応じて、



し、将来の試しと試練に忠実に耐えられるようにします。ゲツセマネでの従順によって、救い主はゴルゴタで従い、最後まで堪え忍ぶように備えられたのです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、アルマの言葉はわたしの心の思いを表しています。

「さて、わたしの愛する同胞よ、これらのことをあなたがたに語ってきたのは、神への義務感をあなたがたに自覚させ、あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように……するためである。

さて、わたしはあなたがたが謙遜であり、従順で素直であり、……いつも熱心に神の戒めを守るように……願っている。」²¹

わたしは特別な証を述べます。救い主は生きておられます。救い主が従順であられたので、「すべてのひざがかがみ、すべての舌が……贖い主が〔自分の救い主〕であられることを告白します。」²² 救い主を深く愛し、信仰をもって主を完全に信じていくことができますように。そしてまた、わたしたちも従順となり、主の戒めを守り、神の王国に戻って救い主といつまでも一緒に住むことができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. モーセ 4 : 2
2. 教義と聖約 20 : 22
3. ヘブル 5 : 8
4. 信仰簡条 1 : 3 参照
5. ヨハネ 14 : 15
6. ルカ 18 : 22
7. モーサヤ 5 : 8
8. マタイ 26 : 39。42, 44 節も参照
9. マタイ 3 : 17。3 ニーファイ 11 : 7 も参照
10. マタイ 25 : 21
11. 「正しかれ」『賛美歌』151 番参照
12. モーセ 5 : 13
13. 教義と聖約 59 : 6
14. 教義と聖約 71 : 7 - 11
15. ジョセフ・フィールディング・スミス、*Essentials in Church History* (1922年)、65。教義と聖約 3 章も参照
16. 民数 12 : 8
17. 教義と聖約 28 : 3
18. 教義と聖約 28 : 2
19. 教義と聖約 130 : 21。20 節も参照
20. アルマ 37 : 35
21. アルマ 7 : 22 - 23
22. モーサヤ 27 : 31

ジョセフは主に願い、モルモン書の最初の 116 枚の原稿をマーティンに貸し、彼が原稿を家族に見せる許可を求めました。しかし、主は断るようジョセフに告げられました。マーティンは再度主に何うようジョセフに頼み込みました。ジョセフが 3 度目に願い求めた後、主は特定の 5 人に限って原稿を見せることを許可されました。「非常に厳粛な誓いを立てて、マーティンはこのことに同意しました。彼は家に着き、自分に対して圧力がかけられると、自分が交わした厳粛な誓いを忘れて、他の人々が原稿を見ることを許してしまいました。その結果、策略によって彼の手から原稿が失われてしまいました。」¹⁵ 結果として、ジョセフは主から叱責され、モルモン書の翻訳を続けることは許されませんでした。ジョセフは苦しみ、圧力に屈するという背きを悔い改めました。しばらくして、ジョセフは翻訳の業を再開することを許されました。ジョセフは従順について価値ある教訓を学び、それが残りの生涯益をもたらしたのです。

預言者モーセの例も挙げられます。モーセが従順にエチオピア人を妻にめとったとき、ミリアムとアロンは彼を非難しました。しかし、主は二人を叱責して、「〔モーセ〕とは、わたしは口ずから語〔る〕」¹⁶ と言われました。主はこの驚くべき出来事を用いて、この神権時代に教会員を教えておられます。1830年にハイラム・ページは、教会のために啓示を受けたと主張しました。主は彼を正し、聖徒たちにこう教えておられます。「あなたは、わたしが〔ジョセフ〕に与えることにアロンのように従順で……なければならぬ。」¹⁷ 「彼はモーセのように戒めと啓示を受けるからである。」¹⁸

従順は祝福をもたらします。「すなわち、神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」¹⁹

従順は模範によって教えられます。わたしたちは自らの生き方によって子供に教えます。「若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。」²⁰

従順は、わたしたちを次第に強い者に



七十人
クラウディオ・D・シビック長老

誤った道に進むのは やめましょう

わたしたちが道を見失わずに、常に天とつながってられるように祈ります。

男の子がピアノの練習をしていると、窓からその様子を見たセールスマンが尋ねました。「お母さんはいるかい？」

男の子は答えて言いました。「いなきゃ練習してないよ。」

わたしの愛する5人の子供たちは、妻の意欲のおかげで、ピアノが弾けるようになりました。ピアノの先生が家に来ると、息子のアドリアンはよく逃げ隠れてレッスンをさぼろうとしたものです。でもある日、すばらしいことが起きました。息子は音楽が大好きになって、自分から練習をするようになったのです。

改心の過程においても、そのような境地にたどり着ければ最高です。絶えず誰かに念を押されなくても、戒めを守りたいという願いと、正しい道を歩めば聖文に約束されている祝福が得られるという確信が心の底にあったら、何とすばらしいことでしょう。

数年前、わたしは妻と娘のエベリン、そして友人家族と一緒にアーチーズ国立公園へ行きました。公園で最も有名なアーチの一つにデリケートアーチがあります。わたしたちはおよそ2キロの道を歩き、山を登ってそこへ行くことにしました。

最初は意気盛んに歩き始めたわたした

ちでしたが、少し歩いたところで妻たちが休憩しなければなりません。早く着きたかったわたしは、独りで先に行くことにしました。どの道を進むべきかに注意せず、わたしは、自信たっぷりの様子で前を歩く人の後ろについて行きました。道は次第に険しくなり、岩から岩へ飛び移らなければなりません。その大変さから、わたしのグループの女性陣には目的地にたどり着くのはとうてい無理だろうと確

信しました。すると突然、目の前にデリケートアーチが姿を現しました。しかし、驚いたことに、アーチはわたしがいる位置からは絶対行けない場所にあったのです。

大変がっかりしたわたしは、戻ることになりました。いらいらしながら、妻たちの帰りを待ちました。開口一番にわたしは、「デリケートアーチまで行けたのかい」と尋ねました。行けたと、彼女たちはうれしそうに答えました。そこまでの道を示す標識に従い、注意深く努力したおかげで目的地に到着できたのだと説明してくれました。

あいにく誤った道を進んだわたしは、その日、大切な教訓を学びました。

わたしたちは世の流行に惑わされて、正しい道を選び損なうことがないでしょうか。自分がイエス・キリストの御言葉を行う者であるかどうか、わたしたちは常に自問する必要があります。

ヨハネによる福音書にはこのようなすばらしい教えがあります。

「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながりよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができな





いように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:4-5)

この比喻から、イエス・キリストとわたしたちとのこれ以上ない密接な関係と、主がわたしたち一人一人をどれほど大切に思っておられるかがよく分かります。主はわたしたちに生ける水をお与えになる根であり、幹であります。その樹液はわたしたちが豊かに実を結べるように養いを与えてくれます。このように、イエス・キリストは、枝、つまり主に頼るべき存在であるわたしたちが、主の教えの大切さを決して過小評価してはならないと教えておられるのです。

過ちの中には深刻で、正すのが遅れば永久に正しい道に戻れなくなってしまう

ものもあります。もし悔い改めて正しい道に戻れば、そのような経験は、わたしたちがへりくだり、行いを変えて、再び天の御父に近づくうえで役立ちます。

この考え方の例として、預言者ジョセフ・スミスが経験した最も劇的な出来事の一つを挙げたいと思います。この経験を通して、救い主はわたしたちが生涯を通じて忘れてはならない原則について、非常に大切な教えを受けられました。それはマーティン・ハリスが、モルモン書の最初の部分を翻訳した116ページをなくしてしまったときのことです。

神の勧告に従わなかったことを悔い改めた後、預言者ジョセフは教義と聖約第3章にある啓示を受けました(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』69-71参照)。第1節から10節に記されている言葉から、常に覚えておくべき3つの原則を強調したいと思います。

1. 神の業と目的はくじかれることがない。

2. わたしたちは人を神よりも恐れてはならない。

3. 常に悔い改める必要がある。

第13節で、主は次の4つのことを決してすべきでないと教えておられます。

1. 神の勧告を無視する。
2. 神の前で交わした最も神聖な約束を破る。
3. 自分の分別に頼る。
4. 自分の知恵を自慢する。

わたしたちが道を見失わずに、常に天とつながってられるように、そして、世の流れに足をすくわれることがないように祈ります。

もし皆さんの中に、主の道を進む途中であきらめている人がいれば、そのような人はいつか、神の勧告を無視し、神の前で交わした最も神聖な約束を破り、自分の分別に頼り、自分の知恵を自慢したことについ

て、大きな後悔と苦しみを味わうことになるでしょう。

そのような人には、悔い改めて正しい道に戻るよう強く勧めます。

あるとき、孫が祖父に誕生日のお祝いと言うために電話をしました。孫は祖父に何歳になったのか尋ねました。70歳になったと祖父が答えると、孫は少し考えてから尋ねました。「おじいちゃんも1歳から始めたの?」

子供や青少年のとき、自分は絶対老人にはならないと思うものです。死を現実のものと捉えることもしません。死はすごく年取った人の問題であり、自分がその域に達するのはずっと後のことだと考えます。月日がたつにつれ、しわが目立ち始めたり、疲れやすくなったり、頻繁に医者に通ったりするようになります。

やがて贖い主であり救い主であられるイエス・キリストに再びまみえる日がやって来ます。その神聖で厳かな機会に、わたしたちが主についての知識を持っており、その教えに従ってきたために、その御方が主であると分かるよう心から願っています。主はその手と足のしるしをお見せになり、わたしたちはしっかりと抱き合い、主の道に従ってきたことにうれし涙を流すことでしょうか。

わたしはイエス・キリストが生きておられることを世の隅々にまで証します。主はこう強く勧めておられます。「聴きなさい、おお、地のもろもろの国民よ。あなたがたを造った神の言葉を聞きなさい。」(教義と聖約 43:23) わたしたちが「[わたしたち]を造った神」のメッセージに気づき、心に留め、理解し、正しく解釈することができ、主の道からそれることがありませんように。イエス・キリストの御名により願います、アーメン。■



七十人
W・クレグ・ズウィック長老

何を思っているのですか

相手の経験を優しく考慮しながら、次のように質問するようにしてください。「何を思っているのですか。」

41年前のある日、わたしは18輪トレーラーの運転席に乗り込みました。隣には美しい妻のジャンと幼い息子スコッティを乗せていました。わたしたちは幾つかの州を横断して大量の建築資材を運ぶことになっていました。

当時はシートベルトやチャイルドシートを義務付ける法律がなかったので、妻は大事な息子を腕に抱き抱えていました。「地面から随分高いわね」と妻が言ったとき、わたしは彼女の不安を察するべきでした。

幹線道路の勾配が急な、歴史に残るドナー峠を下っていると、予想外のことが突然起こりました。トレーラーの運転席に煙が充満したのです。前が見えなくなり、わたしたちは息が詰まりそうになりました。

これほど大きな車両だと、ブレーキだけでは急激に速度を落とせません。わたしはエンジンプレーキを使いギアを下げて、何とか止めようと思いました。

まさにわたしがトレーラーを路肩に寄せていた瞬間、しかしまだ完全に停車する前に、妻は助手席側のドアを開けて赤ん坊を抱いたまま飛び降りました。二人が地面の上で転がる姿を、わたしはなすすべなく見詰めていました。

わたしはトレーラーを止めるとすぐに、

煙でいっぱいの運転席を飛び出しました。取り乱しながら岩や雑草の間を駆け抜け、二人を抱き締めました。ジャンの前腕とひじが傷だらけで出血していましたが、幸いなことに、彼女も息子も無事でした。幹線道路の脇で砂ぼこりが静まっていく中、わたしはしばらくの間二人をきつく抱き締めていました。

心が落ち着いて、息ができるようになったとき、わたしは思わずこう口走ってしまいました。「一体何を考えているんだ。今したことがどんなに危険に分かっているのか。死んだかもしれないんだぞ!」

妻はすすで汚れた頬を涙でぬらしながら振り返り、わたしの心を刺し貫く一言を言いました。今でも鮮明に覚えています。「息子を救おうとしていただけよ。」

その瞬間、わたしは妻の思いを悟りました。エンジンが燃えていると思った彼女は、トレーラーが爆発して皆死んでしまうと恐れたのです。一方、わたしは煙が電気系統の故障によるもので、危険はあるものの命に関わるわけではないことが分かっていました。わたしは、愛する妻が幼い息子の頭を優しくなでている姿を見て、これほど度胸の要ることをするなんて何という女性だろうと思いました。

この事態は、文字どおりのエンジン故障



と同じように、わたしたちの気持ちに危機を招きかけました。互いに相手が悪いと思って、口を利かない期間がしばらく続いたものの、最後には、何が原因で感情的になってしまったのか説明し合いました。互いへの愛と相手の安否を気遣う心を二人とも持っていたおかげで、危険な出来事が大事な結婚生活を台なしにすることはありませんでした。

パウロは次のように警告しています。「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけません。……人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。」(エペソ4:29) パウロの言葉は心に清らかに響きます。

皆さんにとって、「悪い言葉」とは何を意味するでしょうか。わたしたちは皆、自分や他の人の激しい怒りの感情を味わうことがよくあります。人前で怒りを爆発させる人を見たこともあります。スポーツの試合や政治の場で、あるいは自分の家でも、一種の感情の「電気ショート」を経験したことがあります。

子供が刃物のように鋭い言葉で、愛する親を傷つけることがあります。人生の最も

豊かで愛に満ちた経験を共にしてきた夫婦が方向性を失い、互いに忍耐を持ってなくなり、声を荒らげることがあります。わたしたちは皆愛ある天の御父の聖約の子供ですが、誰も早とちりをして後悔したことがあります。相手の視点から状況を把握する前に、角の立つようなことを言うてしまうことがあります。破壊的な言葉がどのようにしてきわどい状況を致命的な状況に変えてしまうか、誰もが学ぶ機会があったことでしょう。

大管長会が最近出した手紙には、次のように明記されています。「イエス・キリストの福音は全ての人を愛し、親切と礼儀正しさをもって接するように教えています。互いの意見が違っても同様です。」(大管長会の手紙、2014年1月10日付) わたしたちが引き続き礼儀正しく対話できること、またそうすべきことを、何と巧みに思い出させる言葉でしょう。異なる視点から世界を見るときは常にそうすべきです。

箴言の作者は、次のように勧告しています。「柔らかない答は憤りをとどめ、激しい言葉は怒りをひきおこす。」(箴言15:1) 「柔らかない答」とは、熟考したうえで応答すること、すなわち謙虚な心で抑制の利いた

言葉を語ることです。だからといって、決して率直に話さないわけでも、教義上の真理を曲げるわけでもありません。端的な言葉でも、柔らかく語るすることができます。

モルモン書にも、夫婦の意見が食い違ったときに肯定的な言葉を語ったすばらしい例があります。サラリアとリーハイの息子たちは真鍮の版を手に入れるためにエルサレムに戻りましたが、なかなか帰って来ませんでした。サラリアは息子たちが危険な目に遭っていると思い込んでいました。怒りが込み上げてきた彼女は、それをぶつける相手が必要でした。

息子ニーファイの視点から、この話を聞いてください。「母は、わたしたちが荒れ野で死んでしまったと思ったからである。母はまた、父のことを幻を見る人だと言って父に不平を言い、『あなたがわたしたちを受け継ぎの地から連れ出したので、息子たちはいなくなってしまう、わたしたちも荒れ野で死んでしまいます』と言っていた。」(1ニーファイ5:2)

サラリアがどのような思いでいたか、考えてみましょう。衝突しがちな息子たちが、夫の命が脅かされていた地に戻ることを心配していました。まだ子供をもうけら

れる若さでいながら、心地よい我が家と友達を捨てて、辺境の荒野で天幕に住んでいました。不安の限界に追い込まれ、サライアは、理性的ではないにしても、まるで突進するトラックの高さから家族を守るために勇敢に飛び降りたかのようでした。もっともな不安を、怒りと疑いと非難の言葉を使って夫にぶつけたのです。これは全人類が驚くほど堪能な言語に思えます。

預言者リーハイは妻の怒りの原因となった不安に耳を傾けました。そして、思いやりという言語で抑制の利いた対応をしました。まず、妻の視点から物事を見た場合の真実を認めました。「そこで父は母に言った。『わたしは自分が幻を見る者であることを知っている。もしわたしが……エルサレムにとどまって〔いたら〕、同胞とともに滅びてしまったであろう。』」(1ニーフай5:4)

次に、これは聖霊が夫リーハイに明かされたに違いありませんが、息子たちの福利に関する彼女の不安について語りました。

「『しかし見よ、わたしは約束の地を頂いており、そのことについて喜ばしく思う。またわたしは、主が息子たちをラバンの手から救い出し〔て〕くださることを知っている。』」

父リーハイはこのような言葉で、わたしたちのことについて母サライアを慰めたのであった。(1ニーフай5:5-6)



今日、男性と女性が互いへの敬意を育むことが大いに必要とされています。信じることや行動が非常に異なっても、動機がまったく違っていても、それらを超えて敬意を表すのです。自分の思いと心に告げられることを全て知ること、それぞれが直面する試練や選択の裏にある事情を完全に理解することも不可能です。

しかしながら、相手の経験に対する共感が、わたしたちの姿勢にまず見て取れるなら、パウロが語った「悪い言葉」はどうなるでしょうか。わたしは自分の不完全さや未熟さの限界を重々承知しながら、皆さんにお願いします。相手の経験を優しく考慮しながら、次のように質問するようにしてください。「何を思っているのですか。」

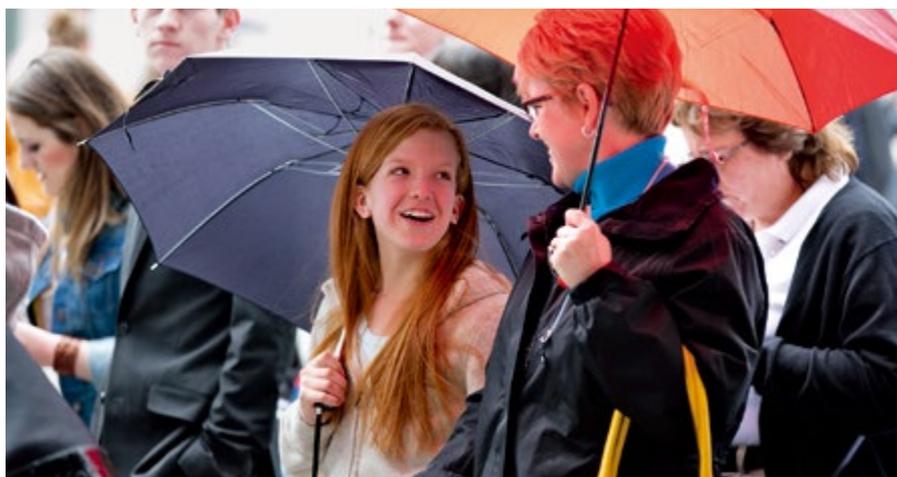
主が、幼い羊飼いの少年であったベツレヘムのダビデをイスラエルの王に選び、サムエルとサウルを驚かせられたことを覚えていらっしゃいますか。主の預言者はこのようにに言

われました。「わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル上16:7)

トレーラーの運転席に煙が充満したとき、妻は息子を守るために、思いつく中で最も勇気ある行動を取りました。わたしが妻の選択を聞いたことも、家族を守るためでした。驚いたことに、誰の方がより正しいかは重要ではありませんでした。重要なのは、互いの言葉に耳を傾け、相手の見方を理解することでした。

早く相手の視点で見ようとする気持ちは、「悪い言葉」を「益になる」ように変えてくれます。使徒パウロはこのことを理解していました。わたしたち一人一人もある程度経験することができます。これは問題を変えたり、解決したりしないかもしれませんが、より重要なのは、益になることで自分たちが変われるかどうかということなのです。

培われた聖霊の賜物が、相手の気持ちや状況に共感する思いでわたしたちの心の奥まで照らすときに、思いやりのある言葉を使うことで、わたしたちが「益になる」ことができるかとへりくだって証します。それにより、わたしたちは危害を及ぼしそうな状況を聖なる場所に変えられるのです。愛にあふれる救い主が、「〔わたしたちの〕心を見」ておられ、わたしたちが何を思っているのかを心にかけておられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■





十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

根と枝

今日、家族歴史と神殿の業を速めることが家族の救いと昇栄にとって不可欠です。

何かと話題の多い作家ウィリアム・サロイアンは、1981年に癌で亡くなる直前、新聞記者にこう言いました。「だれでも死ななければならない。でも、自分は例外だといつも信じていた。これからどうなるのだろうか。」¹

現世で死に直面し、死後の世について考えるときに、「これからどうなるのだろうか」という問いは最も重要なものです。その問いに対して、イエス・キリストの回復された福音が、天の御父の幸福の計画の中で実に見事に答えています。

現世で人は笑い、泣き、働き、遊び、生きて、死にます。ヨブは次のような簡潔な問いを投げかけています。「人がもし死ねば、また生きるでしょうか。」² 答えは断固として「はい」です。救い主の贖いの犠牲があるからです。この問いの前にヨブは興味深い前置きを幾つか述べています。「女から生れる人は日が短く……花のように咲き出て枯れ〔る。〕……木には望みがある。たとえ切られてもまた芽をだし、その若枝は絶えることがない。……若木のように枝を出す。」³

天の御父の計画は家族に関わる計画です。非常に感動的な聖句には、比喩として根や枝のある木という概念が使われています。

旧約聖書の最終章であるマラキ書では、この比喩によって救い主の再臨が鮮明に語られています。高慢な者と悪人はわら

のように焼き尽くされ、「根も枝も残〔ら〕ない」と書かれています。⁴ しかしマラキはこの章の終わりに、次のような主の心強い約束について述べています。

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」⁵

回復の幕開けに際して、モロナイは1823年、若きジョセフ・スミスへ授けた最初の教えの中で、このメッセージを再び強



調しました。⁶

世界中のキリスト教徒とユダヤ人は旧約聖書に書かれたエリヤの話が真実だと考えています。⁷ エリヤはイエス・キリストの時代の前にメルキゼデク神権の結び固めの鍵を持っていた最後の預言者でした。⁸

エリヤ、鍵を回復する

エリヤは再び地上に現れました。1836年4月3日にカートランド神殿を訪れ、マラキの約束を成就すると宣言し、現代の神権時代に家族を結び固める神権の鍵をジョセフに授けたのです。⁹ エリヤの使命は、時としてエリヤの霊と呼ばれるものの導きにより果たされています。エリヤの霊は、ラッセル・M・ネルソン長老が教えているとおり、「家族が神聖な特性を持つことを証する聖霊の現れ」なのです。¹⁰

救い主はバプテスマの必要性について強調し、こう教えられました。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」¹¹ 主は御自身で模範を示されました。では、バプテスマを受けていない死者はどうなるのでしょうか。

神殿と家族歴史の業に関する教義

1840年10月11日、ノーブーでビレート・キンボールが夫のヒーバー・C・キンボールへ宛てて手紙を書きました。夫は他の十二使徒とともにイギリスで伝道していました。数日前に10月の総大会が開かれたばかりでした。

ビレート個人の手紙を引用します。「教会が組織されてから一番大きな興味深い大会でした。……〔ジョセフ〕・スミス大管長の話は今までにないすばらしいものでした。……それは死者のためのバプテスマについての話です。コリント人への第一の手紙15章29節でパウロが語っていることです。ジョセフは啓示によって、それについてさらに詳しく説明してくれました。この福音が世に出る前に亡くなったすべての先祖のためにバプテスマを受けることは、この教会の〔会員〕の特権である

と言うのです。……そのようにしてわたしたちは先祖の身代わりとなり、第一の復活のときに出て来る特権を先祖に与えるのです。死者は獄の中で福音を聞くことになると言うのです。」

ビレートはさらにこう書いています。「わたしは母のためにバプテスマを受けたのです。……これは何とすばらしい教義ではありませんか。」¹²

家族を結びつけるというこの重要な教義は、ここにも少し、そこにも少しと明らかにされました。身代わりの儀式は永遠の家族を結びつけ、根を枝に結びつける業の中心です。

家族歴史と神殿の業に関わる家族の教義は明確です。啓示を通して言われた最初の教えの中で主は、「あなたがたの死者のためのバプテスマ」と言われました。¹³ わたしたちは自分自身の先祖に対して教義上の義務を負っているのです。なぜなら、天上の日の栄えの組織は家族に基づいているからです。¹⁴ 大管長会は教会員、特に青少年やヤングシングルアダルトに、自分自身の先祖の名前や、自分のワードやステークの会員の先祖の名前を探して、家族歴史と神殿の儀式の業に努めるよう励ましています。¹⁵ わたしたちは自分の根と枝の両方に結ばれる必要があります。永遠の世界において結ばれるというのは、実にすばらしい考えです。

神殿

預言者ジョセフ・スミスは神殿の業の礎を築くのに十分な時間を生き長らえたと、ウィルフォード・ウッドラフは述べました。ジョセフ・スミスが十二使徒定員会に最後に会ったときには、十二使徒は預言者よりエンダウメントを授かっていました。¹⁶

預言者が殉教した後、聖徒たちはノーブー神殿を完成させました。そして、ロッキー山脈を目指して出発する前に、何千人もの忠実な教会員が結び固めの力によって祝福されました。30年後、セントジョージ神殿が完成したとき、ブリガム・ヤング



大管長は、永遠に重要な意義を持つ救いの儀式が、ついに生者と死者の両方に行えるようになったと説明しました。¹⁷

これについてウィルフォード・ウッドラフ大管長は分かりやすく述べています。「主が明らかにしてくださった原則の中で、死者の贖いほどわたしに大きな喜びを与えてくれた原則は他にありません。第一の復活の朝、そして日の栄えの王国におい

て、わたしたちは父親、母親、妻、子供たちと家族としてともに過ごすのです。これはきわめて重要な原則です。あらゆる犠牲を払う価値のあるものです。」¹⁸

現代は何とすばらしい時代でしょう。最後の神権時代であり、救いの儀式に関わるあらゆる分野で救いの業が速められていることが感じられます。¹⁹ これらの救いの儀式を行うために、現在世界各地に神



殿が設けられています。霊的な再生、平安、安全、人生の指針などを求めて神殿に参入することも大きな祝福です。²⁰

トーマス・S・モンソン大管長は使徒に召されてから1年足らずのころ、ロサンゼルス神殿系図図書館を奉獻し、亡くなった先祖についてこう語りました。「先祖は皆さんやわたしが先祖を探究する日を待っています。先祖を探すことは先祖のために道を開くうえで必要です。〔また〕神の家へ入り、亡くなった先祖が自分では行えない業を行ってください。」²¹

当時モンソン長老であった大管長が1964年6月20日に奉獻の言葉を述べたころには、稼働している神殿は12か所しかありませんでした。モンソン大管長が大管長会で奉仕してきた期間中に、現在稼働している142の神殿のうち、130か所が奉獻されました。今日わたしたちは、救いの業が速められている状況を目にしていますが、これは奇跡にほかなりません。新たに28の神殿の建設が発表され、完成を目指して各段階に入っています。今や教会員の85パーセントが神殿から320キロ圏内に住んでいます。

家族歴史に関するテクノロジー

家族歴史に関するテクノロジーも目を見張る進歩を遂げています。ハワード・W・ハンター大管長は1994年11月にこう宣言しました。「死者のために儀式を行う神聖な業を速めるために、情報技術の使用を開始しました。科学技術の役割は……主御自身によって速められています。……し

かし、こうした道具を使って行えることはたくさんあり、わたしたちはまだその入り口に立っているにすぎません。」²²

この預言者の言葉から19年たった現在、テクノロジーは信じがたいほど進歩しています。先日、幼い子供を持つ36歳のある母親が感嘆の声を上げて、わたしにこう言いました。「信じられません。以前は特定の家族歴史センターへ行ってマイクロフィルムを読んでいたのに、今は自分の家で子供たちを寝かしつけた後、台所のテーブルで、コンピューターに向かって家族歴史ができるんです。」兄弟姉妹の皆さん、今や家族歴史センターが自分の家にあるのです。

神殿と家族歴史の業は、わたしたちのためだけではありません。幕の向こう側で霊の獄の束縛から解放してくれる救いの儀式を待っている人たちのことを考えてください。獄とは「閉じ込められた、または捕らわれた状態」という意味です。²³ 捕らわれている人たちは、ウィリアム・サロイアンと同様、「これからどうなるのだろうか」という問いを発していることでしょう。

ある忠実な姉妹がソルトレーク神殿での特別で霊的な経験を語ってくれました。確認の部屋で、身代わりの確認の儀式が行われた後、姉妹はこのような言葉を見ました。「獄にいる者は解放される。」彼女はバプテスマと確認の儀式を待っている人たちのために急がなければならないと強く感じました。家へ帰ると聖典を開き、先ほど聞いた聖句を探しました。教義と聖約128章にジョセフ・スミスの宣言を見

つけました。「心を喜び楽しませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。死者は、王なるインマヌエルに向かって永遠の賛美の歌を語り出しなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。」²⁴

では、わたしたちは何をする必要がありますでしょうか。預言者ジョセフの勧告は、「わたしたちの死者の記録を載せた、そのまま受け入れるに値する書を」神殿に携えて行くことです。²⁵

教会の指導者たちは若者たちに向かって、高らかに響き渡る声を上げています。テクノロジーを使う道を先導して、エリヤの霊を実感し、先祖を探し、先祖のために神殿の儀式を行うようにと呼び掛ける声です。²⁶ 生者と死者の両方を救う業を速めるうえで困難な仕事の多くが、若い世代の皆さんによって行われるのです。²⁷

各ワードの青少年が神殿へ行って死者のためのバプテスマを行うだけでなく、自分たちが行う儀式のために先祖の名前を提出するよう家族やワードの会員たちと一緒に働くなら、青少年自身も教会も大いに祝福されるでしょう。皆さんの取り組みを手助けする死者の影響力、そして皆さんが仕える人々に来世で会う喜びを過小評価しないでください。自分の家族と結ばれるという永遠に意義深い祝福は、わたしたちの理解をはるかに超えるものです。²⁸

世界中の教会員の中で、51パーセントの成人が、教会のインターネットサイトであるファミリーサーチの中のファミリーツリーに両親の名前を入れていません。4人の祖父母全員の名前を入れていない成人の割合は65パーセントに上ります。²⁹ 忘れないでください。わたしたちは自分の根と枝なしには救われられません。教会員はこの非常に重要な情報を入手して、ファミリーツリーに入力する必要があります。

わたしたちはついに、家族がこの栄えある救いの業を達成するための教義、神殿、

そしてテクノロジーを手に入れました。これを行う一つの方法を提案します。家族で「ファミリーツリーの集い」を開いてください。これは1回だけでなく、繰り返し行われるべきものです。今ある家族歴史の記録、先祖にまつわる話や写真、祖父母や両親が大事にしていた物などを各自が持ち寄ります。若い人たちは先祖の生活について、出身地や生活様式などを学ぶことを楽しみにしています。多くの人が先祖に心を向けています。青少年は、先祖にまつわる話を聞いたり、写真を見たりするのが大好きです。また、こうした話や写真をスキャンして、ファミリーツリーにアップロードし、先祖の記録を永久に保存するために、情報源となる資料を先祖に結びつける技術を持っています。もちろん、主な目的はどのような儀式をこれから行う必要があ

るかを見定め、神殿で重要な儀式を行う割り当てをすることです。小冊子『わたしの家族』を活用して、家族の情報、先祖にまつわる話や写真を記録し、それらをファミリーツリーにアップロードすることができます。

わたしたちの神聖な行く末を守るために、家族に対する責務や期待を最優先してください。家族全員にとって安息日をより豊かに過ごす方法を探している人々にとって、家族歴史の業を速めることは豊かな実りをもたらします。ある母親が誇らしげに語ってくれました。17歳の息子が日曜日に教会から帰ると、コンピューターに向かって家族歴史の作業を行い、10歳の息子は先祖の話聞き、写真を見るのが大好きだと言うのです。このように家族全員がエリヤの霊を感じる祝福にあずかっています。

わたしたちの大切な根と枝を養わなくてはなりません。

イエス・キリストは身代わりの贖いを行うために御自身の命をささげられました。ヨブが発した根源的な問いにお答えになったのです。主は全ての人類のために死を克服されました。それはわたしたちが自分ではできないことです。けれども、わたしたちは身代わりの儀式を行い、自分自身の先祖のために真に「シオンの山」³⁰に立つ、救う者になることができます。それはわたしたちが先祖とともに救われ、そして昇栄にあずかるためです。

救い主の贖いの犠牲について、また、わたしたちと家族のための天の御父の計画が確かなものであることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



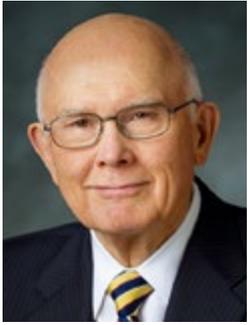


注

1. ウィリアム・サロイアン, ヘンリー・アレン, "Raging against Aging," *Wall Street Journal*, 2011年12月31日 - 2012年1月1日付, C9で引用
2. ヨブ 14:14
3. ヨブ 14:1, 2, 7, 9
4. マラキ 4:1 参照。最近, ますます多くの人が, 生活水準を高めるために子供を持たないことを選ぶ傾向があると報告する記事が幾つか出ている(アビー・エリン, "The Childless Plan for Their Fading Days," *New York Times*, 2014年2月15日付, B4参照)。多くの国ではこうした個人の選択の結果として, 人口が減少している。この傾向は「人工統計的な冬」と呼ばれることがある(The New Economic Reality: Demographic Winter [ドキュメンタリー] 参照)。
5. マラキ 4:5 - 6
6. *History of the Church*, 1:12; 教義と聖約 2章参照
7. ユダヤ人は2,400年間, エリヤが戻って来るのを待っている。今日でも年に1度のセデル(逾越の祭りの祝宴)ではエリヤのために席を設け, メシヤの到来を告げるためにエリヤが戸口に現れるのを待つ。
8. 『聖句ガイド』「エリヤ」の項を参照
9. 教義と聖約 110:14 - 16 参照。教義と聖約 2章も参照
10. ラッセル・M・ネルソン「新たな収穫の時」『聖徒の道』1998年7月号, 38 参照
11. ヨハネ 3:5
12. ビラート・M・キンボールからヒーバー・C・キンボールへ宛てた手紙, 1840年10月11日付。ビラート・M・キンボールの書簡, 教会歴史図書館所蔵。英文のつづりと大文字表記は標準化
13. 教義と聖約 127:5; 強調付加

14. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・フィールディング・スミス』, 68 参照
15. 大管長会からの手紙, 2012年10月8日付参照
16. *The Discourses of Wilford Woodruff*, G. Homer Durham により抜粋 (1946年), 147 参照
17. ブリガム・ヤングはこう述べた。「わたしが望むことはただ, この民が神の王国を築くために自分の財産と関心を注ぎ, 神殿を建て, その中で生者と死者のために儀式を執り行い, ……その結果, 神の息子娘になる姿を見ることだ。」(*Deseret News*, 1876年9月6日付, 498) 死者のためのバプテスマは1877年1月9日に始まり, 死者のためのエンタウメントは2日後に執り行われた。これらの儀式については, ルーシー・B・ヤングは喜びを表して次のように語った。「亡くなった自分の親類が手を広げて待っていてくれると思うと胸がいっぱいになります。全ての人と同じ経験をしましょう。自分では儀式を受けられない人々が待っているのです。」(リチャード・ベネット, "Which Is the Wisest Course?" *The Transformation in Mormon Temple Conscientiousness, 1870-1898*, *BYU Studies Quarterly*, 全 52 巻, 第 2 巻 [2013年], 22で引用)
18. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』, 193 参照
19. 生者に伝道を行った最も偉大な宣教師の一人に数えられるウィルフォード・ウッドラフ大管長は, 死者の身代わりの業についてこう語った。「わたしはこれがこの民の務めの中で, 生者に教えるを説くこととまったく同じくらい重要な使命であると考えています。死者は霊界で神の僕たちの声を聞くことでしょ。身代わりをしてくれる人によって特定の儀式が執り行われず限り, [第一の] 復活の朝に出て来ることができません。」またこう続けている。「生者の救いと同様に, 死者の救いが必要な

- のです。」(『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』, 188 参照)
20. ハンター大管長は教会員に頻繁に神殿へ行くように勧めた。「神殿での礼拝に伴う祝福を自分自身が受けるために, また奉獻された壁の内側で授けられる聖めと安らぎを受けるために参入しましょう。……神殿は……聖きを主にささげる場所です。同時に, わたし自身自身にとっても聖なる場所にしてください。」(ハワード・W・ハンター「教会員の大きいな象徴」『聖徒の道』1994年11月号, 6 参照)
 21. トーマス・S・モンソン大管長の霊感あふれるメッセージ, *Church News*, 2013年12月29日付, 2
 22. ハワード・W・ハンター, "We Have a Work to Do," *Ensign*, 1995年3月, 65
 23. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 11版 (2003年), "prison"
 24. 教義と聖約 128:22. 教義と聖約 138:42も参照。「[主]は, わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を, 世界が存在する前に定められました。」(index to the triple Combination, "Prison")
 25. 教義と聖約 128:24
 26. 大管長会からの手紙, 2012年10月8日付参照; デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号, 24 - 27も参照。または R・スコット・ロイド, 「一族を見つける」。使徒であるニール・L・アンダーセン長老は, ルーツテックの大会で末日聖徒の青少年に勧告した。*Church News* 2014年2月16日付, 8 - 9も参照。
 27. 最近のある研究によると, 若い世代に対して重視されるのは, 「他の人に与え, 一層大きな目的のために進む」ような有意義な人生を送ることである(エミリー・エスファハニ・スミス, ジェニファー・L・アーカー共著, "Millennial Searchers," *New York Times Sunday Review*, 2013年12月1日付, 6)。
 28. ハワード・W・ハンター「神殿に心を向ける民」『聖徒の道』1995年5月号, 2 - 7 参照
 29. 家族歴史部からの統計
 30. オバデヤ 1:21 参照



十二使徒定員会
ダリン・H・オックス長老

神権の鍵と権能

神権の鍵は男性同様、女性にも指示を与え、また神権の儀式と神権の権能は男性同様、女性にも関わりがあります。

I.

今 回の大会で何人かの忠実な兄弟が解任され、また何人かの召しの支持が行われました。この交代において——教会では非常によく知られていますが——わたしたちは解任されるときに「降格」するのではなく、召されるときに「昇進」するわけではありません。主の奉仕の業において「上、下」はないのです。「前に出るか、後ろに下がるか」だけなのです。その違いは、解任と召しをどのように受け入れ、どのようにそれに従って行動するかです。わたしはかつて、9年間立派な奉仕をしてきた、ある若いステーク会長の解任を担当しました。彼は、自分の解任と、妻とともに受けたばかりの新しい召しを喜んでいました。二人はワードで託児指導者になる召しを受けたのです。それを等しく誉れあることと見るのは、この教会だけでしょう。

II.

中央扶助協会のリンダ・K・バートン会長は、女性の大会で話したときに、次のように述べました。「わたしたちは、神権についてもっとよく理解したいという、さらに大きな望みを一人一人に注ぎ込みたいと願っています。」¹ それはわたしたち全員に

とって必要なことです。そこで、それができるように、神権の鍵と権能についてお話します。これらの主題は男性にも女性にも等しく重要なものですので、この部会の模様が全ての教会員のために放送され、公開されることをうれしく思います。神権の力はわたしたち全員に祝福をもたらします。神権の鍵は男性同様、女性にも指示を与え、また神権の儀式と神権の権能は男性同様、女性にも関わりがあります。



III.

ジョセフ・F・スミス大管長はこう述べています。「神権は……人に委任された神の力であり、この力によって、人は……人類家族の救いのために地上で正当に行動することができるのです。」² 別の指導者はこう教えています。神権は「この地球上の最も大なる力です。この力によって地球が創造され……ました。」³ 聖文はこう教えています。「初めにあったこの神権は、世の終わりにもあるであろう。」(モーセ6:7) このように、神権は、わたしたちに復活をもたらし、永遠の命に向けて進めるようにする力です。

わたしたちが求める理解は、神権の鍵についての理解から始まります。「神権の鍵とは、地上における神権の行使について指示を与え、支配し、統治するために神が神権〔者〕に与えられた権能で〔す〕。」⁴ 教会で執り行われる全ての行為や儀式は、その職務に関する鍵を持っている人の直接的あるいは間接的な承認の下で行われます。M・ラッセル・バラード長老が説明しているように、「神権の鍵を持つ人は、……文字どおり、その指示の下に忠実に働き奉仕する全ての人が、神権の権能を行使し、神権の力を使うことができるようにするのです。」⁵

神権の権能の行使をコントロールすることによって、神権の鍵の働きは拡大もしますし、制限を与えます。神の全ての子供たちが神権の権能と祝福を得られるようにすることによって、それは拡大します。神権の権能を誰に与えるか、その職を誰が持つか、その権利と力をどのように授けるかを指示することによって、それは制限を与えます。例えば、神権を持っている人は、鍵を持っている人から承認を与えられない限り、他の人に職や権能を授けることができません。その承認がなければ、聖任は無効となります。このことから、なぜ神権者は——職に関わりなく——適切な鍵を持っている人からの承認がなければ、自分の家族を聖任したり、自宅で聖餐



の儀式を執り行ったりできないのかが分かります。

神殿会長が持っている鍵の下で姉妹たちが神殿で行う神聖な業を例外として、後でこれについて述べますが、神権の儀式を執り行えるのは神権の職を持っている人のみです。また、承認された神権の儀式は全て、教会の記録に残されます。

究極的には、神権の全ての鍵は主イエス・キリストが保有しておられ、それはイエス・キリストの神権なのです。死すべき人間にどの鍵を委任するか、またそれらの鍵がどのように使われるかを定める御方は、イエス・キリストです。わたしたちは一般

に、神権の全ての鍵がカートランド神殿でジョセフ・スミスに授けられたと考えていますが、聖文では、そこで授けられたのは「この神権時代の鍵」だけであると述べられています（教義と聖約 110：16）。何年も前の総大会で、スペンサー・W・キンボール大管長は、地上の人に与えられなかった神権の鍵が他にあることをわたしたちに気づかせてくれています。創造の鍵と復活の鍵がそれに含まれます。⁶

神権の鍵の行使に対して神が制限を設けておられることから、教会の管理運営事項に関する決定と神権に影響を及ぼす決定との間に、本質的な相違があることが分

かります。教会を管理している大管長会ならびに大管長会・十二使徒定員会評議会は、教会の建物の場所や伝道奉仕の年齢など、教会の方針と手続きに影響を及ぼす多くのことを決定する権限を与えられています。しかし、たとえこれらの管理役員がこの神権時代に人に委任された鍵の全てを持っていて行使しているとしても、男性だけが神権における職を持つという神の定められた規範を自由に変更することはできないのです。

IV.

次に、神権の権能という主題でお話しします。今話したばかりの3つの原則から始めます。(1) 神権は人類家族の救いのために行動するよう人に委任された神の力です。(2) 神権の権能は神権の鍵を持っている神権者によって管理されます。そして、(3) 聖文に述べられているように「教会における他のすべての権能〔と〕職は、この〔メルキゼデク〕神権に付属するもの」（教義と聖約 107：5）であって、それらの神権の鍵の指示の下で行われる全てのことは、神権の権能で行われます。

これは女性にどのように当てはまるのでしょうか。扶助協会に向けた話の中で、当時十二使徒定員会会長であったジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、次のように述べています。「姉妹たちには神権が与えられておらず、神権が姉妹たちに授けられていないとはいえ、主が姉妹たちに権能を与えておられないという意味ではありません。……わたしたちの救いに関連があつて絶対に必要な特定の事柄を教会内で行うために、男性あるいは、姉妹に与えられている権能があります。姉妹たちが主の宮で行う業などがそれです。彼女たちには幾つかの大いなるすばらしい事柄を行う権能が与えられています。それは主にとって神聖であり、神権を持っている男性によって与えられる祝福と同様に完全に拘束力を持っています。」⁷

その重要な話の中で、スミス大管長は、

女性に権能を与えられていると繰り返し語っています。女性たちにこう言っています。「皆さんは権能をもって語ることができます。主が皆さんに権能を与えられたからです。」またこうも言っています。扶助協会には「たくさんの事柄を行う力と権能を与えられています。姉妹たちが行う業は神の権能によって行われます。」もちろん、神殿でも、あるいはワードや支部でも、女性や男性によって行われる教会の業は、神権の鍵を持っている人々の指示の下に行われます。扶助協会について語りながら、ミス大管長は次のように説明しています。こうして「〔主は〕この偉大な組織をお与えになりました。それにより、ワードのビショップの指示の下で奉仕する力を受け、……人々の霊的および物質的必要に心を配るためです。」⁸

このようにして、扶助協会は女性のためのクラスであるだけでなく、姉妹たちが所属するものであり、それは神権に付属するものとして神によって設けられたものであると真に言われています。⁹

わたしたちは普通、教会の召しにおいて女性は神権の権能を持っているとは言いません。では、それは何の権能と言えるでしょうか。女性は——若くても年を取っていても——専任宣教師として福音を宣べ伝えるように任命されるとき、神権の働きをなす神権の権能を与えられるのです。女性が神権の鍵を持っている人の指示の下で教会の組織の中で役員や教師として務めを果たすように任命されるときも同様です。神権の鍵を持っている人から受ける職や召しにおいて働く人はだれでも、割り当てられた義務を果たす際に神権の権能を行使するのです。

神権の権能を行使する人はだれでも、自分の権利のことは忘れて、自分の責任に集中しなければなりません。それが一般に社会で必要とされる原則です。著名なロシア人の作家、アレクサンドル・ソルジェニーツインの言葉を引用します。「人間の権利よりも人間の義務を守る時であ



る。」¹⁰ 昇栄を得るのにふさわしいとは、権利を主張することではなく、責任を果たすことにあるということを、末日聖徒は確かに理解しています。

V.

主は、神権における職に聖任されるのは男性だけであるとの指示を与えられました。しかし、何人もの教会指導者が強調してきたように、男性が「神権」なのではありません。¹¹ 男性は、神の全ての子供たちを祝福するために神権を使うという



神聖な義務とともに、神権を受けているのです。

神が御自分の息子たちに与えられた最も偉大な力は、神の娘の一人を伴侶としなければ行使することができません。なぜなら、「神の御心と偉大な計画が実を結ぶように、肉体の創造者となる」力を神から与えられたのは、神の娘だけだからです。¹² これはJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長の言葉です。

クラーク管長はこう続けています。「これが永遠の計画における妻の、また母親の役割です。彼女たちは神権者ではありません。神権の義務と職務を果たす責任があるわけではありませんし、その責任を負わされることもありません。彼女たちは神権の力の下で築き上げる人であり、組織する人です。また、その祝福にあずかる人です。神権の力の支援を受け、また神から召されるときに、神権自体と同様にその務めにおいて永遠に重要な職務を受けるのです。」¹³

その靈感に満ちた言葉の中で、クラーク管長は、家族について語っていました。家族の宣言の中で述べられているように、父親は家族の中で管理し、父親と母親は別々の責任を負いますが、二人は「対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」¹⁴ 家族の宣言が発表される何年も前に、スペンサー・W・キンボール大管長は、次のような靈感に満ちた説明をしました。「結婚生活は協力関係によって支えられると言いましたが、完全な



協力であると付け加えます。わたしたちは、末日聖徒の女性にこの永遠の業にあって、沈黙の協力者、部分的な協力者にはなしてほしいのです。どうぞ、献身的に、そして全面的に協力してください。』¹⁵

神の目から見て、教会でも、あるいは家族の中でも、女性と男性は異なった責任を持った対等の存在です。

最後に、神権の祝福に関する幾つかの真理をお話しします。神権の鍵や神権の聖任とは異なり、神権の祝福は、女性と男性が同じ条件で受けることができます。聖霊の賜物と神殿の祝福は、この真理のよく知られている実例です。

M・ラッセル・バラード長老は、昨年夏のブリガム・ヤング大学教育週間で洞察に満ちた話をし、次のように教えています。

「教会の教義は、女性を男性と同等に置いています。女性は男性と異なっていることを示しています。神はどちらかの性かもう一方の性より優れているとか、より大切であるとは見なしておられません。……

男性と女性が神殿に参入するとき、彼らはともに同じ力を授けられます。それは神権の力です。……用意されている神権の

力と祝福を神の全ての子供たちが受けることができるのです。』¹⁶

わたしは神権の力と祝福について証します。神の息子と娘は等しくそれを受けることができます。神権の権能について証します。それは末日聖徒イエス・キリスト教会の職と活動の全てにわたって働きます。わたしは証します。神権の鍵の働きは神によって指示されており、預言者、トーマス・S・モンソン大管長がその全てを行使しています。最後に、最も重要なことですが、わたしは主なる救い主、イエス・キリストについて証します。これはイエス・キリストの神権であり、わたしたちはイエス・キリストの僕です。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. リンダ・K・バートン, "Priesthood: 'A Sacred Trust to Be Used for the Benefit of Men, Women, and Children'" (ブリガム・ヤング大学女性の大会での話, 2013年5月3日), 1; ce.byu.edu/cw/womensconference/transcripts.php
2. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine*, 第5版 (1939年), 139
3. ボイド・K・バック「家庭における神権の力」(世界指導者訓練集会, 2012年2月):

lds.org/broadcasts。ジェームズ・E・ファウスト「神権の力」『聖徒の道』1997年7月号, 48-52も参照

4. 「手引き 第2部—教会の管理運営」(2010年), 2.1.1
5. M・ラッセル・バラード「主の業における男性と女性」『リアホナ』2014年4月号48。『わたしの王国の娘—扶助協会の歴史と業』(2011年), 138も参照
6. スペンサー・W・キンボール「わたしたちの大きな可能性」『聖徒の道』1977年10月号, 480参照
7. ジョセフ・フィールディング・スミス, "Relief Society — an Aid to the Priesthood," *Relief Society Magazine*, 1959年1月号, 4
8. ジョセフ・フィールディング・スミス, "Relief Society — an Aid to the Priesthood," 4, 5。『歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールディング・スミス』277も参照
9. ボイド・K・バック「扶助協会」『聖徒の道』1998年7月号, 78参照。『わたしの王国の娘』138も参照
10. アレクサンドル・ソルジェニーツィン, "A World Split Apart" (ハーバード大学の卒業式における話, 1978年6月8日)。パトリア・T・ホランド「女性の神権に対する正しい眼」『聖徒の道』1982年6月号, 26。Tambuli 1982年6月, 23。ダリン・H・オークス, "Rights and Responsibilities", *Mercer Law Review*, 第36巻, 第2号 (1985年冬季), 427-442も参照
11. ジェームズ・E・ファウスト「天から遣わされている者」『リアホナ』2002年11月号, 113。M・ラッセル・バラード「これがわたしの業であり、わたしの栄光である」『リアホナ』2013年5月号, 19。ダリン・H・オークス「家庭と教会における神権の権能」『リアホナ』2005年11月号, 26参照。扶助協会は「神権のパートナー」であると、わたしたちは時々言います。もっと正確に言えば、主の業において扶助協会と教会の女性たちは「神権を持つ者のパートナー」です。
12. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "Our Wives and Our Mothers in the Eternal Plan," *Relief Society Magazine*, 1946年12月号, 800
13. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "Our Wives and Our Mothers," 801
14. 「家族—世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129
15. スペンサー・W・キンボール「女性の特権と責任」『聖徒の道』1979年2月号, 152-153参照
16. M・ラッセル・バラード『リアホナ』2014年4月号, 48。シェリー・L・デュー, *Women and the Priesthood* (2013年), ここで述べられている教義の有益な詳細に関しては特に第6章を参照



七十人会長会
ドナルド・L・ホールストロム長老

どのような人物で あるべきか

わたしたちはなるべき人物になるために何を変える必要があるのでしょうか。

わたしたちは世界的規模のこの集會を思い浮かべるとき、この集まりに匹敵するものはどこにもないことに気づきます。総大会の神権部会の目的は、わたしたちがどのような人物であるべきかを神権者に教えること(3ニーファイ27:27参照)、そしてその理想に到達するよう鼓舞することです。

わたしが半世紀前にハワイでアロン神権者だったとき、またイギリスで宣教師だったとき、わたしたちは集會所に集まり、電話回線を通じて届く神権部会の話(懸命に努力して)聴いたものです。その後、指定を受けた教会の建物に巨大な受信アンテナが備えられて衛星放送が行

われるようになり、わたしたちは集會の様見聞きできるようになりました。わたしたちはその技術に驚嘆したものです。スマートフォンやタブレット、コンピューターでインターネットにアクセスする人が誰でもこの集會のメッセージを受け取ることができる、今日の世界を想像できた人はほとんどいなかったでしょう。

しかし、主御自身の声と同じである主の僕たちの声(教義と聖約1:38参照)、このように非常に容易に聴けるようになったことは、わたしたちが進んでその言葉を受け入れて(教義と聖約11:21参照)、それに従わない限り、ほとんど価値がありません。簡単に言えば、総大会とこの神権

部会の目的は、わたしたちが進んで行動してこそ、すなわち進んで変わろうとしてこそ達せられるのです。

数十年前に、わたしはビショップとして奉仕していました。そして、長い期間にわたって、自分より何歳も年上の、ワードの一人の男性と会い続けました。この兄弟は妻との関係に問題があり、また子供たちと疎遠になっていました。彼は仕事を続けようと懸命に努力しました。親しい友達はいませんでした。ワードの会員との交流が非常に難しいことを知り、彼は結局教会で奉仕する気持ちを失いました。彼の人生における様々な困難について真剣に語り合っていたとき、彼はわたしの方に身を乗り出し、度重なる話し合いの最後の言葉として、こう言ったのです。「ビショップ、わたしは短気なんです。わたしはそういう人間なんですよ。」

その言葉は、その晩わたしに衝撃を与え、以来ずっとわたしの脳裏を離れません。この人がひとたび決め込んだら、わたしたちの誰もが「わたしはそういう人間なんだ」とひとたび決めつけたら、自分の変わる力を放棄したことになります。白旗を掲げ、武器を捨て、敗北を認め、まさに降伏したのも同然で、勝利の可能性を失ってしまいます。中にはそれは自分のことではないと考える人がいるでしょうが、恐らく全ての人が、「わたしはそういう人間なんだ」という、少なくとも一つや二つの悪い癖があります。

さて、わたしたちがこの神権部会に集っているのは、人は将来、現在の自分とは違う人になることができるからなのです。わたしたちはイエス・キリストの御名によって今夜ここに集っています。イエス・キリストの贖罪はわたしたち一人一人に、自分の弱さ、欠点、常用癖が何であろうと、変わる力を与えてくれるという確信を持ってわたしたちは集っています。自分の過去がどうであれ、将来はもっと良くなるという希望を持って集っているのです。

わたしたちが変わろうとして「誠意」を





わたしたちがヌル兄弟に会ったのは、彼の伝道からおよそ20年後のことで、彼はわたしたちを明るく出迎えてくれました。それは、道路が途切れた所からでこぼこの砂利道を下った先にある、彼が妻と3人の子供と一緒に住んでいた2部屋のある家でした。猛烈に暑く、不快な日でした。彼はまだ歩くのが非常に困難でしたが、自己憐憫はありませんでした。彼は地道に努力を重ねて教師になり、村の子供たちが学校教育を受けられるようにしていました。わたしたちが彼の質素な住まいに入ると、彼はすぐにわたしを部屋の隅に連れて行き、一つの箱を取り出しました。それには彼にとって最も大切な物が入っていました。彼はわたしに1枚の紙を見てほしかったのです。それにはこう書かれています。「勇敢で幸せな宣教師、ヌル長老に、幸せと祝福がありますように。〔日付〕1987年6月25日、〔署名〕ボイド・K・パッカー」パッカー長老は、インドを訪れて宣教師たちに話をしたそのときに、ヌル長老に彼の可能性を確認したのです。要するに、2006年のその日にヌル兄弟がわたしに告げたのは、福音が彼を永遠に変えたということでした。

ヌル家族へのこの訪問には、伝道部長が同行しました。彼はそこでヌル兄弟とその妻と子供たちを面接しました。両親が自身のエンゲウメントと結び固め、そして子供たちが両親との結び固めを受けるためでした。わたしたちはまた、これらの儀式のために中国香港神殿に旅をする準備が整えられていることをその家族に話しました。彼らは長く待ちわびた夢がかなうということで喜びの涙を流しました。

神の神権を持つ者には何が期待されているのでしょうか。わたしたちはなるべく人物になるために何を変える必要があるのでしょうか。3つのことを提案します。

1. 神権を持つ者たるべき人になる必要があります。アロン神権を持つ若い男性であれ、メルキゼデク神権を持つ男性

もってこの会に参加するとき(モロナイ10:4)、御霊はわたしたちの心と思いに十分に働きかけてくださいます。主は預言者ジョセフ・スミスに、「彼らが……わたしを信じる信仰を働かせるならば」と啓示を与えられました。信仰が力と行動の原則であることを思い出してください。主はこう告げられました。「わたしは、彼らが集まる日にわたしの御霊を注ごう。」(教義と聖約44:2)それが今夜なのです。

皆さんが自分の問題は克服できないと思うならば、わたしたちが2006年にインドのハイデラバードの外れにある小さな村で出会った一人の男性についてお話ししましょう。この人は変わる意欲を模範で示しました。アッパ・ラオ・ヌルはインドのいなかで生まれました。彼は3歳のときにポリオにかかり、不自由な体になりました。

社会は彼に、彼の可能性はひどく制限されると教えました。しかし、彼はヤングアダルトのときに、宣教師に出会いました。宣教師は彼に、この世と来るべき永遠の世の両方におけるさらに大いなる可能性について教えました。彼はバプテスマを受け、教会員に確認されました。彼はきわめて大きな展望を持つようになり、メルキゼデク神権を受けて専任宣教師として奉仕するという目標を定めました。そして、1986年に長老に聖任され、インドで奉仕するように召されたのです。歩くことは容易ではありませんでした。最善を尽くして杖を2本使うようにしましたが、度々転びました。しかし、やめるということは選択肢にはありませんでした。立派に献身的に伝道すると決意したのです。そして、成し遂げました。



であれ、神権を持つにふさわしい人であって霊的に成熟していることを示す必要があります。聖約を交わしているからです。パウロは言っています。「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。」(1コリント13:11) わたしたちは神権を持っているので、他の人とは違っていなければなりません。傲慢、高慢、横柄ではなく、謙遜、素直、柔和でなければなりません。神権とその様々な職を受けることは、わたしたちにとって意味のあることでなければなりません。それは特定の年齢になったら機械的に行われる形だけの「通過儀礼」ではなく、思慮深く交わされる神聖な聖約の行為でなければなりません。わたしたちはあらゆる行動でそれを示せることを大きな特権と感じ、深く感謝しなければなりません。神権についてそれほどめったに考えないようであれば、変わる必要があります。

2. わたしたちは仕える必要があります。神権を持つことの本質は、他の人々に仕えることにより「自分の召しを尊んで大いなるものとする」ことです(教義と聖約84:33参照)。妻子に仕えるという最も重要な義務を避けること、教会における召しを受け入れないことや積極的に果たさないこと、あるいは都合

がつかない限り他の人々を気遣わないことが、自分のあるべき姿であってはなりません。救い主はこう述べておられます。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」(マタイ22:37) そしてさらにこう加えられました。「あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え……るべきである。」(教義と聖約42:29) 利己心は神権の責任と対照を成すものです。もしもそれが自分の人格の特性であれば、変わる必要があります。

3. わたしたちはふさわしくある必要があります。わたしにはジェフリー・R・ホランド長老のような能力がないかもしれませんが。数年前の神権部会でホランド長老はこう語っています。「わたしは皆さんの目の前に立ち、鼻と鼻を突き合わせ、皆さんのまゆ毛を焦がさんばかりの勢いで皆さんをたきつけます。」(「戦い止むまで」『リアホナ』2011年11月号、45) しかし、愛する兄弟の皆さん、世の中で一般に受け入れられている慣習が神権におけるわたしたちの力をどれほど制限するものであるかを自覚する必要があります。どのような形であれポルノグラフィや純潔の喪失や不正直に興味本位で手を出し、それが自分と家族に良くない影響を及ぼすことはないと考えたとすれば、わたしたちは欺かれています。モロナイはこう述べています。「あなたがたは、ふさわ

しい状態ですべてのことを……行うようにしなさい」(モルモン9:29) 主は力強くこう命じておられます。「わたしは、今あなたがたに一つの戒めを与える。自分自身について気をつけ、永遠の命の言葉を熱心に心に留めるようにしなさい。」(教義と聖約84:43) もし何か未解決の罪があつて自分がふさわしい者となっていなければ、変わる必要があります。

「あなたがたはどのような人物であるべきか」というイエス・キリストからの問いかけに対する唯一の完全な返答は、イエス・キリスト御自身が簡潔かつ深遠に述べられた、「わたしのようでなければならぬ」というものです(3ニーファイ27:27)。「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい」という招きは(モロナイ10:32)、わたしたちが変わることを求めるとともに、変わることを期待しています。幸いにも、主はわたしたちをほうっておかれませんが。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。……(その後)わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27) 救い主の贖罪に頼れば、わたしたちは変わることができるのです。このことは確かです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



中央若い男性会長会第二顧問
ランドール・L・リッド

選びの世代

皆さんはこの時代に主の業に携わるように選ばれました。それは、皆さんが正しい選択をすることを主が信頼しておられるからです。

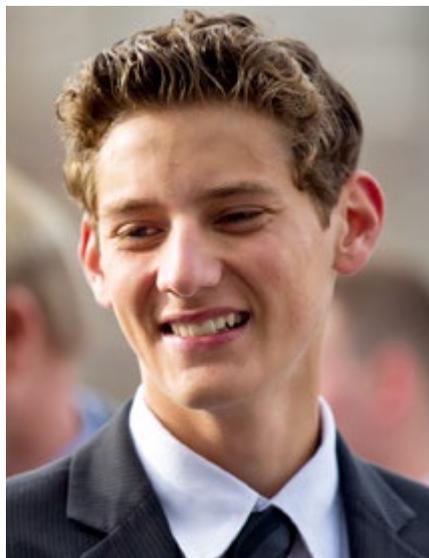
若い男性の皆さん、皆さんが「選ばれた世代」とあるという話を以前に聞いたことがあるでしょう。それは、偉大な目的のためにこの時代に地上に来るように、神が皆さんを選び備えられたという意味です。わたしはこれが真実であることを知っています。しかし今晚、わたしは皆さんが「選びの世代」とあるとして話をしたいと思います。それはわたしたち個人が、歴史上かつてなかったほどの非常に多くの選択の機会に恵まれているからです。より多くの選択は、より多くの機会があることを意味します。そして、より多くの機会は、善を行う機会がより多くあることを意味しますが、残念なことに、悪を行う機会もより多くあります。驚くほどの数の選択の機会から、皆さんが正しいことをうまく見極めることを信頼して、神がこの時代に皆さんを地上に送られたと信じています。

1974年に、スペンサー・W・キンボール大管長はこう言いました。「わたしは、主がわたしたち素人にはまったく想像もつかなかった発明品を、わたしたちの手に託すことを強く望んでおられると信じています。」(“When the World Will Be Converted,” *Ensign*, 1974年10月, 10)

そして、主は確かにそうされました。皆さんは、人類の歴史上、善い目的のために使うことのできる最も偉大なツールの一つ、すなわち、インターネットとともに

育っています。そのツールにより、わたしたちは幅広く様々な選択ができます。とはいえ、豊富な選択には、大きな責任が伴います。インターネットは、この世界に存在する最も良いものと最も悪いものの両方にアクセスすることを可能にします。インターネットを使って、短時間に偉大なことを成し遂げることもできますし、その反対に、時間を浪費し、皆さんの可能性を摘み取ってしまうようなつまらないことに、際限なく捕らわれてしまうこともできます。マウスのボタンをクリックするだけで、皆さんの心が望むことには何にでもアクセスすることができます。ここが鍵です。皆さんの心は何を望んでいますか。皆さんは何に引かれていますか。皆さんの望みは皆さんをどこに導いていますか。

神が「彼らの望むままにされること」(アルマ 29:4)、そして神が「すべての人をそ



の行いに応じて、またその心の望みに応じて裁く」(教義と聖約 137:9。アルマ 41:3も参照)ことを忘れないでください。

ブルース・R・マッコスキー長老は、次のように述べています。「比喩的な言い方ではありますが、実際の意味で、命の書とは、自分の体書き込まれた自分の行いの記録のようなものなのです。……すなわち、あらゆる思い、言葉、行いが人間の体に〔影響〕を与え、それら全てがその痕跡を残し、その痕跡は、書物の文字を読むように、永遠の神は簡単に読み取ることができるのです。」(*Mormon Doctrine*, 第二版 [1966年], 97)

インターネットも、検索とクリックによって表された皆さんの望みを記録しています。インターネットには、そうした望みをかなえることのできる莫大な情報があります。インターネットであちこち見て回る間に、その履歴が残ります。それは、どのような通信をしたか、どのサイトを閲覧したか、どれだけの時間そのサイトにいたか、そして何に興味を持っているかなどです。このようにして、インターネットは皆さんのプロフィールをネット上に作成するのです。それは、ある意味では「ネット上の命の書」なのです。実際の生活と同様に、インターネットは皆さんが求めるものをどんどん提供するでしょう。皆さんの望みが清ければ、インターネットによってその清さを増し加えることができ、ふさわしい活動に参加することがより一層簡単になります。しかし、その逆もまた真実なのです。

このことについて、ニール・A・マックスウェル長老は次のように説明しています。

「わたしたちが望み続けていることが、やがては、わたしたちそのものとなり、永遠にわたってわたしたちが受け継ぐものとなるでしょう。……

……望みは、養い育てることによってのみ、敵ではなく味方になるのです。」(「わたしたちの『心の望みに応じて』」『聖徒の道』1997年1月号, 22, 24参照)

若い兄弟の皆さん、望みを養い育てるこ



とに積極的でなければ、この世が皆さんに代わってそれを行うでしょう。この世は毎日、皆さんの望みに影響を及ぼし、物を買うように誘い、何かをクリックし、インターネット上で遊び、何かを視聴し、読むように求めています。結局のところ、その選択をするのは皆さんなのです。皆さんには選択の自由があります。それは、皆さんの望みに働きかけるだけでなく、望みを精錬し、聖め、高める力です。選択の自由には、自分にならうとする人になるための力があります。一つ一つの選択が皆さんを神が意図された姿に近づけたり、遠ざけたりします。1回1回のクリックが重要です。「この選択により、わたしはどこに行くのだろうか」といつも自問してください。行いの結果に目を向ける能力を身につけてください。

サタンは、皆さんの行く末を左右できるように、選択の自由を支配することを欲しています。サタンは、それを行う最良の方法の一つが、皆さんを常習性のある行動のわなにかけることであると知っているのです。科学技術が皆さんに力を与えるか、または皆さんを奴隷にするかは、皆さんの選択によって決まります。

選べる世代である皆さんの役に立ち、皆さんが善い望みを育て、科学技術を使うための道しるべとなる4つの原則を紹介しましょう。

第1。皆さんが本当に何者であるかを知ることが決断をより簡単にします。

わたしには、非常に個人的な方法でこの真理を学んだ友人がいます。彼の息子は福音の中で育てられましたが、霊的にはさ

まよっているようでした。彼は神権を行使する機会を何回も断りました。彼が伝道に出ないことを決めたとはっきり伝えると彼の両親は落胆しました。わたしの友人は息子のために熱心に祈り、彼の心が変わることを願っていました。その望みは、息子が婚約を発表したときに打ち砕かれました。この父親は、祝福師の祝福を受けるように息子に嘆願しました。彼はようやく同意しましたが、祝福師の所にはどうしても独りで行くと言いました。

息子は祝福を受けて戻って来たとき、気持ちが高ぶっていました。彼はガールフレンドと家の外に出て行きました。父親が窓越しにそっと目をやると、若い二人がお互いの涙を拭いているのが見えました。

後日、息子は何が起こったかを父親に打ち明けました。祝福を受けている間、前世にいる自分を垣間見ることができたと言って、胸が熱くなった様子で説明しました。彼はキリストに従うようにと、他の霊たちに非常に雄々しく大きな影響力を及ぼして説いて勧めている自分の姿を見たのでした。自分がどのような人間であるかを知って、伝道に出ずにはいられないでしょうか。

若い男性の皆さん、自分が本当は何者なのかを忘れないでください。聖なる神権を持っていることを忘れないでください。そうすれば、インターネットを使うとき、そして人生を通して正しい選択をするように、皆さんに靈感が与えられるでしょう。

第2。力の源にアクセスする。

皆さんが手に持つことのできる携帯電話を通じて、歴史上の全ての時代から得られる知恵にアクセスすることができます。

何よりも大切なことは、旧約聖書の時代からトーマス・S・モンソン大管長に至るまでの預言者の言葉にアクセスできることです。しかし、携帯電話は定期的に充電しなければ使えなくなり、皆さんは取り残され、通話もできなくなります。皆さんは1日たりとも、バッテリーを充電しないで過ごそうとは思えないでしょう。

毎日、携帯電話を完全に充電してから家を出ることが大切のように、霊的に完全に充電することは、それよりもはるかに大切なことです。充電するために携帯電話をプラグに差し込むときには常に、最も大切な霊的な力の源、すなわち、聖霊を通して靈感を与えてくれる祈りと聖文の研究のために時間を取っているかを自問するようにしてください(教義と聖約11:12-14参照)。そのようにするならば、皆さんの行く末を決める、小さくても大切な日々の選択をするために、主の思いと望みを知る助けとなるでしょう。わたしたちの多くは、携帯電話でメールを読むために、どのようなことを行ってもすぐにその手を止めます。わたしたちは、主からのメッセージにもっと重きを置くべきではないでしょうか。神聖な力の源にアクセスすることを怠るべきではありません(2ニーファイ32:3参照)。

第3。スマートフォンを持っていても賢くなりません。しかし、それを賢く使うことが大切です。

若い男性の皆さん、スマートフォンで愚かなことをしないでください。皆さんはその意味が分かるでしょう(モーサヤ4:29参照)。数え切れないほどたくさん

方法で、科学技術は、皆さんを最も大切なことから気をそらせることができます。昔からある次の勧告に従ってください。「あなたがそこにいるときは、あなたの心もそこにあるようにする。」運転しているときは、運転する。教室にいるときは、授業に集中する。友達といるときは、友達に注意を向ける。皆さんの頭脳は、一度に二つのことに集中できません。同時に多くのことをしようとするときは、次から次へと焦点が素早く移動しているのです。このような古いことわざがあります。「二兎を追う者は一兎をも得ず。」

第4. 主は御自身の目的を果たすために科学技術をお使いになる。

科学技術の神聖な目的は、救いの業を速めることです。皆さんは選びの世代の一員として、科学技術を理解しています。完成に向かう進歩を加速するように科学技術を使ってください。たくさん与えられているので、皆さんも与えなければなりません（「主の恵み、人にも分かつたん」『賛美歌』138番参照）。皆さんがこれらの偉大なツールを使って、わたしの世代の人々が決して想像することができなかった方法で福音を分かち合い、主の業を次の段階に進めることを、主は期待しておられます。過去の世代は自分の隣人や自分の町に影響を与えていましたが、皆さんにはインターネットとソーシャルメディアを通じて、国境を越えて、全世界に影響を与える力があります。

この教会が主の教会であることを^{あかし}します。皆さんはこの時代に主の業に携わるように選ばれました。それは、皆さんが正しい選択をすることを主が信頼しておられるからです。皆さんは選びの世代です。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

回復の業が進む間 ずっと眠っていますか

この神聖な業は非常に大切です。わたしたちが個人として、家族として、そしてキリストの教会として中途半端な気持ちで行うことはできません。

200年近く前、アメリカの短編小説「リップ・ヴァン・ウィンクル」が出版され、たちまち人気作品となりました。主人公リップは大望を持たない男で、妻と仕事の二つを避けることに長けていました。

ある日、彼が飼い犬とともに山をさまよっていると、風変わりな装いをし、酒を飲んで遊んでいる一団と出会いました。酒を勧められて飲んだ後、リップは眠くなり少しの間目を閉じました。再び目を開けると、驚いたことに犬はいなくなっており、銃はさびつき、ひげが長く伸びていました。

リップは村に戻ると全てが変わっていることに気づきました。妻は亡くなり、友人もいなくなっていました。居酒屋に掛かっていた国王ジョージ3世の肖像画は、彼の

知らないジョージ・ワシントン將軍の肖像画に替わっていました。

リップ・ヴァン・ウィンクルは20年間眠っていたのです。そしてその間、自国の歴史において最も心躍る一つの時代を見逃したのです。つまり、アメリカ革命の間ずっと眠っていたのです。

1966年の5月、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア博士は、彼の演説「革命の間眠らないように」(“Don't Sleep Through the Revolution”)¹の一例にこの話を使いました。

今日、わたしはこの同じテーマを採り上げ、神の神権を持つ全ての人に次の質問をしたいと思います。皆さんは回復の業が進む間、ずっと眠っているのですか。

わたしたちは回復の時代に生きています。





ときどき、わたしたちは福音の回復は完了したもの、つまり、ジョセフ・スミスがモルモン書を翻訳し、神権の鍵を受け、教会が回復されたという、既に過去に起きたものとして考えます。しかし実際は、回復は現在も進行過程にあり、わたしたちは今まさにその中で生きているのです。その過程には、「神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのこと」、および神がこれからも啓示される「多くの偉大で重要なこと」が含まれます。² 兄弟の皆さん、今日の心躍る発展は、昔から預言されていた備えの時期、すなわちわたしたちの救い主イエス・キリストの栄えある再臨で終結する備えの時期の一部なのです。

今は世界の歴史の中でも屈指の驚くべき時代です。古代の預言者たちはわたしたちの時代を見るのを待ち望んでいました。

わたしたちは死すべき生涯を終えるとき、この重要な時代に対して、また主の業を推し進めることに対して、どのような貢献をしたかを話すことができるでしょうか。袖をまくり、心と、勢力と、思いと、力を尽くして働いたと言えるでしょうか。あるいは、人生のほとんどを傍観者として過ごしたと認めなければならないでしょうか。

神の王国を築くことに関して、なぜ少し眠くなるかについては様々な理由があると思います。3つの主な理由を述べたいと思います。わたしがそれら話すとき、自分に当てはまらないか深く考えるように皆

さんに勧めます。もし改善する余地があるならば、より良い状態になるように変わるために、何ができるのかをよく考えてみてください。

利己心

まずは、利己心です。

利己的な人は他の何よりも自分にとって関心のあることや楽しいことを求めます。利己的な人にとって重要なことは、「これは自分にとってどんな得になるだろうか」ということなのです。

兄弟の皆さん、このような態度は神の王国を築くために必要な精神と明らかに反対のものであることが、きっと皆さんは分かるでしょう。

人々への奉仕よりも自分の必要を満たすことを求めるとき、わたしたちは自分自身が認められることや自分自身の楽しみに優先順位を置くことになります。

過去の世代の人々は、様々な形の虚栄心や自己陶醉と苦闘しましたが、今日のわたしたちは過去の世代以上に、そのような思いと闘っていると思います。最近、オックスフォード辞典（Oxford Dictionary）がその年のキーワードとして「自分撮り」を表す「selfie」という言葉を発表したのは単なる偶然でしょうか。³

生来、わたしたちは皆認められたいという願望があります。また、リラックスして楽しむことに何の問題もありません。しか

し、「利益と世の誉れ」⁴を求めることが動機（あがな）の中心となるとき、贖いを実感する経験と喜びに満ちた経験を逃すことになりま

す。そのような経験は、主の業のために惜しみなく自分をささげることによりもたらされるのです。

対処法は何でしょうか。

答えは、いつものようにキリストの言葉の中にあります。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであらう。」⁵

自分の生活を救い主、神、そして同胞に心からささげる人は、利己的な人や傲慢な人には決して経験できない豊かさや充実感を人生において見いだすでしょう。利己心のない行いは見返りを求めないで行うものです。それは、笑顔、握手、抱擁、時間を取って耳を傾けること、優しい励ましの言葉、あるいは思いやりを示す行為といった、小さくとも長く大きな影響を残す慈愛のこもった行いです。これらの親切な行為は全て、人々の心と人生を変えることができるものです。伴侶や家族をはじめ、同胞を愛し仕える無数の機会を生かすとき、神を愛し人々に仕えるわたしたちの能力は大きく増すことでしょう。

人々に仕える人は、回復の業の進む間



ずっと眠り続けることはありません。

依存症

世界にとってこの重要な時期にわたしたちを眠らせてしまうもう一つの要因は依存症です。

依存症はしばしば気づかないうちに始まります。繰り返される小さな行いがやがては人を支配する習癖となるのです。悪い習癖はわたしたちを消耗させてしまう依存症になる可能性を持っています。

わたしたちを束縛する依存症という鎖は、ポルノグラフィ、酒、性行為、薬物、タバコ、ギャンブル、食物、仕事、インターネット、バーチャルリアリティといったように様々な形態になり得ます。わたしたちの共通の敵サタンは得意な手段をたくさん持っていて、それを使ってわたしたちが主の王国で使命を果たすために神から授かった能力を奪うのです。

天の御父は、御自分の高貴な息子たちの一部が、破滅をもたらす依存症の鎖にいかに進んで縛られるのかを見て悲しんでおられます。

兄弟の皆さん、わたしたちは全能の神

の永遠の神権を持っているのです。わたしたちは確かにいと高き神の息子であり、言葉では表せない可能性を与えられています。天高く昇るように作られています。この世間的願望のために神から与えられた可能性が制限されたり、人が生み出した依存症のとりこになったりするよう意図されてはいません。

対処法は何でしょうか。

最初に理解しなければならないことは、依存症は治療するよりも避ける方がはるかに簡単であるということです。救い主は次のように言われました。「これらのことを決して心の中に入れてないように……。」⁶

何年前かに、トーマス・S・モンソン大管長とわたしは合衆国大統領を乗せるすばらしい飛行機エアフォースワンの見学に招待されました。シークレットサービスによる厳重なセキュリティチェックがありました。担当者が搭乗前に預言者のセキュリティチェックをしているとき、わたしは少しほほえみかけました。

その後、その場を指揮していたパイロットがわたしを機長席に座らせてくれました。自分が長年操縦してきたものと同じ

種類のすぐれた飛行機の操縦席に再び座るのはすばらしい経験でした。海や大陸を渡ったフライトの思い出がわたしの心と思いを満たしました。世界中の空港で経験した胸のすくような離着陸の瞬間に思いを巡らせました。

ほとんど無意識のうちに、わたしは手をボーイング 747 の 4 つのスロットルレバーに置いていました。ちょうどそのとき、背後からトーマス・S・モンソン大管長の愛する間違えようのない声が聞こえました。

「ディーター、飛ばそうなんて考えないでくださいね。」

わたしは何かをしようとは思っていませんでしたが、モンソン大管長はただわたしの考えていることを読み取ったのかもしれない

すべきでないことを行うように誘惑を受けるとき、信頼する家族や友人、愛する預言者、そして常に救い主の愛にあふれる警告の言葉に耳を傾けましょう。

依存症への最良の防御は決して始めないことです。

では、依存症に陥ってしまった人はどうすればよいでしょうか。

まず初めに、希望があることを知ってください。愛する人々、教会の指導者、訓練を受けたカウンセラーの助けを求めてください。教会は、地元の教会指導者、インターネット⁷、および地域によってはLDSファミリーサービスを通して、依存症から立ち直るための援助を提供しています。

救い主の助けがあれば、依存症を克服できることを常に忘れないでください。長く険しい道かもしれませんが、主は決して皆さんを見捨てたりなさいません。主は皆さんを愛しておられます。イエス・キリストは、皆さんが変わり、罪の縄目から解放されるために、贖いの苦しみを受けられたのです。

最も大切なことは努力し続けることです。成功するまでに何度も試みなければならぬこともときどきあります。あきらめないでください。信仰を失わないでください。心を主に近く保ってください。そうすれば、主は罪から解き放つ力を与えてくださるでしょう。主があなたを自由にされるのです。

愛する兄弟の皆さん、依存症につながる習慣を常に遠ざけてください。そのような習慣から遠ざかる人は、神に仕えることに心と勢力と思いと力を尽くすことができるようになります。

彼らは回復の業が進む間ずっと眠り続けることはありません。

競合する優先順位

この業に十分に携われないようにする3番目の障害は、わたしたちが数多くの競合する優先事項を抱えていることです。中にはあまりにも忙しく、自分はまるで仕事を教え込まれたたくさんの動物に引かれる荷車のような感じる人もいます。しかも、ばらばらの方向に引っ張られています。一生懸命やっても、荷車はどこにも行けません。

わたしたちは趣味やスポーツ、仕事、地域社会や政治的な問題に最大の努力を払うことがよくあります。これはすべて良い

ことで誉れあることかもしれませんが、わたしたちにとって優先順位の最も高いことを行うための時間とエネルギーが残っているでしょうか。

対処法は何でしょうか。

繰り返しますが、それは救い主の言葉の中にあります。

『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。』⁸

人生において、他の事柄がこの二つの優先事項よりも高くなるべきではありません。

教会の奉仕でさえも、弟子としての心や中身のないまま、あまり考えもせずに物事を行って、いたずらに時間を費やしてしまうことがあります。

兄弟の皆さん、わたしたちは神権を持つ者として、神と隣人を愛する民になる決意をしています。そして、言葉と行いを通して進んでその愛を示します。それがイエス・キリストの弟子としてわたしたちがあるべき本来の姿です。

これらの原則に従って生活する人は、回

復の業が進む間ずっと眠り続けることはありません。

目を覚ますようにという呼びかけ

使徒パウロは次のように書いています。「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照らすであろう。」⁹

わたしの愛する友人の皆さん、皆さんは光の息子であることを知ってください。

利己心を持たないでください。依存症につながる習慣に陥らないでください。競合する優先順位によって、祝福された弟子としての務めや気高い神権の奉仕に無関心になったり、疎遠になったりするのしないようにしてください。

この神聖な業は非常に大切です。わたしたちが個人として、家族として、そしてキリストの教会として中途半端な気持ちで行うことはできません。

イエス・キリストの弟子であるということは、週に1度あるいは1日に1度努力すればよいようなことではありません。それはわたしたちが常に行うものです。

主の真の神権者に対する主の約束はあまりにも大きいので、全てを理解すること



はできません。

アロン神権とメルキゼデク神権に忠実であって、自分の召しを尊んで大いなるものとする人は、「御霊により聖められてその体が更新される」のです。それゆえ、わたしたちの御父が持つておられる全てが、与えられるでしょう。¹⁰

イエス・キリストの贖いの清めの力と、人を変える聖霊の力は、人を癒し、救助することができることを証します。救い主の呼びかけに耳を傾け、喜び勇んで、十分に固い決意をもって救い主に従うことはわたしたちの特権であり、神聖な義務であり、喜びです。「[わたしたち]を縛っている鎖を振り払い、暗闇を抜け出て、地から立ち上がり」ましょう。¹¹

目を覚まして、善を行うことに疲れ果てないようにしましょう。わたしたちは「一つの偉大な業の基を据えつつある」からです。¹² すなわち、救い主の再臨に備えているのです。兄弟の皆さん、美しく力ある回復された真理に対する証人として、わたしたちが模範の光を輝かせるとき、わたしたちは回復の業が進む間ずっと眠り続けることはありません。わたしはこのことを証し、皆さんにわたしの祝福を残します。主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. マーティン・ルーサー・キング・ジュニア, "Don't Sleep Through the Revolution" (1966 Ware Lecture, Unitarian Universalist Association General Assembly, フロリダ州ハリウッド, 1966年5月18日)
2. 信仰簡条 1:9
3. blog.oxforddictionaries.com/press-releases/oxford-dictionaries-word-of-the-year-2013 参照
4. 2ニーファイ 26:29
5. マルコ 8:34-35
6. 3ニーファイ 12:29
7. 例えば, lds.org/topics/addiction を参照
8. マタイ 22:37-39
9. エペソ 5:14
10. 教義と聖約 84:33, 38 参照
11. 2ニーファイ 1:23
12. 教義と聖約 64:33 参照



大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

神権を持つ者

皆さんは偉大な模範になることも、平均的な人物になることも、悪い見本になることもできます。それは皆さんにとっては大して重要ではないと思うかもしれませんが、主にとっては重要なのです。

わたしたちには皆ヒーローがいます。若いときは特にそうです。わたしは、アメリカ合衆国のニュージャージー州プリンストンという町で生まれ、大きくなりました。わたしたちの住んでいた町の近くにある最も有名なスポーツチームは、本拠地がニューヨーク・シティにありました。遠い昔のこと、その当時ニューヨーク・シティは、プロ野球の3球団、つまり、ブルックリン・ドジャースとニューヨーク・ジャイアンツ、そしてニューヨーク・ヤンキースの本拠地だったのです。わたしたちの家からはフィラデルフィアの方が近く、そこはアスレチックスとフィリーズという球団の本拠地でした。こうしたチームの中には、わたしにとってヒーローになりそうな可能性を持った選手がたくさんいました。

ニューヨーク・ヤンキースでプレーしたジョー・ディマジオが、わたしの野球のヒーローとなりました。わたしたちの家に隣接していた学校のグラウンドで兄たちや友人たちが野球をしていると、わたしも自分なりに考えたジョー・ディマジオばりのバットスイングをしてみたものでした。当時はまだテレビのなかった時代（これは大昔のことですが）でしたから、スイングのまねをするにしても、新聞から切り抜いた写真だけが頼りだったのです。

大きくなったころ、父がわたしをヤンキー・スタジアムに連れて行ってくれたことがあります。それが、わたしにとってジョー・ディマジオのプレーを実際に見た唯一の機会でした。わたしの心の中では、まるでまだその場所にいるかのように、ディマジオがバットを振り、やがてその





白球がセンターのスタンドへと飛び込んでいく様子を思い浮かべることができます。

さて、わたしの野球の腕前は、当時のわたしのヒーローたちになることは決してありませんでした。しかし、何度か上手に打てたときには、できるだけディマジオの力強いスイングのまねをしていました。

わたしたちは、ヒーローを選ぶと、意識をしていようがいまいが、そのヒーローたちの一番優れた部分のまねをするようになります。

幸いなことに、思慮深かったわたしの両親は、わたしが子供のころ、偉大なヒーローたちを身近に置いてくれました。わたしの野球のヒーローの活躍を見るために父がわたしをヤンキー・スタジアムへ連れて行ってくれたのは、たった1回だけでしたが、毎週日曜になると、父はわたしにヒーローとなる神権者を見せてくれたのです。そのヒーローがわたしの生涯を形作ってくれました。父は、我が家が集会所となっていた小さな支部の支部会長でした。ところで、日曜日の朝、我が家の1階に下りると、そこは教会でした。わたしたちの支部は出席者数が30人を超えたことはありませんでした。

集会に出席するために、いつも我が家まで自分の車に母親を乗せて来る一人の青年がいました。しかし、その青年は決して家の中まで入りませんでした。会員ではなかったのです。外に出て、その青年が車を止めた所まで行って、我が家の中まで招き入れるのに成功したのは、父でした。彼はバプテスマを受け、わたしにとって最初で唯一のアロン神権指導者となりました。彼はわたしにとって神権者のヒーローになったのです。一人の未亡人のために薪を作ろうというプロジェクトをやり終えたとき、彼は御褒美に木製の像をくれたこ

とを、わたしは今でも覚えています。以来、わたしは神の僕しもべにふさわしい賛辞を贈るときには、いつも彼のような人物でありたいと努めてきました。

教会のその小さな支部にはもう一人のヒーローがいました。彼は合衆国の海兵隊員で、集会にはいつも海兵隊の緑色の軍服を着て参加していました。当時は戦争中だったため、それだけでも彼はわたしのヒーローでした。彼はさらに教育を受けるために、海兵隊からプリンストン大学へ内地留学をしていました。しかし、彼の軍服姿を見るよりもずっと多く、わたしは彼がプリンストン大学のアメリカン・フットボールのチームのキャプテンとしてパーマー・スタジアムでプレーするのを見ました。わたしは彼が大学のバスケットボールのチームでプレーをしたのを見たこともありますし、野球チームでは花形キャッチャーとしてプレーしていた様子も見ました。

そしてさらに、その週、彼は我が家へ来てくれて、バスケットボールのシュートを左手と右手のどちらでもする方法を見せてくれました。彼は、君はいつか良いチームでバスケットをすることになるのだから、このテクニックは必要だよ、と言ってくれました。当時のわたしがそれを実現することはありませんでしたが、何年にもわたって、彼はわたしにとって、真の神権者の模範だったのでした。

皆さん一人一人も、そう望んでいるかどうかにかかわらず、神権を持つ者の模範となります。皆さんは神権を受けたときに、その明かりしよくだいに火がともされました。主が皆さんを燭台の上に置かれて、皆さんの周囲にいるあらゆる人々のために道を明るく照らすようにされたのです。とりわけ、神権定員会に所属する者にはそれが言えます。皆さんは偉大な模範になることも、平

均的な人物になることも、悪い見本になることもできます。それは皆さんにとっては大して重要ではないと思うかもしれませんが、主にとっては重要なのです。

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

また、あかりをつけて、それをます耕の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照らさせるのである。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」¹

わたしは、これまで奉仕の機会に恵まれた定員会において、偉大な神権者の模範によって祝福を受けてきました。そのような人々がわたしのためにしてくれたことを、他の人々が見習う模範になることにより、皆さんも行うことができます。

わたしはこれまで、わたしのヒーローになってくれた神権者に共通する3つの特徴を観察してきました。一つは、祈りの方式です。2番目は奉仕の習慣、そして3番目は正直でいようとする不動の決意です。

わたしたちは皆祈りますが、皆さんが目標とする神権者はしばしば、かつ誠意をもって祈ります。夜には、ひざまずいて、その日受けた祝福を神に感謝します。両親のことを、教師のことを、従うべき偉大な模範を示してくれた人のことを、神に感謝します。祈りの中で、その日、誰がどのように自分の人生に祝福をもたらしてくれたかについて、具体的に述べます。そのような祈りは数分ではできませんし、ちょっと考えるだけではできません。そのような祈りは皆さんを驚くほど変えることとなります。

赦ゆるしを求めて祈るときには、自分が人を赦していることに気づきます。神の優しさ



に感謝するとき、あなたの優しさを必要としている人々のことを、名前を挙げて、考えます。再度申し上げますが、そのような経験は毎日驚きをもたらし、やがて皆さんを変えてくれることでしよう。

皆さんに約束します。そのような熱烈な祈りによってもたらされる変化の一つは、自分が神の子であると真に実感することになることです。自分が神の子であることが分かると、自分が神から多くのことを期待されていることも分かるようになります。皆さんは神の子ですから、神から、神の教えと愛する御子イエス・キリストの教えに従うよう期待されています。神は皆さんが人々に対して寛大で親切になることを期待しておられます。もし皆さんが高慢になり、自己中心的になると、神は失望されます。神は皆さんが、自分のことよりも他の人々に対して関心を注ぎたいという願望を持てるように祝福してください。

皆さんの中には、既に神権の無私な奉仕の模範となっている人もいます。世界中の神殿では、神権者が日の出前にやって来ます。中には日没後もずっと奉仕をする人もいます。この世では、そのように時間や労力を犠牲にしても、認知されることも名声を得ることもありません。わたし自身も、自分で神殿の祝福にあずかることはできない霊界にいる人々のために若い人々が奉仕するのに同行したことがあります。

神殿で朝早く、そして夜遅くまで奉仕をする人々の表情に、疲労感よりむしろ幸福感の方がにじみ出ているのを見るとき、そのような神権の無私な奉仕には、この世の生涯でも大いなる報いがあることを、わたしは知っています。しかし、それは、霊界にあって彼らの奉仕を受け入れる人々とともにあずかる喜びと比べると、ほんの小さな喜びにすぎないのです。

わたしは、同じような幸福感に満ちた表情を、神の王国に属していることからたらされる祝福について他の人たちに語っている人々の中にも見えました。わたしの知っているある支部会長は、ほとんど毎日のように人々を宣教師に紹介して、教えてもらっています。ほんの数か月前まで、彼自身も教会員ではありませんでした。しかし今では彼のおかげで、宣教師も派遣され、支部も、数のうえでも力のうえでも成長を続けています。しかし、それ以上に、彼が他の人々にとって光となり、彼らも口を開くようになり、そのために、天の御父の子供たちを集める主の御業も速められているのです。

皆さんが祈り、人のために奉仕をするとき、自分が神の子であるという皆さんの知識と神への思いは増すでしょう。いかなる形であれ、もし不正直になれば主が悲しまれるということをさらに深く知るようになります。また、神や人々と交わした約束を守

りたいという決意がさらに強まります。自分のものではないものを持ち去ることの重さに気づくようになります。自分の雇用主に対してもっと正直になろうとします。時間を守り、主から託されて、あなたが行うと約束した仕事を完成させたいという決意も強まります。

ホームティーチャーが来てくれるだろうかと半信半疑になるのではなく、皆さんが教えるよう割り当てられた家族の子供たちは、皆さんの訪問を首を長くして待ち望むようになります。わたしの子供たちはそのような祝福を受けてきました。子供たちが大きくなるのに応じて、神権者のヒーローたちの助けがあって、子供たちは主のために働くという計画を立てることができたのです。そして、その祝福された模範は今や第3世代へと受け継がれているところです。

わたしのメッセージはまた、感謝のメッセージでもあります。

わたしは皆さんの祈りに感謝しています。自分では全ての答えを持っているわけではないということを認めて、ひざまずいて祈る皆さんに感謝します。皆さんは天の神に祈り、感謝を伝え、自分の生活や家族に祝福を下さるようお願い求めます。他の人々に対する皆さんの奉仕に感謝しています。また、その奉仕を皆さんが人に認めてもらうためではなく行ってくださっていることに感謝しています。

わたしたちは、自分の奉仕に対して世の称賛を求めらるなら、さらに大きな祝福を失ってしまうかもしれないという主の警告を受け入れています。皆さんは次の言葉を忘れないでしょう。

「自分の義を見られるために人の前で行わないように、注意しなさい。もし、そうしないと、天にいますあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。

だから、施しをする時には、偽善者たちが人にほめられるため会堂や町の中でするように、自分の前でラッパを吹きならすな。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。



あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。

それは、あなたのする施しが隠れているためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。』²

偉大な神権者としてわたしの模範になってくれた人々は、自分にはそのようなヒーロー的な資質があったなどとは簡単には認めません。実際、そういう人々は、わたしが賛美するような資質にわざわざ目を向けないように思えます。先ほど、わたしの父はニュージャージー州の教会の小さな支部の忠実な支部会長であったと申し上げました。父は後に、教会の日曜学校中央管理会の一員となっています。それでも、わたしは今日は注意して、父の神権の奉仕について控え目に語ろうと思っています。実際、父はそのように控え目な人物だったからです。

わたしの子供時代のヒーローであったあの海兵隊員についても同じことが言えます。彼はわたしに、彼の神権の奉仕や、彼の業績については、一言も言いませんでした。彼はただ奉仕をしました。彼がどれほど忠実であったかは、他の人から聞いて知りました。もし彼が自分の中にそのような資質があると感じていたら、わたしはここで彼の話をするとはできなかったでしょう。

ですから、自分の持つ神権を行使して

人に祝福をもたらしたいと願う皆さんに対するわたしの勧告は、神のみ御存じの皆さんの生活に関わるものです。

神に祈ってください。自分の生活にもたらされるあらゆる良いことについて神に感謝しましょう。どの人があなたが奉仕するべく神が託して下さった人なのか分かるように、神に尋ね求めてください。あなたが神の助けを受けて、その奉仕をすることができるよう、神に祈り求めてください。自分が赦すことができるよう、そして赦されるよう、祈ってください。そして、人のために奉仕をし、人を愛し、人を赦してください。

何にも増して、あなたの行うあらゆる奉仕の中で、人々が永遠の命への道を選ぶことができるよう助けること以上に偉大な奉仕はないということを忘れないでください。神は、神権の活用の仕方について、その壮大な指示をわたしたちにお与えになりました。神はその完全な模範です。次に挙げるのは、この世で最も優れた神の僕たちに垣間見ることができる例です。

「そこで、主なる神はモーセに言われた。『もろもろの天は数多く、人には数えることができない。しかし、わたしには数えられている。それらはわたしのものだからである。

一つの地球とその天が過ぎ去ると、まことに別のものが生じる。わたしの業にもわたしの言葉にも、終わりがないのである。

見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたら

すこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。』³

わたしたちはその御業を助けるために存在しています。わたしたち一人一人が違いを生み出すことができます。わたしたちは、この神聖な御業を果たす終わりの日にあつて、時も場所も備えられて来ています。わたしたちは皆、恵まれて、この地上で過ごす間にその御業を最も重要な目的とした人々の模範が与えられているのです。

わたしたちが互いに高め合って、その機会にあずかることができるよう、祈っています。

父なる神は生きておられ、神によく仕えるために必要な助けを求めて祈る皆さんの祈りに応えてくださいます。イエス・キリストは復活なさった主です。この教会は主の教会です。皆さんの持つ神権は、神の子供たちに仕える御業において神の御名によって行動する力です。皆さんがこの御業のために全身全霊をささげるなら、神は皆さんを尊んで大いなるものとしてくださいます。以上のことをわたしたちの救い主であるイエス・キリストの御名によって約束します、アーメン。■

注

1. マタイ 5:14 - 16
2. マタイ 6:1 - 4
3. モーセ 1:37 - 39



トーマス・S・モンソン大管長

強く、また雄々しくあれ

わたしたち皆が世間に迎合しない勇氣、原則を守る勇氣を持ちましょう。

愛 する兄弟の皆さん、皆さんとともにこの場に集えるのは何とすばらしいことでしょうか。皆さんに話をするこの機会に天の助けがあるように祈ります。

何千もの神権者がこのカンファレンスセンターだけでなく、世界各地の礼拝堂やその他の場所に集まっています。わたしたちには互いに共通するものがあります。それは、神の神権を持つように委ねられているということです。

わたしたちは、歴史上注目に値する時代にこの地球に住んでいます。わたしたちは

ほぼ無限の機会に恵まれていますが、多くの課題にも直面しています。その幾つかはこの時代に特有なものです。

現代の世の中では、道徳的な価値がほとんどないがしろにされ、罪が目に見えるほどあらわになり、わたしたちは、細くて狭い道からそれさせようとする誘惑に囲まれています。道徳にかなったものを打ち壊す、この世の浅はかな理論と慣習にすり替えようとする圧力と狡猾な影響力にわたしたちは絶えず直面しています。

こうした多くの課題に直面しているため、わたしたちは、自らの行く末を左右す

る可能性のある決断を絶えず行う必要に迫られています。正しい決断をするためには勇氣が必要です。断るべきときに「いいえ」と言う勇氣、「はい」と言うのが適切などときには「はい」と言う勇氣、正しいと分かっていたら、それを行う勇氣が必要です。

今日の社会は、主が与えられた価値と原則から急速に離れる傾向にあるため、わたしたちはほぼ間違いなく、自分が信じていることを擁護するように求められるでしょう。わたしたちには、そうする勇氣があるでしょうか。

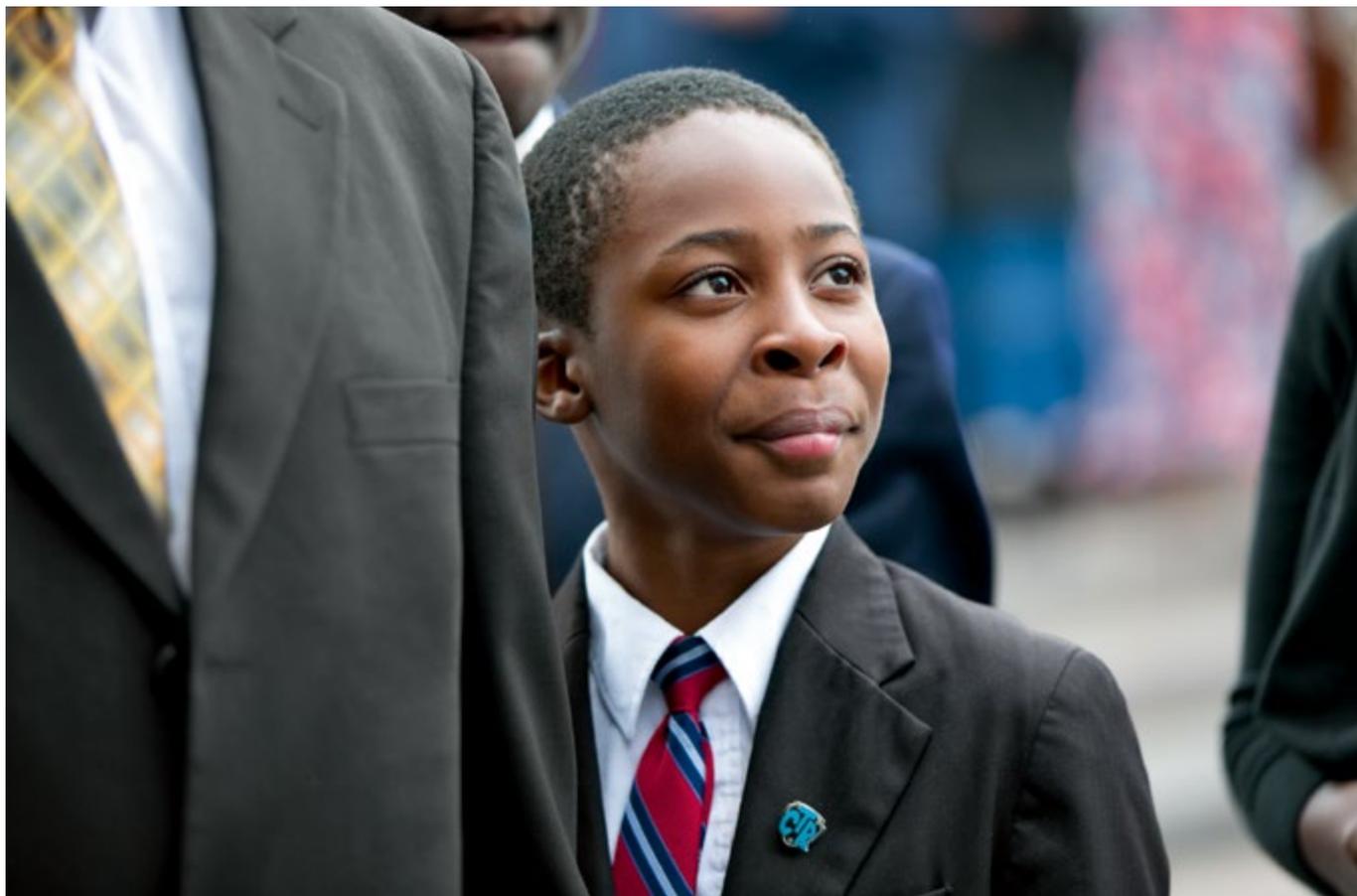
大管長会の一員として長い間奉仕したJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように言っています。「信仰があると思っている人が、自分の信仰を全て表明することによって信仰心のない同僚にあざ笑われるかもしれないと思い、信仰を曲げたり弱めたり、信仰の価値を損ねたり、ひいては信仰を否定するふりさえすることがあります。そのような人は偽善者なのです。」¹ 誰もそのようなレッテルを貼られることを望んではいませんが、場合によっては、自分の信仰を表明することにためらいを感じることはないでしょうか。

もしわたしたちがふさわしい場所において、思いが善へ向かうような影響を受け、主の御霊がともにおられるような活動に参加するなら、正しいことを行う望みを持つうえで、自分自身の助けとなります。

少し前に、進学のために家を離れる息子に父親が与えた次の勧告について読んでおられるように感じたら、そこから出なさい!」皆さん一人一人に同じ助言をします。「自分がいるべきではない場所にいると感じたら、そこから出てください!」

わたしたちは皆、絶えず勇氣を持つ必要があります。日々の生活には勇氣が必要です。それは非常に重要なときだけではなく、わたしたちを取り巻く状況に対して決断したり対応したりするときに、より頻繁に必要となります。スコットランドの詩人で





あり小説家であったロバート・ルイス・ステューブソンは言っています。「日常の勇氣は、ほとんど人の目に留まることはないが、人からの励ましや称賛の言葉を受けなくても、その勇氣は高貴なものである。」²

勇氣は様々な形で現れます。クリスチャンで作家のチャールズ・スウィンドルはこう記しています。「勇氣は戦場に限られるものでもなければ、あるいは家に押し入った泥棒を勇敢に取り押さえることだけに限られるものでもない。勇氣の本当の試金石は、もっと目立たないところにあるのだ。それは、誰も見ていなくても忠実さを保つ、……理解されなくても信念を貫くといった、内なる心の試しなのだ。」³ この言葉にわたしはさらにこう付け加えたいと思います。このような内なる勇氣とは、恐れを感じるときでも正しいことを行い、人からあざけられると分かっているにも信仰を擁護し、友人や社会的な地位を失う恐れがあるときでさえ信念を貫くことです。確固として正しいことを擁護するには、時として人から拒絶されたり、嫌われることも覚悟しなければなりません。

第二次世界大戦中、アメリカ合衆国の海

軍に従事していたとき、勇敢な行い、武勇の実例、勇氣の模範を見ました。18歳の水兵の静かな勇氣を決して忘れることができません。彼は末日聖徒ではありませんでしたが、祈ることを恐れず、250人の部隊の中でただ一人、ベッドの横にひざまずいて毎日祈りをささげていました。時には、信仰心のない隊員からあざけられることもありましたが、頭を垂れて神に祈りました。彼は決してたじろぎませんでした。勇氣を持っていたのです。

つい先ごろ、このような心の勇氣が明らかに欠けていると思われる例を耳にしました。友人の一人が、夫とともに自分のワードの靈的な聖餐会せいさんに出席し、信仰を高められたことについて話してくれました。アロン神権の祭司の職を持つ若い男性が、福音が真実であること、戒めを守ることの喜びについて話をしたとき、出席していた全員が心を打たれました。彼は白いシャツにネクタイを締めて、清潔できちんとした身なりあかしで壇上に立ち、心を込めて感動的な証を述べました。

その日、しばらくたってから、この夫婦が近所から離れた場所を車で走っている

と、つい数時間前に非常に靈的な話をしたこの同じ若い男性の姿を見ました。しかし、そのときの姿は、先ほどとはまったく異なっていました。うす汚れた服装で歩道を歩き、たばこを吸っていたのです。この夫婦は、非常に落胆し、悲しくなっただけでなく、聖餐会で非常に強い確信をもって証をした人が、その直後に、どうしてまったくの別人になるのか、理解することができませんでした。

兄弟の皆さん、皆さんはどこにいても、何をしていても、同じ人物ですか。天の御父がこうあってほしいと望んでおられる人物ですか。こうあるべきだと自分が思っている人物ですか。

末日聖徒であり、有名なアメリカNCAAのバスケットボール選手であるジャバリ・パーカーは、アメリカ全国版の雑誌のインタビューで、父親から受けた最高の助言は何かという質問についてこう答えました。「〔父は〕明るい所あかしにいても、暗い所あかしにいても、まったく同じ人物でありなさいと言いました。」⁴ 兄弟の皆さん、これはわたしたち全てにとって大切な助言です。

聖文は、わたしたち一人一人が今日必要



とする勇気の模範に満ちています。預言者ダニエルは、祈ったら殺すと脅されたときでさえ、祈る勇気を示し、正しいと知っていることを擁護するために非常に大きな勇気を示しました。⁵

アビナダイも勇気ある人でした。彼は、真理を否定するよりもむしろ喜んで自分の命を差し出しました。⁶

ヒラマンに従った二千人の青年たちの模範には誰もが鼓舞されるでしょう。彼らは、純潔で清くあるように教えた親の教えに従うために必要な勇気について教え、その模範を示しました。⁷

おそらく、これらの聖文の話はモロナイの模範で締めくくることができるでしょう。モロナイも最後まで義を守る勇気を持っていました。⁸

預言者ジョセフ・スミスは、生涯を通じて、勇気の模範を数多く示しました。預言者ジョセフと他の兄弟たちがお互いに鎖につながれて——想像してください、お互いが鎖につながれているのです——、ミズーリ州リッチモントの裁判所の隣にある粗末な小屋に拘束されていたとき、最も劇的な出来事の一つが起きました。一緒に拘束されたパーリー・P・プラットは、あ

る夜のことにこう記しています。「わたしたちは真夜中過ぎまで、寝たふりをして横になっていた。何時間の間、番兵が口にする卑猥な冗談や聞くに耐えない汚い言葉、恐ろしい冒瀆の言葉、下品な話に耳も心も苦痛にさいなまれました。」

プラット長老はこう続けています。

「聞いているうちに、強い不快感と、憤りと、嫌悪感を覚えた。義憤がこみ上げてきて、立ち上がって番兵どもを叱責せざるにはいられなくなった。すぐ隣にはジョセフがいて、彼が目覚めているのを知っていたが、わたしはジョセフにも、他の誰にも、何も言わなかった。突然、ジョセフが立ち上がり、雷鳴のとどろきか、ライオンの雄叫びのような声で、わたしの覚えている限り次のように言った。

『黙れ。……イエス・キリストの御名によっておまえたちを叱責し、口をつぐむように命じる。もう一刻たりともそのような言葉を聞いてはられない。そのような話をやめよ。さもなければおまえたちかわたしのどちらかが、今すぐ死ぬことになるぞ。』

プラット長老が記しているように、ジョセフはものすごい威厳をもって、立ちました。彼は鎖につながれ、武器も持ってはいませんが、冷静で威厳にあふれていました。部屋の隅に後ずさりし縮こまったり、ジョセフの足元にうずくまったりしておびえる番兵をジョセフは見下ろしました。このどう見ても手に負えない男たちが赦しを請い、おとなしくなりました。⁹

勇気ある行いが常にこのような劇的な結果をもたらすわけではありませんが、心の平安と権利と真理を守ることができたという思いは常に得られるのです。

大衆受けする考え方という変わりやすい不安定な砂地に根を下ろすなら、信念を確固として保つことは不可能です。正しいと知っていることを強くしっかりと守り通すには、ダニエル、アビナダイ、モロナイ、そしてジョセフ・スミスのような勇気が必要です。彼らは、簡単なことではなく、正しい



いことを行う勇気を持っていました。

わたしたちは皆、恐れを感じたり、あざけりを受けたり、反対に遭ったりすることがあるでしょう。わたしたち皆が世間に迎合しない勇気、原則を守る勇気を持ちましょう。妥協せずに勇気を示す人に、神はほほえんでくださいます。勇気とは、雄々しく命を差し出すことだけではなく、確固として高潔に生きることでありと理解される時、勇気は力強い、魅力ある徳となるのです。わたしたちが正しい生活を送るために努力して前進するとき、間違いなく主からの助けを受け、主の言葉に慰めを見いだすでしょう。わたしは、ヨシユア記に記されている主の約束が大好きです。

「わたしはあなたを見放すことも、見捨てることもしない。……

……強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない。おののいてはならない。」¹⁰

愛する兄弟の皆さん、確固とした勇気をもって、使徒パウロとともに宣言しましょう。「わたしは〔キリストの〕福音を恥としない。」¹¹ そして、その同じ勇気をもって、パウロの勧告に従いましょう。「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」¹²

激しい紛争は起きてはまたやみませんが、人の魂を勝ち取る戦いには終わりはないのです。

主の御言葉はラッパの響きのように、皆さんに、わたしに、そして至る所にいる神権者に響き渡ります。「それゆえ、今や人

は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」¹³ そうすれば、わたしたちは、使徒ペテロが述べたように、まさに「王国の神権者」¹⁴ となり、目的において一つに結ばれ、高い所から力を授けられるのです。¹⁵

今晚一人一人が決意をしてこの部会を後にし、いにしへのヨブとともに、勇気をもって次のように言うことができますように。「わたしの息がわたしのうちにあ〔る〕… 間、……わたしは……潔白を主張してやめない。」¹⁶ そのとおりになりますようにへりくだって祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, "The Charted Course of the Church in Education" 改訂版 (1994年), 7
2. ロバート・ルイス・スティープンソン, in Hal Urban, *Choices That Changes Lives* (2006年), 122
3. チャールズ・スウィンドル, in Urban, *Choices That Changes Lives*, 122
4. ジャバリ・パーカー, "10 Questions," *Time*, 2014年3月17日, 76
5. ダニエル6章参照
6. モーサヤ11:20; 17:20 参照
7. アルマ53:20-21; 56章参照
8. モロナイ1-10章参照
9. *Autobiography of Parley P. Pratt*, パーリー・P・プラット・ジュニア編 (1938年), 210-211
10. ヨシユア1:5, 9
11. ローマ1:16
12. 1テモテ4:12
13. 教義と聖約107:99
14. 1ペテロ2:9 参照
15. 教義と聖約105:11 参照
16. ヨブ27:3, 5





大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長

どんな状況にあっても 感謝する

わたしたちには、自分が置かれている状況に関係なく感謝に満たされてよい理由がないでしょうか。

長年にわたって、わたしは、深い悲しみに心を貫かれているように思われるたくさんの人々と出会う神聖な機会にあずかってきました。そのようなとき、わたしは愛する兄弟姉妹に耳を傾け、彼らの重荷についてともに悲しんできました。彼らに何を言うべきか思索し、試練の中にある彼らをどのように慰め、支えればよいかを知ろうと懸命に努めてきました。

そうした人々の悲しみは、彼らにとって終わりのように思えることが原因である場合がよくあります。愛する人を亡くしたり家族と疎遠になったりして、大切にしてきた関係の終わりに直面している人もいます。結婚や、子供をもうけること、または病気の克服に対する希望の終わりを迎えているように感じている人もいます。混乱を招く世の中の相反する声に惑わされ、かつては真実だと知っていたことを疑い、捨て去ろうとさえして、信仰の終わりに直面している人もいるかもしれません。

織り上げてきた自分の世界がぼろぼろに裂け、孤独と失望の中で当てどもなくさまよっているように感じる時期を、遅かれ

早かれ誰もが経験します。

これは誰にでも起こり得ることであって、免れる人はいません。

わたしたちは感謝することができる

状況は一人一人異なり、誰もが人生の中で他の人と違う経験をします。それでも、わたしは人生で味わう苦痛を取り去ってくれるものがあることを学んできました。人生をもっと幸せと喜びに満ちた、さらには栄光に満ちたものにするために、できることが一つあります。

それは感謝することです。

悲しみの重荷を負っている人に、神に感謝をささげるように勧めるのは、世の知恵に反しているように聞こえるかもしれませんが、しかし、つらい思いを脇に置いて感謝の杯を手取る人は、それを飲むときに癒やしと平安と理解を授かり、清められるのです。

キリストの弟子として、わたしたちは「すべてのことについて、主なる〔わたしたちの〕神に感謝し」、¹「主に感謝して歌〔い〕」、²「神への感謝で心を満た〔す〕」³ように命じられています。

なぜ神は感謝するようにわたしたちにお命じになるのでしょうか。

神の戒めは全て、わたしたちが祝福を受けられるようにするために与えられます。戒めは、選択の自由を行使し、祝福を受ける機会です。愛にあふれる天の御父は、感謝の精神を育むという選択がわたしたちに真の喜びと大きな幸せをもたらすことを御存じなのです。

物事に対して感謝する

しかし、「自分の世界が崩れようとしているときに、何に対して感謝すればよいのでしょうか」と言う人がいるかもしれません。

恐らく、何に対して感謝するか意識を向けるのは間違った方法なのでしょう。感謝の気持ちが数えることのできる祝福の数にのみ比例するとしたら、感謝の精神を育むのは困難です。もちろん、度々「み恵みを数え上げる」のは大切であり、それを試した人は皆、たくさん祝福があることを知っています。ただ、試練のときには豊かで安楽なときほど感謝しなくてよいと主が思っておられるとは思えません。実際、





末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会



第一顧問
ヘンリー・B・アイリング



大管長
トーマス・S・モンソン



第二顧問
ティーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会



ロバート・D・ヘイルズ



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストファーソン



ニール・L・アンダーセン



ロナルド・A・ラスバンド



L・ハイット・ミラー



ドナルド・L・ホールストロム



リチャード・J・メイクス



クレーグ・C・クリステンセン



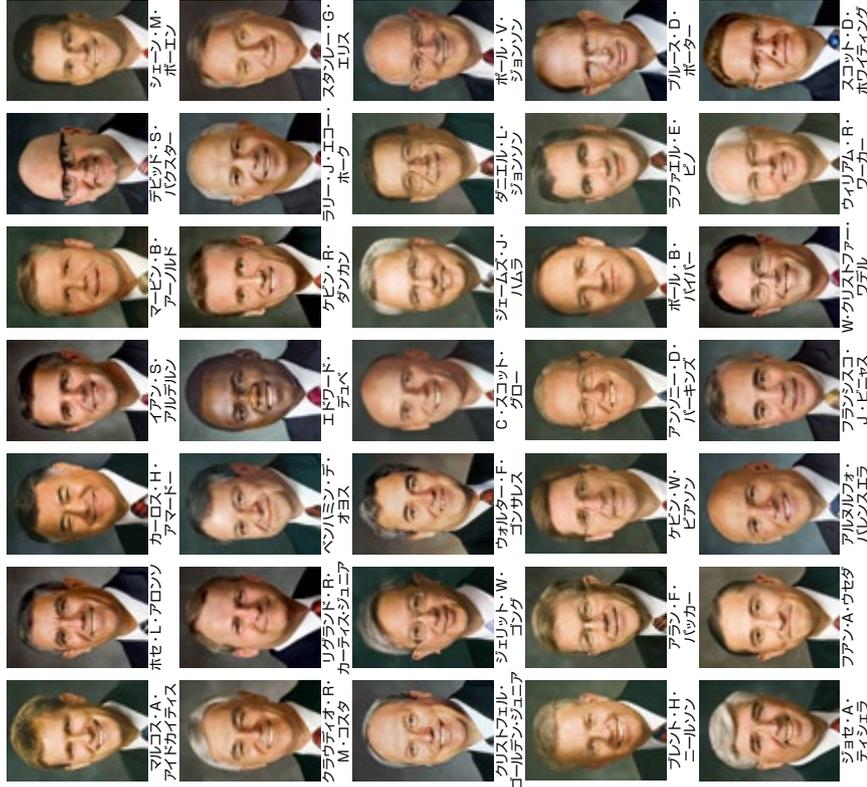
ウォラセス・ソアリス



リン・G・ロビンズ

七十人会長会

七十人第一定員会 (アルファベット順)



管理ビショップリック



七十人第二定員会 (アルファベット順)



中央役員





世界中の末日聖徒が第184回年次総大会のために集まった。
 写真／世界各地の教会員と宣教師たち。
 左上から時計回りに—オーストラリア、ウイーン。
 ブラジル、サンパウロ。
 メキシコ、メキシコシティ。
 モンゴル、ウランバートル。
 アメリカ合衆国、コロラド州ハイランド・ランチ。
 オーストラリア、シドニー。
 ロシア、サンクトペテルブルク。
 アメリカ合衆国ジョージア州ノークロス。





関連聖句のほとんどは、何かに対する感謝の念ではなく、全般的な感謝の精神や態度について述べています。

人生が順調に思えるとき、物事に対して感謝するのは容易です。では、自分の望むものが手の届かないところにあるように思えるときはどうでしょうか。

感謝することを一つの性質として、現在の状況がどうであろうと実践できる生き方として捉えてはどうでしょうか。つまり、「物事に対して感謝する」よりも、どのような状況であろうと、「自分の置かれた状況にあって感謝する」ことに意識を向けるということです。

次のような古い話があります。あるウェイトラーが、食事を楽しんでもらえたかどうかを客に尋ねました。客は、何もかも良かったが、パンがもっと多ければなお良かったと答えました。次の日、その男性がまた来ると、ウェイトラーはパンの量を2倍にし、枚数も2切れから4切れに増やして出しましたが、それでも男性は満足しませんでした。翌日、ウェイトラーはパンをさらに2倍にしましたが、功を奏しませんでした。

4日目、ウェイトラーは何としてもその客を満足させようと心に決めました。そこで長さが3メートルもあるパンを取り、2つに切って、笑顔でその客に出しました。

ウェイトラーはその男性客の反応を見るのが待ち切れませんでした。

食事の後、男性は見上げて言いました。「いつもどおり、おいしかったです。でもパンがまた2切れになりましたね。」

自分の置かれた状況にあって感謝する

愛する兄弟姉妹の皆さん、選ぶのはわたしたちです。祝福が欠けていると感じることを理由に、ある程度だけ感謝するという選択もできます。または、感謝の心が決して揺らがなかったニーファイのようになるという選択もできます。家族を約束の地に連れて行くために造った船の上で、ニーファイは兄たちに縄で縛られました。手首と足首は「大きくはれ上が[って]」ひどく痛み、激しい嵐のために海の深みにのまれそうになりました。ニーファイは、「それでもわたしは神に頼り、一日中神を賛美し、わたしの遭った苦難のことで主に対してつぶやくことはしなかった」と言いました。⁴

また、ヨブのようになるという選択ができます。ヨブは全てを持っているように思われましたが、その後全てを失いました。それでも次のように言いました。「わたしは裸で母の胎を出た。また裸で……帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主の名はほむべきかな。」⁵

モルモンの開拓者のようになるという選

択ができます。彼らはグレートソルトトレイクに向かう苦しい道を進みながら、感謝の精神を持ち続け、歌い、踊り、神の慈しみをあがめました。その困難な旅を経験したなら、わたしたちの多くは、きっと引きこもり、不平を言い、苦しみもだえていたでしょう。⁶

預言者ジョセフ・スミスのようにするという選択ができます。ジョセフはリバティーの監獄の悲惨な状態の中で、靈感あふれる次の言葉を書きました。「親愛なる兄弟たちよ、わたしたちの力の限りすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて、神の救いを目にし、また神の腕が現されるのを見ることができるように。」⁷

どのようなことがあろうと感謝するという選択ができるのです。

このような感謝の精神は、周りで起こっているあらゆることを超越します。それは失望や落胆や絶望に勝るものです。氷で覆われた冬の風景の中でも、夏の気持ち良い暖かな季節と同じように美しい花を咲かせます。

自分の置かれた状況にあって神に感謝するとき、わたしたちは艱難かんなんの中で穏やかな安らぎを味わうことができます。悲しみの中で、なお心を高めて神を賛美するこ

とができます。痛みの中でも、キリストの贖い^{あがな}によって喜ぶことができます。つらい悲しみがもたらす寒さの中で、天に抱かれたかのようなぬくもりを感じることができます。

時々、感謝は問題が解決した後であるものだと考えることがあります。それは何と近視眼的な見方でしょう。雨を神に感謝せずに虹を待ち望んでいるようでは、人生においてどれほど多くのものを見過ごしていることでしょうか。

悩み苦しんでいるときに感謝の気持ちを持つとは、自分の置かれた状況を喜ぶという意味ではなく、信仰の目で今日の試練の先にあるものを見るという意味です。

口先だけではなく、心から感謝するので。そのような感謝は、心を癒やし、思いを広げてくれます。

信仰の行いとしての感謝

自分の置かれた状況にあって感謝するとは、神への信仰を行いに表すことです。それには神を信頼し、まだ見ていない真実



のことを待ち望むことが求められます。⁸ 感謝することによって、わたしたちは愛する救い主の模範に倣います。主は「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」⁹ と言われました。

真の感謝は、希望と証の表れです。そのような感謝は、人生の試練の意味は常に分かるわけではないことを認め、いつの日か分かるだろうと信じることからもたらされます。

どのような状況にあっても、わたしたちが知っている数多くの神聖な真理によって感謝の念が養われていきます。例えば次のような真理です。「御父はその子供たちに偉大な幸福の計画を与えてくださった。」「御子イエス・キリストの贖罪によって愛する人たちと永遠にともに住める。」「最後には病気や障がいの重荷から解かれて栄光に満ちた完全な不死不滅の体を得られる。」「悲しみと喪失感もたらす涙は消え、あふれるばかりの幸福と喜びが、『おし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして』与えられる。」「¹⁰

恐れと疑いを抱いていた救い主の使徒たちを、恐れを知らない喜びに満ちた主の使者に変えたのは、このような証であったに違いありません。主が十字架上で亡くなられてからしばらくの間、彼らは絶望と悲しみに打ちのめされ、何が起こったの

か理解できずにいました。しかし一つの出来事がその全てを変えました。主が彼らに御姿^{みすがた}を現し、次のように言われたのです。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしののだ。」「¹¹

その御方が復活されたキリストであると分かったとき、愛する救い主が栄えある復活を遂げられたことを経験によって知ったとき、使徒たちは別人になりました。どんなことも彼らとその使命を果たすのを妨げることはできませんでした。その証のゆえに、彼らは拷問や屈辱、そして死さえも、勇気と決意をもって受け入れました。¹² 彼らが主をほめたたえ、主に仕えることを妨げるものは何もありませんでした。彼らは至る所で人々の人生を変え、世界を変えました。

皆さんはこのような変化を経験するために、使徒たちのように救い主にまみえる必要はありません。聖霊から得られるキリストの証があるので、皆さんは悲しみをもたらす現世の終わりに目を留めず、世の贖い主が用意してくださった輝かしい未来を見ることができるのです。

わたしたちに終わりはない

永遠の行く末について知っているわたしたちにとって、人生のつらい終わりを受け入れるのは困難なことかもしれません。わたしたちの内には、終わりを認めようと



カナダ、アルバータ州レイモンド

しない何かが存在しているように思われます。

なぜでしょうか。人は永遠に続くものでできているからです。わたしたちは永遠の存在であり、全能の神の子供であって、無窮という名のその御方は、¹³ 無数の永遠の祝福を約束しておられます。数々の終わりは、わたしたちの行く末ではないのです。

イエス・キリストの福音について学べば学ぶほど、この現世で経験する終わりは終わりなどではないことが分かってきます。それは単なる中断であり、一時的に立ち止まった状態にすぎず、忠実な者を待ち受ける永遠の喜びに比べればささいなことに思える日が来るでしょう。

天の御父の計画に本当の終わりはなく、あるのは永遠の始まりだけです。そのこと

を、わたしはどれほど御父に感謝していることでしょうか。

感謝する者は栄光を与えられる

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちには自分が置かれている状況に関係なく感謝に満たされてよい理由がないのでしょうか。

「神への感謝で心を満た〔す〕」ために、さらに何か理由が必要でしょうか。¹⁴

「大いに喜んでよいのではない〔でしよう〕か。」¹⁵

人生という驚くべきつづれ織りに神の御手の業を認める人は何と幸いででしょうか。天の御父に対して感謝の念を抱くとき、理解が広がり、視界が開けます。謙遜になるように促され、同胞や神の全ての創造物を思いやる気持ちが育まれます。感謝はキリストのような属性の全てを身につけるため

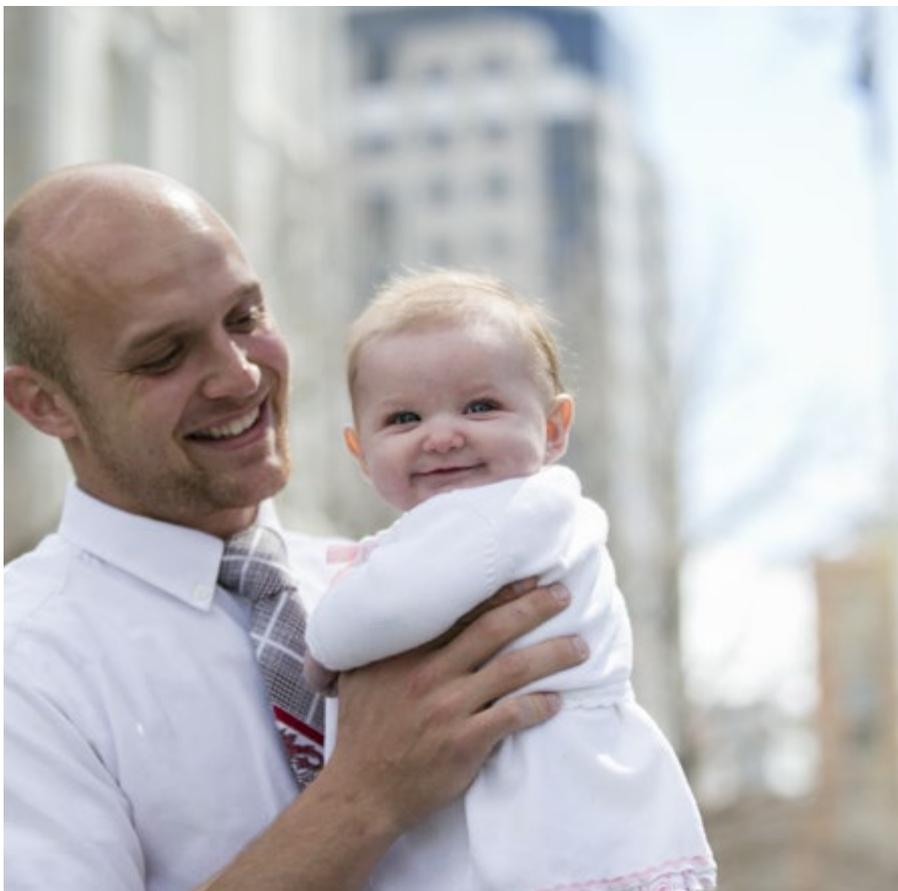
の促進剤なのです。感謝の心はあらゆる徳の源です。¹⁶

主は次のように約束しておられます。「すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう。また、この世のものも百倍、いやそれ以上加えられるであろう。」¹⁷

わたしたちが「日々感謝しながら生活」し、¹⁸ 特に現世の一部である一見説明のつかないような終わりを経験しているときに、感謝することができますように。憐れみ深い天の御父への感謝で心が満たされますように。絶えず声を上げ、天の御父とその愛する御子イエス・キリストへの感謝を言葉と行いによって示すことができますように。このことを祈り、わたしの証と祝福を残します。わたしたちの主、イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 59:7。エペソ 5:20;1 テサロニケ 5:18; モーサヤ 26:39; アルマ 7:23; 教義と聖約 98:1も参照
2. 詩篇 147:7
3. アルマ 37:37
4. 1 ニーファイ 18:10 - 16 参照
5. ヨブ 1:21
6. ひどい苦難の中にあっても明るい態度を持ち続けた開拓者の例として、アンドリュー・D・オルセン、*The Price We Paid: The Extraordinary Story of the Willie and Martin Handcart Pioneers* (2006年)、10、366 - 367を参照
7. 教義と聖約 123:17
8. アルマ 32:21 参照
9. ルカ 22:42
10. ルカ 6:38
11. ルカ 24:39
12. ローマ 5:3;2 コリント 4:17;12:10 参照
13. モーセ 1:3 参照
14. アルマ 37:37
15. アルマ 26:13
16. マルクス・トゥッリウス・キケロ、*Oratio Pro Cnaeo Plancio*, XXXIII, section 80 参照。ジョセフ・B・ワースリン "Live in Thanksgiving Daily," *Ensign*, 2001年9月号, 8
17. 教義と聖約 78:19, 強調付加
18. アルマ 34:38





十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老

フォローアップ

わたしたち一人一人が心に抱いている恐れを真の信仰に代えることによって、これまでよりも伝道活動に継続して関わる〔ことができます〕。

今年9月の、イングランドでの伝道を終えてから64年がたちます。帰還して3日後に、ユタ大学で行われた「ハローデイ」と呼ばれるダンスパーティーに友人と参加しました。友人は、バーバラ・ポーウェンという大学2年生のすてきな学生がいるので会ってみるべきだと、わたしに言いました。その友人は彼女を連れて来て、わたしに紹介し、そしてわたしたちは踊り始めたのです。

不運なことに、このダンスは「タグ・ダンス」と呼ばれるもので、他の男の人に肩をたたかれたら、相手を交代しなければなりません。バーバラはとても快活で、人気者だったので、わたしはすぐに他の男性から肩をたたかれ、彼女とは1分も踊ることができませんでした。

もちろんわたしは納得がいきませんでした。伝道でフォローアップの大切さを学んでいたのに、彼女の電話番号を聞いて、すぐ翌日に電話をしてデートに誘いました。しかし、彼女は大学の勉強や他の用事で忙しかったのです。伝道の経験のおかげで、がっかりするようなことがあっても諦めずに粘り強く努力することを学んだので、その頑張りの結果、彼女とデートの約束を取ることができました。そのデートがきっかけで、それから何度もデートをしました。デートを重ねる中で、わたしは何らかの形で彼女にとって自分が唯一まことの生ける

帰還宣教師だと納得させることができました。64年たった今、7人の子供たちと、多くの孫とひ孫たちに恵まれましたが、彼らの存在は、どれほど大切なメッセージであつても、着実な粘り強いフォローアップなしには分かち合う機会が与えられないことがあるという重要な真理の証^{あかし}となっています。

それで、わたしは今回、以前総大会でお話ししたメッセージから二つフォローアップするように明確な促しを受けました。

2011年10月の総大会で、皆さんに主の次の言葉をよく覚えているようお願いしました。「わたしの教会は、終わりの時にこのように、すなわち末日聖徒イエス・キリ

スト教会と呼ばなければならない。」¹

これらの言葉から、主は明確にこれが単に教会の正式名称であるだけでなく、主の教会が呼ばれるべき名前であることを示しておられます。そのために、わたしたちは、教会を「モルモン教会」や「LDS教会」などのような他の呼び方をするべきではありません。

「モルモン」という言葉は、「モルモン開拓者」のように人々を表したり、「モルモンタバナクル合唱団」のように組織の名称として適切に用いられることもあります。世間一般には、教会員は「モルモン」として知られていますし、教会外の人々と話すときには、必要であれば自分たちを「モルモン」と呼ぶこともあるかもしれませんが。そのようなときでも、教会の正式な名称も紹介するようにしてください。

わたしたちが「モルモン」という言葉に関連して教会の正しい名称を用いるようになれば、わたしたちがクリスチャンであり、救い主の教会の会員であることを示すことになります。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちが末日聖徒イエス・キリスト教会に属しているということをいつも明確に示すことを習慣づけましょう。

わたしが、二つ目にフォローアップするべきだと感じたのは、前回の総大会で会員



の皆さんにクリスマスまでに、少なくとも一人の人に、回復された福音について学ぶのを勧めることができるように、導きを求めて祈るようお願いしたことです。多くの会員から、主に伝道の機会を求めて祈った結果として与えられた特別な経験について分かち合っていました。

例えば、ある帰還宣教師は福音を分かち合うことができる特別な「一人」のもとへ導かれるように具体的に祈りました。そして以前に大学のクラスメートだった人の名前が思い浮かびました。彼はフェイスブックを通じて彼女に連絡を取りましたが、彼女は人生の意味や目的について祈っていたそうです。彼女がちょうど真理を求めていたときにフォローアップすることができ、彼女は12月にバプテスマを受けました。

このように、福音を聞くように勧めたという報告をたくさん受けましたが、この兄弟のようにフォローアップを最後までした事例は少なかったようです。

わたしはフォローアップの原則を固く信じています。伝道活動のガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に次のように述べられているとおりです。「勧めるだけで、フォローアップしないまま放置しておくのは、旅行に出かけたのにいつまでも目的地へ行こうとしないようなこと、または、演奏会の入場券を買ったのに会場に入らないようなことです。果たさなければ、決意は無意味になります。」²

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、人々にただ勧めるように教えてはしません。勧めた後でどのようにフォローアップすればよいかを教えてください。伝道活動の目的は「人々にキリストのもとへ来るよう勧めることです。そのためにあなたは、イエス・キリストとキリストの贖いを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受けること、最後まで堪え忍ぶことを通して、彼らが回復された福音を受け入れられるよう助けるのです」³と定義されています。



勧めることは、確かにその過程の一つです。しかし、ただ人々に宣教師のレッスンを聞くように勧めること以上に、会員の皆さんが伝道活動のためにできることはたくさんあります。それは宣教師とともに、人々が信仰を育み、悔い改めたいという望みを持ち、聖約を交わす備えをし、終わりまで堪え忍ぶことができるようにフォローアップすることを意味しています。

このフォローアップの原則は使徒行伝に示されています。

「さて、ペテロとヨハネとが、……宮に上ろうとしていると、

生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、『美しの門』と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。

彼は、ペテロとヨハネとが、宮にはいつて行こうとしているのを見て、施しをこうた。

ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、『わたしたちを見なさい』と言った。

彼は何かもらえるのだらうと期待して、

ふたりに注目していると、

ペテロが言った、『金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。』

これは主の僕による実に力強い勧めではないでしょうか。しかし、ペテロは勧めをして終わりではありませんでした。聖文には続けてこう書かれています。「彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、

踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいつて行った。」⁴

言い換えれば、ペテロは神権の権能を行使してこの人に立ち上がるようにただ勧めたわけではありません。ペテロはその人の右手を取って、一緒に神殿に入っていくことによって、自分自身の勧めをフォローアップしたのです。

このペテロの模範に従って、わたしたち一人一人が心に抱いている恐れを真の信仰に代えることによって、これまでよりも伝

道活動に継続して関わるように提案したいと思います。少なくとも四半期に1度、つまり毎年4度、誰かを専任宣教師に紹介するように勧めます。宣教師たちは主の深い促しを受け、心から御霊によって教える備えができています。彼らとともにわたしたちの勧めのフォローアップをすることができます。人々の手を取り、立ち上げらせ、霊的な旅とともに歩むことができるのです。

その助けとなるように、わたしは全ての会員が現在の召しや、教会にどれほど活発であるかにかかわらず、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を手に入れるようにお勧めします。教会の配送センターやインターネットを通して入手できますし、教会のウェブサイトから無料で見たりダウンロードしたりすることができます。これは伝道活動のガイドブックです。つまりわたしたち全ての会員にとってのガイドブックなのです。よく読んで、研究し、人々をキリストのもとへ来るように勧めてフォローアップする方法を理解し実践してください。モンソン大管長はこう言いました。「今こそ、会員と宣教師が一致協力して、主のぶどう



園で働き、人々を主のみもとに導く時です。』⁵

イエス・キリストは弟子たちにこう教えられました。

「収穫は多いが、働き人が少ない。

だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。』⁶

主はわたしたちの時代においてその祈りに応えてくださいました。歴史上かつてないほどの数の宣教師を送ってくださったのです。この忠実な働き人の波とともに、主はわたしたちが人の救いのための業に関わる新たな機会を与えてくださっているのです。

わたしたちのすばらしい宣教師たちを助ける実践的な方法があります。例えば、宣教師に自分が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を学んでいることを伝え、彼らがどんなことをそこから学んでいるか尋ねることができます。互いに分かち合うことによって、主が次のようにおっしゃったように、会員と専任宣教師との間に信頼と自信が生まれることでしょう。

「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため」⁷

そして「見よ、わたしは、人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならぬ。』⁸

兄弟姉妹の皆さん、宣教師の家族や友達に宣教師へ送る手紙やメールの中で『わたしの福音を宣べ伝えなさい』から学んだことを分かち合ったらどのような影響

をもたらすか想像できるでしょうか。宣教師の家族にとって、自分の息子や娘が伝道地でどのようなことを学び教えているのかをより深く理解することによって、どのような祝福が得られるか想像できますか。人々に主のもとへ来るように勧めるときに証を述べ、またその勧めをフォローアップするときに、主が約束されたすばらしい贖いの恵みを、互いに、また個人的に享受できるということを想像できるでしょうか。

「あなたがたは祝福されている」と、主はジョセフ・スミスを通して告げられました。「あなたがたが述べた証は、天使たちが見るために天で記録されているからである。そして、天使たちはあなたがたのことを喜んでおり、あなたがたの罪は赦されている。』⁹

「わたしはあなたがたの罪を赦して、この戒めを与えるからである。すなわち、あなたがたは、あなたがたに知らされたこれらのことを世のすべての人に証するために、……あなたがたの思いを確固としていなさい。』¹⁰

わたしたちがフォローアップをするならば、主はわたしたちを失望させるようなことはなさいません。世界中の教会員が証に突き動かされて勧め、忠実にフォローアップすることを通して、言葉にできないほどの喜びがもたらされるのを、わたしは目の当たりにしてきました。最近、アルゼンチンで会員に今回の総大会までに、誰かを教会に招待するように勧めました。ジョシュアという8歳の少年はそれを聞き、友達とその家族をブエノス・アイレス



にある自分のワードのオープンハウスに招待しました。彼の勧めと熱心なフォローアップについて書かれた手紙から少し読みたいと思います。

「数分ごとにジョシュアは門のところに行って、招待した人が来るか見に行きました。ジョシュアは『きっと来る』と言いつけました。

夜になりましたが、ジョシュアの友達はまだ来ませんでした。でもジョシュアは諦めずに数分ごとに門を見に行きました。そろそろ片付けが始まる頃になって、ジョシュアが跳び上がって『来たよ！来たよ！』と叫びました。見上げると、友達が家族みんなで教会に向かって来ているのが見えました。ジョシュアは走って行って彼らを歓迎し、友達を抱きしめました。彼らはオープンハウスを楽しんでいた様子でした。パンフレットを幾つか手にし、新しい友達と知り合う機会もたくさんありました。小さな男の子の信仰を目にし、プライマリーの子供でも宣教師になれることを学びました。」¹¹

主を信頼し、信仰をもって、ともに協力し、一人を見つけ、勧め、フォローアップに努めるときに、主はほほえんでくださり、何千何万という神の子供たちが末日聖徒イエス・キリスト教会に目的と平安を見いだすようになることを証します。わたしたちが救い主の業を速めるために働くときに、主が祝福してくださいませよう、へりくだり、イエス・キリストの御名によりお祈りします、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 115 : 4
2. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい——伝道活動のガイド』, 200
3. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』, 1
4. 使徒 3 : 1 - 8, 強調付加
5. トーマス・S・モンソン「大会へようこそ」『リアホナ』2013年11月号, 4
6. マタイ 9 : 37 - 38
7. 教義と聖約 1 : 20
8. 教義と聖約 88 : 81
9. 教義と聖約 62 : 3
10. 教義と聖約 84 : 61
11. 個人的な書簡, 2014年3月10日付



中央初等協会会長第一顧問
ジーン・A・スティーブズ

「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる」

主を信じる信仰と信頼を育むとき、人を祝福し解放する主の力を受け取ることができます。

親になるときに感じる深い感動に匹敵する感情はあまりありません。天からじかに貴い赤ちゃんを授かることよりもすてきな出来事は他にありません。わたしの弟は、心を揺さぶられる経験を通してその気持ちを感じました。弟の初めての息子は未熟児で生まれ、体重は1,300グラムしかありませんでした。ハンターと名付けられたその赤ちゃんは生後2か月間、新生児集中治療処置室で過ごしました。その2か月の間、家族と親戚の感情は大いに揺さぶられ、わたしたちは主に助けを請いました。

小さなハンターは弱々しく、生きるのに必要な力を得ようと必死でした。息子を愛する父親はか弱い赤ちゃんを励まそうとして、自分の力強い手で何度も赤ちゃんの小さな手に触れ、励ました。

神もその子供たちに同じようにされませう。天の御父は一人一人に御自身の無限の愛をもって手を差し伸べてくださいます。御父は全てを治め、人が学び、成長し、みもとに戻るよう望んでおられます。これこそが「人の不死不滅と永遠の命をもた

らす」¹という御父の目的です。

主を信じる信仰と信頼を育むとき、人を祝福し解放する主の力を受け取ることができます。

モルモン書には、子供たちを解放する主の力という素晴らしいテーマが何度も繰り返されています。ニーファイはモルモン書の最初の章でそのことに触れています。20節にはこうあります。「見よ、主の深いあわれみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力さえ与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。」²

何年も前に、わたしはきわめて個人的な方法で、この節に述べられている真理を理解しました。天の御父がどれほど近くにおられ、助けたいと望んでおられるかを知ったのです。

ある夕方、子供たちを乗せて車を運手していると、一人の少年が人けのない道を歩いていることに気づきました。その少年を通り過ぎた後、引き返して助けるようにという明確な印象を受けました。でも、知ら



ない人が夜に車で近づいて来たら驚くかもしれないと思い、運転を続けました。すると今度は強い印象とともに、「少年を助けに行きなさい!」という言葉が心に聞こえました。

わたしは引き返して、声をかけました。「大丈夫? 助けが必要なんじゃないの?」

少年は振り返り、頬に涙を流しながら、「はい。誰かが助けに来てくれるように祈っていたんです」と言いました。

助けを求める少年の祈りに応えて、わたしに靈感が与えられたのです。はっきりと御霊の導きを受けたこの経験は忘れがたい印象を残し、今でも心に残っています。

25年が経過し、主の深い憐れみにより、ほんの数か月前に、あのとき以来初めてこの少年と連絡を取ることができました。あのときの経験が彼にとっても大切なものであったことを知りました。デリック・ナンスは、今では父親となっています。彼もあの経験が忘れられませんでした。あの経験は、神が祈りを聞いて応えてくださるという信仰の基礎となりました。わたしたちは二人とも子供たちにこの話を聞かせて、神が見守っておられることを教えてきました。

わたしたちは独りではありません。

デリックは、彼の視点からあの経験を話してくれました。あの晩、デリックは放課後の活動で学校に遅くまで残り、最終のバスを逃してしまいました。10代前半のデリックは、きつと家に帰れるだろうと思って歩き始めました。

人けのない道を歩いて1時間半が経過しました。家までまだ何キロもあり、周りに人家がなかったため、怖くなりました。絶望感から、砂利山の裏手に回り、ひざまずいて天の御父に助けを求めました。道に戻るとすぐにわたしの車が来て、祈り求めていた助けが与えられたのです。

何年もたった今、デリックはこう振り返ります。「主は、やせっぽちの、考えの浅い少年のことを御存じでした。世界中に様々な出来事がある中で、御父はわたしの状況を御存じで、助けを送ってくださいました。あの人けのない道端での経験の後、主は何度も祈りに応えてくださいました。いつもすぐに明確な答えが与えられるわけではありませんが、主がわたしを御存じであることは、あの夜と同じように今でもよく分かります。人生の苦難に覆られる

ときは、主は常に安全に家に戻るための手立てを用意しておられます。」

デリックの言うとおりに、全ての祈りがすぐに応えられるわけではありません。しかし御父はわたしたちを御存じで、心からの祈りを聞いておられます。一度に一つの祈りに対して、一人ずつ、奇跡を起こされるのです。

主の助けに信頼を寄せることができます。望んでいる形ではなくても、主は、一番成長を促す方法で助けてくださいます。時に難しく感じることもあるかもしれませんが、御心に従うことは、主に似た者となり主が与えてくださる平安に気づくためには欠かせません。

わたしたちはC・S・ルイスの言葉に共感することができます。「わたしは祈らずにはいられません。寝ても覚めても、常に祈りが必要です。……祈りは神を変えませんが、わたしを変えてくれます。」³

聖典には、主に信頼を寄せ、主の助けを受けて救い出された人々の記録がたくさんあります。若い頃のダビデについて考えてください。ダビデは巨大なゴリアテに殺されるのが明白な場面で、主に頼って死を免れました。ニューファイについて考えてください。ニューファイは信仰を込めて神に懇願することにより、自分の命を狙っていた兄たちから解放されました。若い頃のジョセフ・スミスを思い出してください。ジョセフは主の助けを祈り求め、暗黒の力から解放され、驚くべき答えを受けました。皆、現実の困難な試練に直面しましたが、信仰をもって行動し、主に信頼を寄せ、助けを得ました。今日も、神の力と愛は神の子供たちの生活に現れています。

先日、ジンバブエとボツワナの信仰深い聖徒の生活の中に神の力と愛が現れているのを目にしました。ジンバブエの小さな支部の断食証会で多くの子供や青少年、成人が証するのを聞き、わたしはへりくだり、鼓舞されました。皆の言葉に、主イエス・キリストへの力強い信仰が表れていました。試練や困難の中にあっても、彼らは



神に信頼を寄せて毎日を生きています。彼らはしばしば「わたしは神にとっても感謝しています」と言って、生活の中に神の御手を認めていました。

同じように主を信頼する模範を、数年前ある忠実な家族がワードの会員に示してくれました。ゲートレル夫妻は幸せに暮らしていましたが、夫のアーンが悪性の癌であると診断されました。予後は非常に悪く、余命数週間と宣告されました。家族は最後にもう一度ともに過ごすことを望み、遠くに住んでいる者も含め、子供全員が集まりました。一緒にいられる時間はたった48時間でした。ゲートレル家族は最も大切なことを慎重に選びました。家族写真を撮り、家族で夕食を囲み、ソルトレーク神殿に参入しました。妻のベニタはこう言います。「神殿のドアを出ると、この世で一緒にいられる最後のときがやって来ました。」

しかし彼らは、この世の後にはもっとすばらしい続きがあるという確信を胸に、神殿を後にしました。神殿の聖約のおかげで彼らは神の約束に希望を抱いています。彼らは永遠に一緒にいられるのです。

それからの2か月間、数え切れないほどの祝福を受けました。ベニタの言葉から、アーンとベニタの主への信仰と信頼が深まったことがうかがえます。「わたしは支えられ、混乱のさ中でも平安が得られることを知りました。主が見守ってくださいました。主を信頼すれば、どのような試練も乗り越えられるのです。」

娘がこう言い添えました。「両親の模範を見ました。両親の信仰と、試練に対処する様子を見ました。この試練を望んだわ

けではありませんが、去らせてほしいとも思いませんでした。わたしたちは神の愛に囲まれ、変わりました。」

アーンの死はゲートレル家族が望んだ結果ではありませんが、この危機は信仰の危機ではありませんでした。イエス・キリストの福音は、チェックリストではありません。福音は心に宿すものです。「重荷ではなく翼」であり、支えとなるものです。⁴福音はゲートレル家族を支えました。彼らは嵐のさなかに平安を感じました。互いに手をぎゅっと握り締め、それぞれが交わり守ってきた神殿の聖約をしっかりと握り締めました。主を信頼する能力を増し、イエス・キリストを信じる信仰と主の贖いの力



によって強められました。

弟子として道のどの段階にしようとも、不安や試練が何であれ、わたしたちは独りではありませんし、忘れ去られてもいません。デリックやアフリカの聖徒やゲートレル家族のように、困ったときには神の御手を求めることができます。祈りと主への信頼によって試練に立ち向かうことができます。そうするときに、さらに主のようになるのです。

主は全ての人にこう語りかけておられます。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」⁵

ささやかながら確固としたわたしの証をお伝えます。父なる神はわたしたち一人一人を御存じで、助けの手を差し伸べてくださいます。わたしたちは御父の愛子イエス・キリストを通して、この世の試練を乗り越えて安全に天のふるさとに帰ることができます。主を信じ、主を信頼できますようお祈りします。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. モーセ1:39
2. 1ニーファイ1:20
3. C・S・ルイスの登場人物の言葉、ウィリアム・ニコルソン、*Shadowlands* (1989年)、103で表現されている。
4. ハリー・エマーソン・フォスディック、*Twelve Tests of Character* (1923年)、88
5. イザヤ41:10



管理ビショップ
ゲリー・E・スティーブソンビショップ

あなたの4分間

しょうがい
贖罪の奇跡は、パフォーマンスの不完全さを補うことができます。

最 近開かれた冬季オリンピックに世界中が熱狂しました。89の国を代表する選手が98の種目で競い合いました。驚くべきことに、参加選手のうち10人が末日聖徒で、そのうち3人がメダルを獲得し、最近チャーチニュース (Church News) で紹介されました。クリストファー・フォグト選手、ノエル・パイクスペース選手、そしてトラー・ブライト選手です。¹ 参加した全ての選手の皆さんに、お祝いの言葉を申し上げます。皆さん本当に見事でした!

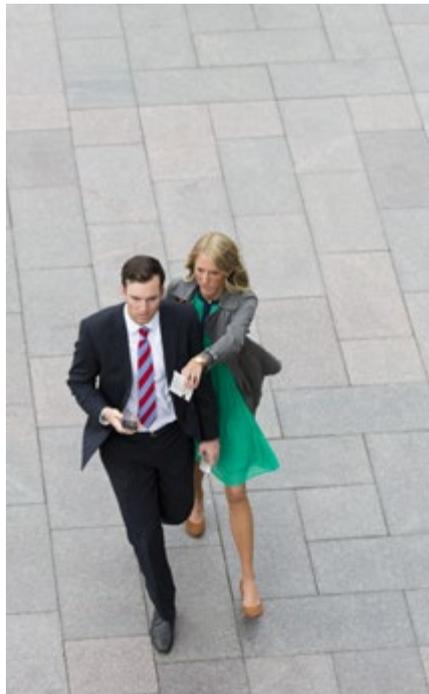
今朝は若い男性、若い女性、ヤングシングルアダルトの皆さんに向けて、オリンピック競技の話をして。皆さんは人生の進路を左右する重要な時期にいます。皆さんに向けて話すことが必要であると強く感じています。

その緊急性を感じていただくために、最初に、末日聖徒の選手の一人、ノエル・パイクスペース選手の話を紹介。ノエルが出場するスケルトンでは、選手は勢いよく助走して、小さなそりに頭からうつ伏せに飛び乗ります。顔を地面から数センチだけ浮かせた状態で、最高時速145キロのスピードで曲がりくねったコースを滑走します。

注目すべきことに、何年にもわたる準備は60秒程度の滑走を4回行った結果によって、成功であったか、あるいは失敗であったかが測られるのです。

前回2006年大会では脚の骨折により出場を断念せざるを得なくなり、彼女の夢はかないませんでした。2010年大会では、0.1秒の差でメダルを逃し、夢を実現することができませんでした。²

2014年のオリンピックで最初の滑走を待っていたときの彼女の気持ちを想像できますか。何年も準備した成果を一瞬で出さなければならないのです。合計で4分です。その4分のために何年も準備して



きましたし、その後の人生を通じてその4分のことを思い返すことになるのです。

ノエルの最終滑走はほとんどミスがありませんでした! ゴール直後に観客席に走り、家族を抱き締めながら「やったわ!」と叫ぶ彼女の姿をわたしたちは忘れることはないでしょう。何年もの準備が実りました。銀メダルが掛けられた彼女の首には、若い女性のメダルも掛かっていました。³

ノエルのオリンピックの夢がたったの4分間で決まってしまうのは不公平だと思えるかもしれませんが、しかし、彼女はそれを知っていたので、熱心に備えました。その4分間の大切さ、影響の大きさ、そして残りの人生に及ぼす意味を、彼女は知っていたのです。

銅メダルを取ったボブスレー男子4人乗りチームには、クリストファー・フォグト選手がいました。彼は2010年大会で大きな衝突を経験したときに引退することもできたのですが、挑戦を続けました。前回の雪辱を果たすすばらしい滑走で、切望していたメダルを手に入れました。⁴

では、この「選手たちの4分間のパフォーマンス」と、永遠の命を目指すことの類似点を考えてみましょう。皆さんは永遠の存在です。この地上に生まれる前、皆さんは霊として生き、愛にあふれる天の御父のみもとで訓練し備えていました。短い一瞬の間、地上に来て競技に参加するためです。この世の生涯は皆さんの4分間です。この世での行いによって、永遠の命という賞を得られるかどうかが決まります。預言者アミュレクは次のように言いました。「現世は……神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、[あなたがた]が各自の務めを果たす時期である。」⁵

ある意味で、皆さんの4分間は既に始まっています。時計は動き出しているのです。使徒パウロの次の言葉がよく当てはまります。「あなたがたも、賞を得るように走りなさい。」⁶

オリンピック選手には、パフォーマンスの



ときに欠かすことのできない動きが幾つかあります。フィギュアスケートやスノーボードの選手にとってはジャンプや回転、ボブスレーの場合はカーブを上手に滑ること、滑降や回転の場合は旗と旗の間を素早く滑り抜けることなどです。わたしたちの人生も同じで、現世の霊的なパフォーマンスに欠かせない、通過するべきチェックポイントがあります。この霊的な道しるべとは、神がお与えになった大切な福音の儀式のことです。すなわち、バプテスマ、聖霊の賜物たまものを受けること、神権の聖任せいじん、神殿の儀式を受けること、そして毎週聖餐を受けることです。

「この神権の儀式によって神性の力が現れる」⁷のです。

スポーツ選手が最高のパフォーマンスをするためにトレーニングを通して自らを備える必要があるように、救いの儀式を受ける資格を得るためにはわたしたちは戒めを守る必要があるのです。

皆さんは、その緊急性を感じていますか。

わたしの若い友人である皆さん、皆さんが「4分間のパフォーマンス」のどの部分にいても、「メダルを取るために、次に何をすべきだろうか」と自問してくだ

さい。この総大会の間に、将来受ける儀式のため、あるいはずっと以前に受けるべきだった儀式のために、適切に備えるように、御霊がささやいたかもしれません。次の一步が何であっても、行ってください。今、行うのです。待たないでください。4分間はあっという間に過ぎ、この世での行いを永遠にわたって思い出すことになるでしょう。⁸

自分を訓練することが必要です。毎日の祈り、聖文研究、教会に行くことを自己訓練の基礎とするべきです。戒めに従い、既に交わした聖約を守り、『若人の強さのために』⁹に載っている主の標準に添って生活するという一貫した行動パターンを持つことは不可欠です。

霊的成長を遅らせたり、止めたりするのが自分の生活の中にあると気づいているかもしれません。もしそうなら、この聖文の勧告に従ってください。「わたしたちは……いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。」⁹

悔い改めの機会はまだまだあります。しかし、すぐになくなるかもしれません。4分間

がいつ終わるか、誰にも分からないのです。

「既に失敗した。わたしの4分間は既に悲惨な状態だ。もうあきらめよう」と思っている人がいるかもしれません。もしそうなら、そのように考えるのをやめ、二度とそのように考えないでください。贖罪の奇跡は、パフォーマンスの不完全さを補うことができます。ジェフリー・R・ホランド長老は次のように教えています。

「まだ尻込みしている皆さん、わたしは……あらゆるものを更新する神の愛の力について、そして神の恵みの奇跡あかしについて、心から証します。……

主……がまだ時間があると言われる限り、遅すぎることは決してないのです。……引き延ばさないでください。」¹⁰

皆さんは独りではありません。救い主は慰めのない状態で皆さんを見捨てることはない約束されました。¹¹ 皆さんには、応援してくれる家族、友達、指導者もいるのです。

ここまでの話は、教会の若い人々に向けて語ってきましたが、ご両親や祖父母の皆さんには次のことをお話します。

最近デビッド・A・ベドナー長老から、救いに不可欠な儀式を受けることによって



家族が聖約の道を歩んでいるかどうかを確認する簡単な方法を教わりました。1枚の紙に二つの欄を作り、一方には「名前」、もう一方には「次の儀式または必要な儀式の計画」を書くのです。先日、わたしはこの方法で家族の名前を書きました。そして、もうすぐ幼児の祝福を受ける孫、バプテスマの準備が欠かせない6歳の孫、神権と神殿のエンダウメントを受ける日が近づいている、18歳になる息子のことに注意を向けました。リストに載っている全員が聖餐の儀式を必要としていました。妻とわたしはこの簡単な方法により、聖約の道を歩めるように家族を助けるという役割を果たし、それぞれに働きかけるための計画を立てることができました。皆さんもこの方法を使い、家族の話し合いや家庭の夕べのレッスン、救いに不可欠な儀式に家族を備え、勧めることができるでしょう。¹²

わたし自身もスキーとスノーボードをするので、末日聖徒でオーストラリア代表のトーラ・ブライト選手がスノーボードのハーフパイプで銀メダルを獲得したパフォーマンスに感動しました。バックサイドドロデオ720で締めくくった彼女の完璧な最終滑走は世界を魅了しました。しかし、さらに感動的で世界を驚かせたのは、彼女がキリストのような愛でライバルの選手を励ましたことでした。トーラは決勝戦の最初

の滑走で失敗したアメリカ代表のケリー・クラーク選手が2回目の滑走を控えて緊張しているのに気づきました。クラーク選手は次のように回想しています。「彼女は抱き締めてくれました。心が静まり、呼吸が落ち着くまでずっと抱き締めてくれました。友達に抱き締めてもらって、うれしかったです。」ケリー・クラーク選手はその後、銅メダリストとしてトーラとともに表彰台に上がりました。

銀メダルを奪われるかもしれない相手に優しく接するというこの珍しい行動について聞かれたとき、トーラはただこう答えました。「競技者ですから最高のパフォーマンスをしたいです。でも、ライバルにも最善を尽くしてもらいたいのです。」¹³

この言葉を心に留めて自問してください。あなたの励ましを必要としている人はいませんか。家族や友達、同じクラスや定員会の中にはいませんか。彼らの4分間をどのように助けられますか。

愛する友人の皆さん、皆さんは爽快な旅の途中です。ある意味で、皆さんはハーフパイプやそり競技のコースを滑っていて、全ての技や全てのターンを決めながら滑走するのは難しいかもしれません。しかし、皆さんはこのために何千年も準備してきました。今が皆さんの本番です。皆さんの4分間は今です！ 今こそ、その時なのです！

わたしは皆さんの力を心から信頼しています。皆さんの隣に世の救い主がおられます。主の助けを求め、主の導きに従うなら、失敗などするでしょうか。

最後に、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長が与えられていることが祝福であること、またイエス・キリストがわたしたちの救い主、贖い主であられることを証します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. クリスティン・ラップレイ, "Mormons in the Olympics: 3 Medals for LDS Athletes at the Winter Games," deseretnews.com/article/865597546/Mormons-in-the-Olympics-3-medals-for-LDS-athletes-at-the-Winter-Games.html 参照
2. クリスティン・ラップレイ, "Mormons in the Olympics" 参照
3. サラ・ピーターソン, "Noelle Pikus-Pace Wears LDS Young Women Necklace throughout Olympics," deseretnews.com/article/865596771/Noelle-Pikus-Pace-wears-LDS-Young-Women-necklace-throughout-Olympics.html 参照
4. エミー・ドナルドソン, "Army, Faith Helped Push Mormon Bobsledder Chris Fogt to Olympic Success," deseretnews.com/article/865597390/Army-faith-helped-push-Mormon-bobsledder-Chris-Fogt-to-Olympic-success.html 参照
5. アルマ 34 : 32
6. 1コリント 9 : 24 参照
7. 教義と聖約 84 : 20
8. アルマ 34 : 31 - 33 参照
9. ヘブル 12 : 1
10. ジェフリー・R・ホランド「ぶどう園の労働者たち」『リアホナ』2012年5月号, 33 参照
11. ヨハネ 14 : 18 参照
12. デビッド・A・ベドナー, 著者との対話より
13. ビディヤ・ラオ, "Snowboarder Kelly Clark: Hug from Competitor Helped Me Win Bronze" today.com/sochi/snowboarder-kelly-clark-hug-competitor-helped-me-win-bronze-2D12108132



十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

容易に重荷に 耐えられるように

人は皆生活の中で異なる重荷を負っていますが、重荷は聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みに頼るようあわに促してくれます。

わたしの親しい友人は結婚して間もない頃、自分と家族のために四輪駆動の小型トラックが絶対に必要だと思いました。彼の妻は、夫は新しい車が必要なわけではなく、ただ欲しいだけに違いないと思いました。次のような冗談交じりのやりとりを通して、この夫婦はそのような買い物の利点と問題点を検討し始めました。

「ねえ、ぼくたちには四輪駆動のトラックが必要だよ。」

彼女は尋ねました。「どうして新しいトラックが必要だと思うの?」

その問いに対し、友人はこれこそ完璧な答えだと確信して言いました。「ひどい嵐のときに子供たちにミルクが必要になって、四輪駆動のトラック以外にスーパーに行く手段がなかったらどうするんだい?」

彼の妻はほほえみながら答えました。「新しいトラックを買ったらミルクを買うお金はないでしょうから、緊急時にスーパーに行けるか心配する必要はないわ。」

二人は時間をかけて話し合いを重ね、最終的にトラックを買うことにしました。新しい車を手に入れて間もなく、友人はそのトラックが実用的であって、自分が買いたいと思った理由が正当なものであったことを示したいと思いました。そこで、家で

使うための薪まきを切り出して運ぶことにしました。秋のことで、友人が木を見つけに行こうとした山にはすでに雪が降っていました。山腹を上って行くにつれ、雪は次第に深くなっていきました。友人は道路が滑りやすく危険な状態であることには気づいていましたが、新しいトラックに絶大な自信をもって進み続けました。

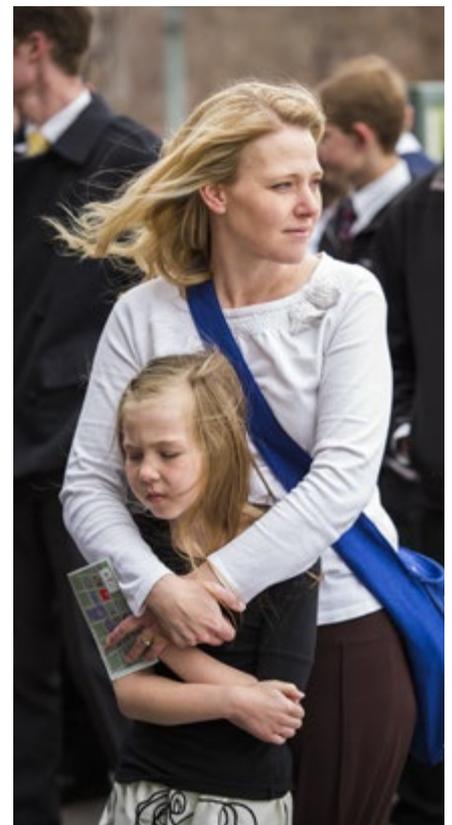
運の悪いことに、友人は雪道を進みすぎてしまいました。木を切ろうと決めていた場所でトラックを道路脇に止めようとしたときに、動けなくなってしまいました。新しいトラックのタイヤは四輪とも雪の中で空回りしました。友人はすぐに、どうすればこの危険な状況から抜け出せるか自分には分からないことに気づき、うろたえ、不安になりました。

友人は覚悟を決め、「ここでじっとしているわけにはいかない」と、車から降りて薪にする木を切り始めました。そしてトラックの荷台を重い積荷でいっぱいになりました。その後、もう一度雪からの脱出を試みることにしました。エンジンをかけて運転してみると、少しずつ前進し始めました。トラックはゆっくりと雪から抜け出し、道路に戻りました。友人はついに自由になり、幸せな気分で、謙遜になって家に帰りました。

わたしたち一人一人の積荷

友人とトラックと薪についてのこの話から学べる重要な教訓を強調するに当たって、わたしは聖霊の助けを祈り求めます。友人が雪から抜け出し、道路に戻り、前進するには、滑らずに進むための駆動力が必要であり、その駆動力をもたらしたのは薪、すなわち積荷でした。友人が家に帰り、家族のもとに戻れたのは、積荷のおかげだったのです。

わたしたちもそれぞれが積荷を負っています。一人一人の積荷は、要求されている事柄と機会、義務と特権、苦難と祝福、選択肢と制限から成っています。指針となる次の二つの質問を用いて、自分の積荷について祈りをもって定期的に吟味するとよいでしょう。「わたしが負っている積荷は、キリストを信じて細くて狭い道を力強く進み、立ち往生を避けるための霊的な駆動





力を生み出しているだろうか。わたしが負っている積荷は、最終的に天の御父の家に帰れるようにするための霊的な駆動力を十分に生み出しているだろうか。」

時々わたしたちは、幸福とは積荷がない状態だと誤解することがあります。しかし、積荷を負うことは幸福の計画において必要不可欠なことです。一人一人の積荷は霊的な駆動力を生み出すものでなければなりませんから、日々の生活の中で「不要な良いもの」をあまりに多く引きすぎることにより、最も重要なものから注意がそれることのないように気をつけなければなりません。

しよくびい 贖罪が持つ、人を強める力

救い主は次のように言われました。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11: 28-30)

くびきとは、通常 2 頭の牛などの動物

と一緒に荷を引けるようにするための横木です。くびきをつけられた動物は横に並ぶので、作業を行うために一緒に動くことができるのです。

「わたしのくびきを負 [い] なさい」という、主の個人的な招きについて考えてください。聖約を交わし守ることにより、人は主イエス・キリストとつながります。人が最善を尽くしても主の力には及ばず、比較にすらなりません。にもかかわらず、救い主は御自分に頼って一緒に荷を引くように招いておられます。現世の旅で主を信頼し、主とともに荷を引くなら、確かに主のくびきは負いやすく、主の荷は軽いのです。

わたしたちは独りではなく、独りでいる必要もありません。日々、天の助けを受けながら力強く進むことができます。救い主の贖罪によって、「自分が持つ以上の」能力と強さを得ることができます(“Lord, I Would Follow Thee,” *Hymns*, 220 番)。主は次のように宣言しておられます。「それゆえ、旅を続け、心を喜ばせなさい。見よ、見よ、わたしは最後まであなたがたとともにいるからである。」(教義と聖約 100: 12)

モルモン書から、アルマとその民がアミュロンから迫害されたときの例を考えて

みましょう。苦難の中にある弟子たちに、主はこう言われました。「あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。わたしは自分の民と聖約を交わし、その民を奴隷の状態から救い出す。」(モーサヤ 24: 13)

聖約の中心が「救い出す」という約束であることに注目してください。イエス・キリストの贖罪を通して用意されている祝福を余すところなく受けるには、誠実な心で聖約を受けて尊び、適切な神権の権能によって執り行われる儀式を受ける必要があります。なぜなら神権の儀式によって、肉体を持つ人間に神性の力が現れるのであって、贖罪の祝福もその中に含まれるからです(教義と聖約 84: 20-21 参照)。

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」という救い主の言葉を思い出しながら(マタイ 11: 30)、アルマの民が受けた次の言葉について考えてください。

「またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、……あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしよう。」(モーサヤ 24: 14)

この聖句は、重荷が突然、永久に取り去

られることを示しているのだ、と思う人が多いかもしれません。しかし次の節に、どのように重荷が軽くなったかが記されています。

「そこで、アルマと彼の同胞に^{はらから}負わされた重荷は軽くなった。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った。」(モーサヤ 24 : 15, 強調付加)

問題や困難は、すぐには取り除かれませんでした。しかし、アルマの民は強められました。能力が高められた結果、重荷が軽くなったのです。彼らは贖罪によって、自ら選択し行動する者として行動する力を授かり(教義と聖約 58 : 26 - 29 参照)、状況に影響を及ぼしました。その後、アルマの民は「主の力を受けて」安全なゼラヘムラの地に導かれました(モルモンの言葉 1 : 14 ; モーサヤ 9 : 17 ; 10 : 10 ; アルマ 20 : 4 を参照)。

イエス・キリストの贖罪は、アダムの墮落の影響に打ち勝ち、人間が犯す一つ一つの罪の赦しを可能にします。しかしそれだけではなく、主の贖罪はまた、人が善い

行いをするを可能にし、死すべき人間の限界を超えてより善い者となることを可能にします。ほとんどの教会員が知っているように、間違いを犯したときや、罪の影響に打ち勝つ助けが必要なときに、贖いの力によって清めていただくことができます。しかし、贖罪が、忠実で、従順で、ふさわしく、誠実な人、そして善い人になろう、忠実に仕えようと努力している人のためにもあることを、わたしたちは理解しているでしょうか。わたしたちは贖罪に人を強める側面があることを十分に認識していないのではないかと懸念しています。根性や意志の力、自制心、明らかに限界のある自分の能力によって、積荷を独りで負わなければならないと思いをしているのでしょうか。

イエス・キリストが地上に来て人のために死んでくださったという知識は大切です。しかし同時に、主は贖罪を通して、そして聖霊の力によって、わたしたちを^{いき}活気づけたい、単に導くだけでなく強め癒したいと望んでおられるということも知る必要があります。



救い主は御自分の民を救われる

アルマは、救い主が能力をお授けになることができる理由とその方法を説明しています。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ 7 : 11 - 12)

こうして、救い主はわたしたちの罪悪のためだけでなく、わたしたちが経験する肉体的な痛みや苦悶、弱さや至らなさ、恐れや挫折、失望や落胆、後悔や自責の念、絶望や自暴自棄、不公平や不平等、そしてわたしたちが味わう情緒的な苦悩のためにも苦しみました。

わたしたちが現世で直面する肉体的な痛み、霊的な傷、苦悩や心痛、病や弱さのうち、救い主が経験なさらなかったものは一つもありません。自分の弱さに悩むとき、「この苦しみは誰にも分からない」と声を上げることがあるかもしれません。しかし、神の御子は全てを完全に理解しておられます。わたしたち一人一人の重荷を負われたからです。そして主は無限にして永遠の犠牲をささげたので(アルマ 34 : 14 参照)、わたしたちの気持ちを完全に



理解し、憐れみの腕を伸べることがおできになります。主は手を差し伸べ、触れ、助け、癒し、強め、わたしたちが自分でなれる以上の者にしてください、自分の力では決してできないことをできるようにしてください。実に、主のくびきは負いやすく、主の荷は軽いのです。



招きと約束と証^{あかし}

自分の積荷について吟味するとき、救い主の贖罪についてさらに研究し、祈り、深く考え、学ぶようにお勧めします。贖罪は多くの点で人知をはるかに超えたものですが、贖罪には、理解することができ、理解する必要がある側面が多くあります。

わたしの友人の場合は、薪の重さが命を救う駆動力を生じました。たとえ四輪駆動であっても、空のトラックでは雪の中から抜け出すことができませんでした。駆動力を生み出すには重い積荷が必要だったのです。

まさに積荷のおかげで駆動力が生まれ、友人は空回りの状態から抜け出し、道路に戻り、力強く前進し、家族のもとに帰ることができたのです。

人は皆生活の中で異なる重荷を負っていますが、重荷は聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みに頼るよう促してくれます(2ニーファイ2:8参照)。容易に重荷に耐えられるように救い主が助けてくださることを証し、約束します(モーサヤ24:15参照)。聖約を通して主とともにくびきを負い、贖罪の「可能にする力」を受けるとき、わたしたちは主の御心を理解して御心に従って生きようとますます求めるようになります。状況を変えてくださいと神に祈り続けるのではなく、状況から学ぶ強さ

や、状況を変える強さ、状況を受け入れる強さを祈り求めるようになります。受け身ではなく、自ら選択し行動する者になります(2ニーファイ2:14参照)。霊的な駆動力を授かるのです。

救い主の贖罪によって、一人一人の行いと人格が改善されますように。今日は4月6日です。わたしたちは啓示によって、この日が救い主がまさに降誕された正確な日であることを知っています。4月6日は末日聖徒イエス・キリスト教会が組織された日でもあります(教義と聖約20:1;ハロルド・B・リー, "Strengthen the Stakes of Zion," *Ensign*, 1973年7月号, 2; スペンサー・W・キンボール, "Why Call Me Lord, Lord, and Do Not the Things Which I Say?" *Ensign*, 1975年5月号, 4; スペンサー・W・キンボール, "Remarks and Dedication of the Fayette, New York, Buildings," *Ensign*, 1980年5月号, 54; Discourses of President Gordon B. Hinckley, Volume 1: 1995-1999 [2005年], 409参照)。この特別な聖なる安息日に、キリスト・イエスがわたしたちの贖い主であられると証します。主は生きておられ、清め、癒し、導き、守り、強めてくださいます。このことを、イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■



トーマス・S・モンソン大管長

悔やんだことは一度もない。⁵

愛——福音の真髄

この現世の旅を共にしている同胞^{はらから}を愛さないならば、本当に神を愛することはできません。

愛 する兄弟姉妹の皆さん、救い主は人々の中で教え導いておられたとき、律法学者から次のような質問をお受けになりました。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」

マタイの記録によれば、イエスはこうお答えになりました。

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』¹

マルコはこの話を、救い主の次の御言葉で結んでいます。「これより大事ないましめは、ほかにない。」²

この現世の旅を共にしている同胞を愛さないならば、本当に神を愛することはできません。同様に、わたしたち全員の御父であられる神を愛さないならば、完全に同胞を愛することはできません。使徒ヨハネは次のように言っています。「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。」³ わたしたちは皆、天の御父の霊の子供であり、したがって兄弟姉妹です。この真理を心に留めておくと、神の全ての子供たちを愛するのが容易になります。

実際、愛はまさに福音の真髄であって、イエス・キリストはわたしたちの模範であります。主の生涯は愛の遺産です。主は病める者を癒やし、虐げられた者を抱き上げ、罪人を救われました。最後には、怒った群衆が主の命を取りました。それでもなお、ゴルゴタの丘から次の御言葉が聞こえてきます。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」⁴ この御言葉には現世における究極の哀れみと愛が表れています。

愛の表れである特質はたくさんあります。優しさ、忍耐、無私^{ゆる}の心、思いやり、救し。あらゆる人との交わりの中で、わたしたちはこれらの特質やその他の特質によって、心に抱いている愛をはっきりと示すことができます。

通常、わたしたちの愛は互いに日々交わる中で示されます。何よりも大切なのは、誰かの必要に気づいて応じる能力でしょう。次の短い詩の中で表現されている気持ちを、わたしはいつも大切にしてきました。

人の必要に気づかずに、
枕を涙でぬらした夜は
数知れない。
だが、ほんの少し人に尽くしすぎたから
とって

最近、愛にあふれる優しさの一例である感動的な話について知りました。その結末は予期せぬものでした。1933年、世界大恐慌のために就職先を見つけるのが困難だった時期のことで、合衆国東部での話です。アーリーン・ビーセカーは、高校を卒業したばかりでした。長く続いた職探しの後、ついに縫製工場^{ミシン}で衣服を縫う仕事を得ました。工場^{ミシン}で働く人たちは、毎日自分が縫ってきちんと仕上げた数だけ支払いを受けました。たくさん仕上げればそれだけ賃金が増えるのです。

工場^{ミシン}で働き始めて間もないある日、アーリーンはある手順のところで行き詰まり、困惑といらだちを覚えました。ミシンの前に座り、縫い物を完成させるために、失敗した箇所をほどこうと試みました。助けてくれる人は誰もいないように思われました。他の縫製員は皆、できる限り多くの衣服を仕上げようと急いでいたからです。アーリーンは自分の無力さを感じ、絶望的になりました。そして静かに泣きだしました。

アーリーンの真向かいに座っていたのがバーニス・ロックでした。バーニスは年上で、縫製員としても先輩でした。アーリーンが困り果てているのに気づき、バーニスは自分の作業をやめてアーリーンの傍らに行き、優しく方法を教え、手伝ってあげました。そしてアーリーンが自信を得て、無事に仕上げられるまでついていてあげたのです。その後、バーニスは自分のミシンに戻りました。ただ、手伝ってなければ仕上げることができただであらう、皆さんの衣服を仕上げる機会を逃してしまいました。

この一つの愛にあふれた優しさの行いによって、バーニスとアーリーンは生涯の友となりました。やがてそれぞれ結婚し、子供ができました。1950年代のあるとき、教会員だったバーニスはアーリーンと



その家族にモルモン書を1冊贈りました。そして1960年、アーリーンと彼女の夫と子供たちはバプテスマを受けて教会員になりました。後に、神の聖なる神殿で結び固められました。

きっかけはバーニスの思いやりでした。相手のことはよく知りませんでしたが、困り果てて助けを必要としていた人を、自分のことは後回しにして助けに行きました。こうして思いやりを示した結果として、今では生者も死者も含めて無数の人たちが福音の救いの儀式を享受しているのです。

日々の生活の中で、わたしたちには周りの人に愛と優しさを示す機会があります。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように述べています。「駐車場、オフィス、エレベーターなど、様々な所で会う人は皆、神がわたしたちに愛し仕えるようにと望んでおられる人々であることを忘れないでください。もし周囲にいる人たちを自分の兄弟姉妹として

見ることができないうしたら、人類は皆兄弟であるなどと言っても、何の益にもなりません。』⁶

愛を示す機会は思いがけないときに訪れることがよくあります。そのような機会の例が、1981年10月の新聞記事で紹介されました。その中で述べられていた愛と思いやりで深く胸を打たれたので、わたしは記事を切り抜いて30年以上ファイルに保存してきました。

記事によれば、乗客150人を乗せてアラスカ州アンカレジからワシントン州シアトルへ向かっていたアラスカ航空の直行便が、重傷を負った子供を運ぶために迂回してアラスカの辺境の町に向かいました。2歳の男の子が、自宅近くで遊んでいたときに転び、ガラスの破片で腕の動脈を切ってしまったのです。町はアンカレジの南方450マイル(725キロ)にあり、もちろん飛行経路からは外れていました。しかし、現場で治療に当

たった医師たちが必死に協力を要請した結果、男の子が病院で治療を受けられるように、この飛行機が迂回して男の子を乗せ、シアトルへ連れて行くことになりました。

その辺境の町の近くに飛行機が着陸したとき、医師たちはパイロットに、男の子は出血がひどく、シアトルまで飛んでいては命が持たないことを告げました。そこで、病院がある最寄りの都市アラスカ州ジュノーまで、さらに飛行経路から外れて200マイル(320キロ)飛ぶことになりました。

男の子をジュノーに運んだ後、飛行機は予定より数時間遅れてシアトルに向かいました。乗客のほとんどが約束や乗り継ぎの飛行機に間に合いそうにありませんでしたが、不平を言う人は誰もいませんでした。それどころか、時が刻々と過ぎていく中で、彼らは寄付金を集め、男の子とその家族のために相当な額を集めました。

飛行機がシアトルに着陸しようというとき、乗客は大きな歓声を上げました。男の子は助かるとの無線連絡を受けたと、パイロットがアナウンスをしたのです。⁷

わたしは次の聖句の言葉を思い浮かべました。「この慈愛はキリストの純粋な愛であって、……終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。』⁸

兄弟姉妹の皆さん、愛を示す最も重要な機会の幾つかは、わたしたち自身の家庭の中で訪れます。愛は家族生活のまさしく中心にあるべきものですが、そうになっていないことがしばしばあります。あまりに多くのいらいらや言い争い、けんか、そして涙が見られることがあります。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように嘆いています。「自分の〔最も〕愛する〔人たち〕に、荒々しい言葉を頻繁にぶつけるのはなぜでしょうか。……ナイフのように人を深く傷つける言葉をときどき口にするのはなぜでしょうか。』⁹ これらの問いに対する答えは人によって異なるかもしれませんが、肝心なことは、理由は重要ではないという点です。もし互いに愛し合いなさいという戒めを守ろうとするのであれば、互いに優しさと敬意をもって接しなけれ



ばなりません。

もちろん、厳しい態度を執る必要があるときもあるでしょう。しかし、教義と聖約に記されている勧告を覚えておきましょう。すなわち、人を責める必要があるときには、その後、一層の愛を示すということです。¹⁰

わたしたちが周りの人の考えや気持ち、状況にいつも心を配り、敏感であろうと努めるようにと願っています。人の名誉を傷つけたり、人をけなしたりしないようにしましょう。その代わりに、思いやり深くあって、人を元気づけましょう。不用意な言葉や行いによって他の人の自信を打ち砕くことのないように気をつけなければなりません。

赦しは愛と切り離して考えることができ

ません。家族の中で、また友人との間で、心が傷つき、仲たがいがいることがあります。この場合もやはり、たとえ最初はどんなに小さな問題であったとしても、それが心をむしばみ、腐敗させ、最終的には破壊してしまうのを放置することなどできませんし、そうすべきではありません。相手を非難しても傷はふさがりません。赦しによってのみ癒やされるのです。

もう亡くなった愛らしいご婦人が、ある日わたしの会話の中で不意に悲しい話をしてくれました。何年も前に近所の農夫との間で起こった出来事です。かつては仲の良い友人でしたが、その女性とご主人は、時折その人と言いつ争うことがありました。ある日、その農夫から、自分の土地まで近道をするためにお宅の敷地を通して

もよいかと尋ねられたそうです。ここまで話したところで女性は一瞬沈黙し、声を震わせながらこう言いました。「モンソン兄弟、わたしはそのときもその後も、その人を通してあげずに、彼の敷地まで遠回りさせてしまったのです。わたしは間違っていました。後悔しています。その人はもう亡くなりましたが、『本当にごめんなさい』と言えたらどんなにいいでしょう。優しくするチャンスがもう一度あったなら、と心から思います。」

彼女の話の聞きながら、ジョン・グリーンリーフ・ホイットティアの深い悲しみの言葉が心に浮かびました。「舌が語り、ペンがつづる悲しい言葉の中で、最も悲しい言葉はこうだ。『しようと思えばできていたのに!』」¹¹ 兄弟姉妹の皆さん、互いに愛と優しい心遣いをもって接するとき、わたしたちはそのような後悔を避けることができるでしょう。

愛は目に見える様々な方法で表現されます——ほほえむこと、手を振ること、優しい一言を口にする、抱擁すること。次のような方法で、よりさりげなく表現されることもあります——相手がしていることに関心を示すこと、優しく忍耐強く原則を教えること、病氣の人を見舞い、家から出られない人を訪問すること。ここに挙げたものや、他にも様々な言葉や行いを通して、愛を伝えることができます。

著名なアメリカの著述家であり講演家であるデール・カーネギーは、人はそれぞれ「孤独な人や落胆している人に心からの称賛の言葉を少しばかりかけることによ



オーストリア、ウイーン



十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

て」世界の幸福度を高める力を秘めている、と確信していました。彼はこう言っています。「恐らく皆さんは今日かけた優しい言葉を明日には忘れてしまうことでしょう。でも、かけてもらった人はその言葉を一生大切にすることもできません。」¹²

わたしたちが今から、まさに今日から、家族であろうと友人であろうと、あるいは単なる知り合いやまったく知らない人であろうと、神の全ての子供たちに愛を示し始めますように。毎朝起きるときに、どのようなことが起ころうとも愛と優しさをもって応じると決意しましょう。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちに対する神の愛は人の理解を超えるものです。この愛のゆえに、神はその御子を遣わしてくださり、御子はわたしたちが永遠の命を得られるように御自分の命をささげるほどに、わたしたちを愛してくださいました。この比類のない賜物^{たまもの}について理解するにつれて、わたしたちの心は永遠の御父と、救い主と、全ての人に対する愛で満たされることでしょう。そうなることを、イエス・キリストの聖なる御名^{みな}によって切に祈ります、アーメン。■

注

1. マタイ 22:36 - 39
2. マルコ 12:31
3. 1ヨハネ 4:21
4. ルカ 23:34
5. 作者不詳、リチャード・L・エバンズ "The Quality of Kindness," *Improvement Era*, 1960年5月号, 340で引用
6. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 (1982年), 483
7. "Injured Boy Flown to Safety," *Sitka Daily Sentinel* (Alaska), 1981年10月22日付参照
8. モロナイ 7:47
9. ゴードン・B・ヒンクレイ「愛を生活の道しるべに」『聖徒の道』1989年7月号, 69参照
10. 教義と聖約 121:43 参照
11. "Maud Muller," *The Complete Poetical Works of John Greenleaf Whittier* (1878年), 206に収録, 強調付加
12. デール・カーネギーの言葉, ラリー・チャン, *Wisdom for the Soul* (2006年), 54などで引用

証人

わたしは最も価値ある真理を皆さんと分かち合いたいと思います。

戦争の時代や不確実な時代に、本当に重要な事柄にしっかりと焦点を合わせる一つの方法があります。

第二次世界大戦は、わたしがひどい霊的混乱を感じた時でした。わたしはほんのわずかな証を携えてユタ州ブリガムシティーの家を後にしており、もっと多くの何かが必要だと感じていました。実質上、わたしたち高校3年生のクラス全員が数週間のうちに戦地に赴いていました。日本の沖縄の北にある伊江島の駐屯地にいたとき、わたしは疑念や不安と闘っていました。福音について個人的な証を得たいと思いました。知りたかったです。

眠れないある夜のこと、わたしはテントを出て、掩蔽壕（訳注——敵の攻撃から身を守るために造られた施設）に入りました。その壕は、砂を詰めた50ガロン（約190リットル）燃料用ドラム缶を何本も並べ、また積み重ねて周りを囲って造られていました。屋根はありません。それでわたしは腹ばいになって入り、満天の星空を見上げ、ひざまずいて祈りました。

祈りの途中で、それは起こりました。何が起こったかを話そうとしても、わたしはそれを言葉にできません。表現する力を超えているのです。しかし、今日も、65年以上前のあの夜と同じようにそれははつき

りとしています。それが非常に私的で、非常に個人的な現れであることが分かりました。ついに自分自身で知りました。確かに知りました。それが自分に与えられたからです。しばらくして、わたしはその壕からはい出して、宙を歩いているかのような心地よい気分で歩いてテントに戻りました。そして喜びと畏敬の念をもってその夜の残りの時間を過ごしたのです。

わたしは自分が特別な人間だと考えることはなく、そのようなことが自分にあったのであれば、誰にでもそれは起こり得ると思いました。今もそう信じています。その後の数年間に、わたしは、そのような経験は同時に、従うべき光であり、担うべき重荷であると理解するようになりました。

わたしは最も価値ある知識であるそれらの真理、すなわち、わたしがおよそ90年の生涯と中央幹部としての50年以上の期間に学び経験した事柄を、皆さんと分かち合いたいと思います。わたしが知るようになったことの多くは、教えることはできませんが、学ぶことのできる事柄の範疇に入るものです。

ほとんどの大いに価値のあるものと同じく、永遠に価値のある知識は、個人的に祈り、深く考えることによってのみ与えられるのです。これらは、断食ならびに聖文研究と併せて行うことで、印象と啓示と聖なる御霊^{みたま}のささやきを招きます。これがわた



したちに天からの教えをもたらし、わたしたちは訓戒に訓戒を学ぶのです。

啓示では次のように約束されています。「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。」また、「精励と従順によって、……知識と英知を得る」と(教義と聖約 130:18-19)。

わたしが知るようになった一つの永遠の真理は、神が生きておられることです。神はわたしたちの御父であられ、わたしたちは神の子供です。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」(信仰簡条 1:1)

神は用いることができるその他のあらゆる称号の中から、「父」と呼ばれることを選ばれました。救い主はこう命じておられます。「だから、あなたがたはこう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父

よ』」と(3ニーファイ 13:9。マタイ 6:9も参照)。神が「父」という呼び名を用いられたことは、この世で最も重要なことは何かを理解するようになるうえで、全ての人に向けた教えとなります。

親であることは神聖な特権です。そして、忠実であることによって、それは永遠の祝福となり得るのです。教会における全ての活動の最終的な目的は、男性とその妻とその子供たちが家庭で幸せになれるようにすることです。

結婚していない人々や子供を持っていない人々も、求めていながら、今はまだ自分の手の届かないところにありますが、その永遠の祝福を拒まれることはありません。わたしたちは祝福がどのように、あるいはいつ、そのような人々に与えられるか必ずしも知っているわけではありません。しかし、神聖な聖約を交わして守る忠実な人は

誰も、永遠に増し加えられるという約束を拒まれないのです。

皆さんのひそかな願いと涙ながらの訴えは、御父と御子御二方の心を打つことでしょう。皆さんの生涯は満たされ、不可欠な祝福は何一つ失われることはないという、個人的な確信が御二方から与えられることでしょう。

聖任された職に務める主の僕として、わたしは、このような状況にある人々に約束します。皆さんの救いと昇栄に不可欠なものが、皆さんにずっと与えられないということは一切ありません。今何も持っていない両手はやがて満たされ、今夢が破れて傷つき、願い続けている心は癒されるでしょう。

わたしが知るようになったもう一つの真理は、聖霊が実在の御方であられるということです。聖霊は神会の第三の御方です。その使命は真理と義について証することです。聖霊は、平安な気持ちや安心感など、多くの方法で御自身を現されます。また、慰めと導きをもたらし、必要なときには正してください。わたしたちは義にかなった生活をするので、生涯にわたって聖霊を伴(はかりよ)りよとできるのです。

聖霊の賜物は福音の儀式を通じて授けられます。権能を持つ人は教会の新会員の頭に両手を置いて、このような言葉を述べます。「聖霊を受けなさい。」

この儀式だけでわたしたちは目に見えて変わるわけではありません。しかし、聖霊の促しに耳を傾けて従うならば、聖霊の祝福を受けます。天の御父の息子や娘はそれぞれ、モロナイの約束が事実であることを知るようになるのです。「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」(モロナイ 10:5, 強調付加)

わたしが自分の人生で得た一つの崇高な真理は、主イエス・キリストについての証です。

最も重要で、かつ、わたしたちが行う全てのことの支えとなるのが、様々な啓示に



メキシコ、メキシコシティー

よれば、主の名です。それはわたしたちが教会で務めを果たす際に用いる権能です。祈りは全て、それが幼い子供たちによるものであっても、イエス・キリストの名によって終わります。全ての祝福、全ての儀式、全ての聖任、全ての正式な行為は、イエス・キリストの名によって行われます。これはイエス・キリストの教会であり、イエス・キリストにちなんで名付けられている、末日聖徒イエス・キリスト教会です（教義と聖約 115：4 参照）。

モルモン書には、ニーファイ人が「〔主の御名〕名によって御父に祈って〔た〕」ときのあの偉大な出来事が記されています。主が御姿を現して言われました。

「あなたがたはわたしから何を与えられたいのか」と。

「そこで彼らはイエスに、『主よ、この教会をどのような名で呼ぶべきか、わたしたちにお教えいただきたいと存じます。この件について民の中に論争がございますから』と言った。

すると主は、彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに言う。民がこのことについてつぶやき、論じ合うのはなぜか。

彼らは、『キリストの名を受けなければならない』という聖文を読んだことがないのか。キリストとはわたしの名である。終わりの日にあなたがたは、この名によって呼ばれるのである。

わたしの名を受け、最後まで堪え忍ぶ者は、終わりの日に救われるであろう。

だから、あなたがたが行くことは何事でも、わたしの名によって行いなさい。あなたがたは教会をわたしの名で呼びなさい。また、父がわたしのために教会を祝福してくださいるように、わたしの名によって父に呼び求めなさい。」（3 ニーファイ 27：2－7）

それが主の名、イエス・キリストです。「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからで〔す〕。」（使徒 4：12）

教会にいるわたしたちは、主がどのよう

な御方であられるかを知っています。神の御子イエス・キリストです。御父の独り子です。殺された御方であり、再び命を得ておられる御方です。御父に対するわたしたちの弁護者です。「〔わたしたち〕は、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。」（ヒラマン 5：12）この御方は人生の嵐の中でわたしたちを支え、わたしたちと家族を守ってくださる錨です。

日曜日ごとに全世界で、国籍や言語を問わず会衆が集まり、同じ言葉で聖餐が祝福されます。わたしたちはキリストの御名を受け、いつもキリストを覚えます。それがわたしたちの心に刻まれています。

預言者ニーファイはこう述べています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」（2 ニーファイ 25：26）

わたしたちはそれぞれ、主イエス・キリストについて自分自身の証を得なければなりません。その後、家族や他の人々にその証を伝えるのです。

さらに、主の業を妨げようとしている悪魔がいるということを忘れないでください。わたしたちは誰に従うかを選ばなければなりません。個人として救い主に従う決意をし、救い主の側に忠実にとどまるようにするときに、わたしたちは守られます。

新約聖書の中で、ヨハネは、救い主とその教えに身を委ねることができない人々がいたことをこう記しています。「それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

そこでイエスは十二弟子に言われた、『あなたがたも去ろうとするのか。』

シモン・ペテロが答えた、『主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。

わたしたちは、あなたが神の聖者である

ことを信じ、また知っています。』(ヨハネ 6:66 - 69)

ペテロは、救い主に従う各人が学ぶことのできる事柄を習得していたのです。イエス・キリストに忠実に献身するために、わたしたちはイエス・キリストを自分の贖い主として受け入れ、またイエスの教えに従って生活するように自分の力の範囲内で全てのことを行います。

これまで長年生活し、教え、奉仕し、何百キロも世界中を旅したことで経験してきた全てのこととともに、わたしが伝えたい一つの偉大な真理があります。それは救い主イエス・キリストについてのわたしの証です。

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは、ある神聖な経験をした後、次のように記録しました。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちは……小羊を見たからである。(教義と聖約 76:22 - 23)

彼らの言葉はわたしの言葉でもあります。

わたしはイエスが神の御子、キリストであられること、そして、イエスは生きておられることを信じており、またわたしは確信しています。イエスは御父の独り子であり、「彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造され[まし]た。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘とな[ります。]」(教義と聖約 76:24)

わたしは救い主が生きておられることを証します。わたしは主を知っています。わたしは主の証人です。イエスが天の御父の子供たち全員のために大いなる犠牲を払い、また永遠の愛を抱いておられることを、わたしは知っています。わたしは心からへりくだり、しかし絶対的な確信をもって、わたしの特別な証を述べます。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
ウィリアム・R・ワーカー長老

信仰に忠実に生きる

わたしたち一人一人は、わたしたちの先祖を教会の加入へと導いた信仰と犠牲の物語を知れば、それだけ大いに祝福されるのです。

わたしは教会歴史が大好きです。恐らく多くの皆さんがそうであるように、福音を受け入れ、信仰に忠実に生きた先祖たちの並外れた献身の様子を知るとき、わたし自身の信仰も強められます。

1か月前のこと、アリゾナ州ギルバート神殿地域から集まった1万2,000人のすばらしい若者たちが新しい神殿の完成を祝って、靈感あふれる劇を上演し、義にかなって生きようとする決意を示してくれました。この祝典のテーマは「信仰に忠実に生きる」というものでした。

あの忠実なアリゾナの若者たちと同じように、末日聖徒は一人一人が「信仰に忠実に生きる」と決意する必要があります。

賛美歌の歌詞には「われら受けし信仰持ち」(「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番)とあります。

わたしたちはそれに「祖父母から受けし信仰持ち」と加えることもできますでしょう。

わたしは、あの熱意あふれるアリゾナの若者たち一人一人が、自分自身の教会歴史を知っているだろうか、と考えてみました。自分自身の家族がどのようにして教会員になったか、その歴史を知っているだろうかと考えたのです。末日聖徒が皆、その先祖の改宗の物語を知っていたとしたら、それは実にすばらしいこととなります。

皆さんが開拓者の子孫であるかどうか

にかかわらず、モルモンの開拓者の信仰と犠牲の遺産は、皆さんの受け継ぎでもあります。それは末日聖徒イエス・キリスト教会の気高い遺産だからです。

教会の歴史の中でも、最も心躍る物語の一つは、主の使徒であったウィルフォード・ウッドラフが、1840年に英国全土でイエス・キリストの回復された福音を教えたときに起きたものです。教会が設立されてちょうど10年後のことでした。

ウィルフォード・ウッドラフや他の使徒たちは、御業をイギリスのリバプール地区とプレストン地区に絞り込み、かなりの成功を収めていました。ウッドラフ長老は、後に教会の大管長になった人物ですが、このきわめて重要な御業を進めるに当たって、絶えず神に導きを求めて祈っていました。その祈りの結果、他の場所へ赴いて福音を教えるようにという靈感を受けたのです。

モンソン大管長は、わたしたちが何かをするようにという靈感を天から受けたら、直ちにそれを実行し、決して引き延ばしてはならないと教えています。ウィルフォード・ウッドラフは、正にそのようにしました。御霊から「南へ行く」よう明確な導きを受けたウッドラフ長老は、ほとんど時を置かずに出発し、イギリスのヘレフォードシャーという名の町に向かいました。イギリス南西部の農業地帯にある町です。この町で長老は、ジョン・ベンボーという名

の富裕な農場主と出会います。そこで彼は、「喜ばしい心と感謝とをもって」歓待されたのです(マタイアス・F・カウリー 編, Wilford Woodruff, *Wilford Woodruff: History of His Life and Labors as Recorded in His Daily Journals* 1909年, 117)。

実は、そこで同胞教会と自称するグループに属する600人以上の人々が「光と真理を求めて祈って」いました(『歴代大管長の教えーウィルフォード・ウッドラフ』, 91)。主

は彼らの祈りの答えとしてウィルフォード・ウッドラフをそこへ送られたのです。

ウッドラフ長老の教えはたちまち実を結び、多くの人々がバプテスマを受けました。ブリガム・ヤングとウィラード・リチャーズもヘレフォードシャーで合流し、3人の使徒がそこで目覚ましい成功を収めたのです。

ほんの数か月のうちに、彼らは教会員となった541人のために33の支部を組織しました。彼らのめざましい働きはさらに続き、最終的には、同胞教会の信者のほぼ全員が

バプテスマを受けて、末日聖徒イエス・キリスト教会に加入したのです。

わたしの高祖母ハンナ・マライア・イーグルズ・ハリスもウィルフォード・ウッドラフの話を最初に聞いた仲間の一人でした。彼女は夫のロバート・ハリス・ジュニアに、自分は神の御言葉を聞いたので、バプテスマを受けるつもりだと告げたのです。ロバートは妻の話の聞いて、面白くありませんでした。次にモルモンの宣教師が来るときには自分も一緒に行くこと告げたのです。宣教師の誤りを正すつもりでした。

聴衆の最前列付近に座り、だまされまいと固く決意をして、訪ねて来る説教者の鼻をできればあかしてやろうと意気込んでいたロバートでしたが、妻と同様、御霊によって直ちに心が動かされ、回復のメッセージが真実だと分かったのです。こうして、二人はバプテスマを受けました。

彼らの信仰と献身の物語はまた同様の数千の人々の物語でもあります。彼らは福音のメッセージを聞いたとき、それが真実だと分かったのです。

主は次のように言われました。「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。」(ヨハネ 10:27)

羊飼いの声を聞いた彼らは、福音に従って生活し、主の預言者の指示に従うという完全な決意をしました。「シオンに集合する」という召しに応えた彼らは、イギリスの彼らの家を後にして、大西洋を渡り、他の聖徒とともにノーブーに集合しました。

彼らは心から福音を受け入れていたのです。新しい地で自分の家を建てるために奮闘しながら、彼らはノーブー神殿の建設を助けるために、自分たちの労働力を什分の一としてささげました。10日ごとに神殿の建設のために働いたのです。

彼らは愛する預言者ジョセフ・スミスとその兄ハイラムの死去の知らせを聞き、心が碎かれる思いでした。それでも、彼らは進みます。信仰に忠実に生き続けたのです。

聖徒たちが迫害を受けて、ノーブーから追



放されるころ、ロバートとマライアは実に恵まれて神殿で自分たちのエンダウメントを受ける祝福にあずかりました。ミシシッピ川を渡り、西部へ向かう直前のことでした。二人はこれからどんな将来が待っているのか、確信が持てませんでしたが、信仰と証^{あかし}だけは確固としていました。

二人は6人の子供を抱えて、泥道の中を西に向かってアイオワ州を横切って行きました。彼らはミズーリ川のほとりに粗末な小屋を建てますが、そこは後にウィンター・クォーターズとなった場所です。

この恐れを知らぬ開拓者たちは、自分たちがさらに西へ歩を進めるに当たって、どのように、またいつ進めるべきか、使徒の指示を待っていました。しかし、皆の計画は十二使徒定員会のブリガム・ヤング会長の、男性は合衆国陸軍の志願兵として兵役に就くようにという呼びかけによって一変しました。これが後のモルモン大隊です。

ロバート・ハリス・ジュニアもブリガム・ヤングの呼びかけに応えた500人以上のモルモン開拓者の一人でした。彼は、それが身重の妻と6人の幼い子供たちを残して行くことになることを承知しつつ、徴兵に応じたのです。

なぜ彼やその他の人々はそのようなことをしたのでしょうか。

その答えは、わたしの高祖父自身の言葉の中に見いだすことができます。彼は、大隊がサンタフェに向かっていたときに妻に宛てて書いた手紙の中で、そのことを明かしています。「わたしの信仰はこれまでになく強まっています。(ブリガム・ヤングがわたしたちに向かって語った言葉について考えるとき)それはまるで大なる神がわたしに向けて語ったと同じことなのだと信じています。」

要するに、高祖父は自分が神の預言者に耳を傾けているのだということを知っていたということです。他の人たちも同じでした。だからこそ、彼らはそのような行動を取りました。神の預言者によって導かれていることを知っていたからです。

同じ手紙の中で、彼は、妻や子供たちを深く愛していることを告げ、妻や子供たちが祝



福を受けられるよう、絶えず祈っていると書きました。

その手紙の後半部分で、彼は次のような力強い言葉を書いています。「あなたやわたしが主の神殿の中で耳にし(経験し)たことを、わたしたちは決して忘れてはなりません。」

「わたしたちは神の預言者によって導かれているのだ」という先の証とともに、この二つの神聖な勧告はわたしにとって聖句のようになっています。

大隊とともに出発してから1年半後、ロバート・ハリスは愛するマライアと無事再会を果たしました。二人は生涯を通じて、回復された福音に忠実に、忠誠を尽くしました。二人には15人の子供がおり、そのうちの13人が成人しました。カナダ、アルバータ州レイモンドにいたわたしの祖母のフェイン・ワーカーはその136人の孫の一人です。

ワーカーおばあさんは、自分の祖父がモルモン大隊で従軍したことを誇りに思っていました。ですから、孫たちには一人残らずそのことを知ってほしいと願っていたのです。わたしももうおじいさんになっています。祖母にとって、それがなぜ大切だったのか、理

解できるようになりました。祖母は、子供たちの心を父に向けさせたかったのです。孫たちに、義にかなった遺産について知ってほしかったのです。それが、必ず彼らの生涯に祝福をもたらすことを知っていたからにほかなりません。

自分たちが義にかなった先祖たちと結びついているという実感があればあるほど、わたしたちは思慮深く、義にかなった選択ができるようになります。

まったくそのとおりなのです。わたしたち一人一人は、わたしたちの先祖を教会の加入へと導いた信仰と犠牲の物語を知れば、それだけ大いに祝福されるのです。

ウィルフォード・ウッドラフが教え、福音の回復について証をした最初の段階から、ロバートとマライアはこの福音が真実であることを知っていました。

また、どのような試練や困難に襲われようとも、信仰を固く持ち続ける限り、祝福を受けるということを知っていました。二人は現在の預言者の言葉を聞いていると思われるのも不思議ではありません。現在の預言者はこう言っています。「神殿の祝福を受けるた

めにいかなる犠牲……もいといません」(トーマス・S・モンソン「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」『リアホナ』2011年5月号, 91)。

英国の2ポンド硬貨の側面には「巨人の肩の上に立って」と刻印されています。わたしが偉大な開拓者の先祖のことを思うとき、わたしたちは皆巨人の肩の上に立っているのだと感じています。

この訓告はロバート・ハリスの手紙から取られたものですが、わたしは無数の先祖たちが同じメッセージを自分たちの子供や孫たちに送っているはずだと確信しています。まず最初に、わたしたちは神殿で味わった経験を忘れてはなりません。そして、神殿のゆえにわたしたち一人一人にもたらされる約束と祝福を忘れてはならないのです。2番目に、わたしたちは神の預言者によって導かれていることを忘れてはなりません。

わたしは証します。わたしたちは確かに神の預言者によって導かれています。主は、末日に預言者ジョセフ・スミスを通して主の教会を回復されました。そして、わたしたちはジョセフ・スミスからブリガム・ヤング、そしてその後を引き継いだ大管長、そしてわたしたちの現在の預言者トーマス・S・モンソンへと途切れることなく続く神の預言者によって導かれているのです。わたしはモンソン大管長をよく知っており、敬い、愛しています。わたしは彼が現在、この地上における主の預言者であると証します。

子供たちや孫たちとともに、わたしたちが義になかった自分たちの先祖の受け継ぎを大切にするように心から願っています。彼らは忠実なモルモンの開拓者として、あらゆるものを喜んで犠牲の祭壇にささげ、神のために立ち上がり、信仰を守ってきたのです。わたしたち一人一人が、先祖が大切にしてきた信仰に忠実に生きるように祈ります。イエス・キリストの聖く神聖な御名により、アーメン。■



十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

忠実さから 生まれる従順

従順とは最高の権威者である神の知恵や力を信じる信仰の現れにほかなりません。

ペリー姉妹とわたしは長年毎週月曜日の夜に家庭の夕べを開いてきましたが、突然、その規模が拡大することになりました。わたしの弟とその娘、妻のバーバラの弟、それに姪とその夫が、同じアパートに引っ越して来たのです。わたしにとって、子供の頃を除いて、自分の身内がこんなに近くに住むという祝福にあずかるのは、初めての経験です。その当時、わたしの家族が住む同じ区画の中に、母の親族が何人も住んでいました。ソニーおじさんの家は北隣、エマおばさんの家は南隣、同じ区画の南側にはジョセフィーンおばさんが住んでいましたし、東側にはアルマおじさんが住んでいました。

子供の頃、わたしたちは毎日のように自分の親族と顔を合わせ、ともに働き、ともに遊び、ともに訪ね合って時間を過ごしました。いたずらをするとかあという間に母親の耳に入るといった環境でした。現代の世界はそれとは異なっています。大部分の家族は散らばっています。たとえ比較的近くに住むことがあったとしても、隣り同士ということはほとんどありません。それを考えると、自分の子供時代や現在の状況は、愛する家族が互いに身近に住んでいて、ある意味で天国のように思えま

す。こうした関係は、家族が永遠の本質を持つものであることを、常に思い起こさせてくれます。

わたしは、少年時代には、祖父と特別な関係にありました。わたしは家族の長男でしたので、自分の家と祖父の家と二人のお婆の家のために、冬の間は通路の除雪をし、夏の間は芝生の手入れをしたものでした。祖父は、わたしが芝を刈っている間、いつも玄関のポーチに座っていました。わたしも芝を刈り終わると、玄関前のステップに腰を下ろし、祖父とおしゃべりに興じたものでした。そうした時間はわたしにとってかけがえのない思い出となっています。

ある日のこと、わたしは祖父に、人生には実に数多くの選択肢があるので、どうしたら自分がいつも正しいことをしているのかどうか分かるのか尋ねたことがあります。祖父はいつものように、農場生活の体験談を使って、答えてくれました。

祖父はわたしに、2頭の馬を操るのには、馬をどのように調教したらよいか、教えてくれました。祖父の説明によれば、馬は、まず、だれが命令しているのかを知る必要があります。馬を確実にコントロールし、操るための鍵の一つは、馬の引き具とくつわです。2頭のうちの1頭でも、御者



に従う必要はないと思いこんだら、2頭一緒に引くことも、2頭の力を最大現に引き出すこともできません。

それでは、祖父がこのたとえを使ってわたしに教えようとしたことを吟味してみましょう。この2頭の馬を操る御者は誰でしょうか。祖父はそれは主であると教えてくれました。主が目的と計画をお持ちだからです。また、主はこの2頭にチームワークを教え、1頭ずつ個別の訓練もなさいます。この御者は、何が最善かを知っているのです。馬にとって、自分が正しく動いていると知るためには、御者の指示に従順に従うしかないのです。

では、祖父は何を引き具とくつわにたとえたのでしょうか。当時も、そして今もそう思っていますが、祖父はわたしに聖霊の促しに従うようにと教えていたのです。祖父の心の目には、その引き具とくつわは霊的なものでした。良く調教された2頭の従順な馬は、御者が手綱で優しく合図すれば、御者の望みどおりに動きます。この優しい手綱は、静かな細い声のようなもので、主がわたしたちに語りかけるときにお使いになる方法です。主は選択の自由を

尊重されるので、主の手綱は決して強制的なものではありません。

御霊の優しい促しを無視する人々は、あの放蕩息子^{ほうとう}が学んだように、不従順と放蕩な生活から当然生じる結果から学ぶこととなります。あの放蕩息子は、不従順から生じる当然の結果を経験してからやっと謙遜になり、「本心に立ちかえて」、父の家へ帰るようという御霊のささやきを聞くことができたのです(ルカ15:11-32参照)。

祖父の教えは、御霊の優しい手綱を常に受け止める用意をしておくようにというものでした。わたしがもし間違った方向へ進むと、必ずその促しを受けることができると、祖父は教えてくれました。そして、もし御霊の導きを受けて決定をするならば、何か重大な間違いを犯す恐れもなくなるということを教えてくれました。

ヤコブの手紙3章3節にはこう述べられています。「馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。」

自分の霊のくつわに対して敏感になる必要があります。主の手綱のかすかな促

しにも、喜んで進路を完全に变える必要があります。人生で成功を収めるためには、自分の霊と肉体の両方が一致して、主の戒めに従順に従って生活できるように訓練する必要があります。もし聖霊の優しいささやきに耳を傾ければ、聖霊の助けにより、天の御父と住むことができるよう、わたしたちの永遠のふるさとへ戻れるよう導くという目的において、自分の霊と肉体を一致させることができるのです。

信仰箇条の第3条は、従順の大切さについて教えています。「わたしたちは、キリストの贖罪^{しよくざい}により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」

祖父が教えてくれた2頭の馬のたとえのように、従順になるためには、特別な信頼が必要です。それはすなわち、御者に対する絶対的な信仰です。ですから、祖父の教えは、福音の第一の原則であるイエス・キリストを信じる信仰とも関わりがあるのです。

使徒パウロは、「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。」(ヘブル11:1)



と教え、アベル、エノク、ノア、そしてアブラハムの例を用いて、信仰について教えています。パウロは忠実な者の父アブラハムの例を強調してこう述べています。

「信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。

信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、……

信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると、信じていたからである。」(ヘブル 11:8-9, 11)

わたしたちは、アブラハムとサラの息子のイサクを通じて、一つの約束がアブラハムとサラに与えられたことを知っています。それは、「天の星のように、海べの数えがたい砂のように」繁栄するという約束でした(12節参照;創世 17:15-16も参照)。

そして、アブラハムの信仰は、わたしたちが想像もできないような方法で試されたのです。

わたしはこれまで多くの機会にアブラハムとイサクの物語について熟考してきましたが、アブラハムの忠実さと従順さについて完全に理解できてはいません。恐らく、アブラハムがある日の朝早く、信仰深く荷造りをして家を出る光景を想像はできるかもしれませんが。しかし、どうやって、息子のイサクを従えて、3日の行程を、モリヤの山のふもとまで行くことができたのでしょうか。どうやって燔祭のための薪を山の上まで運んだのでしょうか。どうやって祭壇を築いたのでしょうか。どうやってイサクを縛り、祭壇に横たえたのでしょうか。イサクに自分がささげものなのだとすることをどう説明したのでしょうか。そして、息子を殺すために刃物を上げる力をどうやって得たのでしょうか。アブラハムはそ

の信仰によって、あの奇跡の瞬間まで神の導きに厳密に従う力が与えられていました。そしてその時、御使いが天からアブラハムを呼び、つらい試験に合格したことをアブラハムに告げたのです。そして、主の天使はアブラハムの聖約に伴う約束をもう一度繰り返しました。

わたしはイエス・キリストを信じる信仰を持つに当たって様々なチャレンジがあり、従順になることが難しい人もいることも承知しています。わたしは長年の経験から、馬も一頭一頭それぞれ違う個性を持っていて、調教しやすい馬もいれば、難しい馬もいることを知っています。人の多様性ははるかに大きいです。わたしたち一人一人は神の息子娘であり、前世でも現世でも一人一人異なった経験をしています。従って、万人向きの解決策などはほとんどありません。ですから、わたしは人生というものが試行錯誤の連続であり、最も大切なことは、福音の第二の原則、すなわち悔い改めが絶えず必要であるということ十分に認識しています。

また、わたしの祖父が生きていた時代は、善悪の選択に関しては、もっと単純な時代でした。極めて知性が高く、洞察力に優れた人々の中には、もっと複雑になった現代は、もっと複雑な解決策が必要であると考えている人々がいるかもしれませんが、わたしにはその主張が正しいとは思えません。わたしが考えるに、むしろ、今日の複雑さを解くには、善悪の違いを知るためにはどうしたらよいかと尋ねた素朴な質問に祖父が答えてくれたようにもっと単純さが必要であるということです。わたしが今日お伝えしているのが単純な公式であると分かっています。しかし、その公式は、わたしにとって非常にうまく機能していることを証します。ですから、わたしは皆さんにお勧めします。むしろ、わたしの言葉を試してみるよう皆さんにチャレンジします。皆さんがそうするならば、わたしの言葉は、様々な選択肢がありすぎるときに、何を選択すべきかを明確に示し、学

識ある人々や自分は賢い人間だと思っている人々を混乱させている問題に対して、単純な答えを示してくれることを約束します。

従順とは、受け身的であり、よく考えずに権威者の指示や命令に従うことであると考えることが往々にしてあります。実際は、従順とは最高の権威者である神の知恵や力を信じる信仰が現れたものに他なりません。たとえ息子を犠牲にささげよう命じられても、アブラハムが神を信じる揺るぎない信仰と従順さを行動で示したとき、神はアブラハムを救われました。同様に、わたしたちが従順によってわたしたちの信仰を行動で示すときに、神は最終的にはわたしたちを救ってくださるのです。

ひたすら自分自身にのみ頼り、自分自身の欲望や性向にのみ従おうとする人々は、神に従い神の知恵と力と賜物に依り頼む人々と比較して、大きな制限を受けます。「己というものだけで包まれている人は小さな包みにしかならない」という言葉があります。力強く、積極的な従順というものは、弱さや受け身とは無縁です。それは、神を信じるわたしたちの信仰を宣言する手段であり、わたしたちが天の力を受けるための資格です。従順は一つの選択です。それは、自分の限られた知識や力に頼るのか、それとも、神の無限の知恵や力に頼るのかの選択です。祖父の教えに従えば、それはわたしたちの口に霊のくつわがはめられていると感じ、御者の導きに従う選択をすることなのです。

わたしたちがその忠実さと回復された福音の儀式を受けることにより、アブラハムの聖約を受け継ぐ者となり、その子孫となることができますように願っています。皆さんに約束します。主に忠実で従順な者は皆、永遠の命の祝福にあずかることができるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。■



七十人
ローレンス・E・コーブリッジ長老

預言者ジョセフ・スミス

ジョセフ・スミスにあふれるほど注がれた啓示により、彼が確かに神の預言者であったことが分かります。

最初の示現

少年が聖書を読み、聖文の中のある聖句に目を留めます。これが、世界を変えることになる瞬間です。

この少年は、自分を真理と救いに導くことができるのはどの教会か、知りたくてたまりません。ほとんど全てのことを行った後、今度は、聖書を手に取り、次の言葉が目に入ります。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、

与えられるであろう。」¹

少年はこの言葉を何度も何度も思い巡らします。暗黒にかすかな光が差します。これが答え、すなわち、混乱と暗闇から抜け出る方法なのでしょうか。こんな簡単な方法なのでしょうか。神に願い求めれば応えていただけるのでしょうか。ついに少年は、神に願い求めるか、それとも暗闇と暗黒の中にとどまり続けなければならないか決めます。

少年は知りたくてたまりませんが、目立たない隅の方に走って行ってそそくさと祈りを済ませたりはしません。まだ14歳ですが、早く知りたいとはいえ軽率なやり方で尋ねたりはしないのです。これは、どんな祈りでも同じです。少年はどこに行っていく尋ねるかを決めます。神と話す用意をするのです。

そして、その日が来ます。それは1820年の早春、美しい晴れた日の朝のことです。² 近くのひっそりとした、木々が高くそびえ立っている林の中へ、独りで歩いて行きます。前もって決めておいた場所に着くと、ひざまずいて心の願いを述べます。

次に何が起こったかを、少年は次のように描写しています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

……そして、その光がわたしの上にとど





まったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上空に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『(ジョセフよ、)これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』³

ここで起こったことのために、わずかに24年後、ジョセフ・スミスと兄のハイラムは死ぬこととなります。

反対

ジョセフは17歳のときに天使から、「わたしの名が良くも悪くもすべての国民、……すべての民の中で語られる〔であろう〕』と告げられたと言っています。⁴ 末日聖徒イエス・キリスト教会は全世界に広がっており、この驚くべき預言は現在もなお成就し続けています。

反対や批判、敵対は真理に付き物です。人の目的と行く末について真理が明らかにされるときには必ず、それに反対する力が常に現れます。エデンの園にいたアダムとエバに始まり、キリストの教導の業を経て現代に至るまで、欺き、道を踏み誤らせ、反対し、命の計画を損なおうとする動きは

常にありましたし、これからもあるでしょう。

反対され、詰問され、拒まれ、打たれ、見捨てられ、十字架にかけられた御方、万物の下に身を落とした御方で最も多く泥を蹴りかけられて土煙が舞い上がった御方を探してください。そこに、皆さんは真理、すなわち、神の御子、人類の救い主を見いだすでしょう。人々はなぜこの御方を迫害したのでしょうか。

なぜでしょうか。それは、この御方が真理であられたからであり、真理は常に反対に遭うからです。

次に、イエス・キリストのもう一つの証^{あかし}やその他の聖文を世に出した人、主の御手^{みで}に使われて完全な福音とイエス・キリストの教会を地上に回復した人を探してください。その人を探してください。その人の上にも迫害の土煙が舞っているはずで、人々はなぜ、その人を迫害するのでしょうか。

なぜでしょうか。それは、ジョセフが真理を教えたからであり、真理は常に反対に遭うからです。

あふれるばかりの啓示

ジョセフ・スミスにあふれるほど注がれ

た啓示により、彼が確かに神の預言者であったことが分かります。その啓示の幾つかを少し見てみましょう。ジョセフを通して明らかにされた幾つかの光と真理について考えてください。それらは当時一般的に信じられていたことと、^{こんにち}今日一般的に信じられていることと、明らかに異なっていました。

- 神は人の形をしており、昇栄された御方、永遠の父なる神であられる。神はわたしたちの御父であられる。
- 父なる神とイエス・キリスト、聖霊は、別々の御方であられる。⁵
- 皆さんはただの人間ではありません。皆さんは永遠の父なる神の子であって、神のようになることができるのです。⁶ もし御子を信じる信仰をもって悔い改め、儀式を受け、聖霊を受け、最後まで堪え忍ぶならばそうなります。⁷
- 今日あるイエス・キリストの教会は、イエスが地上で務めを果たしておられたときに組織された教会と根本的に同じであり、使徒や預言者、メルキゼデク神権とレビ神権、長老、大祭司、執事、教師、ビショップ、七十人など全て聖書に

書かれているものが存在します。

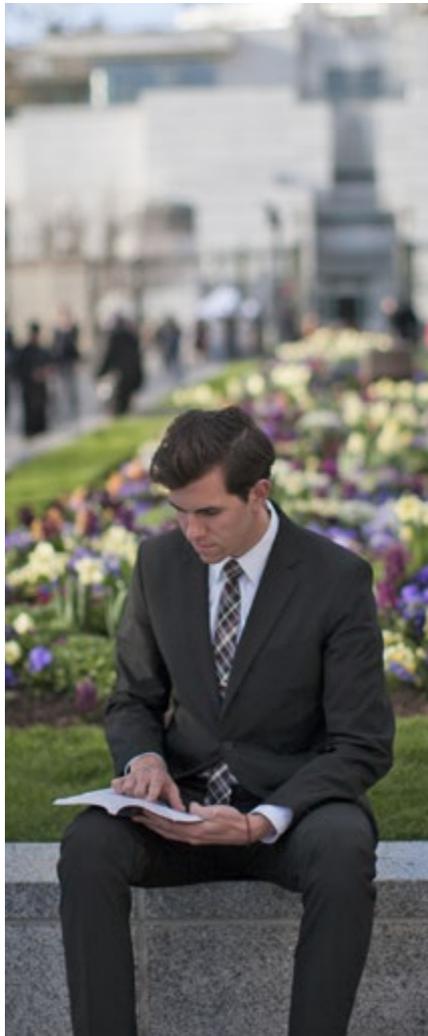
- 神権の権能は救い主とその使徒が死んだ後に取り上げられ、再び現代に回復されました。
- 啓示は絶えておらず、天も閉じていません。神は今日預言者に語りかけ、皆さんにもわたしにも語りかけられます。⁸
- この世の次にあるのは天国と地獄だけではありません。数々の栄光の位があり、わたしたちがこの世で何を行うかが大きく関係します。⁹
- わたしたちはキリストに対して、単に行いを伴わない信仰を持つのではなく、「あらゆる思いの中で〔キリストを〕仰ぎ見」¹⁰、「〔わたしたちが行う〕すべてのことを御子の御名によって行い」¹¹、「いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守〔り〕、……いつも御子の御霊を受けられるように」¹²しなければなりません。
- 福音を知らずに生きて、救いに必要な儀式を受けないまま死んでいった無数の人々は失われてはいません。キリストの贖罪を通して全人類は、生者と死者に施される「福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る」¹³のです。¹⁴
- 全てが誕生で始まったわけではありません。皆さんは誕生する前に神の息子娘として神のみもとに住んでいて、この死すべき人生のための備えをしています。¹⁵
- 結婚と家族は死が分かつまでという人の作った伝統ではありません。これらは神と聖約を交わすことによって永遠のものとなるように意図されています。家族は天の規範なのです。¹⁶

そしてこれは、ジョセフ・スミスに与えられた、あふれるような啓示のほんの一部でしかありません。これらの啓示、闇に光を与え、疑う心に明快な答えを与える啓示、何百万もの人々を鼓舞し、祝福をもたらし、高めてきた啓示は全て、どこから来たのでしょうか。ジョセフ・スミスが自分で

考え出したのか、それともジョセフは天の助けを受けていたのか、どちらの可能性が高いでしょうか。ジョセフが書いた聖文は人の言葉のように聞こえますか。それとも、神の言葉のようでしょうか。

まとめ

ジョセフ・スミスが成し遂げたことに関して論争はありません。問題は、ただ、彼が成し遂げたことをどうやって行い、なぜそれを行ったかということのみです。選択肢は多くありません。ジョセフが偽善者だったか預言者だったかのどちらかです。その業を自分だけで行ったか、天の助けを受けて行ったかです。証拠を見てください。あらゆる証拠です。一つの出来事ではなく、ジョセフの生涯全体を見てください。最も大切なことは、少年ジョセフのよ



うに「とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求める」ことです。「そうすれば、与えられる」¹⁷のです。これはモルモン書が真実かどうか、ジョセフ・スミスが真の預言者かどうかを知る方法であるばかりでなく、全てのことの真理を知る方法でもあります。¹⁸

今日トーマス・S・モンソンが預言者であるように、ジョセフ・スミスは預言者でした。ジョセフ・スミスを通して神の王国の鍵が再び「地上の人にゆだねられており、あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように、そこから福音は地の果てまで転がり進む」のです。¹⁹

神はわたしたちの永遠の父なる神であられ、イエスはキリストです。わたしたちは御二方を礼拝します。この御方たちの創造の業と救いの計画、神の小羊の贖いの犠牲に匹敵するものは何もありません。この神権時代にわたしたちは御父の計画を成し遂げ、預言者ジョセフ・スミスを通して回復された福音の律法と儀式に従うことによるのみ得られる贖いの実を味わいます。わたしは、永遠の父なる神と世の救い主イエス・キリストについて証します。イエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。■

注

1. ヤコブの手紙 1:5
2. ジョセフ・スミス—歴史 1:14
3. ジョセフ・スミス—歴史 1:16-17
4. ジョセフ・スミス—歴史 1:33
5. 教義と聖約 130:22 参照
6. 教義と聖約 50:24 参照
7. 2 ニーフアイ 31 章; 3 ニーフアイ 27 章参照
8. モロナイ 10:3-5 参照
9. 教義と聖約 76 章参照
10. 教義と聖約 6:36
11. モーセ 5:8
12. 教義と聖約 20:77
13. 信仰簡条 1:3
14. 教義と聖約 76 章; 128 章; 138 章参照
15. 教義と聖約 49:17; 138 章; モーセ 3:5; 6:36 参照
16. 教義と聖約 131:1-2; 132:5-33 参照
17. ヤコブの手紙 1:5
18. モロナイ 10:3-5 参照
19. 教義と聖約 65:2



七十人
マイケル・ジョン・U・テー長老

あなたの宝の ある所には

気をつけなければ、わたしたちは霊的なものより物質的な物を求め始めてしまいます。

2007年10月の総大会で話す割り当てが終わったばかりのわたしに、中央幹部の一人が、このような大変な経験は約7年間は巡って来ないだろうと言いました。わたしはほっとして、それではその期間を「七年の大豊作」と考えましようと考えました。わたしはまたここに立っています。7年の豊作が終わったのです。

この1月、妻のグレースとわたしは、大地震と巨大台風によって甚大な被害を受けたフィリピンの会員を訪問する割り当てを受けました。わたしたちは喜びました。それはわたしたちの祈りへの答えであり、愛ある天の御父の憐れみと慈しみの証だったからです。それによって、愛し心に掛けていることを会員に伝えたいという、わたしたちの願いが実現したのです。

わたしたちが会った会員のほとんどは、まだテントやコミュニティーセンター、教会の集会所などの避難所で暮らしていました。訪れた家の屋根は、一部しか残っていないか、完全になくなっていました。もともと少なかった持ち物もすべて失いました。どこを見ても泥とがれきだらけでした。しかし、会員たちはわずかな援助にも心から感謝し、非常に困難な状況にもかかわらず、元気でした。彼らにこの状況でど

うやっているのか尋ねると、皆声をそろえて、「大丈夫です」と言うのです。明らかに、イエス・キリストを信じる彼らの信仰

が、いつかは全て良い結果を生むという希望を与えているのです。どの家、どのテントを訪ねても、わたしたち夫婦は忠実な聖徒たちに教えられました。

災害や悲劇に見舞われたとき、主はわたしたちに優先順位を見直す機会をお与えになります。突然、それまで一心不乱に働いて手に入れようとしてきた物がどうでもよくなります。家族と、人との関係だけが大事になります。ある姉妹がこう説明しました。「水が引き、片付けを始めるとき、家の周りを見渡してこう思ったんです。『わあ、長い間にずいぶんごみをため込んでいたのね』と。」

この姉妹はより良い視点を得たために、これからは何が必要で何が必要でないかを、とても注意深く見極めることだろうと思います。

これまで長年多くの教会員と接してき



て、霊的な力をたくさん目にしてきたのは喜ばしいことです。また、これらの忠実な教会員の中に物質的な豊かさも乏しさも見てきました。

わたしたちの多くは必要に迫られ、家族を養うためにお金を稼いだり、品物を手に入れたりします。そのためにたくさんの時間を使い、気も遣います。世の中には数限りなく物があふれていますから、足るを知ることが非常に重要です。気をつけなければ、わたしたちは霊的なものより物質的な物を探し始めてしまいます。そうすれば、霊的で永遠の価値あるものを求めることが後回しになります。本来は逆であるべきです。残念なことに、より多く、最新の高性能な物を手に入れたいと思う傾向が強いようです。

どうしたらそのような道を歩まないようになれるでしょうか。ヤコブはこう勧告しています。「それゆえ、価値のないものに金を使ってはならない。満足を得られないものに労力を費やしてはならない。熱心にわたしに聞き従い、わたしがこれまでに語った言葉を覚えておきなさい。そして、イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを食べて、豊かなものによってあなた自身を喜ばせなさい。」¹

わたしたちの中に価値のないものにお金を使ったり、満たされないものに労力を費やしたりする人がいないように願っています。

救い主は、ユダヤ人とニーファイ人に次のように教えられました。

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

あなたの宝のある所には、心もあるからである。」²

別な場面で救い主はこのようにたとえを



用いられました。

「ある金持^{かねもち}の畑が豊作であった。

そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』と思いつくが、

言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまひ込もう。

そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ。』

すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか。』

自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである。」³

ディーター・F・ワークトドルフ管長は以前、次のように勧告しました。

「天の御父はわたしたちが持つ、真の可能性を理解しておられます。わたしたちが知らない自分のことさえも御存じなのです。人生の中で、わたしたちがこの地上に創造された目的を果たし、良い人生を送れるように、そして主のみもとに帰れるように、促しを与えてくださいます。

ではわたしたちはなぜ、あまりに多くの時間や労力を、ごくつかの間で、取るに足りない、表面的な事柄に費やすのでしょうか。ささいで、はかないことを得ようとするのがいかに愚かなことかを見ようとしなさい。」⁴

わたしたちは皆、この世の宝が高慢、

富、物質的な物、権力と人の誉れでできていることを知っています。それらにはこれ以上時間を費やす価値はありません。代わりに、天の宝を構成する事柄に焦点を当てたいと思います。

わたしたちが蓄えることのできる天の宝にはどのようなものがあるでしょうか。まず最初に、信仰、希望、謙遜、慈愛というキリストのような資質を身につけることから始めましょう。わたしたちは繰り返し、「生まれながらの人を捨てて……子供のように〔なる〕』よう勧められてきました。⁵ 救い主は、わたしたちが御自身と天の御父のように完全になるため努力するよう教えておられます。⁶

第2に、わたしたちは家族のきずなを強めるためにもっと十分な時間を取り、努力すべきです。何と言っても、「家族は神によって定められたもので〔あり〕……この世と永遠にわたって最も大切な単位〔なのです〕。』⁷

第3に、人に仕えることはキリストの真の僕であることの証明です。主は「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と言われました。⁸

第4に、キリストの教義を理解し、自分の証を強めるよう努力することで、本当の喜びと充足感が得られます。聖文や生ける預言者が教えているように、わたしたちは絶えずキリストの言葉を学ばなければなりません。「見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」⁹

最後に、フィリピンを訪れたときに出会った73歳の未亡人について話したいと思います。

地震がボホル島を襲ったとき、亡くなった夫と一緒に一生懸命働いて建てた彼女の家が崩れ落ち、娘と孫が亡くなりました。独りぼっちになった彼女は、働いて生計を立てなければなりません。 (手で)洗濯する仕事を始め、水をくむために日に何度もかなりの高さの丘を登り下りしなければなりません。わたしたちが訪問したとき、彼女はまだテント生活でした。

彼女はこう言いました。「長老、主がわたしに望まれることはどんなことでも受け入れます。恨んではいません。神殿推薦状を大切にし、枕の下に保管しています。洗濯をして得たわずかな収入ですが、什分の一を完全に納めていることを覚えてください。何があっても、什分の一は絶対納めます。」

わたしたちの優先順位、傾向、習慣、願望、欲求、情熱が、わたしたちが次の世で受ける位を決めることになると証します。どのようなときも、「あなたの宝のある所には、心もあるからである」という救い主の言葉を忘れないようにしましょう。わたしたちの思いが正しい所にあるように祈ります。イエス・キリストの御名によって、アーメン。■

注

1. 2 ニーファイ 9:51
2. マタイ 6:19-21。3 ニーファイ 13:19-21も参照
3. ルカ 12:16-21
4. ディーター・F・ワークトドルフ「後悔と決意について」『リアホナ』2012年11月号, 22
5. モーサヤ 3:19
6. 3 ニーファイ 12:48 参照
7. 『手引き 第2部—教会の管理運営』(2010年), 1.1.1
8. マタイ 25:40
9. 2 ニーファイ 32:3



七十人
マルコス・A・アイドカイトイス長老

知恵に不足しているならば

聖文にあるように、神は真理を探し求める人々にそれを明らかにしてください。

先日、10歳の息子がインターネットで人間の脳について勉強していました。将来外科医になりたいのだそうです。息子がわたしよりずっと頭が良いと考えるのは難しいことではありません。

わたしたちはインターネットが好きです。自宅ではソーシャルメディアや電子メールなどを使って家族や友人と連絡を取ります。わたしの子供は学校の勉強の多くをインターネットを通して行っています。

どんな質問でも、もっと情報が必要なら、わたしたちはインターネットで検索します。数秒のうちに多くの資料が得られます。これは驚くべきことです。

インターネットは多くの学習の機会を提供してくれます。しかし、サタンはわたしたちを惨めにしようと、物事の本来の目的をゆがめてしまいます。サタンはこのすばらしい道具を使って疑いと恐れを広め、信仰と希望を打ち砕こうとします。

これだけ多くの情報がインターネット上にあると、どこに自分の努力を注ぐべきかを慎重に考えなければなりません。サタンは、わたしたちをそのほとんどがまったく価値のない情報を取捨選択することに忙殺させ、気をそらさせ、清くない状態にする力を持っています。

価値のないものに時間を費やすべきではありません。

聖文にあるこの教えに耳を傾けてください。「善悪をわかまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられている……。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを……わかまえることができる。」¹

本当の意味で、わたしたちは少年時代のジョセフ・スミスが経験したと同じジレンマに直面します。わたしたちも、知恵に不足していることがよくあります。

神の王国では、真理の探究は喜ばれ、勧められており、決して抑制されたり、恐れられたりすることはありません。教会員は知識を求めるよう主御自身から強く勧告されています。² 主は言われました。「あなたがたは……熱心に求め[なさい]。まことに、最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」³ しかし、このように神に関する事柄をますます表立って攻撃してくる世にあって、どうしたら真理を見分けることができるのでしょうか。

聖文がその方法を教えています。

まず、その実を観察することによって真理を知ることができます。

山上の垂訓で主はこう言われました。

「そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。……

このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。」⁴

預言者モルモンは、これと同じ原則を教えて言いました。「『あなたがたはその行いによって彼らを見分けるのである』……。彼らの行いが善ければ、彼らも善い。」⁵

この教会の実と業を研究するように、全ての人にお勧めします。

真理について関心を持つ人は、教会と教会員が地域社会で貢献していることを見て取ることができます。また、教会の教えに従う人々の生活が改善していることにも気がつくでしょう。こうした実を吟味する人は、末日聖徒イエス・キリスト教会の実が喜びをもたらす良いものであることが

分かるでしょう。

第2に、自分自身で御言葉を試すこと

によって真理を見いだすことができます。

預言者アルマはこう教えています。

「御言葉を一つの種にたとえてみよう。……もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種……であり、また……不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは……心の中で次のように思うであろう。『これは良い種……に違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』……

……さて見よ、これはあなたがたの信仰を強めないであろうか。まことに、それはあなたがたの信仰を強めるであろう。……

……種はその種独自の形を生じるからである。」⁶

これは主の預言者からのすばらしい招きです。これを科学の実験と比較することができます。わたしたちは御言葉を試してみるよう招かれ、そのパラメーター（測定可能要因）が与えられて、指示に従えば得られる実験の結果を教えられているのです。

このように、聖文は、わたしたちに実を観察したり、心の中に場所を設けて御言葉を種のように養い育てたりして個人的に試すことにより、真理を知ることができると教えています。

しかしながら、まだ真理を知るための3つ目の方法があります。それは個人の啓示です。

教義と聖約第8章は、啓示は知識、すなわち、「与えられると信じながら、信仰をもって、正直な心で求めるものは何であろうと……知識〔である〕」と教えています。⁷

また、主は啓示を受ける方法も教えておられます。主は「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしは





アメリカ合衆国, ユタ州プレザント・グローブ

あなたの思いとあなたの心に告げよう」と言っておられます。⁸

このように、啓示は、信仰をもって、正直な心で、それを受けると信じて求めることによって与えられると教えられています。

主はそれを非常に明確に示し、警告されたことを心に留めてください。「信仰がなければ何も行えないことを覚えておきなさい。それゆえ、信仰をもって求めなさい。」⁹ 信仰には、まず心の中でよく考え、それからそれが正しいか祈って主に尋ねるといった行いが必要です。

主は言われました。

「もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。

しかし、もしそれが正しくなければ、あなたはこのような感じを少しも受けず、思いが鈍くなり、それによって誤っている事柄を忘れるようになる。」¹⁰

行いの伴わない信仰は、死んだものです。¹¹ ですから、「疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」¹²

わたしには教会員でない友人がいます。彼は、自分は霊的な人間ではないと言っています。神の言葉が分からないし、神が存在するか確信が持てないという理由で、聖文を研究することも祈ることもしません。アルマが説明しているように、このような態度は、彼に霊性を欠かせ、啓示とは逆の方向に向かわせることとなります。アルマはこう話しています。「したがって、心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか受

けない……。」

アルマは続けて記しています。「心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される。」¹³

アルマとモーサヤの息子たちは、信仰には行いが伴わなければならないという原則の模範です。モルモン書にはこう記されています。

「彼らは……神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきた……。

そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。」¹⁴

正直な心で願い求めることは、この過程において同様に大切なことです。心から真理を探し求めているならば、それを見つけるために全力を尽くすはずで、それには聖文を読む、教会に集う、そして神の戒めを守るために最善を尽くすなどが含まれるでしょう。それはまた、神の御心みこころを知ったなら、進んでそれを行うということも意味します。

ジョセフ・スミスが知恵を求めるために取った行動こそ、正直な心を示す完全な模範です。ジョセフは「自分が加わるべき教派を知るために」、どの教派が真実か知りたかったと言っています。¹⁵ 祈り始める前から、彼には受けた答えに従って行動する用意ができていたのです。

わたしたちは信仰を持ち、正直な心で願い求めなければなりません。しかし、それ

だけではありません。わたしたちは啓示を受けると信じなければなりません。主を信頼し、主の約束に希望を抱かなければならないのです。この聖句を忘れないでください。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与えられる神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」¹⁶ 何とすばらしい約束でしょう。

わたしは全ての人に、これらの方法のどれかを、特に個人の啓示を通して真理を探求するようお勧めします。聖文にあるように、神は真理を探し求める人々にそれを明らかにしてくださいます。インターネットを検索するより努力が必要ですが、それだけの価値があります。

これはイエス・キリストの真の教会であると証します。わたしはその実を、地域社会や、自分の家族を含む何千人もの人々の生活の中に見てきたので、それが真実だと知っています。また、わたしは何年も自分の生活で御言葉を試し、その影響を魂に感じてきたので、それが真実だと知っています。しかし何よりも、聖霊の力を通して受けた啓示によって、自分自身でそれが真実であると学んだので、それが真実だと知っているのです。皆さんもそうするようにお勧めします。イエス・キリストの御名みなにより、アーメン。■

注

1. モロナイ 7:16
2. 教義と聖約 88:78 参照
3. 教義と聖約 88:118
4. マタイ 7:17, 20
5. モロナイ 7:5
6. アルマ 32:28, 30-31
7. 教義と聖約 8:1
8. 教義と聖約 8:2
9. 教義と聖約 8:10
10. 教義と聖約 9:8-9
11. ヤコブの手紙 2:17 参照

12. ヤコブの手紙 1:16
13. アルマ 12:10
14. アルマ 17:2-3
15. ジョセフ・スミス—歴史 1:18
16. ヤコブの手紙 1:5



十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

イエス・キリストの復活

ナザレのイエスが復活された贖い主であり、すべてはイエスが復活されたという事実から始まっていることを証します。

イエスが苦しまれて十字架上で亡くなられ、イエスの息絶えた体が墓の中に安置されたとき、主の弟子たちは敗北感と絶望感で押しつぶされそうになりました。救い主が繰り返し、御自身の死とその後に再び生きることを話されたにもかかわらず、弟子たちは理解していませんでした。しかしながら、主のはりつけによる薄暗い午後は、程なくして、主の復活の喜びに満ちた朝に取って代わりました。しかし、その喜びは、弟子たちが復活した主を目の当たりにしたときに初めて訪れました。というのは、主がよみがえられたことを天使が告げたときでさえ、初めは彼らは理解できませんでした。それはまったく前代未聞のことだったのです。

その日曜の早朝、マグダラのマリヤと数人の忠実な女性が、安息日の前に主の体が慌ただしく墓に納められたときに始めた油そそぎを完了するために、救い主の墓に香料と香油を持って来ました。この非常に特別な朝に彼女たちが着いたときには、墓は空になっていて、石は脇に転がされていました。そこで、二人の天使はこう宣言しました。

「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。

そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを

思い出しなさい。

すなわち、人の子は必ず罪人らの手に渡され、十字架につけられ、そして三日目によみがえる、と仰せられたではないか。」¹

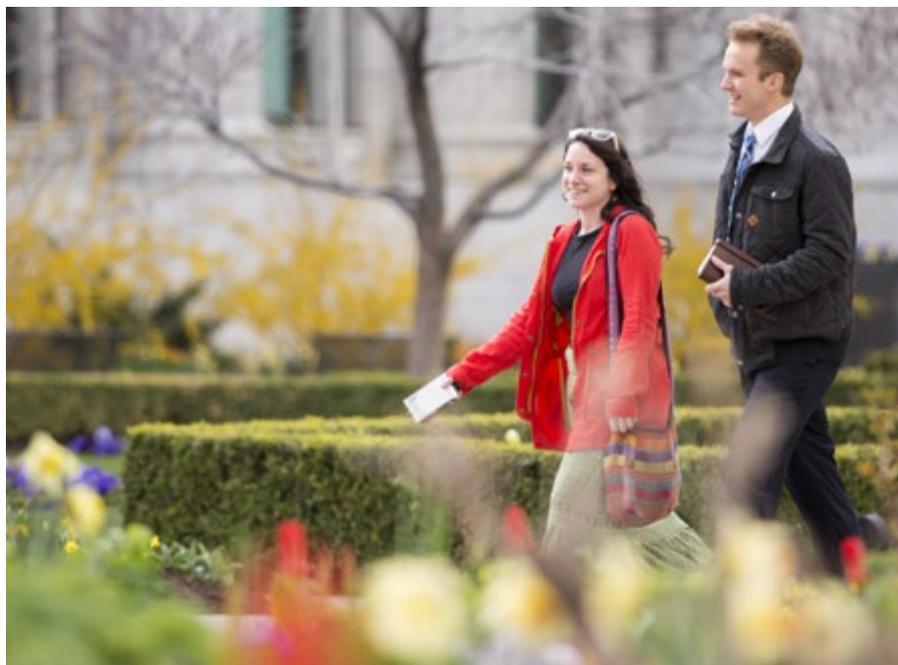
「さあ、イエスが納められていた場所をごらんください。

そして、急いで行って、弟子たちにこう伝えなさい、『イエスは死人からよみがえられた。』」²

天使に命じられたので、マグダラのマリヤは墓をのぞき込みました。しかし、彼女

が理解したのは、主の体がなくなっているということだけだったと思われます。彼女は使徒たちに伝えるために急いで戻り、ペテロとヨハネを見つけて言いました。「だけれど、主を墓から取り去りました。どこへ置いたのか、わかりません。」³ ペテロとヨハネはその場所に走って行き、墓穴が本当に空であることを確認し、「亜麻布が……置いてあ[り]、……イエスの頭に巻いてあった布は……はなれた別の場所にくるめてあった」⁴ のを見ました。ヨハネは明らかに、復活の崇高なメッセージを理解した最初の人でした。ヨハネはこう記録しています。「もう一人の弟子〔は〕……見て信じた。」そして、他の人たちについて次のように言いました。「死人のうちからイエスがよみがえるべきことをしるした聖句を、まだ悟っていないかった。」⁵

ペテロとヨハネはその場を去りましたが、マリヤがまだそこにとどまって泣いていました。そうしていると、天使が戻って来て優しく彼女に尋ねました。「『女よ、なぜ泣いているのか』……マリヤは彼らに言った、『だけれど、わたしの主を取り去り





ました。そして、どこに置いたのか、わからないのです。』⁶ そのとき、復活された主は彼女の後ろに立たれて言われました。「『女よ、なぜ泣いているのか。だれを探しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのであれば、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』⁷

ジェームズ・E・タルメージ長老はこう書いています。「マリヤは気づかなかったけれども、そのとき尋ねた相手は、実はマリヤの敬愛する主イエスであった。このイエスの生ける唇から漏れた一言は、マリヤの苦悶と悲嘆をうっとりとする喜びに変えた。『イエスは彼女に「マリヤよ」と言われた。』過去にマリヤが耳にし愛したその声、その抑揚、その優しい口調が、今まで沈んでいた絶望の淵から彼女を引き上げた。マリヤは振り返って主イエスを見た。あまりのうれしさ、懐かしさに、マリヤは敬いの情を込めた『ラポニ』（わたしの愛する先生）という一言だけを発して、イエスを抱こうと両手を差し出した。』⁸

そのようにして、この祝福された女性は、復活されたキリストに最初にまみえて話をした人となりました。その後同じ日に、主はエルサレムかその近くでペテロに御姿を現され、⁹ エマオに通じる道で二人の使徒に、¹⁰ そしてその夕刻に十人の使徒とその他の者の中に突然姿を現わして言われました。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。』¹¹ その後彼ら

をさらに確信させるために、「彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っていると、」¹² 主は彼らの前にあった焼いた魚と蜜蜂の巣をお食べになりました。¹³ その後、主は使徒たちに導きを与えられました。「あなたがたは……エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。』¹⁴

エルサレムで確認されたこれらの証の他に、わたしたちには西半球に昔住んでいた民に対する、他に例を見ない復活された主の教導の業の記録があります。バウンティフルの地に、主が天から降って来られて集まった群衆を招かれ、約2,500人が全員一人ずつ進み出て、主の脇に手を差し入れ、また主の両手と両足の釘跡に触れました。¹⁵

「彼らは全員進み出て、自ら確認した後、一斉に叫んだ。

『ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられますように。』そして、彼らはイエスの足もとに伏して、イエスを拝した。』¹⁶

キリストの復活は、主が独立して存在しておられ、永遠であることを示しています。「それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになったからである。』¹⁷ イエスはこう言われました。

「父は、わたしが命を捨ててから、わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは、それを再び得るためである。

だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。』¹⁸

救い主は、その生命を食物や、水、酸素、その他のどのような物質や力にも、あるいは人にも依存してはられません。エホバとメシアの両者として、主は有るという大なる者、御自身の意志と力で自立しておられる神です。¹⁹ 主は現に存在し、これからも常に存在される御方です。

イエス・キリストは贖罪と復活により、墮落のあらゆる面を克服されました。肉体の死は一時的なものであり、霊の死でさえも終わりがあります。わたしたちは皆裁きを受けるために、少なくとも一時的には神の御前に戻るのです。わたしたちは、全ての事柄を克服し、永遠の命を与えてくださる主の力に絶対的な信頼を置くことができます。

「それは、死がひとりの人によってきたのだから、死人の復活もまた、ひとりの人によってこなければならぬ。

アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。』²⁰

ニール・A・マックスウェル長老はこう述べています。「死に対するキリストの勝利により、人間は苦境を脱することとなりました。今は個人的な苦境しかありませんが、わたしたちを滅亡から救う主の教えに従うことによってその苦境からも救われるでしょう。』²¹

正義の要求が満たされたので、救い主は今や正義の御座に着いておられます。言い換えるなら、ちょうど主が愛であるように、主は正義であると言えるでしょう。²² 同様に、完全な正義の神であると同時に、主は完全に憐れみ深い神なのです。²³ こうして、救い主は全てのことを正しくされます。死すべきこの世の不公平や死でさえも永久のものではありません。主が命を再び回復して下さるからです。主の絶対的な正義と憐れみがあるので、屈辱、障害、裏切り、虐待が最終的に償われます。

同様に、わたしたちは皆、わたしたちの人生、選択、行い、思いさえも主に対して責任を負っています。わたしたちを墮落か

ら贖われたので、わたしたちの生命は現実に主のものなのです。主はこう宣言されました。

「見よ、わたしはあなたがたに、わたしの福音について告げた。わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣わされたので、わたしは父の御心みこころを行うために世に来了。

父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によって上げられたが、そのように人々は、父によって上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによって、行いを裁かれるのである。」²⁴

ナザレのイエスの真の姿まぶくおよび人生についての哲学的な論駁や疑問を決定的に解明するうえで、復活の持つ意義について、少しの間考えてみてください。もしイエスが本当に文字どおりに復活されたのなら、疑いもなく、主は神なる御方であるということになります。普通人間が死んだ後に自分の中に再び生きる力を持つことはありません。イエスは復活されたので、単なる大工、教師、律法学者、もしくは預言者であったということはありません。イエスは復活されたので、神、まさに御父の独り子でなければならなかったのです。

それゆえ、主が教えられたことは真実です。神はうそをつくことがおできになりません。²⁵

それゆえ、主が言われたように、主は地球の創造主なのです。²⁶

それゆえ、主が教えられたように、天と地獄は実在するのです。²⁷

それゆえ、主が亡くなられた後に訪れた霊界があるのです。²⁸

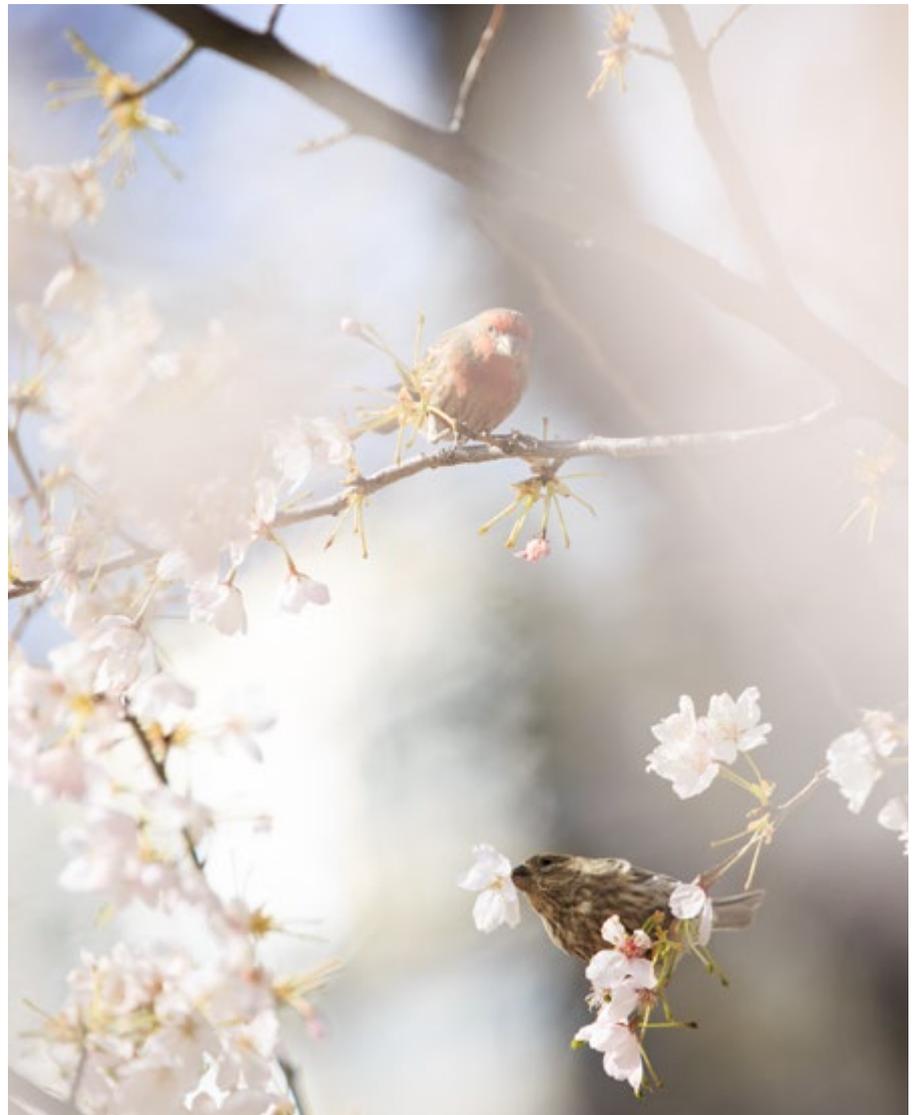
それゆえ、天使が告げたように、²⁹ 主は再び来られて、自ら地上を統治されるでしょう。³⁰

それゆえ、全ての人に復活と最後の裁きとがあるのです。³¹

キリストの復活が現実のものとなったことによって、世を贖うためにその独り子を犠牲にした父なる神の全知全能と慈愛に対する疑いの根拠がなくなります。人生の意味と目的に関する疑いは事実無根なのです。イエス・キリストは事実、人類に救いをもたらすことのできる唯一の名であり道なのです。キリストの恵みゆめは実在し、悔い改めた罪人に対して赦しと清めの両方をもたらします。信仰は本当に想像や人が心の中で創り上げたものを超えるもの

です。絶対的で普遍的な真理があり、主によって教えられたとおりの普遍的で変わることはない道徳的な標準があります。

キリストの復活は本当のことですので、主の律法と戒めへの違背に対する悔い改めは、可能なものであるとともに、速やかに行うべきことです。救い主の行われた奇跡も、主が弟子たちに彼らは同様の奇跡やさらに大きな奇跡を行うであろうと約束されたことも、本当のことです。³² 主の神権は必然的に、「福音をつかさどり、王国





の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を持つ。それゆえ、この神権の儀式によって神性の力が現れる実在の力です。』³³ キリストの復活は実際に起こったことなので、死がわたしたちの終わりではありません。肉体は一度滅ぼされるものの、わたしたちは再び肉体にあって神にまみえるのです。³⁴

トーマス・S・モンソン大管長は、100年前のロバート・ブラッチフォードについて次のように話しています。「彼はその著書『神とわたしの隣人』(God and My Neighbor)の中で、神、キリスト、祈り、不死不滅といった、キリスト教徒が信仰する事柄を激しく攻撃しました。大胆にもこのように主張したのです。『わたしは自分が証明を試みた事柄は全て完全に、はっきりと証明し尽くしてきた。たとえどんなに偉大で能力のあるキリスト教徒であっても、わたしの主張に対抗し、論拠を覆すことはできない。』彼はいわば、懐疑論という壁で完全防備していました。そんな彼に驚くべきことが起こりました。彼の築いた疑いの壁が粉々に崩れ落ちたのです。……そのため彼は、あれほど軽蔑し、あざけていたはずの信仰に、少しずつ戻って行ったのです。彼をこれほどまでに変えたものは何だったのでしょうか。妻が亡くなったのです。打ちひしがれて、亡骸が置かれた部屋に入った彼は、心から愛した彼女の死に顔を見詰めました。部屋から出て来た彼は、友人にこう語りました。『あれは彼女だが、彼女ではない。何もかも変わってしまった。以前にはそこにあった何かを取り去られ、今は前と同じ彼女ではない。そ

の取り去られた何かが魂というものでなかったとしたら、いったい何だろうか。』³⁵

主は本当に亡くなられて、再び生きられたのでしょうか。そのとおりです。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストに立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関する他の全ての事柄は、それに付随するものにすぎません。』³⁶

預言されたイエスの誕生が近づいたとき、古代のニーファイ人とレーマン人のほとんどの人が疑う一方で、信じる人々がいました。やがて、主の誕生のしるし、すなわち、暗くなることのない二昼一夜が現れ、全ての人が知るようになりました。³⁷ 今日でも同じです。キリストの復活を文字どおり信じる人もいれば、疑い信じない人も多くいます。しかし知っている人もいます。時がたつと、全ての人が見て、全ての人が知ることになり、まことに、「すべてのひざがかがみ、すべての舌が贖い主の御前で告白します。』³⁸

そのときまで、わたしは、新約聖書の中にある救い主の復活に関する多くの証人、すなわち、ペテロと十二人の使徒たち、清いマグダラのマリヤとその他の人々の経験や証を信じます。わたしは、モルモン書にある証、すなわち、使徒ニーファイとパウンティフルの地にいた名もない大勢の人々の証を信じます。また、多くの証の後に、この最後の神権時代の大きい証、「小羊は生きておられる。わたしたちは……小羊を見たからである」³⁹ と宣べたジョセフ・

スミスとシドニー・リグドンの証を信じます。全能の神が鋭い目で御覧になる所で、ナザレのイエスが復活された贖い主であることの証人として、全てはイエスが復活されたという事実から始まっていることを証します。皆さんがこれと同じ証に確信と慰めが得られますように。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。■

注

1. ルカ 24:5-7
2. マタイ 28:6-7
3. ヨハネ 20:2
4. ヨハネ 20:5, 7
5. ヨハネ 20:8, 9
6. ヨハネ 20:13
7. ヨハネ 20:15
8. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』662
9. ルカ 24:34; 1コリント 15:5 参照
10. マルコ 16:12; ルカ 24:13-35 参照
11. ルカ 24:39
12. ルカ 24:41
13. ルカ 24:42-43 参照
14. 使徒 1:8
15. 3ニーファイ 11:14-15 参照
16. 3ニーファイ 11:16-17
17. ヨハネ 5:26
18. ヨハネ 10:17-18
19. 出エジプト 3:14 参照
20. 1コリント 15:21-22
21. The Neal A. Maxwell Quote Book, コーリー・H・マックスウェル編(1997年), 287
22. 1ヨハネ 4:8 参照
23. アルマ 42:15. モーサヤ 15:8-9 も参照
24. 3ニーファイ 27:13-14
25. エノス 1:6 参照
26. 例えば、3ニーファイ 9:15 参照
27. 例えば、教義と聖約 76章 参照
28. 教義と聖約 138章 参照
29. 使徒 1:10-11 参照
30. 信仰簡条 1:10. Topical Guide, "Jesus Christ, Millennial Reign" も参照
31. 例えば、2ニーファイ 9:15 参照
32. ヨハネ 14:12 参照
33. 教義と聖約 84:19-20
34. ヨブ 19:26
35. トーマス・S・モンソン「主は生けりと知る」『リアホナ』2007年5月号, 23
36. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』, 49-50
37. 3ニーファイ 1:15-20 参照
38. モーサヤ 27:31
39. 教義と聖約 76:22-23



トーマス・S・モンソン大管長

また逢う日まで

この2日間わたしたちが感じた御霊が、日々の務めを行うとき、わたしたちにとどまりますように。

兄 弟姉妹の皆さん、なんとすばらしい大会だったことでしょうか。わたしたちは、お話をくださった兄弟姉妹の靈感を受けた言葉に耳を傾け、霊的な糧を得ました。演奏された音楽はすばらしいものでした。メッセージは聖き御霊の促しを受けて準備され伝えられました。そして、祈りはわたしたちをより天に近づけてくれました。わたしたちはともに集い、あらゆる面で高められました。

この大会のメッセージが数日のうちにLDS.orgに掲載されたら、また、次号の『リアホナ』が印刷されたときには、わたしたちが時間を取って、大会のメッセージを読むことを願っています。それらのメッセージは注意深く読み返し、研究するのに

値するものです。

今大会で解任された兄弟たちおよび姉妹たちに対する心からの感謝の意を、皆さんがわたしとともに示してくださることを存じています。彼らはよく奉仕し、主の業に大きな貢献してくれました。彼らは全身全霊をもって献身してくれました。

また、わたしたちは、新たな責任に召された中央幹部の兄弟たちを挙手をもって支持しました。わたしたちは彼らを歓迎します。そして、主の大義においてともに奉仕するのを楽しみにしていることを彼らに知っていただきたいと思います。

聞いたメッセージについて深く考えるとき、わたしたちがこれまでよりももう少し物事をうまく行う決意ができるように願っています。わたしたちは、わたしたちと信条

と標準が異なる人々に親切になり愛を示せるように願っています。救い主がこの地上に携えて来られたのは、全ての人に対する愛と思いやりのメッセージです。わたしたちがいつも主の模範に従えますように。

現代の世の中で、わたしたちは大きな困難に直面しますが、わたしは皆さんに天の御父がわたしたちのことを心にかけてくださっていることを断言します。天の御父はわたしたちが御父に対して信仰を持ち信頼を寄せるときに、わたしたちを導き祝福してください。そして、どんな困難な道を進んでいようと天の御父はわたしたちを助けてくださいます。

天の祝福がわたしたち一人一人にありますように。わたしたちの家庭が愛と親切、そして主の御霊で満たされますように。サタンの魔の手からの守りとなるように、わたしたちが福音の証を絶えず養うことができますように。この2日間わたしたちが感じた御霊が、日々の務めを行うとき、わたしたちにとどまりますように。そして、わたしたちが常に主の御業に携わることができますように。

わたしは、この御業が真実であること、救い主が生きておられること、そして、主がこの地上にある主の教会を導き、指示を与えておられることを証します。天の父なる神が生きておられ、わたしたちを愛しておられることを証します。神は確かにわたしたちの御父であり、一人の御方であり、実在の御方です。天の御父がいかにわたしたちのそばに近づいてくださるのか、どれほどわたしたちを助けようとしてくださるのか、そして、どれだけわたしたちを愛してくださっているのかをわたしたちが気づくことができますように。

兄弟姉妹の皆さん、神が皆さんを祝福してくださいますように。神が約束してくださった平安が皆さんのうえに今もこれからも常にありますように。

6か月後に再びお会いするときまでのお別れです。わたしたちの主、救い主、イエス・キリストの御名により、アーメン。■





中央初等協会会長
ローズマリー・M・ウィクソム

聖約を守ることは、 わたしたちを守り、 備え、強めます

わたしたちは聖約を交わし、神のみもとに戻るために現世の道を歩んでいる、あらゆる世代の女性です。

姉 妹の皆さん、皆さんを愛しています。最近メキシコを訪問中に、わたしたちが今晚感じているような姉妹のきずなを垣間見ました。これから言う情景を思い描いてみてください。ある日曜日の朝、初等協会の時間が終わり、子供たちと教師とともに、混雑する廊下に出ようとしていると、若い女性の教室のドアが開き、若い女性たちとその指導者が見えました。わたしたちは互いに手を差し出して、抱き合いました。子供たちにスカートがぎゅっとなつかれ、女性たちに囲まれていたわたしは、そのときの気持ちを伝えたいと思いました。

わたしはスペイン語が話せないで、思い浮かんだのは英語の言葉でした。わたしはその姉妹たち全員の顔を見詰めてこう言いました。「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています。」皆すぐにスペイン語で一緒にその言葉を言い始めました。わたしたちは混み合う廊下で一緒に若い

女性のテーマを暗唱したのです。「わたしたちは、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても神の証人になります。」

今晚、世界中の姉妹たちが、神の王国を守り、支えたいという望みを抱きながら、神の弟子として一堂に会しています。わた

したちは天父の娘です。わたしたちは聖約を交わし、神のみもとに戻るために現世の道を歩んでいる、あらゆる世代の女性です。聖約を守ることは、わたしたちを守り、備え、強めます。

今晚ここには、初等協会の年齢の少女も集っています。中には、バプテスマの儀式を通して、永遠の命に至る道の最初の一步を踏み出したばかりの人もいますでしょう。

周りを見回してみてください。皆さんと同じように聖約を交わし、この道の先をどのように歩むべきかを教える用意のできている女性たちを見ると、将来は明るいことが分かるでしょう。

カンファレンスセンターや自宅、世界各地の集会所にいる、8歳、9歳、10歳、11歳の皆さん、立っていただけますか。中央女性集会へようこそ。まだ立っててくださいね。皆さんに参加してほしいのです。わたしがこれから初等協会の歌をハミングします。どの曲か分かったら、一緒に歌ってくださいか。みんなに聞こえるように大きな声で歌ってください。

光の中進もう
いつも祈り、従い
正しい道選んで
光の道行こう



メキシコ、メキシコシティ

少女の皆さん、まだ立ったままですよ。
12歳以上の皆さんは2番を歌ってください。

子供たちと一緒に
主のみ言葉学ぼう
天へ戻れるように
光の道行こう¹

とてもよかったです。どうぞ座ってください。ありがとうございます。

あらゆる年齢の女性であるわたしたちは、主の光の中を進みます。道はそれぞれ異なりますが、どの道も救い主の愛により照らされます。

わたしたちは、バプテスマの儀式と聖約により永遠の命に至る道の門に入り、聖霊の賜物を受けます。ロバート・D・ヘイルズ長老はこうに尋ねています。「[わたしたち]と[わたしたち]の子供たちは、バプテスマによって自分が永遠の変化を経験したことを理解しているでしょうか。」

ヘイルズ長老はさらにこのように説明しています。「バプテスマの聖約と聖霊の賜物について理解するなら、バプテスマによって人生が変わり、神の王国への完全な忠誠が確立されることでしょ。誘惑に遭うとき、耳を澄ませば、聖霊はわたしたちが救い主を覚え、神の戒めに従うと約束していることを思い出させてくださいます。」²

毎週聖餐の象徴を受けるとき、わたしたちはバプテスマの聖約を新たにします。デビッド・A・ベドナー長老はこのように述べています。「バプテスマの水の中に立つとき、わたしたちは神殿に心を向けます。聖餐を受けるときにも、神殿に心を向けます。神殿の神聖な儀式に携わり、主イエス・キリストの御名と権能を通して得られる最高の祝福を受ける準備として、救い主をいつも覚え、その戒めを守ることを誓います。」³

神殿の儀式は、イエス・キリストの贖いを通して得られる最も大なる祝福をもたらします。それは、日の栄えに昇栄するために必要な儀式です。聖約を守ろうと努



めるときに、自分が不完全で足りない者であるという気持ちは薄れ、神殿の儀式と聖約が意味を持つようになります。誰もが永遠の命に至る道を歩むよう招かれています。

わたしは、世界各地で出会った少女や若い女性、女性たちの強さに畏敬の念を抱いています。彼女たちはこの道にしっかりと足を据えています。これまでに出会った聖約の少女と聖約の女性の例をいくつか紹介しましょう。

わたしがアルゼンチン、ブエノスアイレスに住むルアナの家族を訪問した当時、ルアナは11歳でした。幼い頃の出来事が心の傷となり、ルアナは話すことができませんでした。何年もの間話せませんでした。わたしたちが話をしている間、ルアナは黙って座っていました。わたしは、彼女のささやき声だけでも聞きたいと思っていました。彼女はわたしをじっと見詰めていました。言葉を発しなくとも、その表情を見るだけで、ルアナの気持ちが感じられました。祈り終わると、わたしたちは立ち上がって帰ろうとしました。するとルアナは自分で描いた絵をわたしにくれました。それは、ゲツセマネの園のイエス・キリスト

の絵でした。そのとき、ルアナの証がはっきりと分かりました。ルアナはバプテスマを受けるときに「いつでも、どのようなことについても、どのような所にも」⁴ 神の証人になるという聖約を交わしました。ルアナは、イエス・キリストの贖いを理解しており、絵を描くことにより証をしたのです。贖いが持つ、人を強め能力を授ける力を通して、癒され、また話せるようになることを彼女は知っていたのでしょうか。3年前のその日以来、ルアナは話せるよう努力を重ねています。今では友人とともに若い女性に出席しています。バプテスマのときに交わした聖約に忠実に従い、救い主に対する証を今も伝えています。

世界中の青少年が神殿に関心を寄せています。ペルーのリマで、わたしはある父親とその3人の娘に神殿の入り口の外で出会いました。彼らの顔は輝いていました。2人の娘は大きな障がいを抱えており、車椅子に乗っていました。3人目の娘は、2人の姉妹の世話をしながら、家にあと2人姉妹がいると説明してくれました。その2人も車椅子を使っていて、14時間かけて神殿まで来ることができませんでした。この父親と娘たちにとって神殿は非

常に大切だったので、その日4人が神殿に来たのです。そのうち2人は、死者のためにバプテスマを受けることのできる1人の姉妹がその神聖な儀式を行うのを、ただ見るためだけに来ました。ニーファイのように彼らは「主が……立てられた聖約を喜んで」⁵ いました。

知り合いのある独身の女性は、毎週行われる聖餐の儀式と、そのときに交わされる「いつも御子の御霊を受けられる」⁶ という神聖な約束を尊んでいます。御霊を常に伴侶とすることができるというこの約束は、この姉妹に時折押し寄せる寂しさを和らげてくれます。また、自分の才能と、

主に仕えたいという望みを育むことに没頭する力を与えてくれます。彼女は、周りの全ての子供たちを愛することに大きな喜びを見いだしています。そして、完全な平安を求めるときには神殿に行きます。

最後に、90代の老齢の女性についてお話しします。彼女は子供や孫の成長や、ひ孫の誕生を目にしてきました。多くの人と同じように彼女は人生で悲しみや苦難、限らない喜びを経験してきました。彼女は、もし自分の生涯の物語を書き直すことができるとしたら、幾つかの章を省くだろうと話します。しかし、笑顔でこう言います。「もう少し長生きして、話の結末を見届けよ

うと思うの。」彼女は、交わした聖約に絶えずしっかりとつかまっています。

ニーファイはこのように教えています。「あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。……

したがって、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。』⁷

わたしたちは皆その道に立っています。今晚、光の中のその道を進むことについて歌いました。わたしたちはそれぞれ強い存在です。神がともにいてくだされば、無敵の存在になります。

主はエマ・スミスに言われました。「心を高めて喜び、あなたが交わした聖約を固く守りなさい。」⁸

わたしたちは、聖約を守ることにより天の御父と救い主イエス・キリストの愛を感じることができることを、確かに喜んでいます。御二方が生きておられることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. 「光の中進もう」『賛美歌』194番、または『子供の歌集』70
2. ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約—王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号、8、7
3. デビッド・A・ベドナー「名と地位を立派に維持する」『リアホナ』2009年5月号、98
4. モーサヤ18:9
5. 2ニーファイ11:5
6. 教義と聖約20:77
7. 2ニーファイ31:19-20
8. 教義と聖約25:13





中央若い女性会長
ボニー・L・オスカーソン

姉妹のきずな—— わたしたちは何と互いを 必要としていることでしょう

互いとの違いばかり見るのをやめて、共通点を探すべきです。

ビデオの中で8つの国と9つの言語が出て来ました。最後にはさらに幾つの言語が加わったかを考えてみてください。世界中で結ばれた姉妹として声をあげ、わたしたちは愛あふれる天の御父の娘であるという永遠の真理を証あかしできたことに胸が高鳴ります。

この歴史的な集会に参加し、教会の8歳以上の全ての女性に向けて話せることは、何と大きな特権でしょう。今夜わたしたちが結束していることに大きな力を感じます。今こうしてカンファレンスセンターに集まっている皆さんを見て、そして世界各地でこの放送を視聴している何千人という皆さんの姿を想像すると、イエス・キリストに対するわたしたちの証と信仰が結集して生まれる力が、教会の歴史上、あるいは世界の歴史上、最も信仰深い、強力な女性が集っているこの集会に満ちていることがよく分かります。

今夜、わたしたちは教会の女性が担う様々な役割に喜びを感じます。わたしたちはそれぞれ異なる、特別な存在ですが、全員が同じ天の御父の娘であり、姉妹であることも知っています。どのような状況に置

かれていようと、わたしたちは神の王国の構築と、交わした聖約において一つになっています。この合同の集会は、間違いなく地上で最も栄えある姉妹のきずなの表れです。¹

姉妹であるということは、わたしたちの間に切っても切れないきずながあるということです。姉妹は互いの世話をし、互いを

気に掛け、慰め合い、楽しいときも苦しいときも助け合います。主は次のように言われました。「わたしはあなたがたに言う。一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」²

サタンはわたしたちが互いに批判したり、裁いたりすることを望んでいます。それぞれの違いに目を向け、互いを比べることを望んでいるのです。皆さんは毎日1時間元気に運動することが気持ち良くて好きかもしれませんが、わたしにとってはエレベーターに乗らないで一つ上の階まで階段を上ることすら大ごとです。それでもわたしたちは友達でいられますよね。

わたしたち女性は、特に厳しい目で自分を見ることがあります。人と自分を比べると、自分は不十分だと感じたり、人に腹を立てたりします。以前、パトリシア・T・ホランド姉妹は次のように述べています。「つまり、わたしたちはクリスチャンと名乗りながら互いを——あるいは自分を——厳しい目で裁き続けることはできません。」³ホランド姉妹はさらに、わたしたちが思いやりと姉妹同士のきずなを手放すに値するようなのは何もないと語っています。ただ肩の力を抜いて、神から受け継いだ個々



オーストラリア、シドニー



の違いを喜ぶ必要があります。全ての姉妹が自分の特別な才能や賜物たまものを使ってそれぞれの方法で王国で奉仕したいと望んでいることをよく理解しなければなりません。そうすれば、姉妹同士のきずなや交わりを喜ぶことができ、仕え始めることができるのです。

実際のところ、わたしたちは実に互いを必要としています。女性は生まれつき、友情や心の支え、仲間を求めます。互いから学ぶことがたくさんあるのに、自ら壁を作って、人生で最大の祝福となり得る関係を築けなくしてしまうことがよくあります。例えば、少し年配のわたしたちは、初等協会の皆さんが持っているものを必要としています。キリストのように奉仕し、愛することについて、皆さんからたくさんを学べます。

最近、サラという名前の女の子について、すてきな話を聞きました。サラの母親は同じワードのブレンダという女性を助ける機会がありました。ブレンダは多発性硬化症を患っていました。サラは母親と一緒にブレンダの手伝いに行くのが大好きでした。ブレンダがしばしば痛みで苦しむので、サラはブレンダの手にローションを塗り、指や腕をマッサージしました。その後、サラはブレンダの腕を優しく頭の上に伸ばして筋肉を動かす方法を覚えました。母親がブレンダの他の用事を済ませている間に、ブレンダの髪をとかし、おしゃべり

をしました。サラは人に奉仕する大切さと喜びを学び、子供であっても誰かの人生に大きな違いをもたらすことができることを知りました。

わたしはルカ1章に書かれている話が好きです。そこには、イエスの母マリヤと、いとこのエリサベツのすばらしい関係が描かれています。神の御子の母親になるという驚くべき使命を告げられたとき、マリヤは若い女性でした。初めは、一人では背負い切れないほど重い責任のように感じたことでしょう。主御自身が、マリヤが重荷を分かち合える人を用意されました。天使ガブリエルの御告げを通して、信頼でき思いやりのある女性、その人にならマリヤが支えを求められるような女性の名前が告げられました。すなわち、いとこのエリサベツでした。

この若い女性と彼女の「年老いていた」⁴ といこは、奇跡的な妊娠をしたという共通点がありました。二人がともに過ごした3か月は、ともに語り合い、共感し合い、それぞれの特別な召しにおいて支え合う、どちらにとっても非常に貴重な時間だったことでしょう。二人は、異なる世代の女性が養い合う姿を表したすばらしい模範です。

わたしたち少し年配の姉妹は、若い世代に大きな影響を及ぼすことができます。わたしの母が幼かったころ、彼女の両親はどちらも教会に活発ではありませんでした。母はまだ5歳だったにもかかわらず、

一人で教会まで歩き、初等協会と日曜学校、聖餐会せいさんに出席しました。当時、それらの集会はそれぞれ別の時間に開かれていました。

最近わたしは母に、家族の支えや励ましが無い中、毎週毎週、どうして教会に行っていたのか尋ねました。母はこう答えました。「わたしを愛してくれた初等協会の教師がいたのよ。」教師たちは母を気に掛け、彼女に福音を教えました。母を愛してくれる天の御父がおられることを教え、母が毎週通い続けられるように心に掛けてくれました。母はわたしにこう言いました。「わたしの子供時代で、最も大切な影響だったわ。」このすばらしい姉妹たちについてお礼を言うことができればと思います。キリストのような奉仕をするのに年齢の壁はありません。

数週間前、わたしはカリフォルニア州のあるステーキの若い女性会長に会いました。彼女は、81歳になる自分の母親が最近マイヤメイドのアドバイザーに召されたことを教えてくれました。大変感銘を受けたわたしは、彼女の母親に電話をかけることにしました。バル・ペーカー姉妹がビショップから会いたいと言われたとき、ペーカー姉妹は図書委員かワード歴史委員に召されるのだろうと楽しみにしていました。しかし、ビショップが若い女性のマイヤメイドアドバイザーとして奉仕してほしいと言ったので、彼女は「本当によろしいので

すか」と聞き返しました。

ビショップは真剣な面持ちでこう答えました。「ベーカー姉妹、間違いありません。これが主からの召しです。」

ベーカー姉妹の答えはただ一つでした。「もちろんお受けします。」

この熟年の姉妹の知恵と経験、そして生涯にわたって示してきた模範から、ワードの4人のマイヤメイドが多くのことを学べると感じたこのビショップの靈感に感謝します。ベーカー姉妹がフェイスブックを始めるときに、誰に助けを求めるかは想像できますね。

最近まで若い女性にいた若い姉妹を迎え入れるとき、扶助協会の姉妹は大きな助けとなれると思います。若い姉妹は、扶助協会に居場所がない、あるいは扶助協会の姉妹と共通点がないと感じることがよくあります。彼女たちが18歳になるまでに、若い女性指導者や母親が扶助協会の祝福について喜びをもって証することが必要です。若い女性は、このような栄えある組織の一員となることを楽しみにする必要があります。若い女性が扶助協会に出席し始めるとき、一番必要なのは、隣に座る友達や支えてくれる人、そして教え仕える機会です。人生の転機や節目に、互いに助けの手を差し伸べようではありませんか。

年齢や文化の違いを超えて、人々に祝福をもたらす奉仕する教会の全ての女性に感謝します。若い女性は初等協会の子供たちや年配の姉妹に仕えています。あらゆる年齢の独身の姉妹が、多くの時間を費やして、周りの人の必要を気に掛けています。世に福音を宣べ伝えるために1年半の時間をささげている何千人もの若い女性がいることを知っています。これらは全て、大好きな賛美歌にあるとおり、女性が「天使の務め〔に〕いそし〔んで〕」いることを表すのです。⁵

もし何か壁があるとすれば、それはわたしたち自身が作り出しているものです。互いの違いばかり見るのをやめて、共通点



オーストリア、ウイーン

を探すべきです。そうすれば、自分たちの大きな可能性に気づき、この世で最も偉大な善を成し遂げられるでしょう。以前、マージョリー・P・ヒンクレイ姉妹は次のように述べました。「わたしたちは何と互いを必要としていることでしょうか。年配の姉妹には若い姉妹が必要です。そして、若い皆さんにもわたしたち年長者が必要であるほしいと思います。女性に女性が必要なことは社会学的な事実です。わたしたちには互いと深い、満足のいく、誠実な友情が必要です。」⁶ ヒンクレイ姉妹の言うとおりで。わたしたちは何と互いを必要としていることでしょうか。

姉妹の皆さん、わたしたちが末日聖徒の女性として享受している祝福より大きな祝福を得られる女性のグループは、世界のどこにもありません。わたしたちは主の教会の会員であり、各自の状況にかかわらず、全ての姉妹がバプテスマや神殿で交わした聖約を守ることによって神権の力がもたらす祝福を余すところなく受けられます。わたしたちには教え導く生ける預言者がいて、また生活の中で慰めと導き手となる偉大な聖霊の賜物を受けています。家庭や家族を強めるとき、義にかなった兄弟たちと力を合わせて働く祝福を受けています。神殿の儀式の強さと力、そしてさらに多くのものを受けています。

これらの偉大な祝福を味わうことに加え、わたしたちには互いが、すなわちイエ

ス・キリストの福音における姉妹が与えられています。わたしたちは優しい、慈愛に満ちた性質に恵まれていて、それによってキリストのような愛と奉仕を周りの人にささげることができます。年齢や文化、状況の違いを超えて、互いを養い仕え合うとき、キリストの純粋な愛と、いつ誰に奉仕すべきかを教える靈感に満たされるでしょう。

以前、ある中央扶助協会会長が語ったことを皆さんにお勧めします。「互いへの愛を増し加えるだけでなく、心から愛してください。」⁷ わたしたちがどれほど互いを必要としているかに気づき、その愛を一層よく示し合えますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。■

注

1. バーバラ・B・スミス “The Bonds of Sisterhood”, *Ensign*, 1983年3月号, 20 - 23 参照
2. 教義と聖約 38:27
3. パトリシア・T・ホランド “One Thing Needful”: Becoming Women of Greater Faith in Christ”, *Ensign*, 1987年10月号, 29
4. ルカ 1:7
5. 「シオンの娘」『賛美歌』195番
6. *Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley*, バージニア・H・ピアス編 (1999年), 254 - 255
7. ボニー・D・パーキン 「その良い方——愛するものを選ぶ」『リアホナ』2003年11月号, 106



中央扶助協会会長
リンダ・K・バートン

求む—— 御業を速める手と心

わたしたちは天の御父のすばらしい業を速めるために、助けの手を差し伸べ、心を差し出すことができるのです。

愛する姉妹たち、どんなに皆さんを愛していることでしょうか！ 皆さんはあの美しいビデオを見ながら、聖約の道にあって手を差し伸べ、誰かを助けている自分の姿を思い浮かべたでしょうか。わたしはプリンという名の初等協会の少女のことを考えていました。彼女の手は片手だけですが、それでもその手を差し伸べて、家族や末日聖徒の友達、また他の宗教の友達に祝福をもたらしています。彼女はすてきでしょう。皆さんもそうです。姉妹の皆さん、わたしたちは天の御父のすばらしい業を速めるために、助けの手を差し伸べ、心を差し出すことができるのです。

聖文に登場するエバやサラ、マリヤ、その他多くの忠実な姉妹たちが、自分は何者であるか、目的は何かを知っていたように、プリンも自分が神の娘であることを知っています。¹ わたしたちも神の愛する娘としての神聖な受け継ぎと、神が用意しておられる重要な務めを知ることができるのです。

救い主はこう教えられました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が……わかるであろう。」² 「いつかみもとへ行けるように」³、わたしたちは何を知り、何を行う必

要があるでしょうか。永遠の命を得るために何を行う必要があるかをイエスに尋ねた裕福な青年がいました。わたしたちはこの青年の物語から学ぶことができます。

イエスは青年に答えられました。「もし命にいらいたいと思うなら、いましめを守りなさい。」

青年はどの戒めを守ればよいか尋ねました。するとイエスは、わたしたち全員がよく知っている十戒の幾つかを彼に思い起



こさせられました。

青年は答えました。「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか。」

イエスは言われました。「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい。」⁴

イエスは御自分の業に加わるよう、すなわち弟子として務めをなすよう青年に呼びかけられました。わたしたちの務めも同じです。わたしたちは「世のものを捨てて……〔わたしたちの〕聖約を固く守り」⁵、キリストのみもとに来て、キリストに従います。それこそ弟子が行うことなのです。

ところで、姉妹の皆さん、救い主が裕福な青年に完全になることについて語られたからといって、自分を責めないようにしましょう。この話の中の完全という言葉は、「完成する」という意味のギリシャ語から翻訳されたものです。わたしたちは聖約の道を進むために最善を尽くすとき、この世でより完成し、より完全になれるのです。

イエスの時代の裕福な青年のように、わたしたちも時に、諦め、来た道を引き返したい誘惑に駆られることがあります。恐らく、独りではできないと思うからでしょう。そのとおりです。助けがなければ、行うように求められても、難しいことは行えません。その助けは、イエス・キリストの贖罪、聖霊の導き、また他の人々の支援によって与えられるのです。

ある忠実な独身の姉妹が最近証を述べていました。贖罪を通じて彼女は、助けの手と進んで行う心を使って、がんて亡くなった姉が残した4人の子供を育てる力を見いだしたのです。ニール・A・マックスウェル長老がこう言ったのを思い出します。「教会がなすべきことのうち、容易なことは全て成し遂げられました。これからはより壮大な冒険になります。従順さが、思いも寄らない方法で試されるのです。」⁶ 皆さんがどのような人で、何を行う備えをしてきた

かということが、この神権時代に地上に送られた理由です。自分を何者であると思うかについて、サタンがわたしたちをどのように説き伏せようとしても、わたしたちの真の姿はイエス・キリストの弟子なのです。

モルモンは真の弟子であって、「[人々が]一人残らず心をかたくなにし、……[この]ようなひどい悪事は、リーハイのすべての子孫の中に……これまで決してなかった」⁷とされた時代に生きた人です。皆さんはその時代に生きていたかったでしょうか。にもかかわらず、モルモンは雄々しく、このように宣言しました。「見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。」⁸

すばらしい人だと思いませんか。モルモンは自分が何者であり、どのような使命があるかを知っていて、周囲の悪にも気を取られませんでした。事実、彼は自分の召しを賜物^{たまもの}と考えていたのです。⁹

弟子として日々務めるといふ賜物を主にささげ、言葉と行いによって「見よ、わたしはイエス・キリストの弟子である」と宣言するように召されていることは、何とすばらしい祝福であるか、考えてみてください。



アメリカ合衆国、アリゾナ州ギルバート

ボイド・K・パッカー会長は以前、食糧を貯蔵するようという預言者の勧告に従っていることを笑われた、一人の愛する姉妹について話しました。わたしはその話が大好きです。彼女を批判した人は、苦難の時代になれば、指導者は彼女の食糧貯蔵を他人に分け与えるように求めるだろうと言いました。それに対して、彼女は真の弟子として簡潔に、毅然としてこう答えました。「少なくともわたしには分けてあげられるものがあります。」¹⁰

わたしは、若い人も年配の人も、教会の女性たちを愛しています。わたしは皆さん

の強さを見てきました。その信仰を見てきました。皆さんには分けてあげられるものがあり、快くそれを分け与えます。誇示したり注目を浴びたりせず、自分にはなくわたしたちが礼拝する神に人の心を引きつけています。自分は何を受けるか考えることもありません。¹¹ それこそ弟子が行うことなのです。

わたしは最近、フィリピンである若い女性に会いました。彼女がまだ7歳のときに、家族は教会にあまり活発でなくなり、彼女は毎週危険な道を独りで歩いて教会に通うようになりました。14歳のときに、彼女は、「神権の祝福と喜び」¹²のある家庭で将来の自分の子供を育てるのにふさわしくあるために、聖約に忠実であることを決心したそうです。現在あるいは将来の家庭を強める最善の方法は、聖約、すなわちわたしたちが互いに、また神と交わした約束を守ることです。

それこそ弟子が行うことなのです。

ある忠実な日本人の姉妹とご主人が、韓国のわたしたちの伝道部を訪問しました。彼女は韓国語を話せず、英語の会話力も限られていましたが、主の業を行うために、進んで独自の賜物を使い、助けの手を差し伸べる心を持っていました。それこそ、弟子が行うことなのです。彼女は宣教師たちに、簡単な折り紙の折り方を教えました。開けたり閉じたりできる口の形の折り紙です。それから、知っているわずかな英単語で、「口を開[いて]」福音を伝えるよ





歌の歌詞を引用します。

「聖約の〔娘〕たちは
言葉と行いにより
模範と証を示し
主を信じ、仕える。」¹⁴

真の弟子として、進んで行く心を差し出し、助けの手を差し伸べることによって、主の業を速めることができますように。プリンのように、片手があるだけだとしても問題ではありません。まだ完全ではなく完成してなくてもかまいません。わたしたちは道すがら互いに手を差し伸べ、助け合う献身的な弟子です。姉妹の絆は、過去にこの道を歩んだ忠実な姉妹たちと、世代を超えて結び合っています。わたしたちは姉妹として、また回復された神権の鍵を持つ生ける預言者、聖見者、啓示者と一致して、一つとなり、弟子として、また救いの業を速めるために進んで行く心と手を持つ僕として歩むことができます。そうするときに、わたしたちは主のようになるのです。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。■

注

1. "Brynn," lds.org/media-library/video/2011-01-007-brynn 参照
2. ヨハネ 7:17
3. 「神の子です」『賛美歌』189 番、または『子供の歌集』2-3
4. マタイ 19:16-22 参照
5. 教義と聖約 25:10, 13
6. ニール・A・マックスウェル, "The Old Testament: Relevancy within Antiquity" (教会教育システム宗教教育者への話, 1979年8月16日) 4: si.lds.org
7. モルモン 4:11-12
8. 3 ニーファイ 5:13
9. モロナイ 7:2 参照
10. ボイド・K・バッカー「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号, 214 で引用
11. 2 ニーファイ 26:29-30 参照
12. 「愛の言葉」『子供の歌集』102-103
13. M・ラッセル・バラード「義にかなった女性たち」『リアホナ』2002年12月号, 39
14. 「世界中と手をつなぐ」『リアホナ』2003年10月号, フレンド 12-13

うにと宣教師たちに教えたのです。この教えを彼らは決して忘れないでしょう。わたしも忘れません。

皆さんやわたしが、主の教会の何千万という兄弟姉妹とともに立ち、雄々しく進み出て、救い主のように仕え、愛するという、弟子としての務めを果たしている姿を少しの間思い描いてください。皆さんにとってイエス・キリストの弟子であるとはどういうことでしょうか。

私心のない何十万ものイエス・キリストの弟子たちが、モルモン・ヘルピングハンズベストやTシャツを着て、世の奉仕を行う機会に熱心に参加しています。しかし、献身的な弟子として奉仕する方法は他に幾つもあります。救いの業に関する霊的な「求人」広告として考えられるものをわたしと一緒に想像してみてください。

- 求む——子供を光と真理の中で育てる親
- 求む——助言者として奉仕し、聖約の道にあって助けの手を差し伸べる娘、息子、姉妹、兄弟、おば、おじ、いとこ、祖父母、真の友
- 求む——聖霊の促しに耳を傾け、受けた印象に基づいて行動する人

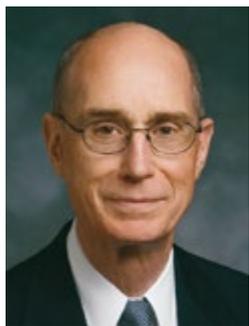
- 求む——小さな簡単な方法で毎日福音を実践する人
- 求む——家族を永遠につなぐために家族歴史と神殿の業に携わる人
- 求む——「良い知らせ」すなわちイエス・キリストの福音を広める宣教師と会員
- 求む——道に迷った人を見つけ出す救助者
- 求む——真理と正義のために堅く立つ聖約の守り手
- 求む——主イエス・キリストの真の弟子

何年も前に、M・ラッセル・バラード長老は教会の姉妹たちに力強く呼びかけ、次のように述べました。

「今から主が再びおいでになる日まで、あらゆる家族、あらゆるワード、あらゆる社会、あらゆる国において、積極的に義を行い、言葉と行いによって『わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください』という姿勢を示す女性を主は必要としておられます。

そこでわたしはこう尋ねたいのです。「皆さんはこのような女性の一人になりたいと思っているのでしょうか。」¹³

一人一人がはっきり「はい」と答えられるように願っています。最後に、初等協会の



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

聖約の娘たち

天の御父のみもとへ帰る旅で通らなければならない……道には、神との聖約という特徴があります。

わたしたちは今晚、霊的な力をもって教えられました。今晚話してくれた指導者たちの言葉が、わたしの心に深く入ってきたように、皆さんの心にも深く入るように願っています。

これは歴史的な集会です。教会の8歳以上の全ての女性が招待されています。聖霊がわたしたちとともにいてくださるよう、多くの人が祈ってきました。姉妹たちの話や心を高める音楽を聞いている間に、その祈りは応えられました。これまで聞いた話にわたしの励ましあかしの言葉と証を添える間にも、引き続き御霊がとどまるように祈っています。わたしたちが聞いた言葉は、主がわたしたちに聞かせたいと思っておられる言葉であることを特に証します。

わたしは御父のみもとへ帰る旅で通らなければならない道について話します。その道については今日すばらしい話を通して語られました。その道には、神との聖約という特徴があります。わたしは、聖約を交わして守る喜び、そして他の人々が聖約を守れるように助ける喜びについて話します。

皆さんの中には、最近バプテスマを受け、あかしの賜物を受けた人がたくさんいます。皆さんはそのときのことをよく覚えています。随分前にバプテスマを受けた人は、聖約を交わしたときの気持ちをはっきり思い出せないかもしれません

が、せいさん聖餐の祈りを聞かされたとき、ある程度その気持ちがよみがえります。

神聖なバプテスマの聖約を交わし、聖霊の賜物を受けたときの記憶は人それぞれに違います。しかし、神から認められているという気持ちを一人一人が感じました。そして、ゆる赦し、赦されたいと望み、正しいことをしようという決意を強めました。

その気持ちがどれだけ心に深く入ってきたかは、愛する人たちが皆さんをどのように備えたかに大きく影響されました。最

近バプテスマを受けた人がお母さんの近くに座っていることを願っています。もしそうなら、今お母さんに感謝の笑顔を送ってください。わたしは、ペンシルベニア州フィラデルフィアでバプテスマを受けた日に、車で家に帰る途中、母の後ろに座っていたときに感じた喜びと感謝の気持ちを今でもよく覚えています。

母はわたしを、バプテスマの聖約に、そして将来交わす全ての聖約に適切に備えてくれました。母は、主の次の戒めに忠実に従ったのです。

「さらにまた、シオンにおいて、または組織されているそのいずれかのステークにおいて、子供を持つ両親がいて、八歳のときに、悔い改め、生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ、罪はその両親の頭にある。

これが、シオン、または組織されているそのいずれかのステークに住む者への律法である。

その子供たちは、八歳のときに罪の赦しのためのバプテスマを受け、また按手を受けなければならない。』¹



カナダ、アルバータ州レイモンド



アメリカ合衆国、ニューヨーク州バルマイラ

母はその責任を果たし、モルモン書に記されているアルマの次の言葉と同じような言葉をもって、子供たちを備えてくれました。

「そして、アルマは言った。『見よ、ここにモルモンの泉がある。(この泉はこのように呼ばれていた。)あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になることを望んでいる。

まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあらうか。』

人々はこの言葉を聞くとき手をたたいて喜び、『それこそわたしたちが心から望んでいることです』と叫んだ。』²

バプテスマによって聖約を交わすように初めて勧められたときに皆さんは手をたたかなかったかもしれませんが、間違いなく救い主の愛を感じ、主に代わって人を助け

ようとさらに固く決意したことでしょう。「間違いなく」とわたしが言えるのは、天の御父の娘には皆そのように感じる心が胸の奥にしっかりと備わっているからです。それは皆さんが御父から受けた神聖な受け継ぎの一部です。

地上に来る前、御父は皆さんを教えられました。地上に行けば、皆さんは皆さんのために特別に選ばれた試練や試し、そして機会を得ることになるということを御父は教え、皆さんが理解し受け入れることができるように助けてくださったのです。皆さんは、御父が幸福の計画を作ってくださったのは皆さんが無事に試練を乗り越えられるようにするためであるということを知りました。そして、地上に行ったときには、試練に遭う人々を助けることになるということを知りました。この計画には神との聖約という特徴があります。

聖約を交わして守るかどうかは、個人の自由です。神の娘のほとんどは、この世で聖約を学ぶ機会さえありません。皆さんは、数少ない恵まれた娘です。愛する姉妹の皆さん、皆さん一人一人は、聖約の娘なのです。

みもとを離れて地球に来たときに経験することについて、天の御父は皆さんが生まれる前にお教えになりました。皆さんは、御父のみもとに帰る道は簡単ではないことを学びました。皆さんが助けなしにこの旅をすることは、あまりにも困難だとい

とを御父は御存じでした。

皆さんは、この世の生涯で聖約を交わす方法を知ることができたという祝福だけでなく、助けてくれる人たち、すなわち皆さんと同じ神の聖約の娘たちに囲まれるという祝福も受けてきました。

今晚、皆さん全員が、皆さんを助け導くという聖約と約束を交わした神の娘たちと一緒に過ごすという祝福を感じてきました。聖約を交わした姉妹たちが、慰め助けるという約束をほほえみながら果たしている様子を、皆さんもわたしも今晚目にしてきました。

わたしはルビー・ヘイト姉妹のほほえみを今でもよく覚えています。ヘイト姉妹は、十二使徒定員会の会員であったデビッド・B・ヘイト長老の奥さんでした。ヘイト長老は若い頃、カリフォルニア州パロアルトステーキの会長で、自分のワードのマイアメイドクラスの少女たちのことを心配し、祈っていました。

ヘイト会長は靈感を受け、妻ルビー・ヘイトを少女たちの教師に召すようビジョップに告げました。彼女が神の証人となり、クラスの少女たちを高め、慰め、愛することを確信したのです。

ヘイト姉妹は、少女たちより30歳以上年上でした。それでも、教えてから40年が経過した後でさえ、教え子だったわたしの妻キャシーに会うたびに、手を差し出し、ほほえみながら「まあ、わたしのマイアメイド」と呼びかけてくれました。それは、親しみのこもった挨拶以上のものでした。一人の姉妹を、実の娘のように今なお気遣う彼女の深い愛を感じました。一人の姉妹、一人の神の娘が、みもとに帰る聖約の道をお歩み続けている姿を見て、思わず笑みがこぼれ、温かい言葉が出てきたのです。

永遠の命への聖約の道を歩めるように、皆さんが神の一人の娘を助けるのを見るたび、御父は同じようにほほえみかけてくださいます。正しいことを選ぶようするときもいつでも喜んでくださいます。御父は現



在の皆さんだけでなく、将来の皆さんをも御覧になっているのです。

皆さんの地上の親は、皆さんよりもずっと皆さんの可能性を信じていることでしょう。わたしの母もそのような母でした。

わたしが若い頃に理解していなかったのは、御父は、わたしたち自身や、わたしたちの地上の母親が考えているよりもずっと大きな可能性をわたしたちの中に見ておられるということです。そして、皆さんがその可能性へと続く坂を上るときに、御父はいつも喜ばれます。そのとき皆さんは、御父に認められていると感ずることが出来ます。

御父は全ての娘の内に、たとえその娘がどこにしようとも、栄光に満ちた可能性を見ておられるのです。ですから、皆さん一人一人には大きな責任があります。出会う全ての人を神の子として扱うことを御父は期待しておられるのです。だからこそ、自分を愛するように隣人を愛し赦しなさいと戒めておられるのです。人をいたわり赦す気持ちは、神の娘である皆さんが神から受け継いだ特質です。皆さんが出会う一人一人は、神が愛しておられる神の霊の子供

なのです。

そのようなすばらしい姉妹同士という感覚があるときに、わたしたちを隔てる壁のように思っていたものは消え去ります。例えば、若い姉妹と年配の姉妹は、理解し受け入れてもらえると期待しながら、思いを分かち合えます。神の娘である皆さんには、相違点よりも共通点の方が多いのです。

そう考えるなら、若い女性は扶助協会に入る日を、姉妹の輪が広がる機会として楽しみにするでしょう。より多くの姉妹たちを知り、称賛し、愛するようになるのです。

自分の可能性を知る能力は、家庭や初等協会で育まれます。今、家庭の夕べや初等協会のプログラムで育まれています。復活した救い主が子供たちを教えたときにその舌を緩められたように³、幼い子供たちは、靈感を受けて大いなる驚くべき事柄を語っています。

サタンは姉妹たちを若いうちから攻撃しているかもしれませんが、主は姉妹の霊性をますます高く引き上げておられます。例えば、ファミリーサーチで先祖を見つけて

救う方法を、若い女性が母親に教えています。わたしが知っている若い姉妹たちは、周りにせき立てられなくても、エリヤの霊の励ましだけで、身代わりのバプテスマを受けるために朝早く神殿に行くことを選択しています。

世界中の伝道部で、姉妹が指導者として召されています。主はさらに多くの姉妹の心に奉仕の気持ちを生じさせ、姉妹による奉仕の必要性を創造されました。姉妹宣教師が導き手として、特に人を養い育てる指導者として、さらに力を増す様子を、多くの伝道部会長が目に見ています。

専任宣教師として奉仕するか否かにかかわらず、偉大な女性の模範に従うことによって、皆さんは、結婚生活を豊かにし立派な子供を育てる力を等しく得ることが出来ます。

全ての生ける者の母であるエバについて考えてみてください。ラッセル・M・ネルソン長老はエバに関してこう言いました。「人類は皆、エバの大きな勇気と知恵により永遠に祝福を受けています。エバは最初に木の実を食べることにより、必要



とされていたことを成し遂げたのです。アダムもその賢明さをもって、同じ行動を取りました。」⁴

エバと同様、エバの娘にも皆、家族を祝福する力があります。エバは家族をもうけるために非常に重要であったため、彼女の創造について次のように記されています。「また、神々は言われた。『この人のためにふさわしい助け手を造ろう。人が独りでいるのは良くないからである。それゆえ、わたしたちは彼のためにふさわしい助け手を形造ろう。』」⁵

わたしたちはエバがアダムと家族にとってどれほどすばらしい助け手であったかを完全に知ることはできませんが、エバが与えた大いなる賜物についてはよく知っています。それは、皆さん一人一人にも与えることができる賜物です。前途が険しいよ

うに思えたとき、故郷に帰る道が家族に見えるようにエバは助けたのです。「彼の妻エバは、これらすべてのことを聞き、喜びながら言った。『わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。』」⁶

エバの模範に従いましょう。

啓示により、エバは神のみもとへ帰る道を知ることができました。イエス・キリストの贖罪しぐさにより、家族で永遠の命が得られることを知ったのです。天の御父と交わした聖約を守るならば、贖い主と聖霊は、将来どのような悲しみや落胆が訪れても、自分と家族を助けてくださるということをエバは確信しました。皆さんも同じように

確信できるのです。エバは御三方を信頼することができると知りました。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」⁷

わたしは、エバが悲しみと落胆を味わったことを知っています。しかし、自分と家族がみもとに帰って神とともに住めるという知識によって喜びを得たことも知っています。わたしは、ここにいる皆さんの多くが悲しみと落胆を味わっていることを知っています。みもとへ帰る旅の途中でエバが感じたのと同じ喜びを、エバのように感じることができるとともに、皆さんを祝福します。

わたしは、父なる神が愛をもって皆さんを見守っておられることを確かに知っています。神は皆さん一人一人を愛しておられます。皆さんは神の聖約の娘です。皆さんへの愛のゆえに、神は皆さんや他の人々がみもとへ続く坂を上るのに必要な助けを与えてくださるでしょう。

救い主は一人一人の罪の代価を全て支払ってくださいました。聖霊は真理を証されます。皆さんはこの集会でその慰めを感じました。神聖な聖約を結ぶ全ての鍵が回復されたことを証します。その鍵は今日、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長によって保持され、行使されています。これらの慰めと希望の言葉を、神の愛する聖約の娘である皆さんに残します。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。■

注

1. 教義と聖約 68 : 25 - 27
2. モーサヤ 18 : 8 - 11
3. 3 ニーフай 26 : 14 参照
4. ラッセル・M・ネルソン「不変の原則」『聖徒の道』1994年1月号, 40 参照
5. アブラハム 5 : 14
6. モーセ 5 : 11
7. 箴言 3 : 5 - 6

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談をいくつか選びました。話者は、アルファベット順に列挙されています。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。数字は説教が掲載されている最初のページを示しています。

話者	実話や物語
ニール・L・アンダーセン	(18) あるローレルの若い女性は、嘲笑され、罵られたにもかかわらず伝統的な結婚を擁護する。
M・ラッセル・バラード	(78) M・ラッセル・バラードは、大学のダンスパーティーで出会ったバーバラ・ポーウェンに「フォローアップ」をし、デートをするようになり、最終的には結婚する。ある8歳の少年は、自身の友人と友人の家族をプエノスアイレスにあるワードのオープンハウスに招待する。
デビッド・A・ベドナー	(87) 重い積荷でいっぱいになった後、トラックは雪の中で駆動力を得る。
リンダ・K・パートン	(122) フィリピンのある若い女性は、自分が交わした聖約に忠実であり続ける。韓国を訪問したある日本人の姉妹は、宣教師を教える。
クエンティン・L・クック	(44) ビレート・キンボールは、ジョセフ・スミスが明らかにした死者のためのバプテスマに関する「すばらしい教義」について夫に書いて送る。
ヘンリー・B・アイリング	(22) ハインリッヒ・アイリングは、アメリカに移住し、教会員となり、3つの召しを忠実に果たし、希望をもたらす受け継ぎを家族に残す。 (62) ヘンリー・B・アイリングの人生は、その父親、アロン神権の指導者、合衆国海軍、野球選手のジョー・ディマジオといった少年時代のヒーローによって形作られる。 (125) キャシー・ジョンソン(ヘンリー・B・アイリングの将来の妻)を教えるよう召されて40年たった今でも、ルビー・ヘイトは彼女に愛と関心を示した。
ドナルド・L・ホールストロム	(53) 肉体的な制限があったにもかかわらず、あるインドの忠実な男性は、伝道に出て、自分の家族が中国の香港 ^{ホンコン} 神殿で結び固められる準備をする。
ジェフリー・R・ホランド	(6) 二人の宣教師は、自分たちを罵り、食べ物や投げつけ、そのうちの一人を殴ろうとした男性に何も言わずに立ち去る。
トーマス・S・モンソン	(66) ある18歳の水兵は、部隊の隊員からあざけられても毎晩祈る。ある若い男性は、聖餐会のとき ^{せいさん} に証をするが、その日しばらくして、たばこを吸っているところを目撃される。 (91) 縫製員としての仕事を習得できるように、ある女性が別の縫製員を助けた後、この二人の女性は生涯の友となる。負傷した少年を乗せ、病院まで連れて行くために、飛行機が針路変更をしたとき、その航空便の乗客は不平を言わない。ある女性は、隣人に自分の敷地を通って近道をさせなかったことを後悔する。
ラッセル・M・ネルソン	(29) ラッセル・M・ネルソンの娘エミリーは、癌 ^{がん} で死のうとしているとき、勇気と信仰を示す。
ボニー・L・オスカーソン	(119) ある少女は、多発性硬化症を患っている女性の世話を母親と一緒にする中で、周囲の人々に仕える喜びを知る。81歳の女性は、ワードのマイアメイドアドバイザーとして、その知恵、経験、そして模範を分かち合うよう召される。
ボイド・K・バックナー	(94) ボイド・K・バックナーは、第二次世界大戦中、掩蔽壕 ^{えんぺいこう} の中で祈っていたときに、福音が真実であることについて霊的な示しを受ける。
ロナルド・A・ラズバンド	(9) ある小学5年生の少女が竜巻に遭い、天使から守られる。
リンダ・S・リーブズ	(15) リンダ・S・リーブズは、心をかき乱すような映像をテレビで見た自分の娘に、救い主の贖いによって慰めを得る方法を教える。 ^{あがな}
ランドール・L・リッド	(56) ある若い男性は、前世で自分がどのような人物であったかを垣間見た後、結婚するのでなく伝道に出る決心をする。
リチャード・G・スコット	(32) リチャード・G・スコットは、祖母および自分の将来の妻が示した愛と模範に助けられ、霊的に成長する。
ジーン・A・スティープンズ	(81) ジーン・A・スティープンズは、学校から帰宅するためのバスに乗り遅れたある少年を車に乗せるよう導きを受ける。ゲートル兄弟が悪性の癌だと診断された後、ゲートル家族の一人一人は福音にしっかりとつかまる。
ゲーリー・E・スティープンソン	(84) 末日聖徒のオリンピック選手、ノエル・バイクスペースは、何年にもわたって練習し準備した結果、スケルトンで銀メダルを獲得する。末日聖徒のオリンピック選手、トーラ・ブライトは、緊張しているハーフパイプの競争相手を抱き締めることで、キリストのような愛を示す。
マイケル・ジョン・U・テー	(106) ある73歳のフィリピン人女性は、地震や台風で家族を失った後も福音に従い続ける。
ウィリアム・R・ワーカー	(97) ロバート・ハリスとマライア・ハリス夫妻は教会員となり、試練や別離を経験しながらも、福音に忠実に従い続けた。
クラウディオ・D・シビック	(39) クラウディオ・D・シビックは、別の登山者の後をついて行ったことによって誤った道を進む。
W・クレグ・ズウィック	(41) W・クレグ・ズウィックと、煙が充満したトレーラーの運転席から幼い息子を抱いたまま飛び降りたその妻は、互いに愛を示す。

大会を 生活に取り入れる

以下の活動と質問を、家族で話し合ったり、独りで深く考えたりするときのきっかけとなるよう活用してみてください。

こども向け

- 大管長会第二顧問のウークトドルフ管長は、たとえどれほどつらいことが人生で起こったとしても、わたしたちは感謝することを選択できると教えています(70 ページ)。感謝することでわたしたちはもっと大きな喜びを感じ、もっと思いやりが深くなり、神への信仰と信頼を持つことができます。感謝しているときにはどのように感じるでしょうか。どうすれば毎日感謝の気持ちを持つことができるでしょうか。
- 中央若い女性会長のボニー・L・オスカーソン姉妹は、多発性硬化症を患っているブレンダを母親と一緒に助けに

行ったサラについて話しました。サラはブレンダの髪の毛をとき、手にローションを塗り、その指や腕をマッサージし、ストレッチの手伝いをしました(119 ページ)。自分は何のような方法で奉仕できるか考えてください。子供でも、できることはたくさんあります。

- 十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老は、御者がくつわを使って馬のチームを導く方法について教えました(100 ページ)。御者は最善の状態は何かを知っており、馬は業者の指示に従います。それは主がわたしたちにとって何が最善かを御存じであるのと同じです。わたしたちは主に従うとき

に、幸福になることができます。くつわは聖霊の促しに似ています。あなたが聖霊に導かれていると感じたのはどんなときでしょうか。どのような気持ちだったでしょうか。

- 中央初等協会会長第一顧問のジン・A・スティーブズ姉妹は、その日最後のバスに乗り遅れ、歩いて家に帰るところだった少年について語っています(81 ページ)。まだ何キロも歩かなければならない状況で、この少年は怖くなり、ひざまずいて祈りました。数分後、スティーブズ姉妹は、車を止めてこの少年を助けるようにという御霊の促しを受けました。天の御父があなたの祈りに応えてくださった時のことを思い出すことができますか。ほかの人の祈りが答えられるように、あなたはどのような助けができるでしょうか。

青少年向け

- モンソン大管長は、「断るべきときに『いいえ』と言う勇氣、『はい』と言うのが適切なときに『はい』と言う勇氣、正しいと分かっていたら、それを行う勇氣」が必要であると教えています。モンソン大管長の話について研究するときに(66 ページ)、自分が直面している試練について考えてください。このような勇氣を身につけるために、どのような計画を立てることができるでしょうか。
- 十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、主を愛するならば、主の戒めを守り、主がそうされたように周囲の人々を愛することを思い起こすようにと言っています。そうするときに、わたしたちはいつでも「良識と思いやりをもって」自らの信仰を擁護できるようでなければなりません。あなたの信じていることに誰か異議を唱える人がいますか。どうすれば敬意を払いつつ、信じている事柄について話し合い、擁護することができるでしょうか。
- 何人かの話者は青少年に直接語りかけています。例えば、十二使徒定員会の





ニール・L・アンダーセン長老は、神殿で平安を得るなど、「霊を滅ぼす嵐」に打ち勝つための方法について青少年に幾つかの提案をしています。アンダーセン長老やその他の話者の話を読むときに、強くあり続ける方法についてのアイデアを書き留めるとよいでしょう。

- 今日における大きな罪悪の一つはボルノグラフィーです。中央扶助協会会長第二顧問のリンダ・S・リーブズ姉妹は、そのような罪悪に対抗するための最良のフィルターは、イエス・キリストの福音に関する深く、変わることのない証であると述べています。あなたの個人的なフィルターはどれほど頑丈でしょうか。どうすればフィルターを頑丈にすることができるでしょうか。

成人向け

- トーマス・S・モンソン大管長は、「比類のない賜物」について理解するにつれて、わたしたちの心は天の御父と、救い主と、神の全ての子供たちに対する愛で満たされると教えています。このような教えを知ることにより、個人や家族で、また教会のクラスで行う救い主の生

涯やその贖い^{あがな}についての研究は、どのように改善されるでしょうか。

- 大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は、自分の幸福の多くは一人の曾祖父^{そうそふ}、すなわち教会員となり、忠実に仕え、最後まで信仰を貫き通し、家族に希望をもたらす受け継ぎを残した曾祖父のおかげであると述べています。家族全員のリストを作り、聖約の道を歩み続けるために、どのような聖約と儀式が必要か書き留めるとよいでしょう。家族が次の聖約を受けることができるよう



助けるための計画を立てましょう。自分の交わした聖約が、日々の生活でさらに大きな役割を果たして家族に希望をもたらす受け継ぎを残すための方法について、吟味するとよいでしょう。

- 十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、逆境には「聖なるメシヤの功德と憐れみと恵み」に頼るようわたしたちを導く力があり、このメシヤは「容易に重荷に耐えられるように……〔わたしたちを〕助けてくださる」と宣言しています（87ページ）。ベドナー長老の話と9、18、70、106ページの話を読むときに、救い主とその福音が人生の試練に立ち向かうときにどのような助けとなるか見つけましょう。
- 5月から行われる青少年のためのカリキュラムは、預言者と啓示に焦点を合わせています。家庭や教会で行う青少年との福音に関する話し合いの一環として、七十人のローレンス・E・コーブリッジ長老（103ページ）とマルコス・A・アイトカイトイス長老（108ページ）の話について研究し、以下の質問に対する答えを見つけるとよいでしょう——ジョセフ・スミスを中傷する人たちは、どうして彼をほうっておかなかったのでしょうか。福音の教えに対する攻撃が激しさを増す世界にあって、どうすれば真理を見分けることができるでしょうか。■



総大会で述べられた 神殿の発展と 新たに支持を受けた役員

教会の第184回年次総大会の開会
の話の中で、トーマス・S・モン
ソン大管長は、この半年間に「教会
の業は円滑に前進しています」と語った。

モンソン大管長は、2014年3月2日の
アリゾナ州ギルバート神殿の奉献を振り
返り、間近に迫ったフロリダ州フォート
ローダーデール神殿の奉献を心待ちにし、
また2014年と2015年には世界の多くの
地で神殿が完成し、奉献されることを期
待しつつ、これまでに発表された神殿が
全て完成すれば全世界で170の神殿が
稼働することになると述べた。

大管長は次のように述べている。「現
在、わたしたちは既に発表された神殿の
完成に集中しており、当面は新たな神殿
の建設に関する発表はありませんが、こ

れから建てる神殿の必要性を見極め、候
補地を探すプロセスを継続していきます。
その後、将来開催される総大会で発表を
行います。わたしたちは神殿を建て、神殿
に参入する民です。」

大会では、七十人会長会の新たな一員、
4人の新たな中央幹部、新たな中央日曜
学校会長会、並びに42人の地域七十人
が支持された。

リン・G・ロビンズ長老が七十人会長会
に召された。

ウクライナ、キエフのヨーク・クレビンガッ
ト長老と中国香港の黄（サム）志康長老
が七十人第一定員会で奉仕するように支
持され、またユタ州ミッドウェーのラリー・
S・ケーチャー長老とプエルトリコ、アレシ
ボのヒューゴ・E・マルチネス長老が七十

人第二定員会の会員として支持された。

七十人会長会並びに七十人第二定員会
会員として奉仕してきたタッド・R・カリ
スター長老が中央日曜学校会長として支
持され、ジョン・S・タナー兄弟とデビン・
G・デュラント兄弟がそれぞれ第一顧問と
第二顧問として支持された。

支持を受けた人と解任された人全員の
名前については、本誌26-27ページを
参照していただきたい。また、ロビンズ長
老と新たに召された七十人の長老、中央
日曜学校会長会の略歴は、本誌141ペー
ジから掲載されている。

総大会の1週間前に、全ての女性、若
い女性、8歳以上の少女を対象とした初
めての中央女性集会在、カンファレンスセ
ンターで開催された。従来の中央扶助協
会集会和中央若い女性集會に替わるもの
である。女性集會での全てのメッセージ
は、本誌116-128ページに掲載されて
いる。

また、大会に先立って中央若い女性管理
会が再組織され、ソルトレーク・シティーの
他の地域から、初めて、バルー、南アフリカ、
日本、ブラジル、アメリカ合衆国ニューヨ
ーク州ブルックリンの姉妹たちが召された。
姉妹たちの略歴と写真は、<https://www.lds.org/callings/young-women/leader-resources/biographies/board-members?lang=jpn> に掲載
されている。

モンソン大管長は総大会の終わりに次
のように述べている。「救い主がこの地上
に携えて来られたのは、全ての人に対する
愛と思いやりのメッセージです。わたした
ちがいつも主の模範に従えますように。」
また、教会員と他の人々に、「天の御父がわ
たしたちのことを心にかけてくださってい
る」と断言し、さらに述べている。「天の
御父はわたしたちが御父に対して信仰を
持ち信頼を寄せるときに、わたしたちを導
き祝福してくださいませ。」■

芸術家たち、コンテストへの参加を奨励される

教会歴史博物館は、第10回国際美術コンテストのために新たな作品を制作するよう末日聖徒の芸術家に奨励している。「イエス様のお話を聞かせて」という展示テーマを反映した作品を創作するために各自の才能を用いるように促している。今回のコンテストのための作品は、新約聖書に基づく話のみに焦点を合わせたものでなければならない。

<http://history.lds.org/article/10th-international-art-competition>で詳細を閲覧でき、オンライン登録が可能である。登録すると最新情報が提供される。応募作品の受け付けは、2014年11月3日から2015年2月27日までである。全ての芸術媒体、スタイル、文化的アプローチが歓迎される。参加者は18歳以上でなければならない。審査のうえ選出された作品は、2015年10月から教会歴史博物館に展示され、インターネット上に掲示される予定である。

LDS.ORGで利用できるようになる補助組織指導者訓練

発展している教会の必要をさらによく満たすために、扶助協会、初等協会、若い女性、若い男性、日曜学校の中央会長会は、年に1度、インターネットを介して世界規模の訓練を提供することになる。この訓練は、毎年の中頃に多くの言語により、**LDS.org**で利用できるようになる予定である。

4月総大会と併せてソルトレーク・シティーで開催されていた補助組織指導者訓練集会は中止されることになった。中央補助組織会長会と管理会は、割り当てに応じて、今後も引き続き複合ステーキの集会で直接訓練を提供する。

モルモンを知るきっかけを作る 新しい映画

末 日聖徒はイエス・キリストを柱として生活することで目的と目標を見いだすごく普通の人であるということ、人々に知ってもらい簡単な方法があればよいのに、ときどき思うことはないだろうか。そのようなあなたにとって助けとなるドキュメンタリー映画が、間もなく教会により公開される予定である。

「モルモンを知る」は、教会員がしばしばどのような誤解を受けているかという点について、楽しい場面で始まる。その後、6つの家族が紹介されて、それぞれが個人的な経験を語り、福音が自分たちの生活でどのように助けとなっているかを述べる。その要点は以下のとおりである。

ビショップ。アメリカ合衆国ジョージア州アトランタのジャーメイン・サリバンと妻ケンベは、3人の幼い息子を育てながら、多様な地域社会に一致を生み出そうと努力している。

コーチ。アメリカ合衆国メリーランド州アナポリスにある合衆国海軍兵学校フットボールチームのヘッドコーチ、ケン・ニウマタロロとその妻バーバラは、子供たちとコーチ陣の支援を受けて、安息日を聖く保っている。

キャンディー・ボンバー。アメリカ合衆国アリゾナ州アマドに住む93歳のゲール・ハルボーセンは第二次世界大戦で戦った。90歳の妻ロレーヌとともに、奉仕することの大切さを子供たちに思い出させている。ハルボーセン兄弟は、戦後の「ベルリン大空輸」で行ったように、現在もおパイロットとして飛行機からキャンディーを落としているのだ。

ボクサー。コスタリカ、サンホセのキックボクサー、カロリーナ・マリンと彼女のト



出演者向け試写会で、コスタリカのカロリーナ・マリンと挨拶を交わすウークトドルフ管長夫妻。

レーナーであり夫であるミルトンは、競技を大切にしながらも、伴侶として、また幼い子供たちの親として、自分たちの役割のバランスを取っている。

人道支援活動家。ネパール、カトマンズのビスヌ・アドヒカリと妻マンガラは、祖国の信仰と伝統を尊んでいる。アドヒカリ兄弟は、多くの小さな町や村を豊かにする道路や学校、浄水設備を築いてきた技術者である。

宣教師の母。アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーのクレイグ・アームストロングと妻ドーン、息子アンソニーは、アームストロング姉妹が宣教師に出会ったときにホームレスのシングルマザーであった状況について語る。宣教師が伝えた福音が生活を変える助けとなった。後にクレイグと結婚し、アンソニーは専任宣教師として南アフリカへ伝道に行き、母親にそのような祝福をもたらした福音を伝えることになったのである。

「モルモンを知る」は、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーにあるジョセフ・スミス記念館で上映される予定である。その他の上映場所は今後決定される。■



視聴者が増え続ける モルモンチャンネル

世界中の何百万もの視聴者がモルモンチャンネルを楽しんでいる。モルモンチャンネルは、アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティのテンブルスクウェアから、毎日24時間英語とスペイン語で提供されている。

教会のこの公式メディアチャンネルは5年前に始まった。多くの末日聖徒が教会内外の仲間とコンテンツを共有して楽しんでいる。コンテンツはCMがなく、トークと音楽のラジオストリーム3本と短いモルモンメッセージのビデオなどから成っている。

モルモンチャンネルは mormonchannel.org の他、YouTube, iTunes, Roku, Tumblr, Facebook, および Twitter でも視聴できる。iOS および Android ユーザー向けの無料モバイルアプリケーションも利用可能。

キリストの模範に従って教会で教える

新 たに中央日曜学校会長となった
タッド・R・カリスター会長は、
総大会の直後に次のように語っ
た。「わたしたちは、救い主の模範に従
って教えるよう努めています。」

それはすなわち、人々が改心する助けと
なるような靈感あふれる質問をすること
であり、「日々の暮らしの中で、福音の御
霊を理解し、肌で感じられるようにするこ
と」が目標であると長老は述べた。

カリスター長老は、青少年向けオンライ
ン教科課程「わたしに従ってきなさい」に
感銘を受けていると述べた。この教科課
程には総大会の最新の説教に加え、教会
制作のメディアも含まれている。講義式
のレッスンから参加型に変わり、「ただ単
にレッスンを教えるのではなく、クラスの
生徒の必要に沿う内容にあつらえていく
方向へ明らかに転換しています」と長老

は語った。

「わたしに従ってきなさい」は、情報の
伝達に終始することなく、改心を生み出
す助けになっていると、カリスター長老は
付け加えた。「わたしたちは、世で最高
の教師、すなわち最高の親となる青少年
世代を育成しようとしているのだと思いま
す。なぜなら、彼らは今、青少年のときに
この経験をしており、……効果的に教え、
理解する方法を学ぶのに〔自分たちが〕
成人するまで待つ必要はないからです。」

イエス・キリストは最高の教師であら
れ、わたしたちは教会で教えることを通し
て、人々をキリストのもとへ導かなければ
ならないとカリスター兄弟は述べた。ま
た、教義を明確かつ簡潔に教える必要
性を強調したうえで、「救い主に倣うよう
に努めているときはいつでも、主の望みに
沿っています」と語った。■

わたしたちの時代のための教え

2014年5月から2014年10月まで、メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日の
レッスンは、2014年4月の総大会から一つまたは複数の説教を基に準備します。
2014年10月は、2014年4月または10月の、いずれの総大会からでも説教を選択す
ることができます。ステーク会長および地方部会長は、自分たちの地域で使用する説教を
選択します。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。

第4日曜日のレッスン参加者は、決められた説教をあらかじめ研究するよう奨励されてい
ます。大会の説教は、conference.lds.org から多くの言語で利用できます。■

総大会を世界中に伝える テクノロジーと ソーシャルメディアの拡大

アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターで開催された第184回年次総大会の5つの部会には10万人以上が出席した。これに加え、さらに数百万人がテレビ、ラジオ、衛星放送およびインターネットを通じて95言語で各部会を視聴した。

ソルトレーク・シティーのカンファレンスセンターは2万1,000人を収容することができるが、他の方法で総大会にアクセスする教会員や一般の人の数は、数百万に上り、総大会の視聴者は世界中に広

がっている。50年以上にわたり、教会は総大会の様相を多数の言語に翻訳してきた。今日ではテクノロジーのおかげで、世界200か国以上で生放送の視聴が可能になっている。

地元の礼拝堂への放送に加え、教会はLDS.org、BYUtv、BYUtv International、モルモンチャンネル、Roku、Facebook、およびYouTube上で大会を生中継している。2013年10月の総大会のオンライン視聴率は、前回の大会と比較して約30パーセント増加した。

ソーシャルメディアを通じて総大会に参加している人も多い。5つの各部会の間、#ldsconfというハッシュタグのついた大量のツイートがツイッターに投稿され、その時間には総大会がツイッター上で最も多く扱われる話題の一つとなった。例えば2013年10月には、総大会に関連した15万5,000のツイートが投稿された。(各ツイートは140字以内の個人のコメントである。)

そういった公式ソーシャルメディアのチャンネルを通じ、教会は大会から即時に複数言語によるメッセージを書き込み、そのメッセージを共有するよう人々に勧めている。2013年10月の総大会では、ソーシャルメディアの書き込みを読んだ多くの人々が、大会を視聴した。書き込みは、英語、スペイン語、およびポルトガル語で共有された。

大会の様相は現在、かつてない勢いで増えている視聴者に届けられている。■

テクノロジーとソーシャルメディアのおかげで、大会の様相は現在、幅広く視聴者に届けられている。



奉仕と信仰について伝えるウェブサイト

末日聖徒は世界中で奉仕を提供し、その信仰を分かち合っている。そのような活動に関する記事は、国別ニュースルームのウェブサイトに掲載される。報道機関、オピニオンリーダーおよび一般向け教会公式資料である **newsroom.lds.org** には、そのような記事の要約が定期的に掲載される。

太平洋地域では、サイクロン（台風）「イアン」が大きな爪痕を残したトンガの人々を支援するために、末日聖徒が水、食料、チェーンソー、浄水器、発電機などの

緊急援助物資を提供した。サモアでは、末日聖徒の青少年が宗派を超えた2日間のイベントに参加し、霊的な励まし、音楽、ダンス、そしてスポーツを楽しんだ。

ブラジルでは、モルモンヘルピングハンズのTシャツを着た教会員が、洪水による被害によって多くの人々がホームレスとなっている地区や事業所の清掃作業と救済物資の配給に携わった。別の場所で、教会の人道支援サービスが特別な支援を必要とする人々のために221台の車椅子を寄贈したとき、教会員がその配付を助

けた。ブラジルにおいて継続的に行われている車椅子の寄贈は、今では合計700台近くとなっている。

アフリカでは、全国のおよび国際的組織が教会の人道支援部門であるLDS慈善事業団と協力して、ガーナ初の全国はしか・風疹撲滅キャンペーンを実施し、乳児から14歳までの子供に予防接種を行った。ナイジェリアとガーナでは、ヘルピングハンズデーが行われ、あらゆる年代の末日聖徒が協力して橋を架け、植樹、草取り、建物のペンキ塗り、近所の清掃や美化などの活動を行い、100の地区に住む数千人の人々がその恩恵を受けた。ジンバブエでは、60人以上の末日聖徒の青少年が自主的に献血を行った。南アフリカでは、末日聖徒で6人の子供の母でもあるノジベル・マカンダが、人口20万人のクインズタウンの市長に選出された。

中央アメリカでは、グアテマラの末日聖徒の青少年が500人以上集まり、地方自治体と協力して1,944本の木を植えた。コスタリカでは、末日聖徒の複数の集会所が牛乳の集荷ポイントとなり、370人の教会員のボランティアが、助けを必要としている人々に物資を提供する活動に参加しているスーパーマーケットまで牛乳を配達する手伝いをした。

またカナダでは、政府主催の価値観に関する公聴会が開かれるのを前に、末日聖徒がモントリオール市キリスト教-ユダヤ教対話会（ケベック州）と協力して働き、インタビュービデオを制作した。インタビューに答えた人々は、コミュニティにおける尊敬、理解、寛容、そして宗教の自由を支持し、ケベック州の多くの市民生活において宗教が依然として重要であることを強調した。

様々な言語で提供されている国際地域の国別ニュースルームサイトのリストについては、mormonnewsroom.org/newsroom-country-sites を参照。■

グアテマラの末日聖徒の青少年が500人以上集まり、1,944本の木を植えた。



メキシコシティー神殿訪問者センターには、家族を強めてくれる福音の真理を教える展示が数多く陳列されている。



再オープンした、メキシコシティー神殿訪問者センター

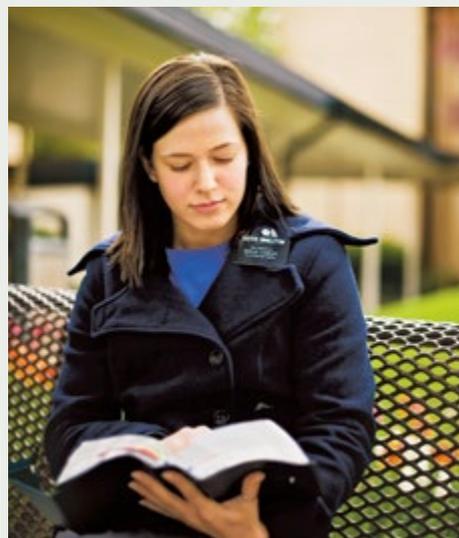
再オープン後の1か月で、3万人以上の訪問者がメキシコシティー神殿訪問者センターを訪れた。同センターでは、2年をかけて改築および増設のための工事が行われた。現在は全ての展示がスペイン語で、特にメキシコ人を対象に開発されたオリジナルメディアも含まれている。このセンターはまた、子供たちに福音の原則を教えるための特設展示場を

備えた初の訪問者センターでもある。

多くが神殿または教会歴史跡地に隣接する同様の17の施設の中で、この訪問者センターは3番目に大きい。イタリアのローマに建設中の神殿の近くでは、現在訪問者センターの建設も行われている。訪問者センターは、イングランド、ニュージーランド、ハワイにも、また米国本土の9つの州にも存在する。センターは活発

な末日聖徒や教会に来ていない末日聖徒と、別な宗教を信じる人々を等しく歓迎するよう設計されている。その目的は、教会を紹介するだけでなく、教会の信条を理解できるように助け、救い主と福音の回復についてもっと知りたいという望み呼び起こすことにある。センターはまた、家族を強めるためのメッセージも提供している。

120万人以上の教会員を擁し、200以上のステークと12の神殿のあるメキシコは、教会のいかりの錨の一つである。■



宣教師はMTCに滞在中、イエス・キリストの福音の教え方について指導を受ける。

救いの業を速める宣教師訓練センター

世界各地にある15の宣教師訓練センターでは、143の国から来る8万5,000人以上の宣教師が訓練を受けている。ここでは、合計55の言語を1,600人の教師から学ぶことができ、その後宣教師は150を超える国の405の伝道部で最長2年間奉仕する。

2012年10月に年齢条件が変更されてから宣教師の数が増大したため、MTCはこれまでにないほど多数の宣教師を収容している。世界中にMTCがあるので、24時間どこかで必ず訓練が行われている。

MTCに入る宣教師には通常、家庭や教会で教えられた宗教的な知識の基礎が備わっている。訓練センターではさらに、

イエス・キリストのように教える方法や、主に従うよう人々を招く方法をはじめとする訓練が実施されている。宣教師は、教える場面に応じた演習を行い、準備が整っている訓練センターでは言語の訓練を受け、毎週教会指導者やMTC職員からディポーショナルで話を聞き、奉仕活動に携わる。

最大のMTCはアメリカ合衆国ユタ州プロボにある。このMTCでは55の言語で何千人もの宣教師に訓練を行っている。その次に大きなMTCはメキシコのメキシコシティにある。2013年6月、このMTCは小さな建物から、教会の私立高校「Benemerito de las Americas」があった36.5ヘクタール

の敷地に移転した。それまでは一度に約125人の宣教師しか収容できなかったが、新しい場所では1,000人以上が収容可能となった。

そのほかのMTCは次の場所にある。アルゼンチン、ブエノスアイレス；ブラジル、サンパウロ；チリ、サンティアゴ；コロンビア、ボゴタ；ドミニカ共和国、サントドミンゴ；イングランド、プレストン；ガーナ、アクラ；グアテマラ、グアテマラシティ；ニュージーランド、オークランド；ペルー、リマ；フィリピン、マニラ；南アフリカ、ヨハネスバーグ；スペイン、マドリッド。■

教会、フィリピンの復興に福祉の原則を生かす



フィリピン、タクロバンで新しい家の骨組みに合板^{くま}を釘で打ちつけるボランティア。

2013年11月に台風30号「ハイエン」がフィリピンを襲い、120万近くの家屋が倒壊し、6,200人以上の死者が出た。それから数か月たった今もなお教会は支援活動を継続している。その取り組みは、災害時の緊急支援から、より長期的な支援へと移りつつある。特に成功している取り組みの一つは、家屋を建築する技術を身につけたボランティアがいまだ住まいのない人々のためにに行っている支援である。

嵐の被害を受けた地域住民の多くが、末日聖徒ではないものの教会から受けた支援に対して感謝を述べている。その一例を紹介する。

• 台風のさなかにモルモン教会の礼拝所に避難していたある女性は、ココナツの木が自宅の上に倒れてきて、自宅が損壊したことを台風の後で知った。その女性の家族は家を修理するすべはなかったが、ボランティアが新しい家を建てるのを手伝い、彼女自身も今は他の家族の家を建てる手伝いをしている。「わたしと同じようにここで助けを必要としている人々と協力することを学びました。わたしたちは力を合わせることで復興することができます」と彼女は言う。

• 職場が被害を受けて失業したある男性は、現在自分の家族や周りの人々のために家を建てる方法を学んでいるところだ。この男性は、「作業がいち早く完了するように互いに助け合わなければなりません」と言い、さらに教会の支援活動に感謝を述べた。

ゲーリー・E・スティーブソン管理ビショップはこう言う。貧しい人や助けを必要としている人の世話をするとともに、「わたしたちは今まさに、自立の原則が生かされていることも目にしています。現在取り組んでいることの一つは、わたしたちが物資を提供し、[それを受け取った人が]労働力を提供することです。住まいを受け取る人は、その住まいを建てるために自分自身で働いています。」

地元の教会指導者と人道支援の代表者は、職業訓練を行って大工技能を学んだ人に証明書を発行するために地元地域の指導者と話し合いを重ねている。永代教育基金の資金を用い、20人の熟練大工を招いて訓練を支援してもらい、建築予定の3,000棟の家屋のうち2,000棟が既に完成している。

訓練を受けた地元住民は、住まいを10棟建てて学習成果を証明することにより、政府発行の証明書と教会から道具箱

が与えられ、有利な職業に就くことができるようになる。建設作業員が緊急に必要なため、カトリック救援事業会は当教会から訓練を受けた大工を数百人雇うことに同意した。

スティーブソンビショップによれば、500人の教会員が集会に出席し、教会指導者から職業訓練と証明書に関する説明を受けたという。「説明を受けると、出席者は拍手喝采^{かっさい}し涙を流しました。家族を養う道が開けたからです。」

教会は別の慈善団体やフィリピン政府と協力して、食糧や水、医療品、衛生キット、発電機、避難用キット、料理キット、釣具、作物の種などを届ける取り組みも継続している。

教会が学んだのは、災害に対応する最も効果的な方法は、地元で取り組むこと、そして可能な限り被災地に近い場所で必要物資を購入することである。このことにより物資がその地域に適していることが確認できるだけでなく、停滞した地元経済を立て直すうえでも役立つ。

世界中の会員は、自分の住んでいる場所から遠く離れた被災地の人々のために祈り、断食献金の増額や、教会人道支援基金への献金を検討するよう勧められている。■

アフリカの数百万人を支援する浄水プロジェクト



モザンビークのイドゥゴ島では、地域の人々が公式に井戸を使い始めるときに開かれた式典に村の住民と高官が参列した。

20年以上もの間、教会は100か国以上で浄水プロジェクトに携わってきた。井戸を掘り、水の貯蔵配送システムを構築し、浄水装置を設置するなどのプロジェクトにより、アフリカだけでも400万人以上の人々の生活に恩恵をもたらしてきた。

そのようなプロジェクトの一つがモザンビーク沖のイドゥゴ島で始まった。この島に住む1万5千人のほとんどは、家族経営の農園、インド洋周辺海域での漁業、または海水から塩を採取する蒸発池の仕事に従事している。この島には、水道水、電気、道路、車がなく、島と本土との往来は手作りのボートか丸太舟で行っている。

何世紀もの間、イドゥゴの飲料水の水源は人手で掘った浅い井戸であったが、絶えず沈泥と堆積物で塞がれるため、井戸水は採取しにくく、泥水であった。雨季には水が汚染されて、コレラ、下痢、その他の病気の原因になっていた。

教会の人道支援宣教師がイドゥゴの状態について聞いたとき、その地域社会の指導者と会合を開いた。彼らは協力して計画を練り、教会の人道支援部門が、井

戸の内壁をセメントで固め、鋼製の蓋をつけた井戸を10本掘るための資材、道具を提供し、作業指導を行うことになった。1つの井戸は1000人に水を供給することができる。また、宣教師は健康と衛生に関する教育を行い、村人たちは井戸を作り、維持するために必要な全ての労働力を提供することとなった。

モザンビーク本土の資材置場から、ダンプカー4台分の砂利、300袋のセメント、トラック2台分の砂、鉄筋、特注品のセメント用鋼製型枠がフェリーで島に運ばれ、人手か手押し車で島の各地に移送された。ケリマネとモザンビークから来た数人の教会員が島に3か月間野営して井戸作りを教えたり、実際に井戸作りに参加したりして手助けをした。

雨水が排水されるように設計することで、井戸の汚染を防止した。ある地域では、住民たちは教会から寄贈された材料を使って自分たちでレンガを作り、それを使って井戸の周りにレンガの道路を作ったり、木製のフェンスを作ったりした。

正式な授与式で、井戸の所有権がそれぞれの村の住民たちに引き渡された。井

戸を作るために働いた数人の住民は、レンガを作る、セメントを使って鉄筋で補強する、道具を使うなどの新たに学んだ技能によって別の仕事を見つけることができると感謝した。指導技術を学んだ機会に感謝の気持ちを表した人々もいた。

その後の雨季の後には、井戸を設置した村において水が原因の病気は報告されていない。

世界保健機関によると、世界中で10億人以上の人々がきれいな水を手に入れることができない状態にある。教会の浄水プロジェクトにより、地域社会の人々がプロジェクトを計画実行し、必要な施設を作るための労働力を提供し、訓練を受け、完成した施設を維持する過程を通じてその数は減少している。

アフリカ各地の浄水プロジェクトに加えて、教会はアジア、中央アメリカ、東ヨーロッパ、インド、インドネシア、太平洋諸島、南アメリカ、東南アジア、その他の世界中の国々で浄水プロジェクトを後援している。■



リン・G・ロビンズ長老

七十人会長会

1997年4月に中央幹部として召されて以来、リン・G・ロビンズ長老は「世界中の聖徒と交わる心温まる祝福」を享受してきました。

「どこに行ってもすぐに人々とのきずなを感じます」とロビンズ長老は語ります。

ロビンズ長老は七十人会長会の一員として奉仕する間、世界中の末日聖徒と出会い続けることを願っています。

リン・グラント・ロビンズ長老は、1952年10月27日にアメリカ合衆国ユタ州ペイソンで、ジョシュア・グラントとエブリン・R・ロビンズ夫妻の間に生まれました。ロビンズ長老は若いときにユタ州スプリングビルで過ごしました。そこで幼なじみのジャン・ニールソンと出会い、二人は1974年6月27日にユタ州マンタイ神殿で結婚し、7人の子供と15人の孫がいます。

ロビンズ長老はユタ州立大学でスペイン語と政治学の学士号を取得し、アメリカ合衆国アリゾナ州グレンデールのアメリカ国際経営大学院で経営学修士号を取得しました。ロビンズ長老はフランクリン・クエスト社の共同創設者および上級副社長として働きました。

ロビンズ長老はウルグアイ・モンテビデオ伝道部会長として奉仕していたときに、七十人第二定員会の会員の召しを受けました。その3年後に七十人第一定員会の会員になりました。ロビンズ長老は、南アメリカ南地域、中央アメリカ地域、北アメリカ西地域の会長として奉仕しました。また、北アメリカ中央地域でも奉仕しました。

この奉仕で得られた大きな祝福は、ロビンズ長老が専任宣教師として奉仕していたアルゼンチンに戻る機会があったことでした。若い長老としてアルゼンチンで奉仕していた間、ジュジュイで働きましたが、その地域には一つの支部しかありませんでした。何年もたってからこの地域に戻ったとき、そこには12のユニットから成るステーキが組織されていました。

「このようなことが世界中で起きています。今は奇跡の時代です。」■



ヨーク・クレビンガット長老

七十人第一定員会

ヨーク・クレビンガット長老は、根気強く人生を送ってきました。従順に、戒めを守り、御霊の促しに従って生きべきだと信じています。

1967年12月19日にクラウス・ピーター・クレビンガットとドリス・エルケ・クレビンガット夫妻の間に生まれ、福音の影響を受けずにドイツ、ツヴァイブリュッケンで育ちました。10代のとき、音楽コンサートで教会の会員と出会い、二人は友だちになりました。

「わたしがこの新しい友人の家に行ったとき、彼の家族に感銘を受けました。彼の家庭に御霊があることを感じ、教会に行ってみたいと思いました」とクレビンガット長老は当時を思い出して語ります。

初めて出席した教会の集会で、モルモン書について聞きました。その友人はその書物が真実であることについての証を書いたモルモン書をクレビンガット長老に渡してくれました。クレビンガット長老は自分で真理を見いだす決意をして集会を後にしました。

クレビンガット長老はこう言っています。「ニーファイ第一書のどこかを読んでいたときに、この本が真実であるという証を得ました。預言者ジョセフ・スミスに対する証を得たときも、わたしにとっても決定的な瞬間でした。伝道中、その出来事について話してもよいか同僚にいつも尋ねていました。」

コロラド州デンバー伝道部で専任宣教師として奉仕する前に、18か月間ドイツ陸軍に服役しました。クレビンガット長老は1992年12月21日にソルトレーク神殿でジュリア・ポルトラックと結婚しました。夫妻には3人の子供がいます。

クレビンガット長老は、リックス・カレッジでロシア語学の学位を取得し、その後ブリガム・ヤング大学で組織行動学の修士号を取得しました。クレビンガット長老は経営管理コンサルタントとして、プライス・ウォーターハウス、アーサー・アンダーセン、さらに教会の幾つかの役職で働きました。

この責任に召される前、クレビンガット長老はステーキヤングシングルアダルトの代表、長老定員会会長、若い男性会長、高等評議員、支部会長、ビショップとして奉仕しました。クレビンガット長老は、2014年6月にウクライナ・キエフ伝道部の伝道部会長としての奉仕を終えます。クレビンガット長老は、2014年4月5日に七十人第一定員会の会員として支持されました。■



ウオン チ ホン
黄(サム)志康長老

七十人第一定員会

新しい改宗者、またブリガム・ヤング大学ハワイ校の学生として、黄(サム)志康長老は教育以上の多くのことを得ました。「わたしたちの人生の詳細な事柄」まで御存じである神がおられるという確かな知識を得たのです。

1962年5月25日、中国の香港で、黄法と簡銀夫妻の7人の子供の一人として生まれた黄長老は、小さなアパートで育ちました。

仕事場でキャロル・ルーと会い、彼女から福音を紹介された後、若き求道者、黄長老は、1982年2月14日にバプテスマを受けました。

1年後の1983年7月9日、黄長老はキャロルと結婚し、大学に行くため、ハワイ州ライエに引っ越しました。学生ビザで渡航したため、週20時間しか働くことができませんでした。「本当に信仰を働かせ、祈りに頼る必要がありました。」家族を支えるために行ったことを長老は語ります。

奨学金を受けるために熱心に学び、大学で許可されている限り多くの単位を取りました。彼は、このように回想しています。「簡単なことではありませんでしたが、その経験をしてから、常に天の力に頼ることができるようになりました。」

1984年8月9日、黄夫妻はハワイ・ライエ神殿で結び固められました。最初の子供が生まれ、その後さらに3人の子供をもうけました。「とても特別で、とても神聖な時期でした」と黄長老は語ります。

黄長老は会計学の学士号を取得し、コンピューターサイエンスの準学士号を取得しました。その後、「奉仕するために香港に戻る」必要があると感じました。

後に、香港公開大学でMBAを取得しました。黄長老はビジネス・クオリティー・コンサルティング会社の創始者であり共同経営者でもありました。また、材料検査グループで主任会計士として働き始め、退職するときは事務次長になっていました。

黄長老は、2014年4月5日に七十人第一定員会会員として支持を受ける以前は、ビショップ、ステーキ会長、地域七十人として奉仕してきました。■



ラリー・S・
ケーチャー長老

七十人第二定員会

成人して間もないころ、多くの導きを受けてきたラリー・S・ケーチャー長老は、自分の人生を導く、より偉大な力に気づき始めました。19歳のとき、御霊を感じた彼は、イエス・キリストの福音に導かれ、人生を大きく変える経験をしました。

1952年2月12日に、アルバート・ケーチャーとイレイン・ケーチャー夫妻の5人の子供のうち、上から2番目の子供として生まれたケーチャー長老は、アメリカ合衆国ミネソタ州ブルーミングトンで育ちました。

高校卒業後、ヨーロッパにスキーに行った彼は、6か月以上たってから、家に戻る必要があると感じました。帰国してからも、どこか別の所に行く必要があると感じながらも、それがどこなのか分かりませんでした。幼いころからの友人がユタ州に引っ越す計画を立てていたため、ケーチャー長老もその友人とともに引っ越す決心をしました。ユタ州に移ってから、ケーチャー長老はブリガム・ヤング大学に入学し、教会について学び、バプテスマを受けました。

「宣教師から教えてもらったとき、それは真実だと感じました。そして祈ったとき、教会は真実だと感じたのです」とケーチャー長老は語ります。

長老は伝道に出ることを決意し、1973年にタヒチ・パペーテ伝道部に召されました。伝道から戻った後、ブリガム・ヤング大学に復学し、そこでポーリーン・ミラーと出会いました。二人は1976年10月29日にユタ・マンタイ神殿で結婚し、現在6人の子供と11人の孫がいます。

ケーチャー長老はブリガム・ヤング大学で心理学の学士号と組織的行動学の修士号を取得しました。アメリカ国内や国際的な大企業のコンサルティングに携わってきました。

2014年4月5日に七十人第二定員会会員として支持される以前、支部会長、長老定員会会長、ビショップ、ステーキ会長顧問として奉仕してきました。2000年から2003年にかけて、スイス・ジュネーブ伝道部を管理しました。スイスから戻って数年後、仕事でアラブ首長国連邦のアブダビに赴くことになり、その地において中東地域初の地域七十人として奉仕しました。■



ヒューゴ・E・マルチネス長老

七十人第二定員会

1982年、ヒューゴ・E・マルチネス長老と妻のヌリア・アルバレス・デ・マルチネス姉妹がアメリカ合衆国ミシシッピ州で研修医としての研修を受けていたとき、思いがけなく玄関のドアを叩く音がしました。

そこにはモルモンの宣教師が二人立っていました。

「わたしたちは彼らを招き入れましたが、末日聖徒イエス・キリスト教会についてまったく何も知りませんでした。モルモン・タバナクルさえ知らなかったのです。」マルチネス長老は、ほほえみながらそう語りました。

しかし、若い夫婦は、長老たちが分かち合ってくれた福音のレッスンを聞き、すぐに心打たれました。まもなく二人は、宣教師の勧めを受け入れて、バプテスマを受けたのです。

「それを後悔したことは一度もありません。」

2014年4月5日、マルチネス長老は七十人第二定員会に召され、カリブの島々から召された最初の中央幹部となりました。長老が新たな責任に「圧倒された」のは言うまでもありません。

「でもそのとき、すばらしい平安が訪れ、主が責任を持ってくださっていると知ることができました」と語ります。

ヒューゴ・マルチネスとヌリア・マルチネス夫妻は、バプテスマを受けて1年と1か月後の1983年10月3日に、ソルトレーク神殿で結び固められました。夫妻には5人の子供と5人の孫がいます。

マルチネス長老は、1957年1月10日、プエルトリコ、マヤゲスで、ヒューゴ・E・マルチネス・サンディンとダリ・モラレス・アラモ・デ・マルチネス夫妻のもとに生まれました。若い頃、彼は父親に倣って、医者になりました。プエルトリコ大学で医学の学位を取得し(1981年)、ミシシッピ大学で研修医としての訓練を終えた後(1984年)、2004年に退職するまで、医者として働きました。

バプテスマを受けて間もなく、青少年クラスの日曜学校教師として召されました。その後、ビショップ、ステーキ会長会顧問、支部会長、プエルトリコ、サンファン伝道部の伝道部会長会顧問として奉仕しました。また、グアテマラ・グアテマラシティー中央伝道部を伝道部会長として管理し、中央幹部に召されたときは地域七十人として奉仕していました。■



タッド・R・カリスト

中央日曜学校会長

中央日曜学校会長に召される何十年も前に、日曜学校はタッド・R・カリストの人生で、重要な役割を果たしました。

カリスト兄弟がブリガム・ヤング大学のワードで日曜学校会長として奉仕していたとき、未来の妻となるキャスリン・L・サポリティに出会いました。二人は1968年12月20日、ロサンゼルス神殿で結婚しました。

夫妻には2人の娘と4人の息子、また24人の孫がいます。「日曜学校会長になると、いいことがたくさん起こります」とカリスト兄弟は語ります。

1945年12月17日、カリフォルニア州グレンデールで、リード・エディングトンとノーリーン・カリスト夫妻の息子として生まれたカリスト兄弟は、ニーファイのように、「善い両親から」生まれたと宣言しています。

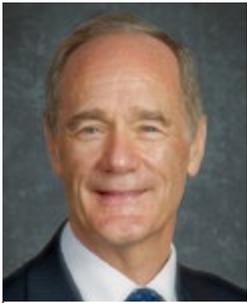
「子供の頃、父はビショップでした」とカリスト兄弟は言います。「父は小さなカードをいつも持ち歩き、様々な言葉や聖句やシェークスピアの文章を暗記していました。」

カリスト兄弟は父親と同じく、法律家の道を選びました。ブリガム・ヤング大学で会計学を学んで卒業した後、ロサンゼルスのカリフォルニア大学法科大学院で学び、ニューヨーク大学で税法の修士号を取得しました。カリスト&カリスト事務所で弁護士として働き始めました。

今回の召しを受けたとき、カリスト兄弟は2008年から奉仕した七十人会長会と七十人第二定員会の召しから解任されたばかりでした。

それ以前は、カナダ・トロント東伝道部会長、地域七十人、地区代表、ステーキ会長、ビショップ、ステーキ伝道部会長、長老定員会会長として奉仕しました。また、若いときは専任宣教師として東大西洋諸州伝道部で奉仕しました。

日曜学校成人クラスの教科課程に今後加えられる新たな変更について、カリスト兄弟はこのようにコメントしています。「もちろん、教科課程は非常に大切です。しかし、どのように人々に教えるかはもっと大切です。最も大切なことは、救い主の方法で教えるということです。それは、御霊みたまによって教え、改心を促すように教えるということです。」■



ジョン・S・タナー

中央日曜学校会長
第一顧問

ジョン・シアーズ・タナーは子供のときから学ぶことに喜びを見つけてきました。

その高揚感、教育や職業、福音を教える数々の機会にまで及んできました。まずはブラジル南伝道部の宣教師として、その後ビショップ、ステーキ会長、高等評議員、福音の教義クラス教師、ブラジル・サンパウロ南伝道部会長（今夏で任期満了）としてその喜びを味わい、今度は中央日曜学校会長会の第一顧問として召されました。

「正しい方法で〔教える〕なら、その場に聖霊がおられ、人は学ぶことに心が浮き立ちます。聖なる場所にいるような気持ちになります」とタナー会長は言います。

タナー会長は1950年7月27日、ユタ州ソルトレーク・シティでウィリアム・コーツ・タナー・ジュニアとアセリア・シアーズ・タナー夫妻のもとに生まれ、合衆国カリフォルニア州サウスパサデナで育ちました。13人きょうだいの5番目です。両親は、家庭の中心に福音をしっかり据えることを含め、豊かな教育環境を作りました。「教会で学ぶことは何でも、家庭で既に学んでいました」とタナー会長は語ります。ブリガム・ヤング大学（BYU）で英語学の学位を、そしてカリフォルニア大学パークレー校で英語学博士号を取得し、文学への愛も養いました。

BYUで学んでいるときにスーザン・ウィンダーと出会いました。二人は深い友情で結ばれ、それは後にロマンスへと発展しました。1974年にソルトレーク神殿で結婚し、5人の子供を育てました。

タナー会長はフロリダ州立大学の助教授として大学教員の道を歩み始めました。1982年にBYUの職員となり、英語学の助教授、准教授、正教授を経て、主任教授や副学長を務めました。

タナー会長は、福音を教える際に最も大切なことを、大学できょうもん教鞭を執り始めた頃に学んだと言います。すなわち、恐れや野心からではなく、愛、すなわち慈愛、つまりキリストの純粋な愛から教える必要があるのです。■



デビン・G・デュラント

中央日曜学校会長
第二顧問

デビン・G・デュラントが中央日曜学校会長会の第二顧問に召されたとき、多くの教会員は彼がブリガム・ヤング大学バスケットボール部のジャージを着て活躍していた栄光の時代を思い出したことでしょう。

確かにデュラント会長の人生でスポーツは重要な役割を果たしてきました。合衆国でトップレベルの選手とプロのリーグで1シーズン競ったこともあります。しかし、デュラント会長はスター選手以上の活躍をしてきました。スペイン・マドリード伝道部の宣教師、夫、父親、祖父、執筆者、実業家、忠実な教会員、そしてこの2年半の間はテキサス州ダラス伝道部の会長でした。

1960年10月20日にユタ州ブリガム・シティで生まれたデュラント会長は、人生でこれらの役割を務める備えをするうえで、家庭で過ごした子供時代が中心的な役割を果たしたと言います。両親のジョージ・デュラントとマリリン・デュラント夫妻は教えることに秀でていました。

「もちろん、両親は言葉によって教えました。しかし実際のところわたしは親の背中を見て育ち、家庭で偉大な教訓を学んだのです。」

デュラント会長と妻のジュリー・ミンク・デュラントは、未来の宣教師を備えるうえで力強い教師が大切であることをよく知っています。

「〔未来の宣教師は〕家庭においては両親から、そして教会で教師や優れたセミナリー・インスティテュートプログラムを通して上手に教えられています。」

デュラント会長はさらに、日曜学校プログラムはあらゆる年齢の教師や生徒が「救い主の方法で教える」場になると言います。

デュラント会長と姉妹は1983年4月23日にソルトレーク神殿で結婚し、6人の子供と6人の孫がいます。

伝道部会長に召される前はビショップ、ステーキ会長顧問、ステーキ日曜学校会長会の一員、インスティテュート講師として奉仕してきました。

デュラント会長はブリガム・ヤング大学でアメリカ研究の学士号を、そしてユタ大学で経営学修士号を取得し、不動産投資会社を所有しています。■



「満ちていく光」 エルスベス・ヤング画

1830年、アイザック・モーリーは彼の新品のモルモン書を12歳のメアリー・エリザベス・ローリンズに貸し与えた。

当時、それはオハイオ州カートランドで唯一のモルモン書であったため、

改宗したばかりのメアリー・エリザベスとその家族は順番に夜遅くまでモルモン書を読みふけた。

翌朝早く、メアリーはモルモン書を再び開き、ニューファイ第一書の冒頭の数行を暗唱した。

この絵に描かれた光は、モルモン書を読むうちにメアリー・エリザベスの内に満ちていった福音の光を象徴している。



「聞いたメッセージについて深く考えるとき、
わたしたちがこれまでよりももう少し
物事をうまく行う決意ができるように願っています。」

トーマス・S・モンソン大管長は、
第 184 回総大会の最後の部会を閉じるに当たり、こう語った。
「わたしたちは、わたしたちと信条と標準が異なる人々に
親切になり愛を示せるように願っています。
救い主がこの地上に携えて来られたのは、
全ての人に対する愛と思いやりのメッセージです。
わたしたちがいつも主の模範に従えますように。」

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

